令和６年度

児童教育学科 初等教育学専攻

授　業　要　覧

SYLLABUS

YJC 山口短期大学

Yamaguchi Junior College

授業要覧

目　次

基礎教育科目

宗教学	1
生活と芸術	3
余暇生活論	6
比較文化概説（一般学生対象）	8
比較文化概説（留学生対象）	10
日本国憲法	12
現代社会問題	14
行動科学	16
物理学	18
生物学	22
データサイエンス入門	24
学問と人間の探求	26
国際交流	28
言葉とコミュニケーション（一般学生対象）	30
言葉とコミュニケーション（留学生対象）	32
英語会話	35
ハングル	37
日本語（留学生対象）	40
健康科学	43
スポーツ教育	45

児童教育学科 初等教育学専攻

専門教育科目

国語（書写を含む。） 47
国語表現学 50
社会 52
算数 55
理科 58
生活 62
音楽 65
声楽 68
器楽Ⅰ 70
器楽Ⅱ 72
図画工作 74
工芸 78
体育Ⅰ 81
体育Ⅱ 84
リズム運動 87
家庭 90
外国語 94
特別講義 98
卒業研究 100
現代教師論 102
学校教育の制度と経営 105
教育原論 107
教育心理学 111
児童心理学 113
初等教育課程論 115
国語科指導法 118
社会科指導法 121
算数科指導法 124
理科指導法 128
生活科指導法 132
音楽科指導法 135
図画工作科指導法 138
体育科指導法 143
家庭科指導法 147
道徳の理論と指導法 150
総合的な学習の時間の指導法 154
特別活動の指導法 157
外国語指導法 160
教育方法学 164
情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 167
情報処理実習Ⅰ 170
情報処理実習Ⅱ 172
プログラミング教育 174
進路指導の理論と指導法 176
生徒指導と教育相談 179
特別支援教育 181
ボランティア実習 185
教育実習指導 188
教育実習 191
学校体験活動 193
教職実践演習（小学校） 196

幼稚園教諭二種免許状に関わる科目

幼児教育課程論 198
幼児指導法 202
保育内容の指導法（健康） 205
保育内容の指導法（人間関係） 209
保育内容の指導法（環境） 212
保育内容の指導法（言葉） 216
保育内容の指導法（表現Ⅰ（音楽・造形）） 222
幼児理解と教育相談 230
保育・教職実践演習（幼稚園） 232
幼児と言葉 234
幼児と音楽表現 237
幼児と造形表現 239
幼児と健康 243
幼児と人間関係 247
幼児と環境 250

基礎教育科目

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
宗教学 Religion	全学科	24BAHU1001	１年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	島田 一道	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○
概　　要	この講義の目標は宗教を知るということである。世界には数多くの宗教が存在し、その形態もさまざまである。日本においてもこれまでいくつもの宗教が誕生して、他国からも伝わってきている。まずはそれらを概観していく。そして、日本人はこれまで宗教とどのように関係してきたのか、それを歴史や文化の中からうかがっていく。 そして、現代に生きる我々がこれからどう宗教と向き合っていくのかを探っていきたい。	
到達目標	(1) 世界三大宗教（特に仏教）を知り、その内容を説明することができる。 (2) 日本における宗教の歴史を説明することができる。 (3) 浄土真宗や親鸞のことを説明することができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	宗教とは何か	宗教全般について調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間
2	キリスト教	配布資料を読み込み、キリスト教について調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間
3	イスラム教	配布資料を読み込み、イスラム教について調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間
4	釈尊の生涯と仏教の誕生	教科書（講義時に指示）を読み込み、釈尊について調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間
5	仏教　その１	教科書（講義時に指示）を読み込み、仏教について調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間
6	仏教　その２	教科書（講義時に指示）を読み込み、仏教について調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間
7	仏教の伝播（インド→中国→日本）	教科書（講義時に指示）を読み込み、仏教について調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間
8	日本宗教史 その１（古代～）	配布資料を読み込み、日本宗教史（古代～）について調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間
9	日本宗教史 その２（中世～）	配布資料を読み込み、日本宗教史（中世～）について調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間
10	日本宗教史 その３（近世～）	配布資料を読み込み、日本宗教史（近世～）について調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間
11	親鸞の生涯と浄土真宗の誕生 その１	教科書（講義時に指示）を読み込み、親鸞の生涯（前半）について調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間

	12	親鸞の生涯と浄土真宗の誕生その２	教科書（講義時に指示）を読み込み、親鸞の生涯（後半）について調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間
	13	浄土真宗　その１	教科書（講義時に指示）を読み込み、浄土真宗について調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間
	14	浄土真宗　その２	教科書（講義時に指示）を読み込み、浄土真宗について調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間
	15	まとめ	過去１４回の講義内容を振り返ってくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間

成　績　評　価	定期試験（100%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	試験において、ルーブリック評価の結果を渡す。
テキストおよび参　考　文　献	『高校生からの仏教入門－釈尊から親鸞聖人へ－』小池秀章 著 本願寺出版社　2009年
メッセージなど	皆さんにとって「宗教」とはどんなイメージですか。そして、生きていく中で「宗教」を必要だと感じますか。 様々な宗教を知ることを通してこれらの問いを共に考えていきましょう。

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 世界三大宗教（特に仏教）を知り、その内容を説明することができる。	ほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、基本を説明することができる。	多少間違えるが、最低限の基本は説明できる。	説明できない。	定期試験（知識･理解）	35%
(2) 日本における宗教の歴史を説明することができる。	ほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、基本を説明することができる。	多少間違えるが、最低限の基本は説明できる。	説明できない。	定期試験（知識･理解）	35%
(3) 浄土真宗や親鸞のことを説明することができる。	ほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、基本を説明することができる。	多少間違えるが、最低限の基本は説明できる。	説明できない。	定期試験（知識･理解）	30%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
生活と芸術 Life and Art	全学科	24BAHU1002	1年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
講義	2	選択	木橋 奏子・椿 千栄子	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○
概　　要	芸術は生活分野から切り離すことが出来ない。芸術とは特定の芸術家だけの特権ではないし、高尚な芸術作品を美術館で鑑賞することや、クラシカルな演奏会へ行くことだけでもない。「生活と芸術」とは、“生活に密着した芸術”であり、“生活に役立つ芸術”、“生活を豊かにする為の芸術”であるとも言える。ここでは、日本の伝統文化の一つである華道、様々なジャンルの音楽、五感に触れる造形作品、絵手紙、カード制作をする中で、生活の中に芸術を取り入れるセンスと方法、技術を身につける。世界でたった一つの自分の作品を制作する喜びと達成感を味わう。	

到達目標

(1) 身近に「芸術」を取り入れて生活を豊かにするための感性を養うことができる。

(2) 自分や周囲の人の生活に彩りを与え豊かにするための「感性を磨く意欲」を高める事ができる。

(3) 生活の中で「使う、飾る、プレゼントする」目的で作品を描き、制作する事ができる。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション －生活と芸術とは－ 授業について			「生活と芸術」の関係について、自分の考えをまとめる	2時間
2	花に触れる①	事前に配布したプリント資料を読んでくる	2時間	ワークシートに基づき振り返る	2時間
3	花に触れる② －いけばなの基礎－	事前に配布したプリント資料を読んでくる	2時間	ワークシートに基づき振り返る	2時間
4	花に触れる③ －伝統から自由花へ－	事前に配布したプリント資料を読んでくる	2時間	ワークシートに基づき振り返る	2時間
5	芸術鑑賞① －クラシック音楽(1) バロック・古典派	前時に配布したプリントを読んでおく	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間
6	芸術鑑賞② －クラシック音楽(2) ロマン派・近現代	クラシック音楽の指定された時代の中から1曲リストアップしてくる	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間
7	芸術鑑賞③ －世界の音楽(1) 様々なジャンルに触れる－	クラシック音楽の指定された時代の中から1曲リストアップしてくる	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間
8	芸術鑑賞④ －世界の音楽(2)映画音楽とクラシック音楽の関係－	映画音楽の指定された時代の中から1曲リストアップしてくる	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間

	9	プレゼンテーション －「私」と音楽－	好きな1曲についてプレゼンテーションの準備をしてくる	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間
	10	調理実習	事前に配布したプリント資料を読んでくる	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間
	11	折り紙	事前に配布したプリント資料を読んでくる	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間
	12	調理実習	事前に配布したプリント資料を読んでくる	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間
	13	折り紙	事前に配布したプリント資料を読んでくる	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間
	14	折り紙	事前に配布したプリント資料を読んでくる	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間
	15	調理実習	事前に配布したプリント資料を読んでくる	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間

成　績　評　価	作品（40%）、授業への取り組み（60%）
課題（試験・レポート等）に対する フィードバックの方法	
テキストおよび 参　考　文　献	テキスト：なし （プリントを随時配布）
メッセージ な　　ど	木橋担当授業回：花材費として、1000円程度必要です。それ以上かかることはありません。詳しくは初回授業日に説明します。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 身近に「芸術」を取り入れて生活を豊かにするための感性を養うことができる。	生活の中の「芸術」を理解し、生活を豊かにするための感性を養うことができる能力が十分にある。	生活の中の「芸術」を理解し、生活を豊かにするための感性を養うことができる能力がある。	生活の中の「芸術」を概ね理解し、生活を豊かにするための感性を養うことができる能力がある。	生活の中の「芸術」を理解できず、生活を豊かにするための感性を養うことができる能力がない。	作品（知識・理解・技能・判断力・作品の完成度）	10%
	生活の中の「芸術」を理解し、生活を豊かにするための感性を養うことができる能力が十分にある。	生活の中の「芸術」を理解し、生活を豊かにするための感性を養うことができる能力がある。	生活の中の「芸術」を概ね理解し、生活を豊かにするための感性を養うことができる能力がある。	生活の中の「芸術」を理解できず、生活を豊かにするための感性を養うことができる能力がない。	授業への取り組み（関心･意欲･態度）	10%
(2) 自分や周囲の人の生活に彩りを与え豊かにするための「感性を磨く意欲」を高める事ができる。	生活の中に「芸術」を取り入れるための感性を磨く意欲が十分にある。	生活の中に「芸術」を取り入れるための感性を磨く意欲がある。	不十分ではあるが生活の中に「芸術」を取り入れるための感性を磨く意欲がある。	生活の中に「芸術」を取り入れることができる感性を磨く意欲がない。	授業への取り組み（関心･意欲･態度）	50%
(3) 生活の中で「使う、飾る、プレゼントする」目的で作品を描き、制作する事ができる。	実際に使用したり、飾ったり、誰にでもプレゼントできるような作品を制作することができる。	実際に使用したり、飾ったり、知人であればプレゼントできるような作品を制作することができる。	人にプレゼントはできないかもしれないが、飾ったり、使用できる作品を制作することはできる。	実際に使用したり、飾ったり、人にプレゼントできるような作品を制作することができない。	作品（知識・技能・創造性・表現力・作品の完成度）	30%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
余暇生活論 Study on Leisure Life	全学科	24BAHU1003	1年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
講義	2	選択	正長 清志	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○

概　　要	人間と社会のあり方を余暇生活というプラットホームから見つめ、学習者一人ひとりが、これからの豊かなライフスタイルを創造していくことをねらいとして、余暇生活の概要、余暇生活のデザインを創造していく。
到達目標	(1) 余暇生活、余暇活動についての基本を説明することができる。 (2) 各自が余暇生活を振り返り、自らの余暇生活を他者に説明できる。 (3) 余暇生活に関わる身近な問題について、自分の考えや意見を述べることができる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	授業ガイダンス自らのライフスタイルを振り返る			配付資料1	2時間
2	少子高齢社会における余暇生活について	配付資料1	2時間	配付資料2	2時間
3	余暇生活とレクリエーション①	配付資料2	2時間	配付資料3	2時間
4	余暇生活とレクリエーション②	配付資料3	2時間	配付資料4	2時間
5	余暇生活とレクリエーション③	配付資料4	2時間	配付資料5	2時間
6	余暇生活能力の向上に必要なこと①	配付資料5	2時間	配付資料6	2時間
7	余暇生活能力の向上に必要なこと②	配付資料6	2時間	配付資料7	2時間
8	余暇生活能力の向上に必要なこと③	配付資料7	2時間	配付資料8	2時間
9	自らのライフスタイルを振り返る報告会	配付資料8	2時間	配付資料9	2時間
10	余暇生活を創造する①個人・グループ作業 テーマ「豊かな学生生活を送るために」	配付資料9	2時間	配付資料10	2時間
11	余暇生活を創造する②個人・グループ作業 参考文献・先行研究の調査	配付資料10	2時間	配付資料11	2時間
12	余暇生活を創造する③個人・グループ作業 これまでの情報・調査収集のまとめ	配付資料11	2時間	配付資料12	2時間
13	今後の創造的な余暇生活をめざして	配付資料12	2時間	配付資料13	2時間
14	授業の感想・振り返りプレゼンテーション①	配付資料13	2時間	配付資料14	2時間
15	授業の感想・振り返りプレゼンテーション②　総括	配付資料14	2時間	配付資料	2時間

成　績　評　価	課題・レポート（80%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（20%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	毎時間の、授業振り返りシートにコメントを記載し、次の授業時に返却します。定期レポート結果は、ルーブリック評価にあわせて結果を返却します。課題についての振り返りと、フィードバックについては課題レポート提出後に解説します。
テキストおよび参　考　文　献	参考文献を提示するとともに、適宜資料を配付していく。配付した資料を各自のファイルに整理し課題を振り返り、提出に備えてください。 【持 参 物】 記録用ファイル ※オープン教材を使用することがあります。
メッセージなど	入学してきた学生のみなさんと、豊かな余暇生活（学生生活）を送っていくためさらに、充実した人生のプログラムを開発しながら、自らの創造的な余暇生活を創造していきましょう。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 余暇生活、余暇活動についての基本を説明することができる。	ほぼ完璧に説明できている。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが最低限の基本を説明できている。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解）	40%
(2) 各自が余暇生活を振り返り、自らの余暇生活を他者に説明できる。	ほぼ完璧に説明できている。	大きな間違いがなく、説明できている。	間違いはいくつかあるが最低限の説明ができている。	説明できていない。	課題・レポート（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	40%
(3) 余暇生活に関わる身近な問題について、自分の考えや意見をプレゼンテーションすることができる。	ほぼ完璧に自分の考えや意見を述べている。	大きな間違いがなく、自分の考えを述べている。	間違いはいくつかあるが最低限の自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・思考力・判断力・表現力・プレゼンテーション）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
比較文化概説 Introduction to Comparative Culture	全学科 （一般学生対象）	24BAHU1004	１年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	林 伸一	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○
概　　要	日本の文化や風習を知り、自分の出身国（日本人の場合は外国）との違いを認識するとともに、異なる文化の存在への関心と理解を深める。	
到達目標	(1)文化、異文化ついて説明することができる。 (2)周りにいる人の異なるバックグラウンドを理解し、自身の価値観を探求することができる。	

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Introduction 、「異文化を理解する」	Day 2 の資料を読む。	2 時間		
2	「文化とは」（その１）	Day 3 の資料を読む。	2 時間	Day 1 の振り返り。	2 時間
3	「文化とは」（その２）	Day 4 の資料を読む。	2 時間	Day 1-3 の振り返り、レポート１に備える。	2 時間
4	「異文化適応」	Day 5 の資料を読む。	2 時間	Day 4 の振り返り。	2 時間
5	「シミュレーション」	Day 6 の資料を読む。	2 時間	Day 5 の振り返り。	2 時間
6	「違いに気づく」	Day 7 の資料を読む。	2 時間	Day 6 の振り返り、レポート２に備える。	2 時間
7	「異文化の認識」	Day 8 の資料を読む。	2 時間	Day 7 の振り返り。	2 時間
8	「差別を考える」	Day 9 の資料を読む。	2 時間	Day 8 の振り返り。	2 時間
9	「世界の価値観」	Day 10 の資料を読む。	2 時間	Day 9 の振り返り、レポート３に備える。	2 時間
10	「異文化トレーニング」	Day 11 の資料を読む。	2 時間	Day 10 の振り返り。	2 時間
11	「異文化受容」	Day 12 の資料を読む。	2 時間	Day 11 の振り返り。	2 時間
12	「自分を知る」	Day 13 の資料を読む。	2 時間	Day 12 の振り返り、レポート４に備える。	2 時間
13	「非言語コミュニケーション」	Day 14 の資料を読む。	2 時間	Day 13 の振り返り。	2 時間
14	「アサーティブコミュニケーション」	Day 15 の資料を読む。	2 時間	Day 14 の振り返り。	2 時間
15	「多文化共生社会の実現に向けて」	Day 1-15 の資料を読む。	2 時間	Day 1-15 の振り返り、最終レポートに備える。	2 時間

成　績　評　価	課題・レポート（50%）、グループワーク・グループ討議（50%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	ポートフォリオと感想文、レポートにはコメントを書いて返却する。
テキストおよび参考文献	資料は配布します。【参考文献】「異文化理解入門　原沢伊都夫　研究社」「グローバル社会における異文化コミュニケーション　池田理知子･塙幸枝　三修社」「よくわかる異文化コミュニケーション　池田理知子　ミネルヴァ書房」
メッセージなど	クラスメートとの協同学習に積極的に取り組む態度を求めます。内容・予定は変更する場合があります。楽しい授業を心がけたいと思いますので、学生の皆さんのご協力をお願いします。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 文化、異文化ついて説明することができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく､説明できる。	間違いはいくつかあるが､説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解）	50%
(2) 周りにいる人の異なるバックグラウンドを理解し、自身の価値観を探求することができる。	周りにいる人を理解し、自身の価値観を探求できる。	ある程度､周りにいる人を理解し､自身の価値観を探求できる。	ある程度周りにいる人を理解し､ある程度自身の価値観を探求できる。	周りにいる人を理解しようとせず、自身の価値観も探求できない。	グループワーク･グループ討議（関心･意欲･態度･技能･表現力）	50%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
比較文化概説 Introduction to Comparative Culture	全学科 （留学生対象）	24BAHU2005	２年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担当教員	実務家教員
講義	2	選択	林 伸一	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○
概　　要	日本の文化や風習を知り、自分の出身国（日本人の場合は外国）との違いを認識するとともに、異なる文化の存在への関心と理解を深める。	
到達目標	(1) 日本の文化について理解することができる。 (2) 日本文化と異文化について説明することができる。 (3) 母国の文化と日本の文化の違いについて、テーマを選び、発表することができる。 (4) 日本事情を理解し、日本式のマナーを実践できる。	

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和３年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	おもてなしの心・日本式のマナーと日本事情	オリエンテーション		該当箇所の復習。	2 時間
2	山口事情と山口の伝統文化・歴史	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
3	日本の若者のファッション：ダメージジーンズ	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
4	高齢化社会の日本事情	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
5	健康にいい日本食：栄養バランス	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
6	日本の映像芸術：フォトコンテスト	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
7	日本の色形容詞と実際の色彩	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
8	日本の四季：春夏秋冬（雪景色）	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
9	日本のソフトパワーとなったアニメ	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
10	山口の温泉と足湯	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
11	ヒューマンライブラリー（人間図書館）	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
12	朗読に挑戦してみよう！（金子みすゞ・中原中也）	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
13	世界に広がる日本文化	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
14	紙芝居で知る日本の昔話（桃太郎、一寸法師、かぐや姫など）	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
15	紙芝居で知る世界の昔話（裸の王様、ジャックと豆の木など）	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間

成　績　評　価	定期試験（80%）、小テスト（10%）発表・プレゼンテーション(10%)
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	小テストを採点し、返却時に間違った箇所を解説する。 課題の作文などを添削し、返却時に誤用例や模範例を示して解説する。
テキストおよび参考文献	PPT(パワーポイント）教材、大人が読んで考える絵本・紙芝居教材
メッセージなど	日本文化や異文化を絵本や紙芝居やパワーポイント教材で学びます。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 日本の文化について理解することができる。	日本文化についてほぼ完璧に理解できる。	大きな間違いなく、ほぼ日本文化を理解できる。	間違いはいくつかあるが、基本的な日本文化理解ができる。	日本の文化について理解することができない。	定期試験（知識･理解）	上段20% 下段5% 小計25%
	日本文化についてほぼ完璧に理解できる。	大きな間違いなく、ほぼ日本文化を理解できる。	間違いはいくつかあるが、基本的な日本文化理解ができる。	日本の文化について理解することができない。	小テスト（知識･理解）	
(2) 日本の文化について説明することができる。	日本文化についてほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いなく、ほぼ日本文化を説明できる。	間違いはいくつかあるが、基本的な日本文化の説明ができる。	日本の文化について説明することができない。	定期試験（知識･理解）	上段20% 下段5% 小計25%
	日本文化についてほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いなく、ほぼ日本文化を説明できる。	間違いはいくつかあるが、基本的な日本文化の説明ができる。	日本の文化について説明することができない。	小テスト（知識･理解）	
(3) 母国の文化と日本の文化の違いについて、テーマを選び、発表することができる。	母国の文化と日本の文化の違いについて、発表することができる。	母国の文化と日本の文化の違いについて、説明することができる。	母国の文化と日本の文化の違いについて、理解することができる。	母国の文化と日本の文化の違いについて、理解することができない。	定期試験（態度･表現力･判断力）	上段20% 下段5% 小計25%
	母国の文化と日本の文化の違いについて、発表することができる。	母国の文化と日本の文化の違いについて、説明することができる。	母国の文化と日本の文化の違いについて、理解することができる。	母国の文化と日本の文化の違いについて、理解することができない。	発表･プレゼンテーション（態度･表現力･判断力）	
(4) 日本式のマナーを実践し、日本事情を理解できる。	日本式のマナーを実践し、日本事情をよく理解できる。	日本式のマナーを適切に実践し、日本事情をほぼ理解できる。	ある程度、日本式のマナーを実践し、日本事情を理解できる。	日本式のマナーを実践し、日本事情を理解できない。	定期試験（態度･表現力･判断力）	上段20% 下段5% 小計25%
	日本式のマナーを実践し、日本事情をよく理解できる。	日本式のマナーを適切に実践し、日本事情をほぼ理解できる。	ある程度、日本式のマナーを実践し、日本事情を理解できる。	日本式のマナーを実践し、日本事情を理解できない。	発表･プレゼンテーション（態度･表現力･判断力）	

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年次	期別
日本国憲法 The Constitution of Japan	全学科	24BASO1001	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員
講義	2	選択	古澤　裕二

ディプロマ・ポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○
概　　要	日本国憲法の基本原理や具体的な条文の解釈だけではなく、憲法に関連するような法規や国内外の様々な社会問題等を取り上げ、現在の我が国における憲法はどうあるべきか、その望ましいあり方について考えを深めていきます。憲法に対する自分なりの見解をもつことによって、これまで以上に社会参画する力を身に付けることを目指します。	
到達目標	(1) 日本国憲法の構成や基本原理、具体的な条文の内容等について説明できる。 (2) 日本国憲法はどうあるべきか、望ましいあり方について提案できる。	

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和３年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	日本国憲法の概要	概要確認	0.5 時間	本時の学習内容を確認	0.5 時間
2	第一章「天皇」	内容確認・疑問点の明確化	0.5 時間	本時の学習内容を確認	0.5 時間
3	第二章「戦争の放棄」①	内容確認・疑問点の明確化	0.5 時間	本時の学習内容を確認	0.5 時間
4	第二章「戦争の放棄」②	内容確認・疑問点の明確化	0.5 時間	本時の学習内容を確認	0.5 時間
5	第三章「国民の権利と義務」①	内容確認・疑問点の明確化	0.5 時間	本時の学習内容を確認	0.5 時間
6	第三章「国民の権利と義務」②	内容確認・疑問点の明確化	0.5 時間	本時の学習内容を確認	0.5 時間
7	第三章「国民の権利と義務」③	内容確認・疑問点の明確化	0.5 時間	本時の学習内容を確認	0.5 時間
8	第四章「国会」	内容確認・疑問点の明確化	0.5 時間	本時の学習内容を確認	0.5 時間
9	第五章「内閣」	内容確認・疑問点の明確化	0.5 時間	本時の学習内容を確認	0.5 時間
10	第六章「司法」	内容確認・疑問点の明確化	0.5 時間	本時の学習内容を確認	0.5 時間
11	第七章「財政」	内容確認・疑問点の明確化	0.5 時間	本時の学習内容を確認	0.5 時間
12	第八章「地方自治」	内容確認・疑問点の明確化	0.5 時間	本時の学習内容を確認	0.5 時間

	13	第九章「改正」	内容確認・疑問点の明確化	0.5 時間	本時の学習内容を確認	0.5 時間
	14	「前文」、第十章「最高法規」、第十一章「補足」	内容確認・疑問点の明確化	0.5 時間	本時の学習内容を確認	0.5 時間
	15	まとめ	要点・疑問点の整理	0.5 時間	本時の学習内容を確認	0.5 時間

成　績　評　価	定期試験（50%）、授業の取り組み（50%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	課題に対する模範解答や考え方を提示する。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：授業で参考資料を提示・配付 参考文献：第１回授業にて紹介 『百田尚樹の日本国憲法』百田尚樹著（祥伝社新書） 『超訳　日本国憲法』池上彰著（新潮新書）
メッセージなど	日本国憲法の公布以来、これまで何度も憲法改正の議論があったものの、実際には一度も改正されないまま今日を迎えています。そこで、憲法に関連するような法規や国内外の様々な問題等を学ぶことを通じて、現在の我が国における憲法はどうあるべきか、自分なりの「憲法改正私案」を考えてみましょう。きっと、憲法解釈だけではわからない憲法の問題点や自分たちがおかれている社会情勢についても認識が深まることと思います。当然、「これが正解だ！」と言えるものはありません。正解ではなく自分なりの納得解を追究していきましょう。 幼稚園教諭二種、小学校教諭二種：「必修」

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 日本国憲法の構成や基本原理、具体的な条文の内容等について説明できる。	授業で理解した内容を十分記述できる。	授業で理解した内容を概ね記述できる。	授業で理解した内容を最低限記述できる。	授業で理解した内容を記述できない。	授業の取り組み （知識・理解）	25%
	憲法の構成や基本原理、具体的な条文の内容等について、十分説明できる。	憲法の構成や基本原理、具体的な条文の内容等について、概ね説明できる。	憲法の構成や基本原理、具体的な条文の内容等について、最低限説明できる。	憲法の構成や基本原理、具体的な条文の内容等について説明できない。	定期試験 （知識・理解）	25%
(2)　日本国憲法はどうあるべきか、望ましいあり方について提案できる。	授業で考えが深まったことを十分記述できる。	授業で考えが深まったことを概ね記述できる。	授業で考えが深まったことを最低限記述できる。	授業で考えが深まったことを記述できない。	授業の取り組み （思考・判断）	25%
	憲法の望ましいあり方について、根拠に基づき十分提案できる。	憲法の望ましいあり方について、根拠に基づき概ね提案できる。	憲法の望ましいあり方について、根拠に基づき最低限提案できる。	憲法の望ましいあり方について、提案できない。	定期試験 （思考・判断）	25%

授業科目		対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
現代社会問題 Issues in Modern Society		全学科	24BASO1002	1年次	後期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員		実務家教員
講義	2	選択	今川 晋平		

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○
概　　要	子どもや保護者はみな、それぞれの「時代性」を背負って生きている。現代の子どもたちは、どのような問題を抱えているのでしょうか？そして、それぞれの課題の子どもの姿を捉えながら、現代の子どもの問題について考える。	
到達目標	(1) 時代背景に合わせた子どもの問題の変化について説明できる。 (2) 子どもに関わる問題について具体的に述べることができる。 (3) マスコミ（新聞、テレビ等）のニュース報道に興味が湧き自分の意見を持って協議する。	

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	配布資料を読んでおく	2 時間	課題を探す	2 時間
2	子どもを育む現代社会文化	配布資料を読んでおく	2 時間	課題を探す	2 時間
3	子どもの脳の発達とスマホの影響	配布資料を読んでおく	2 時間	課題を探す	2 時間
4	人と人をつなぐｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ課題①	配布資料を読んでおく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
5	人と人をつなぐｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ課題②	配布資料を読んでおく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
6	他者との価値観の違い	配布資料を読んでおく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
7	子どもの依存症（スマホ）	配布資料を読んでおく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
8	子どもの依存症（人間関係）	配布資料を読んでおく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
9	児童虐待	配布資料を読んでおく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
10	学校に行けない子ども、行かない子ども	配布資料を読んでおく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
11	特別な支援の必要な子どもと保護者たち	配布資料を読んでおく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
12	特別養子縁組と赤ちゃんポスト	配布資料を読んでおく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
13	未成年の出産	配布資料を読んでおく	2 時間	発表準備	2 時間
14	女性の社会進出と保育ニーズ	配布資料を読んでおく	2 時間	振り返りシートの記入	2 時間
15	自己理解とは	配布資料を読んでおく	2 時間	課題レポート	2 時間

※授業内容を一部変更する場合があります。

成　績　評　価	定期試験（40%）、課題・レポート（15%）、授業への取り組み（30%）、発表・グループワーク（15%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	試験やレポートは、ルーブリック評価での結果を渡す。
テキストおよび参　考　文　献	授業時にプリント配布
メッセージなど	社会人に求められる教養、技能、品格を授業の中で身につける人生で最後の時間です。自覚して頑張りましょう。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 時代背景に合わせた子どもの問題の変化について説明できる。	子どもの問題の変化を的確に説明できる。	子どもの問題の変化について大体のことを説明できる。	時代背景に合わせた子どもの問題の変化を間違いはあるが説明できる。	時代背景に合わせた子どもの問題の変化を説明できていない。	定期試験（知識・思考力・表現力）	40%
(2) 子どもに関わる問題について具体的に述べることができる	子どもに関わる問題について的確に認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	子どもに関わる問題について大体のことを認識し、自分の考えを述べている。	子どもに関わる問題について認識の間違いはあるが、最低限の自分の考えを述べている。	子どもに関わる問題について認識できておらず、自分の考えを述べていない。	課題・レポート（知識・思考力・判断力・表現力）	30%
(3) マスコミ（新聞、テレビ等）のニュース報道に興味が湧き自分の意見を持って協議する	的確な問題意識を持って協議している。	問題意識を持ち、協議している。	間違いはいくつかあるが、協議に参加している。	身近な問題に触れようとせず、協議していない。	授業への取り組み（関心・意欲・思考力・表現力）	30%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
行動科学 Behavioral Science	全学科	24BASO1004	1年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	馬場　弓歌	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○

概　　要	心理学がどのような学問であるかを紹介し、認知心理学、学習心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学といった各領域の基礎的な内容を概説する。授業は、スライド資料や動画などを通して解説する。また、各授業中に講義内容について考えたことについて記入する授業課題を課す。
到達目標	(1) 行動科学・心理学がどのような学問であるかを理解し、基礎的な知識を有している。 (2) 心理学の知識に基づいて、自分や他者の行動を説明することができる。 (3) 心理学の知識を糸口として自己や社会等から課題を見いだし、取り組むことができる。

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和3年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoomによる遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション行動科学・心理学とは	―		本時の内容をまとめる。	2時間
2	感覚･知覚	キーワードの印象を書く。	2時間	配布資料を読み、まとめる。	2時間
3	記憶	キーワードの印象を書く。	2時間	配布資料を読み、まとめる。	2時間
4	学習	キーワードの印象を書く。	2時間	配布資料を読み、まとめる。	2時間
5	感情	キーワードの印象を書く。	2時間	配布資料を読み、まとめる。	2時間
6	動機づけ	キーワードの印象を書く。	2時間	配布資料を読み、まとめる。	2時間
7	知能	キーワードの印象を書く。	2時間	配布資料を読み、まとめる。	2時間
8	パーソナリティ	キーワードの印象を書く。	2時間	配布資料を読み、まとめる。	2時間
9	発達	キーワードの印象を書く。	2時間	配布資料を読み、まとめる。	2時間
10	発達障害	キーワードの印象を書く。	2時間	配布資料を読み、まとめる。	2時間
11	ストレス	キーワードの印象を書く。	2時間	配布資料を読み、まとめる。	2時間
12	社会	キーワードの印象を書く。	2時間	配布資料を読み、まとめる。	2時間
13	心理療法	キーワードの印象を書く。	2時間	配布資料を読み、まとめる。	2時間
14	心理カウンセリング	キーワードの印象を書く。	2時間	配布資料を読み、まとめる。	2時間
15	まとめ	テキストや配布資料を読む。	2時間	配布資料を読み、まとめる。	2時間

成　績　評　価	毎回の授業課題（関心・意欲・態度）45%、 定期試験（知識・理解）35%、 定期試験：記述問題（思考力・判断力・表現力）20%
課題(試験･レポート等) に対する フィードバックの方法	授業課題への回答は必要に応じてフィードバックを行う。 定期試験と授業課題はルーブリック評価に基づき結果を示す。
テキストおよび 参　考　文　献	テキスト：プリントを配布する 参考書：金沢 創（2015）ゼロからはじめる心理学・入門：人の心を知る科学 有斐閣
メッセージ な　　ど	各授業の授業課題は成績に反映されるため、積極的に記入してください。また、定期試験では授業課題に関連した記述問題を出題するため授業課題の提出後も、該当のテーマについて日頃から考えておくことをおすすめします。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 行動科学・心理学がどのような学問であるかを理解し、基礎的な知識を有している。	心理学の各領域の基礎用語を十分に説明することができる。	心理学の各領域の基礎用語を概ね説明することができる。	心理学の各領域の基礎用語について最低限の内容を説明することができる。	心理学の各領域の基礎用語を説明することができない。	定期試験 （知識・理解）	35%
(2) 心理学の知識に基づいて、自分や他者の行動を説明することができる。	毎時の内容と、自分や他者の行動との関連の見出し、説明した上で自分の考えを述べることができる。	毎時の内容と、自分や他者の行動との関連を見出し、説明することができる。	毎時の内容と、自分や他者の行動との関連の見出しが不十分である。	毎時の内容を通して、自分や他者の行動を説明できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・態度）	45%
(3)心理学の知識を糸口として自己や社会等から課題を見いだし、取り組むことができる。	自己や社会におけるこころの働きについて、心理学的視点に立って考えることができ、表現したうえで実際に取る組むことができる。	自己や社会におけるこころの働きについて、心理学的視点に立って考えることができ、表現することができる。	自己や社会におけるこころの働きについて、心理学的視点に立って考えることができるが、表現が不十分である。	自己や社会におけるこころの働きについて、心理学的視点に立って考えることができない。	定期試験 （思考力・判断力・表現力）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
物理学 Physics	全学科	24BANA2002	２年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択		

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○
概　　要	物理学の基礎的・基本的事項を理解し、科学的なものの見方・考え方を養う。	
到達目標	(1) 力の表し方 合力、分力の求め方２力のつり合いの関係と作用反作用の関係との違いが理解できる。 (2) 重さ（N）と質量（kg）の定義付けが正しく理解でき、重さは測定する場所によって異なり、質量は絶対不変の量であることが理解できる。 (3) 静止摩擦力について、最大静止摩擦力は垂直抗力に比例することが理解できる。圧力、浮力が正しく理解できる。 (4) 剛体のつり合いについて正しく理解できる。 (5) 速度、加速度の概念を理解し、相対速度、等加速度直線運動について理解できる。落体の運動を等加速度直線運動と結び付けてグラフを活用して、分析する。慣性力、遠心力について理解する。 (6) 仕事と仕事率、仕事量と力学的エネルギーについて理解する。 (7) 熱とエネルギー 熱の本性、セルシウス□と絶対温度について理解する。仕事による熱の発生と熱の仕事当量について理解する。 (8) 比熱と熱容量について理解し、熱量計算ができるようにする。 (9) 気体の熱的性質について　気体の圧力、ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則について理解し、熱と仕事、断熱変化について理解する。 (10) 波の伝わり方、波の速さ、波長、振動数、周期について理解する。横波、縦波の伝わり方について理解する。ドップラー効果について理解する。 (11) 電流と電気抵抗について、電気回路、オームの法則、電気抵抗、電圧降下、電流と仕事ジュールの法則、電力と電力量について理解する。 (12) 物理学の基礎・基本的事項について、問題形式の課題を提出し、知識・理解、思考力、判断力の再確認をする。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	力の合成と分解	力の表し方、合力、分力の求め方。	2 時間	２力のつりあいと作用反作用の違いが説明できる。	2 時間
2	重さと質量	重さは測定する場所によって異なり質量は不変の量であるがわかる。	2 時間	重さと質量の関係が正しく理解できる。	2 時間
3	いろいろな力	静止摩擦力、圧力、浮力が正しく図示できる。	2 時間	静止摩擦力、圧力、浮力が正しく理解できる。	2 時間
4	剛体のつりあい	大きさのある物体について、力のモーメントが理解できる。	2 時間	力のモーメントのつりあいを使って大きさのある物体のつりあいを求めることができる。	2 時間
5	速度と加速度	速度と加速度の概念が正しく理解できる。	2 時間	等速度運動、等加速度運動についてグラフに表し、グラフから速度、加速度、移動距離を求めることができる。	2 時間

	6	落体の運動	真上に投げた物体、水平に投げた物体の運動が正しく解説できる。	2 時間	等加速度直線運動の４つの公式を使って落体の運動を解説できる。	2 時間
	7	慣性力	電車内で天井からつるした物体にはたらく力を正しく図示でき、みかけの力慣性力を正しく説明できる。	2 時間	慣性力＝－質量×加速度を電車の運動、等速円運動において説明できる。	2 時間
	8	仕事と仕事率	仕事と仕事率を正しく理解できる。仕事の原理がわかる。	2 時間	ジュール、ワット単位次元についても理解する。	2 時間
	9	仕事量と力学的エネルギー	運動エネルギー、位置エネルギー。力学的エネルギーについて理解する。	2 時間	保存力だけがはたらく場合力学的エネルギーは保存されることを使って、真上に投げた物体の運動、水平に投げた物体の運動を解説できる。	2 時間
	10	熱とエネルギー	熱の本性について正しく理解し、様々な熱現象を原子、分子の概念を用いて説明できる。	2 時間	セルシウス度、絶対温度、熱の仕事当量について理解を深める。また熱量計算ができる。	2 時間
	11	気体の熱的性質	気体の圧力、ボイルの法則、シャルルの法則、ボイルシャルルの法則を正しく理解する。	2 時間	気体の内部エネルギー、熱力学の第一法則断熱変化について理解する。	2 時間
	12	波の伝わり方	波の伝わり方を媒質の概念から説明できる。	2 時間	横波、縦波、ドップラー効果について理解を深める。	2 時間
	13	電気と電圧、電流と電子	電流回路、抵抗、電圧降下、抵抗率、オームの法則を理解する。	2 時間	抵抗を直列、並列接続した回路で抵抗を流れる電流を求める。	2 時間
	14	電気エネルギー	ジュールの法則、電力、電力量、電力の単位を理解する。	2 時間	電気器具を消費した時間から消費電力を求めることができる。	2 時間
	15	問題演習	問題演習課題プリント	2 時間	プリントの問題が確実に解けるようにする。	2 時間

成　績　評　価	定期試験（80%）、課題・レポート（20%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	ルーブリック評価をフィードバックする。
テキストおよび参　考　文　献	作成プリントを使用
メッセージなど	日常生活でよく出会う物理事象を取り上げ、おもしろく興味ある授業にする。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 力の表し方 合力、分力の求め方２力のつり合いの関係と作用反作用の関係との違いが理解できる。	ベクトル作図を使ってほぼ完璧に　説明できる	大きな間違いがなく基礎・基本的事項は理解できている	いくつかの間違いはあるが、最低限の基本は理解できている。	理解できていない。	定期試験	9%
(2) 重さ（N）と質量（kg）の定義付けが正しく理解でき、重さは測定する場所によって異なり、質量は絶対不変の量であることが理解できる。	ほぼ完璧に理解できている。	大きな間違いはなく基礎・基本的事項は理解できている	いくつかの間違いはあるが、最低限の基本は理解できている。	理解できていない。	定期試験	5%
(3) 静止摩擦力について、最大静止摩擦力は垂直抗力に比例することが理解できる。圧力、浮力が正しく理解できる。	力のベクトル作図を使って説明でき、ほぼ完璧に理解できている。	大きな間違いはなく基本的事項は理解できている。	いくつかの間違いはあるが、最低限の基本は理解できている。	理解できていない。	定期試験	9%
(4) 剛体のつり合いについて正しく理解できる。	ほぼ完璧に理解できている。応用力もみにつけている。	大きな間違いはなく基本的事項は理解できている。	間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	6%
(5) 速度、加速度の概念を理解し、相対速度、等加速度直線運動について理解できる。落体の運動を等加速度直線運動と結び付けてグラフを活用して、分析する。慣性力、遠心力について理解する。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できており、思考力応用力も身につけている。	大きな間違いはなく基本的事項は理解できている。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	9%
(6) 仕事と仕事率、仕事量と力学的エネルギーについて理解する。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できており、思考力応用力も身についている。	基礎・基本的事項が大きな間違いがなく、ほぼ理解している。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	8%
(7) 熱とエネルギー 熱の本性、セルシウス□と絶対温度について理解する。仕事による熱の発生と熱の仕事当量について理解する。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できており、応用力も身についている。	大きな間違いがなく、基礎・基本的事項をほぼ理解している。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	5%
(8) 比熱と熱容量について理解し、熱量計算ができるようにする。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できており、応用力も身についている。	大きな間違いがなく、基礎・基本的事項をほぼ理解している。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	7%
(9) 気体の熱的性質について　気体の圧力、ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則について理解し、熱と仕事、断熱変化について理解する。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できており、思考力応用力も身につけている。	大きな間違いがなく、基礎・基本的事項をほぼ理解している。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	6%

(10) 波の伝わり方、波の速さ、波長、振動数、周期について理解する。横波、縦波の伝わり方について理解する。ドップラー効果について理解する。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できており、思考力応用力も身につけている。	大きな間違いがなく、基礎・基本的事項をほぼ理解している。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	6%
(11) 電流と電気抵抗について、電気回路、オームの法則、電気抵抗、電圧降下、電流と仕事ジュールの法則、電力と電力量について理解する。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できており、思考力応用力も身につけている。	大きな間違いがなく、基礎・基本的事項をほぼ理解している。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	10%
(12) 物理学の基礎・基本的事項について、問題形式の課題を提出し、知識・理解、思考力、判断力の再確認をする。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できており、思考力応用力も身につけている。	大きな間違いがなく、基礎・基本的事項をほぼ理解している。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	課題・レポート	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
生物学 Biology	全学科	24BANA2004	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	安藤 稔朗	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○
概　　要	生物学への興味と関心が遠ざかった学生や、高校で生物を履修してこなかった学生も考慮に入れながら、生物学の基礎的・基本的事項について学習し、生物学的思考力を養う。 生物学の基礎となる理論、現象について学習する。	
到達目標	(1) 生物分野において、科学的なものの見方、考え方を培うための内容について、具体的な資料を活用しながら説明できる。 (2) 生物学で取り扱う教材の特性や着眼点などについて、レポートにまとめ説明できる。 (3) テキストの生物教材をとおして、自然現象の解明の仕方を説明できる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	テキスト 1～5 ページを読んでおく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
2	生物学のあゆみ	用意したプリントを読んでおく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
3	生命とは何か －生命とその特徴－	用意したプリントを読んでおく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
4	生命の基本単位 －細胞－	テキスト6～11ページを調べておく	2 時間	単細胞生物と多細胞生物をまとめる	2 時間
5	植物の構成と機能	用意したプリントを読んでおく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
6	植物の成長	テキスト 12～13P を調べておく	2 時間	植物の成長について特色を整理する	2 時間
7	環境と植物	用意したプリントを読んでおく	2 時間	環境と植物のかかわりをまとめる	2 時間
8	動物の働き －生理作用－	用意したプリントを読んでおく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
9	動物の行動	テキスト 20～25P を調べておく	2 時間	授業を振り返り、内容を復習する	2 時間
10	生殖と発生	テキスト 14～16P を調べておく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
11	遺伝	用意したプリントを読んでおく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
12	生物の多様性と進化	用意したプリントを読んでおく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
13	生物の生活と生産	テキスト 26～30P を調べておく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
14	生物界のつりあいと自然環境保全	テキスト 31～32P を調べておく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
15	地球環境と生命	テキスト 33～34P を調べておく	2 時間	授業を振り返り、要点をまとめる	2 時間

成　績　評　価	定期試験（30%）、課題・レポート（30%）、教材作成（40%）

課題(試験･レポート等) に対する フィードバックの方法	授業の振り返りシートにコメントを書き、次の授業時に返却する。レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。
テキストおよび 参　考　文　献	テキスト：安藤稔朗「生物学」山口短期大学 資料・プリント：その都度配布
メッセージ な　　ど	講義で学び取る学習から、講義を契機に自分の頭で思考する学習への転換をはかることが肝要である。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 生物分野において、科学的なものの見方、考え方を培うための内容について、具体的な資料を活用しながら説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、内容を説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できていない。	定期試験 （知識・理解）	30%
(2) 生物学で取り扱う教材の特性や着眼点などについて、レポートにまとめ説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できていない。	課題・レポート （関心・意欲）	30%
(3) テキストの生物教材をとおして、自然現象の解明の仕方を説明できる。	ほぼ完璧に授業を工夫できる。	大きな間違いがなく、授業を工夫できる。	間違いはいくつかあるが、授業を工夫できる。	工夫できていない。	教材作成 （思考力・判断力・表現力）	40%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
データサイエンス入門 Introduction to Data Science	全学科	24BANA1001	1 年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	横山 修	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○
概　　要	数理・データサイエンス・AI は、私たちの日常生活や社会の諸問題を解決する有力なツールである。この講義では、数理・データサイエンス・AI がどのような領域でどのように利活用されているのかを現場での事例を挙げて説明する。また、数理・データサイエンス・AI の利活用に当たり、留意すべき事項についても解説する。さらに、データを適切に処理・分析する力を養うため、実データを用いた演習を行う。	
到達目標	(1) 数理・データサイエンス・AI が社会にもたらした変化およびデータ・AI の利活用の最新動向について説明できる。 (2) 社会で利活用されているデータやその活用法およびデータ・AI の活用領域について説明することができる。 (3) データ・AI の利活用により現場においてどのような価値が生み出されているか、また、その際に利用されている技術について事例を挙げて説明できる。 (4) 数理・データサイエンス・AI の利活用に当たり留意すべき事項（ELSI、データ倫理、情報セキュリティ等）を説明できる。 (5) データを適切に処理・分析し、データが持つ意味を説明できる。	

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション —数理・データサイエンス・AI が社会にもたらした変化—	シラバスを読み、科目の内容を把握する	1 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
2	社会で利活用されているデータとその活用法および活用領域	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
3	データ・AI の利活用のための技術	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
4	現場におけるデータ・AI 利活用の事例紹介	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
5	データ・AI 利活用の最新動向	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
6	情報セキュリティ、データ・AI 利活用における法と倫理	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
7	データを読む① —量的データと質的データ、データの分布と代表値—	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
8	データを読む② —データのばらつき—	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
9	データを読む③ —誤差、打ち切り、脱落を含むデータの取り扱い—	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
10	データを読む④ —データの相関—	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
11	データを読む⑤ —クロス集計—	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間

	12	データを読む⑥ ―母集団と標本―	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
	13	データを説明する ―データのグラフ・チャート化―	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
	14	データを扱う① ―データ解析ツールの使用方法―	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
	15	データを扱う② ―データの集計・並べ替え・ランキング―	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間

成績評価	定期試験（50%）、課題（50%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	ルーブリック評価に基づき結果を示す。
テキストおよび参考文献	テキスト：なし
メッセージなど	小学校教諭二種免許状、幼稚園教諭二種免許状：必修、情報メディア学科：卒業必修

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 数理・データサイエンス・AI が社会にもたらした変化およびデータ・AI の利活用の最新動向について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の説明はできる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力）	20%
(2) 社会で利活用されているデータやその活用法およびデータ･AI の活用領域について説明することができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の説明はできる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力）	10%
(3) データ・AI の利活用により現場においてどのような価値が生み出されているか、また、その際に利用されている技術について事例を挙げて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の説明はできる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力）	10%
(4) 数理・データサイエンス・AI の利活用に当たり留意すべき事項（ELSI、データ倫理、情報セキュリティ等）を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の説明はできる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力）	10%
(5) データを適切に処理･分析し、データが持つ意味を説明できる。	ほぼ完璧に、データ処理・分析ができ、データが持つ意味を説明できる。	大きな間違いがなく、データ処理･分析ができ、データが持つ意味を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限のデータ処理・分析ができ、データが持つ意味を説明できる。	データの処理･分析ができない。	授業への取り組み（知識・理解・技能・思考力・判断力）	20%
					課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力）	30%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
学問と人間の探求 Study on Academics and Human Beings	全学科	24BAGE1001	１年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	必修	柴田 道信・佐藤 嘉倫	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○
概　　要	新入生が大学生活に円滑に適応し、学友とともに有意義な学生生活を送れることを目的とする。本学の理念と方針、学生生活の心得、大学での学びへの理解を深めるとともに、これからの人生を見据えた学生生活のあり方を学生自ら考える時間とする。	
到達目標	(1) 大学での学びの意義を理解し、自らの将来と関連付けながら、主体的に学ぶことができる。 (2) 大学生としての基本的なアカデミック・スキルが身に付いている。 (3) 異なる考え方や知識を持つ人々と積極的にコミュニケーションを図り、自らの知識や考え方を広げることができる。	

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	シラバスを読み、科目の内容を把握する	1 時間	授業内容を振り返り、考えをまとめる	2 時間
2	本学を知る　～建学の精神と３つのポリシー～	学生便覧の該当箇所を読む	2 時間	授業内容を振り返り、考えをまとめる	2 時間
3	学生生活について①学生生活の心得	学生便覧の該当箇所を読む	2 時間	授業内容を振り返る	2 時間
4	学生生活について②安全・安心な生活	消費者問題について調査する	2 時間	授業内容を振り返る	2 時間
5	大学での学びとキャリアデザイン	大学での学びの意義を考え、まとめる	2 時間	授業内容を振り返り、自己分析を行う	2 時間
6	Google Classroom の利用①基本的な使用方法	Google Classroom について調べておく	2 時間	授業内容を振り返り、課題に取り組む	2 時間
7	Google Classroom の利用②課題等の提出方法	どのような提出方法があるか調べておく	2 時間	授業内容を振り返り、課題に取り組む	2 時間
8	レポートの書き方①レポートとは？	レポートとは何かを調べる	2 時間	授業内容を振り返る	2 時間
9	レポートの書き方②原稿用紙の使い方	原稿用紙の使い方を調べる	2 時間	授業内容を振り返る	2 時間
10	レポートの書き方③論理的な書き方	論理的な書き方とは何か考える	2 時間	授業内容を振り返る	2 時間
11	レポートの書き方④引用のルール	引用のルールについて調べる	2 時間	課題レポートを作成する	2 時間
12	グループ討議について	グループ討議の発散・収束手法を調べる	2 時間	授業内容を振り返る	2 時間
13	グループ討議①選択型	選択型グループ討議について調べる	2 時間	授業内容を振り返り、グループ討議の意義を考える	2 時間

	14	グループ討議②課題解決型	課題解決型グループ討議について調べる	2 時間	授業内容を振り返り、グループ討議の意義を考える	2 時間
	15	まとめ	授業全体を振り返る	2 時間	授業内容を振り返り、考えをまとめる	2 時間

成　績　評　価	課題・レポート（30%）、授業への取り組み（40%）、グループワーク・グループ討議（30%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	授業において提示した課題については、授業内で個人あるいは全体に対してフィードバックする。
テキストおよび参　考　文　献	必要に応じてプリント配布
メッセージなど	

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 大学での学びの意義を理解し、自らの将来と関連付けながら、主体的に学ぶことができる。	大学での学びと自らの将来を十分に関連付け、主体的に学ぶことができる。	大学での学びと自らの将来をある程度関連付け、主体的に学ぶことができる。	最低限ではあるが、主体的な学びの姿勢が見られる。	主体的な学びの姿勢が見られない。	授業への取り組み（関心･意欲･態度）	40%
(2) 大学生としての基本的なアカデミック・スキルが身に付いている。	ほぼ完璧にアカデミック・スキルが身に付いている。	大きな間違いもなく、アカデミック・スキルが身に付いている。	最低限のアカデミック・スキルは身に付いている。	アカデミック・スキルが身に付いていない。	課題・レポート（思考力・判断力･表現力）	30%
(3) 異なる考え方や知識を持つ人々と積極的にコミュニケーションを図り、自らの知識や考え方を広げることができる。	積極的にコミュニケーションを図り、自らの知識や考えを大きく発展させることができる。	コミュニケーションを図り、自らの知識や考え方をある程度広げることができる。	最低限のコミュニケーションは図ることができる。	コミュニケーションを図ることができない。	グループワーク・グループ討議（態度・思考力･表現力･協働性）	30%

授業科目		対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
国際交流 International Activities		全学科	24BAGE2002	２年次	通年
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員		実務家教員
講義	2	必修	中津 愛子・柴田 道信・木橋 奏子		
ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。				○
概　　要	文化的背景の異なる人々との交流を通じて、様々な文化・風習・考え方に触れ、異文化への理解を深める。また、実際の体験に基づき異文化理解を深めることを目的とする。				

到達目標

(1) 外国事情や異文化に興味・関心を持ち、意欲的に学ぶことができる。

(2) 異なる文化を持つ人々とコミュニケーションを図るための態度と能力を身に付けている。

(3) 複眼的な視点で異文化を捉え、異文化に理解を示すことができる。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション 私と国際交流 1（まとめる）	シラバスを読む	1 時間	自分の人生における国際交流をまとめる	1 時間
2	私と国際交流 2（共有する）	自分の人生における国際交流をまとめる	1 時間	グループ活動の結果をまとめる	1 時間
3	私の国際交流体験記 1 （日常生活）	日常生活における常識と非常識を考える	1 時間	本時の内容を振り返る	1 時間
4	私の国際交流体験記 2 （食文化）	自国の食文化の特徴をまとめる	1 時間	本時の内容を振り返る	1 時間
5	私の国際交流体験記 3 （コミュニケーション）	日常使うジェスチャーを考える	1 時間	本時の内容を振り返る	1 時間
6	私の国際交流体験記 4 （価値観）	自身の価値観を考える	1 時間	本時の内容を振り返る	1 時間
7	海外の生活文化や習慣を知る 1	指示された国について調べる	1 時間	本時の内容を振り返る	1 時間
8	海外の生活文化や習慣を知る 2	指示された国について調べる	1 時間	本時の内容を振り返る	1 時間
9	海外の生活文化や習慣を知る 3	指示された国について調べる	1 時間	本時の内容を振り返る	1 時間
10	海外の生活文化や習慣を知る 4	指示された国について調べる	1 時間	本時の内容を振り返る	1 時間
11	海外の生活文化や習慣を知る 5	指示された国について調べる	1 時間	本時の内容を振り返る	1 時間
12	国際交流活動について調べよう 1	資料を自分で見つける	1 時間	資料を読み。まとめる	1 時間
13	国際交流活動について調べよう 2	資料を読んでおく	1 時間	資料を読み。まとめる	1 時間
14	海外で活躍する人々	資料を読んでおく	1 時間	本時の内容を振り返る	1 時間
15	まとめ	全授業内容を振り返りまとめる	1 時間		1 時間

成　績　評　価	課題・レポート（30%）、授業への取り組み（70%）

課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	授業において提示した課題については、授業内で全体に対してフィードバックする。
テキストおよび参考文献	適宜プリントを配布
メッセージなど	海外を訪れ、異文化を体験するということは、何事にも代え難い経験であり、その後の人生の大きな糧となります。これをきっかけに皆さんが海外の文化に関心をもち、海外を視野に活躍する人材となることを期待しています。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 外国事情や異文化に興味・関心を持ち、意欲的に学ぶことができる。	外国文化へ高い興味・関心を示し、意欲的に学ぶ姿勢が見られる。	外国文化へ興味・関心を持ち、学ぶ姿勢も十分見られる。	外国文化への興味・関心は低いが、最低限の学ぶ姿勢は見られる。	外国文化への興味・関心が低く、学ぶ姿勢が見られない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	50%
(2) 異なる文化を持つ人々とコミュニケーションを図るための態度と能力を身に付けている。	完璧に身に付いている。	十分に身に付いている。	最低限であるが身に付いている。	身に付いていない。	授業への取り組み（態度・表現力・協働性）	20%
(3) 複眼的な視点で異文化を捉え、異文化に理解を示すことができる。	自身の世界観およびこれと異なる世界観の見方から異文化を観察し、異文化経験を解釈できる。	自身の世界観およびこれと異なる世界観の見方から異文化を観察することができる。	自分の世界観を中心に異文化を見ているが、異文化を理解しようとする姿勢は見受けられる。	自分の世界観のみを通して異文化を見ており、異文化への理解・も低い。	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	30%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年 次	期 別
言葉とコミュニケーション Language and Communication	全学科 （一般学生対象）	24BAGE1004	1 年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	小河原 香代子	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○
概　要	英語でコミュニケーションを図る際に大切なことは何だろうか？英語と日本語の言語文化の違いから日本人が陥りやすい問題点に焦点を当て、会話を円滑に続けられる能力を身につけるためのストラテジー（方略）について学ぶ。	

到達目標

(1) 英語と日本語の言語表現のストラテジーの違いについて説明できる。

(2) 英語コミュニケーション方略について主体的に考え、場面や状況に応じて実践することができる。

(3) 言語文化の違いについての気付き、考え方を述べることができる。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	イントロダクション Unit 1 初めての人に話しかけてみよう			Unit 1: テキストの内容、英語表現を復習する。	2時間
2	Unit2 初対面の人と会話を続ける	Unit 2: テキストを読んで内容を理解する。わからない単語は調べておく。Exercises をする。	2時間	Unit 2: テキストの内容、英語表現を復習する。音声が聞けるところは音声を聞いて練習する。	2時間
3	Unit 3 わからないことは聞き直そう	Unit 3: 同上	2時間	Unit 3: 同上	2時間
4	Unit 4 もう一言加えてみよう	Unit 4: 同上	2時間	Unit 4: 同上	2時間
5	Unit 5 あいづちを打とう	Unit 5: 同上	2時間	Unit 5: 同上	2時間
6	Unit 6 相手に興味を示そう	Unit 6: 同上	2時間	Unit 6: 同上	2時間
7	Unit 7 お礼の言い方を覚えよう	Unit 7: 同上	2時間	Unit 7: 同上	2時間
8	Unit 8上手に苦情を言ってい見よう	Unit 8: 同上	2時間	Unit 8: 同上	2時間
9	Unit 9 上手に謝ろう	Unit 9: 同上	2時間	Unit 9: 同上	2時間
10	Unit 10 答えたくない質問へ上手に対処しよう	Unit 10: 同上	2時間	Unit 10: 同上	2時間
11	Unit 11 丁寧に頼んでみよう	Unit 11: 同上	2時間	Unit 11: 同上	2時間
12	Unit 12 誘ってみよう	Unit 12: 同上	2時間	Unit 12: 同上	2時間
13	Unit 13 うまく断ろう	Unit 13: 同上	2時間	Unit 13: 同上	2時間
14	Unit 14 口調を和らげる表現を覚えよう	Unit 14: 同上	2時間	Unit 14: 同上	2時間
15	Unit 15 会話を切り上げる表現を覚えよう 復習	Unit 15: 同上	2時間	Unit 15: 同上	2時間

成　績　評　価	定期試験（70%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（30%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	授業の振り返りシートを評価し、次の授業時に返却する。
テキストおよび参　考　文　献	*keep Talking Strategies for Interpersonal Communication*
メッセージなど	実際にペアワークやグループワークでコミュニケーションを取りながら行うアクティブラーニング型の授業です。互いに学び合う、積極的な授業参加を望みます。予習、復習が必要です。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 英語と日本語の言語表現のストラテジーの違いについて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いなく、基本的概念を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本的概念を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力･判断力･表現力）	30%
(2) 英語コミュニケーション方略について主体的に考え、場面や状況に応じて実践することができる。	課題を正しく認識し、ほぼ完璧に場面や状況に応じた表現を実践することができる。	課題に対する認識に誤りや大きな論理的問題もなく、場面や状況に応じた表現を実践することができる。	課題に対する認識に間違いがいくつかあるが、場面や状況に応じた表現を最低限実践することができる。	課題に対する認識に間違いがあり、場面や状況に応じた表現ができていない。	定期試験（知識・理解・思考力･判断力･表現力）	40%
(3) 言語文化の違いについての気付き、考え方を述べることができる。	言語文化の違いについて理解し、自分の気付き、考え方を明確に述べている。	言語文化の違いについて、認識に誤りや大きな論理的問題もなく、最低限の自分の気付き、考え方を述べている。	言語文化の違いについて、認識に間違いがいくつかあるが、最低限の自分の気付き、考え方を述べている。	言語文化の違いについて、認識に間違いがあり、自分の考えを述べていない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・思考力･判断力･表現力）	30%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
言葉とコミュニケーション Language and Communication	全学科 （留学生対象）	24BAGE2005	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担当教員	実務家教員
講義	2	選択	林 伸一	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○
概　　要	日本語でコミュニケーションを図る際に大切なことは何だろうか？母語と日本語の言語文化の違いから日本語学習者が陥りやすい問題点に焦点を当て、読解力と会話を円滑に続けられる能力を身につけるためのストラテジー（方略）について学ぶ。	
到達目標	(1) わからない言葉の意味を聞いて、どうすればいいのか確認することができる。 (2) 頼みにくいことを丁寧に頼むことができる・感謝の気持ちを表すことができる。 (3) 事情を説明して丁寧に謝ることができる・変更をお願いすることができる。 (4) 人や物の様子を詳しく説明することができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	お願いがあるんですが（頼みにくいことを丁寧に頼む・感謝の気持ちを表す）／畳	オリエンテーション		該当箇所の復習。	2 時間
2	何のことですか（わからない言葉の意味を聞いて、どうすればいいのか確認する）／外来語	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
3	遅れそうなんです（事情を説明して丁寧に謝る・変更をお願いする）／時間よ、止まれ！	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
4	伝言お願いできますか(伝言を頼む・受ける・留守番電話に伝言を残す）／電話嫌い	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
5	どう行ったらいいでしょうか（行き方を尋ねる・教える・道順を尋ねる・教える）／地図	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
6	行かせていただきたいんですが（許可を得たいと申し出る）／メンタルトレーニング	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
7	楽しみにしています・遠慮させてください（誘いを受ける・断る）／まんじゅう、怖い	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
8	迷子になっちゃったんです（人や物の様子を詳しく説明する）／科学者ってどう見える？	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
9	どこが違うんですか（希望や条件を伝える・比較し選択する）／カラオケ	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間

	10	そんなはずはありません（誤解されたことに冷静に反応する）／記憶型と注意型	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
	11	お勧めのところ、ありませんか（提案する・提案を受け入れる）／白川郷の黄金伝説	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
	12	ご迷惑をかけてすみませんでした（謝る・事情を説明する）／日本で暮らす（座談会）	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
	13	まとめと復習（弱点補強）１	既習事項まとめ。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
	14	まとめと復習（弱点補強）２	既習事項まとめ。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
	15	まとめと復習（弱点補強）３	既習事項まとめ。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間

＊１レッスン１課を目安としていますので予習、復習をしっかりとして授業に臨むこと。

成　績　評　価	定期試験（80%）、小テスト（20%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	小テストを採点し、返却時に間違った箇所を解説する。 課題の作文などを添削し、返却時に誤用例や模範例を示して解説する。
テキストおよび参　考　文　献	小テストとして、日本語能力試験問題集などを用いる
メッセージなど	日本語と日本文化に興味を持って、会話練習などの活動に積極に授業参加されることを望みます。予習、復習が必要です。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) わからない言葉の意味を聞いて、どうすればいいのか確認することができる。	ほぼ完璧に確認できる。	大きな間違いなく、確認できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の確認はできる。	確認することができない。	定期試験（知識・理解）	20%
	ほぼ完璧に確認できる。	大きな間違いなく、確認できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の確認はできる。	確認することができない。	小テスト（知識・理解）	5%
(2) 頼みにくいことを丁寧に頼むことができる・感謝の気持ちを表すことができる。	ほぼ完璧に依頼し、感謝することができる。	大きく礼を失することなく依頼し、感謝できる。	表現上の間違いはいつくかあるが、おおよそ依頼し、感謝できる。	依頼し、感謝することができない。	定期試験（知識・理解）	20%
	ほぼ完璧に依頼し、感謝することができる。	大きく礼を失することなく依頼し、感謝できる。	表現上の間違いはいつくかあるが、おおよそ依頼し、感謝できる。	依頼し、感謝することができない。	小テスト（知識・理解）	5%
(3) 事情を説明して丁寧に謝ることができる・変更をお願いすることができる。	ほぼ完璧に事情説明し謝れる。変更依頼ができる。	大きな間違いなく事情説明し謝れる。変更依頼ができる。	表現上の間違いはいつくかあるが、おおよそ事情を説明し、変更できる。	事情を説明して丁寧に謝ることができない。変更を願い出ることができない。	定期試験（態度・表現力・判断力）	20%
	ほぼ完璧に事情説明し謝れる。変更依頼ができる。	大きな間違いなく事情説明し謝れる。変更依頼ができる。	表現上の間違いはいつくかあるが、おおよそ事情を説明し、変更できる。	事情を説明して丁寧に謝ることができない。変更を願い出ることができない。	小テスト（態度・表現力・判断力）	5%
(4) 人や物の様子を詳しく説明することができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いなく説明できる。	表現上の間違いはいくつかあるが、ほぼ説明できる。	人や物の様子を詳しく説明することができない。	定期試験（態度・表現力・判断力）	20%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いなく説明できる。	表現上の間違いはいくつかあるが、ほぼ説明できる。	人や物の様子を詳しく説明することができない。	小テスト（態度・表現力・判断力）	5%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
英語会話 English Conversation	全学科	24BAFL1001	1年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	2	必修	Inkster Ryan	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○
概　　要	(概要)様々な状況における実用的な英語会話能力を養成する。正確な発音や文法よりも、コミュニケーション能力の養成を重視する。読む・書く作業も若干含む。 (目標) 自己紹介、人物や服装の描写ができる、事物の比較ができる、好みについて表現できる、能力について述べられる、自由時間の使い方・好き嫌いについて表現できる、道順を教えたり理解したりできる、過去の出来事について話せる、指示を与えたり、規則について話したり、助言を与えたりできる。	
到達目標	(1) 英会話に役に立つ語彙や文法を学ぶ (2) 英語を聞く力を養う。 (3) さまざまなトピックで英会話を練習する	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	(Assessment & Placement) 英会話レベル判定	中高英語内容の復習	2時間	中高英語内容の復習	2時間
2	Japanese Sports and clubs （スポーツ）	Pg. 5　読む	2時間	Pg.6　読む	2時間
3	Japanese Sports and clubs (スポーツ)	Pg. 7　読む	2時間	Pg8-9　読む	2時間
4	Japanese Music (音楽)	Pg 11　読む	2時間	Pg12　読む	2時間
5	Japanese Music (音楽)	Pg. 13　読む	2時間	Pg. 14-15 読む	2時間
6	Japanese Food (食べ物)	Pg. 17　読む	2時間	Pg. 18 読む	2時間
7	Japanese Food (食べ物)	Pg. 19　読む	2時間	Pg 20-21 読む	2時間
8	Japanese Holidays (祝日)	Pg 29　読む	2時間	Pg. 30 読む	2時間
9	Japanese Holidays (祝日)	Pg 31　読む	2時間	Pg. 32-33 読む	2時間
10	Japanese Games	Pg. 35　読む	2時間	Pg. 36 読む	2時間
11	Japanese Games	Pg. 37　読む	2時間	Pg. 38-39 読む	2時間
12	Famous Cities (観光)	Pg. 41　読む	2時間	Pg. 42 読む	2時間
13	Famous Places (観光)	Pg. 43　読む	2時間	Pg. 44-45 読む	2時間
14	REVIEW (復習)	コミュニケーションサマリー　学習	2時間	コミュニケーションサマリー　学習	2時間
15	REVIEW (復習)	コミュニケーションサマリー　学習	2時間	コミュニケーションサマリー　学習	2時間
TEST(復習)					
回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
16	(Assessment & Placement) 英会話レベル判定	中高英語内容の復習	2時間	中高英語内容の復習	2時間

	17	Japanese Sports and clubs（スポーツ）	Pg. 5　読む	2 時間	Pg.6　読む	2 時間
	18	Japanese Sports and clubs (スポーツ)	Pg. 7　読む	2 時間	Pg8-9　読む	2 時間
	19	Japanese Music (音楽)	Pg 11　読む	2 時間	Pg12　読む	2 時間
	20	Japanese Music (音楽)	Pg. 13　読む	2 時間	Pg. 14-15 読む	2 時間
	21	Japanese Food (食べ物)	Pg. 17　読む	2 時間	Pg. 18 読む	2 時間
	22	Japanese Food (食べ物)	Pg. 19　読む	2 時間	Pg 20-21 読む	2 時間
	23	Japanese Holidays (祝日)	Pg 29　読む	2 時間	Pg. 30 読む	2 時間
	24	Japanese Holidays (祝日)	Pg 31　読む	2 時間	Pg. 32-33 読む	2 時間
	25	Japanese Games	Pg. 35　読む	2 時間	Pg. 36 読む	2 時間
	26	Japanese Games	Pg. 37　読む	2 時間	Pg. 38-39 読む	2 時間
	27	Famous Cities (観光)	Pg. 41　読む	2 時間	Pg. 42 読む	2 時間
	28	Famous Places (観光)	Pg. 43　読む	2 時間	Pg. 44-45 読む	2 時間
	29	REVIEW (復習)	コミュニケーションサマリー　学習	2 時間	コミュニケーションサマリー　学習	2 時間
	30	REVIEW (復習)	コミュニケーションサマリー　学習	2 時間	コミュニケーションサマリー　学習	2 時間
	TEST(復習)					

成　績　評　価	その他（100%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	マンツーマンインタビュー
テキストおよび参　考　文　献	Explain It: Talking about Japanese Culture in English. Robert Long. Perceptia Press, Nagoya. ISBN: 9784939130793
メッセージなど	ネイティブ講師による基礎的な日常会話（コミュニケーション）授業

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 英会話に役に立つ語彙や文法を学ぶ	ほぼ完璧に学ぶことができる。	あまり問題なくできる。	少しは問題があるが､最低限はできる。	語彙や文法を学ぶことができない。	その他	34%
(2) 英語を聞く力を養う	ほぼ完璧に学ぶことができる	あまり問題なくできる。	少しは問題があるが､最低限はできる。	聞く力を養うことができない。	その他	33%
(3) さまざまなトピックで英会話を練習する	ほぼ完璧に学ぶことができる	あまり問題なくできる。	少しは問題があるが､最低限はできる。	英会話ができない。	その他	33%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
ハングル Korean Language	全学科	24BAFL1002	1 年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	2	選択	朴 賢珠	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○

概　　要	ハングルの文字や基礎文法を学びながら日韓の文化について考えるようになる。韓国人留学生と一緒に勉強することで異文化コミュニケーションを図る授業になる。
到達目標	(1) ハングル文字の書き方や読み方を学び、単語や表現の読み書きができる。 (2) 韓国人留学生との交流を通して日韓の文化理解を深める。 (3) ハングルの基本的な文法を学び、応用できる。 (4) 学習した単語や表現を使って簡単な韓国語会話ができる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ハングルの仕組み① 文字の組み合わせパターン	テキスト 2〜3 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 2〜3 ページを復習する。	2 時間
2	ハングルの仕組み② 基本母音	テキスト 4〜5 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 4〜5 ページを復習する。	2 時間
3	ハングルの仕組み③ 基本子音	テキスト 6〜7 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 6〜7 ページを復習する。	2 時間
4	ハングルの仕組み④ 濃音	テキスト 8〜10 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 8〜10 ページを復習する。	2 時間
5	ハングルの仕組み⑤ 複合母音	テキスト 13〜14 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 13〜14 ページを復習する。	2 時間
6	ハングルの仕組み⑥ パッチム（1）	テキスト 15〜17 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 15〜17 ページを復習する。	2 時間
7	ハングルの仕組み⑦ パッチム（2）	テキスト 15〜17 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 15〜17 ページを復習する。	2 時間
8	日本語のハングル表記	テキスト 18〜20 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 18〜20 ページを復習する。	2 時間
9	ハングルの仕組みのまとめ	テキスト 19〜20 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 19〜20 ページを復習する。	2 時間
10	中間テスト	テスト範囲を勉強しておく。	2 時間	テスト範囲をまとめる。	2 時間

	11	視聴覚教育・映画観賞① －前半－	テーマに沿って事前調査をしておく	2 時間	テーマに沿って事前調査をする。	2 時間
	12	視聴覚教育・映画観賞② －後半－	テーマに沿って事前調査をしておく	2 時間	テーマに沿って事前調査をする。	2 時間
	13	「名詞＋です」文の作り方	テキスト 36～37 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 36～37 ページを復習する。	2 時間
	14	「名詞＋ですか」文の作り方	テキスト 38～39 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 38～39 ページを復習する。	2 時間
	15	まとめ	テキスト 23～42 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 23～42 ページを復習する。	2 時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	前期の復習① １回目	テキスト 4～21 ページを読んでおく。	2 時間	前期の復習① －１回目－	2 時間
	17	前期の復習② ２回目	テキスト 23～42 ページを読んでおく。	2 時間	前期の復習② －２回目－	2 時間
	18	動詞・形容詞の丁寧形① 「です/ます形」	テキスト 46～47 ページを読んでおく。	2 時間	動詞・形容詞の丁寧形① －です/ます形－	2 時間
	19	動詞・形容詞の丁寧形② 「ですか/ますか形」	テキスト 54～57 ページを読んでおく。	2 時間	動詞・形容詞の丁寧形② －ですか/ますか形－	2 時間
	20	視聴覚教育	テーマに沿って事前調査をしておく。	2 時間	視聴覚教育	2 時間
	21	助詞のまとめ	テキスト 48～49 ページを読んでおく。	2 時間	助詞のまとめ	2 時間
	22	中間テスト	テスト範囲を勉強しておく	2 時間	中間テスト	2 時間
	23	指示代名詞を使った表現	テキスト 58～59 ページを読んでおく。	2 時間	指示代名詞を使った表現	2 時間
	24	人称代名詞を使った表現	テキスト 60～61 ページを読んでおく。	2 時間	人称代名詞を使った表現	2 時間
	25	「イダ」否定形	テキスト 62～63 ページを読んでおく。	2 時間	「イダ」否定形	2 時間
	26	動詞・形容詞の前置否定形	テキスト 66～69 ページを読んでおく。	2 時間	動詞・形容詞の前置否定形	2 時間
	27	動詞・形容詞の後置否定形	テキスト 66～69 ページを読んでおく。	2 時間	動詞・形容詞の後置否定形	2 時間
	28	否定形のまとめ	テキスト 70～71 ページを読んでおく。	2 時間	否定形のまとめ	2 時間
	29	尊敬形	テキスト 72～77 ページを読んでおく。	2 時間	尊敬形	2 時間
	30	まとめ	テキスト 46～77 ページを読んでおく。2 時間	2 時間	まとめ	2 時間

成　績　評　価	定期試験（25%）、課題・レポート（35%）、授業への取り組み（25%）、発表・プレゼンテーション（15%）
課題(試験･レポート等) に対する フィードバックの方法	試験や課題及びレポートは、チェックして次の授業時に渡す。
テキストおよび 参　考　文　献	朴　賢珠　他「サランヘヨ！ハングル－初級から中級へ－」白帝社、2015 年
メ　ッ　セ　ー　ジ な　　ど	山口は韓国と深いつながりがある場所です。 韓国の留学生と一緒にハングルを勉強しましょう。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) ハングル文字の書き方や読み方を学び、単語や表現の読み書きができる。	ほぼ完璧にできる	大きな間違いがなく、読み書きができる	最低限の読み書きができる	読み書きができない。	定期試験（関心・意欲・知識）	10%
	ほぼ完璧にできる	大きな間違いがなく、読み書きができる	最低限の読み書きができる	読み書きができない。	課題・レポート（関心・意欲・知識）	10%
(2) 韓国人留学生との交流を通して日韓の文化理解を深める。	発表や発言など積極的に参加する	発表や発言などに積極的ではないが参加する	発表や発言など部分的に参加する	発表や発言などに参加しない	課題・レポート（意欲・理解・表現力）	10%
	発表や発言など積極的に参加する	発表や発言などに積極的ではないが参加する	発表や発言など部分的に参加する	発表や発言などに参加しない	授業への取り組み（意欲・理解・思考力）	10%
(3) ハングルの基本的な文法を学び､応用できる。	ほぼ完璧にできる	大きな間違いがなく、応用できる	最低限の文法の応用ができる	文法の応用ができない。	定期試験（知識・理解・表現力）	15%
	ほぼ完璧にできる	大きな間違いがなく、応用できる	最低限の文法の応用ができる	文法の応用ができない。	課題・レポート課題・レポート（意欲・理解・表現力）	15%
(4) 学習した単語や表現を使って簡単な韓国語会話ができる。	ほぼ完璧にできる	大きな間違いがなく、韓国語会話ができる	最低限の会話ができる	簡単な韓国語会話ができない。	授業への取り組み（意欲・理解・思考力）	15%
	ほぼ完璧にできる	大きな間違いがなく、韓国語会話ができる	最低限の会話ができる	簡単な韓国語会話ができない。	発表･プレゼンテーション（知識・理解・表現力）	15%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
日本語（留学生対象） Japanese Language	全学科	24BAFL1003	１年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	2	選択	林 伸一	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○
概　　要	基本的な日常会話力、コミュニケーション能力を身につける。 日本語の特色を理解する。 日本語能力試験等の資格を取得する。 日本の生活習慣・ものの考え方・風習・文化の違いを知ることによって、自国と日本の関係への理解を深め、国際社会を生きる力を培う。	
到達目標	(1) 基本文型を理解し、留学生活を支える基礎的な日常会話ができる。 (2) カタカナ・ひらがな・教育漢字をマスターし、平易な文章の読み書きができる。 (3) 敬語・オノマトペ・慣用句など、日本語の特色を知り、会話の中で使うことができる。 (4) １級または２級の日本語能力試験の資格取得を目標とする。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、学習のすすめ方			「テキスト日常会話１課の和訳暗誦」「自己紹介文」	2 時間
2	日常会話の基礎①－自己紹介、挨拶、基本会話	「日常会話 1 課和訳」「自己紹介」「目的別の自己紹介文下書」	2 時間	「会話１課暗誦」「自己紹介文清書」「日常生活基本語①を覚える」	2 時間
3	日常会話の基礎②－日常生活の基本語彙	「会話２課」「基本語①のテスト」	2 時間	「会話２課」「基本語①誤答再学習」	2 時間
4	日本語の文字－ひらかな、カタカナ、漢字、	「50 音図」「会話３課」「基本語②」	2 時間	「50 音図再学習プリント「会話３課」「基本語②」	2 時間
5	日本語の発音・イントネーション	「会話４課」「基本語③」「漢字 1026 字への挑戦テスト①」	2 時間	「会話４課」「基本語③」「漢字再問題①」	2 時間
6	日常会話の基本単語①－発音練習―	「会話５課」「基本語④」「漢字②」	2 時間	「会話５課」「基本語④」「漢字②」	2 時間
7	日本語能力試験への対応の仕方①	「会話６課」「基本語⑤」「漢字③」「日本語能力試験２級練習問題」	2 時間	「会話６課」「基本語⑤」「漢字③」「日本語能力試験２級復習①」	2 時間
8	日常会話の基本文形①－５Ｗ１Ｈ	「会話７課」「基本語⑥」「漢字④」「日本語能力試験②」	2 時間	「会話７課」「基本語⑥」「漢字④」「日本語能力試験②」	2 時間
9	日常会話の基本文形②－動詞の活用－	「会話８課」「基本語⑦「漢字⑤」「日本語能力試験③」	2 時間	「会話８課」「基本語⑦「漢字⑤」「日本語能力試験③」	2 時間
10	日常会話の基本文形③－過去、現在、未来－	「会話９課」「基本語⑧」「漢字⑥」「日本語能力試験④」	2 時間	「会話９課」「基本語⑧」「漢字⑥」「日本語能力試験④」	2 時間

	11	日常会話の基本文形④－希望、意思・推量の言い方－	「会話 10 課」「基本語⑨」「漢字⑦」「日本語能力試験⑤」	2 時間	「会話 10 課」「基本語⑨」「漢字⑦」「日本語能力試験⑤」	2 時間
	12	日常会話の基本文形⑤－否定、疑問	「会話 11 課」「基本語⑩」「漢字⑧」「日本語能力試験⑥」	2 時間	「会話 11 課」「基本語⑩」「漢字⑧」「日本語能力試験⑥」	2 時間
	13	日常会話の基本文形⑥－使役・可能・受身・自発、経験	「会話 12 課」「基本語⑪」「漢字⑨」「日本語能力試験⑦」	2 時間	「会話 12 課」「基本語⑪」「漢字⑨」「日本語能力試験⑦」	2 時間
	14	日本語の特色①－補助用語・複合語－	「会話 13 課」「基本語⑫」「漢字⑩」「日本語能力試験⑧」	2 時間	「会話 13 課」「基本語⑫」「漢字⑩」「日本語能力試験⑧」	2 時間
	15	日本語の特色②－敬語－	「会話 14 課」「基本語⑬」「漢字⑪」「日本語能力試験⑨」	2 時間	「会話 14 課」「基本語⑬」「漢字⑪」「日本語能力試験⑨」	2 時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	学習のすすめ方、前期の学習の復習	「会話 15 課」「基本語⑭」「漢字⑫」「日本語能力試験⑩」		「会話 15 課」「基本語⑭」「漢字⑫」「日本語能力試験⑩」	2 時間
	17	日本語能力試験への対応②－語彙・文字－	「会話 16 課」「基本語⑮」「漢字⑬」「日本語能力試験⑪」	2 時間	「会話 16 課」「基本語⑮」「漢字⑬」「日本語能力試験⑪」	2 時間
	18	日本語能力試験への対応③－聴解－	「会話 17 課」「基本語⑯」「漢字⑭」「日本語能力試験⑫」	2 時間	「会話 17 課」「基本語⑯」「漢字⑭」「日本語能力試験⑫」	2 時間
	19	日本語能力試験への対応④－文法－	「会話 18 課」「基本語⑰」「漢字⑮」「日本語能力試験⑬」	2 時間	「会話 18 課」「基本語⑰」「漢字⑮」「日本語能力試験⑬」	2 時間
	20	日本語能力試験への対応⑤－読解－	「会話 19 課」「基本語⑱」「漢字⑯」「日本語能力試験⑭」	2 時間	「会話 19 課」「基本語⑱」「漢字⑯」「日本語能力試験⑭」	2 時間
	21	日本語の特色③－慣用語、ことわざ－	「会話 20 課」「基本語⑲」「漢字⑰」「日本語能力試験⑮」	2 時間	「会話 20 課」「基本語⑲」「漢字⑰」「日本語能力試験⑮」	2 時間
	22	日本語の特色④－部首・同音異義語－	「会話 21 課」「基本語⑳」「漢字⑱」「日本語能力試験⑯」	2 時間	「会話 21 課」「基本語⑳」「漢字⑱」「日本語能力試験⑯」	2 時間
	23	日本語の特色⑤－オノマトペ・ことわざ・慣用句－	「会話 22 課」「漢字⑲」「日本語能力試験⑰」	2 時間	「会話 22 課」「漢字⑲」「日本語能力試験⑰」	2 時間
	24	日本語の特色⑥－方言と共通語－	「会話 23 課」「漢字⑳」「日本語能力試験⑱」	2 時間	「会話 23 課」「漢字⑳」「日本語能力試験⑱」	2 時間
	25	日本の国語教科書①－教科書概観・音読－	「会話 24 課」「漢字㉑」「日本語能力試験⑲」	2 時間	「会話 24 課」「漢字㉑」「日本語能力試験⑲」	2 時間
	26	日本の国語教科書②－教科書輪読－	「会話 25 課」「漢字㉒」「日本語能力試験⑳」	2 時間	「会話 25 課」「漢字㉒」「日本語能力試験⑳」	2 時間
	27	日本の国語教科書③－教科書発表－	「漢字㉓」「教科書音読」「日本語能力試験㉑」	2 時間	「漢字㉓」「教科書音読」「日本語能力試験㉑」	2 時間
	28	日本語によるスピーチ①－スピーチ原稿作成－	「漢字㉔」「教科書音読・練習」「日本語能力試験㉒」	2 時間	「漢字㉔」「教科書視写」「日本語能力試験㉒」	2 時間
	29	日本語によるスピーチ②－発表－	「漢字㉕」「スピーチ原稿下書」「日本語能力試験㉓」	2 時間	「漢字㉕」「スピーチ原稿暗誦」「日本語能力試験㉓」	2 時間

	30	日本語によるスピーチ③－発表－	「スピーチ練習」（「日本語能力試験㉔」	2時間	「スピーチ原稿清書」「日本語能力試験㉔」	2時間
成績評価	定期試験、発表・プレゼンテーション（70%）、小テスト（30%）					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の授業の小テストを自己採点し、結果を記録表に記録。誤答を再試験する。ルーブリック評価に基づいて、再指導・再テストを行う。					
テキストおよび参考文献	テキスト：テキスト・プリントをその都度配布					
メッセージなど	日本での生活を充実したものにするためには、日本語の習得がなにより大事です。日常会話力を身につける中で、日本の文化や風習、日本人の国民性などへの理解を深め、国際交流を楽しんでほしいと願っています。					

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 基本文型を理解し、留学生活を支える基礎的な日常会話ができる。	ほぼ完璧にできる。	聞き取ることが完璧にでき、話すこともほぼできる。	間違いはあるが、最低限の会話はできる。	日常会話ができない。	定期試験（態度・創造性・判断力）	30%
	ほぼ完璧にできる。	聞き取ることが完璧にでき、話すこともほぼできる。	間違いはあるが、最低限の会話はできる。	日常会話ができない。	発表・プレゼンテーション（態度・創造性・判断力）	
(2) カタカナ・ひらがな・教育漢字をマスターし、平易な文章の読み書きができる。	ほぼ完璧にできる。	間違いはあるがほぼできる。	間違いは多いが、最低限の基本的なことはできる。	平易な文章の取の読み書きも難しい。	小テスト（知識・理解）	30%
(3) 敬語・オノマトペ・慣用句など、日本語の特色を知り、会話の中で使うことができる。	意味を理解し、積極的に会話の中で使うことができる。	基本的なことは理解しているが、使いこなすことはできない。	聞き取ることはできるが使うことはできない。	会話の中で使うことはできない。	定期試験（知識・理解）	20%
(4) 最低2級の日本語能力試験の資格を取得する。	能力試験2級に合格している。	校内2級試験に合格している。	3級レベルには到達している。	3級レベルにも到達していない。	定期試験（知識・理解）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
健康科学 Health Science	全学科	24BAHP1001	1 年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	1	必修	佐伯 里英子	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○

概　　要	運動、睡眠、および食行動などの健康行動が生活習慣病に及ぼす影響を説明し、健康行動変容に関する理論・モデルを紹介する。また、健康増進のためのプログラム作りなども行い理解を深める。
到達目標	(1) わが国における健康行動（運動、睡眠、食行動）の実施状況についての説明 (2) 健康行動（運動、睡眠、食行動）の重要性とそのメカニズムについての説明 (3) 健康行動変容の理論と実際についての説明

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	イントロダクション（健康に関する用語の整理）	健康に関する身近な情報の収集	1 時間	授業内容のまとめノート整理	1 時間
2	運動と疾病予防	運動実施状況についてのセルフモニタリング	1 時間	授業内容のまとめノート整理	1 時間
3	運動とメンタルヘルス	ストレス解消のための運動についてレポート	1 時間	授業内容のまとめノート整理	1 時間
4	食行動と疾病予防	日常の食事についてのセルフモニタリング	1 時間	授業内容のまとめノート整理	1 時間
5	睡眠と疾病予防	睡眠習慣についてのセルフモニタリング	1 時間	授業内容のまとめノート整理	1 時間
6	ダイエット行動と健康	自分のダイエット経験についてレポート	1 時間	授業内容のまとめノート整理	1 時間
7	行動変容に関する理論	行動変容理論についての事前調べ	1 時間	授業内容のまとめノート整理	1 時間
8	まとめ	試験準備	1 時間	試験の問題の振り返り	1 時間

成　績　評　価	定期試験（100%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	事前学習で行わせる課題については，授業中に実施状況を確認し，授業の中で活用する．また，試験については，合格基準に達していない場合，再度，同様の範囲から試験を行う．
テキストおよび参　考　文　献	テキストの購入は必要ない
メッセージなど	生涯を通して健康管理を行うための知識を身につけてもらいたい．

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) わが国における健康行動（運動、睡眠、食行動）の実施状況についての説明	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いなく説明できる。	最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	30%
(2) 健康行動（運動、睡眠、食行動）の重要性とそのメカニズムについての説明	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いなく説明できる。	最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	30%
(3) 健康行動変容の理論と実際についての説明	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いなく説明できる。	最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	40%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
スポーツ教育 Sport Education	全学科	24BAHP1002	1年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
実技	1	必修	紀村　修一	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識をもち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力をもち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○
概　　要	現代社会は生涯を通じてスポーツに参加することが国民の教養の一つになっている。そのような状況を踏まえて、本授業では、仲間と協力してスポーツに取り組むことを通して、生涯に渡ってスポーツに参加する意識を高めスポーツに関する基本的な知識や技能を修得する。	
到達目標	(1) 自らの技量に応じて積極的にスポーツを楽しむことができる。 (2) 生涯を通じてスポーツを楽しむことのできる知識を修得する。 (3) スポーツを楽しむための基礎的な知識や見方・考え方を修得する。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	シラバスを読む。	1時間	ポートボールについて調べる。	2時間
2	ポートボール①（ポートボールの行い方を知り、仲間と共にゲームを楽しむ）	ポートボールのルールを調べる。	2時間	学習内容の復習。	2時間
3	ポートボール②（ポートボールの行い方を工夫し、仲間と協力してゲームを楽しむ）	ポートボールの攻め方を調べる。	2時間	学習内容の復習。	2時間
4	新体力テスト①（握力、長座体前屈、反復横跳び、立ち幅跳び、上体起こしを行う）	新体力テストの行い方を調べる。	2時間	学習内容の復習。	2時間
5	新体力テスト②（20m シャトルランを行う）	新体力テストの行い方を調べる。	2時間	学習内容の復習。	2時間
6	ポートボール③（得点するための作戦をチームで話し合い、ゲームを楽しむ）	得点するための作戦を考える。	2時間	学習内容の復習。	2時間
7	バレーボール①（バレーボールの行い方を知り、仲間と共にゲームを楽しむ）	バレーボールのルールを調べる。	2時間	学習内容の復習。	2時間
8	バレーボール②（バレーボールの行い方を工夫し、仲間と協力してゲームを楽しむ）	バレーボールの攻め方を調べる。	2時間	学習内容の復習。	2時間
9	バレーボール③（得点するための作戦をチームで話し合い、ゲームを楽しむ）	得点するための作戦を考える。	2時間	学習内容の復習。	2時間
10	サッカー①（サッカーの行い方を知り、仲間と共にゲームを楽しむ）	サッカーのルールを調べる。	2時間	学習内容の復習。	2時間
11	サッカー②（サッカーの行い方を工夫し、仲間と協力してゲームを楽しむ）	サッカーの攻め方を調べる。	2時間	学習内容の復習。	2時間
12	サッカー③（得点するための作戦をチームで話し合い、ゲームを楽しむ）	得点するための作戦を考える。	2時間	学習内容の復習。	2時間

	13	ニュースポーツ①	ニュースポーツの具体例を調べる。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	14	ニュースポーツ②	ニュースポーツのルールを調べる。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	15	まとめ（これまでの学習の成果をレポートにまとめる）	前期の学習内容を整理する。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間

成　績　評　価	授業への取り組み（30%）、毎回の授業の振り返り（20%）、期末レポート（50%）
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	基本的には実技であるため、活動中に振り返りの時間を設け、フィードバックする。
テキストおよび参　考　文　献	必要があれば、適宜プリントを配布する。
メッセージなど	自分に合ったスポーツとの多様な関わり方を見付け、豊かなスポーツライフを楽しんでほしい。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 自らの技量に応じて積極的にスポーツを楽しむことができる。	自らの技量に応じてスポーツを楽しむことができる	自らの技量に応じてある程度スポーツを楽しむことができる	自らの技量に応じて最低限スポーツを楽しむことができる	自らの技量に応じてスポーツを楽しむことができない	授業への取り組み（関心・意欲・思考力・創造性）	30%
(2) 生涯を通じてスポーツを楽しむことのできる知識を修得する。	ほぼ完璧に修得している	大きな間違いがなく修得している	最低限のことは修得している	修得していない	毎回の授業の振り返り（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	20%
(3) スポーツを楽しむための基礎的な知識や見方・考え方を修得する。	ほぼ完璧に修得している	大きな間違いがなく修得している	最低限のことは修得している	修得していない	期末レポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	50%

専門教育科目

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
国語（書写を含む。） Japanese Language (including Calligraphy)	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPTS1001	１年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担 当 教 員	実務家教員
演習	2	必修	中村 浩	○

実務家教員の詳細	中学校国語科教員としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	1　小学校の教壇実践の対象となる教科「国語」の〔知識及び技能〕を整理・把握する。 2　学習指導要領国語の「書写に関する事項」を基に書写指導の実際を学習する。 3　上代から近代に至るまでの「日本文学史」を、代表的な作品をたどりながら概観する。	
到達目標	(1) 小学校国語教科書で記載されている国語的術語の説明ができる。	
	(2) 小学校で取り上げられている楷書・行書が硬筆・毛筆などの様々な道具で書写できる。	
	(3) 上代から近代までの文学史を時代背景と主たる作品で概観を語ることができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	「国語」の学習の意味と内容	これまでの学習を振り返る。	0.5 時間	ワークシートに授業後の感想を書く	1 時間
2	国語科の目標 －３つの内容と構成－	学習指導要領の目標を読む	1 時間	学力観の推移を整理する	2 時間
3	国語科の〔知識及び技能〕の概観	学習指導要領の内容を読む	2 時間	ワークシートに基づき整理する	2 時間
4	国語の音韻に関する事項	資料を基に音韻の特色を考える	1 時間	ワークシートに基づき整理する	2 時間
5	文字に関する事項 ①漢字と仮名	仮名の発明の歴史を調べる	2 時間	万葉仮名の特色をまとめる	1 時間
6	文字に関する事項 ②漢字の成り立ち	六書について調べる	2 時間	六書を基に漢字の例を調べる	2 時間
7	文字に関する事項 ③漢字の部首・熟語	二字熟語の特色を調べる	2 時間	部首熟語について例示する	2 時間
8	表記に関する事項	漢字仮名交じりの問題点を考える。	1.5 時間	表記上の問題点をまとめる	2 時間
9	文及び文章の構成に関する事項	文節相互の関係について調べる	2 時間	単文複文重文について整理する	2 時間

	10	言葉遣いに関する事項	敬語の種類について調べる	2 時間	これからの敬語について考える	1 時間
	11	語句に関する事項 ①語彙の種類	資料を基に語句の分類を調べる	1 時間	慣用句の例を基に特徴をまとめる	2 時間
	12	語句に関する事項 ②語彙の学習	資料を基に言葉の由来を調べる	1 時間	美しい言葉和語についてまとめる	2 時間
	13	言葉の働きや特徴に関する事項	言葉の働きの二面性について調べる	2 時間	多義語対義語等の用語を整理する	2 時間
	14	方言に関する学習	教科書の方言の取り上げ方を調べる	1 時間	方言の発声に関する考えをまとめる	2 時間
	15	言語文化に関する事項	資料の例文を音読する	1 時間	音読を重視する効果についてまとめる	2 時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	「書写」学習の意義と内容	資料に沿って意義を考える。	1 時間	ワークシートに基づき整理する。	2 時間
	17	硬筆による書写（低学年）	手本に基づき「試書」する。	1 時間	学習の要点を基に書く。	2 時間
	18	フエルトペンによる書写（中学年）	「字形」を念頭に「試書」する。	1 時間	テキストの手本で練習する。	1 時間
	19	毛筆による書写 ①楷書・漢字（中学年）	毛筆の書写の注意点を調べる。	1 時間	「止め」と「払い」を復習する。	1 時間
	20	毛筆による書写 ②楷書・仮名（中学年）	資料を基に運筆について調べる。	2 時間	手本以外の字の練習をする。	1 時間
	21	毛筆による書写 ③漢字と仮名（高学年）	学習指導要領の運筆の要点を掴む。	1 時間	之雨天に基づき再度書いてみる。	2 時間
	22	毛筆による書写 ④行書（高学年）	楷書と行書の違いを考える。	1 時間	行書を段階別に書いてみる。	2 時間
	23	筆ペンによる書写 ①平仮名	資料を基に筆ペンに慣れる。	2 時間	「いろは歌」を楷書・行書で書く。	2 時間
	24	筆ペンによる書写 ②日常の書式	資料により地名を書いてみる。	2 時間	葉書の様式に沿って練習する。	2 時間
	25	筆ペンによる書写 ③連綿	資料を基に「連綿」を知る。	2 時間	テキストに基づき「連綿」で書く。	2 時間
	26	「日本文学史」上代の文学	資料を基に「上代」を概観する。	1 時間	上代の作品を読む。	2 時間
	27	「日本文学史」中古の文学	資料を基に「中古」を概観する。	1 時間	中古の作品を読む。	2 時間
	28	「日本文学史」中世の文学	資料を基に「中世」を概観する。	1 時間	中世の作品を読む。	2 時間
	29	「日本文学史」近世の文学	資料を基に「近世」を概観する。	1 時間	近世の作品を読む。	2 時間
	30	「日本文学史」近代の文学	資料を基に「近代」を概観する。	1 時間	近代の作品を読む。	2 時間

成　績　評　価	定期試験（50%）、課題・レポート（20%）、作品（30%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	① 授業後提出された感想カードやレポートにコメントを書き、次時に返却する。その際幾つかのものは全体に紹介する。 ② 書写の作品を提出させ、添削・評価をし、次時に返却する。 ③ 文学史は、毎時間レポートさせ、最後に総括的なレポートを書かせて提出させる。それにコメントと評価を示し、後日返却する。
テキストおよび参　考　文　献	演習用テキスト「国語（前期）」「国語（後期）」（和田征文編著） 文部科学省「小学校学習指導要領解説・国語編」 秋山　虔・三好　行雄「新日本文学史」文英堂 「国語便覧」浜島書店・教研出版・東京書籍
メッセージなど	１　２年次生での学習の基になる授業・教員採用試験必出の授業 ２　書写の実地指導・日本の古典への読書指導を可能にする授業「必修」 小学校教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 小学校国語教科書で記載されている国語的術語の説明ができる。	具体例を使ってわかるように説明できる。	術語の意味を間違いなく説明できる。	国語科の中での働きと関わりなく語としての意味が言える。	各術語の説明が適切にできない。	定期試験（知識・理解）	50%
(2) 小学校で取り上げられている楷書・行書が硬筆・毛筆などの様々な道具で書写できる。	それぞれの道具の特徴を生かした書写ができる。	トメ・ハネ・ハライ等を手本に沿って書くことができる。	筆の特徴や各字の運筆に関係なく手本通りに書ける。	毎時間の作品がきちんと提出できない。	作品（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	30%
(3) 上代から近代までの文学史を時代背景と主たる作品で概観を語ることができる。	各時代の時代的な特徴と作品との関係を語ることができる。	各時代の特徴、代表的な文学作品の説明ができる。	各時代を代表する作品の概略や特徴の説明ができる。	時代の特徴への意識なく作品の説明をする。	課題・レポート（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
国語表現学 Expression in Japanese Language	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPTS2002	２年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	必修	中村 浩	○

実務家教員の詳細	中学校国語科教員としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	「音声言語」と「文字言語」による表現方法について、小学校における実践を念頭に置いた教材の開発とその指導法について実践的に学習する。 併せて、国語科の今日的な課題を意識した国語科の授業者としての素養と指導力を醸成する。	
到達目標	(1) 教材文の特性と学習のねらいに沿って、それぞれに適した音読・朗読・群読をすることができる。	
	(2) 題材の設定・情報の収集・内容の検討・構成の検討・考えの形成・記述・推敲・共有の各段階における留意点を実作に生かすことができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Ⅰ「音声言語」による表現方法 「小学校学習指導要領・国語」における「表現」の指導	学習指導案の「表現」に関わる内容を読む	2 時間	テキストの「まえがき」とからめて本授業の意図を考える	1 時間
2	「音読」の意義	資料にある「解説」を読む	1 時間	授業を振り返り、意義を整理する	1 時間
3	音読による授業づくり	音読と朗読の違いを考えておく	1 時間	音読を重視する訳を整理する	1 時間
4	「発音チェック」と詩の音読	資料に沿って予習をする	1 時間	詩の音読に挑戦する	2 時間
5	一斉音読・役割音読、群読	音読の授業の流れを考えておく	1 時間	実例に基づき学習指導案を創る	2 時間
6	朗読「声を読もう・声で描こう」	資料を読み、音読の練習をする	2 時間	「日本語一音一音法」の感想を書く	1 時間
7	朗読・読み方を考えよう	資料中の詩の読み方を考える	1 時間	他の班の朗読について感想を書く	2 時間
8	朗読・相手に聞かせる工夫	資料中の散文の読み方を考える	2 時間	授業で取り組んだ朗読を繰り返す	1 時間
9	Ⅱ「文字言語」による表現方法 句読点の打ち方・原稿用紙の使い方	資料中の句読点の打ち方を考える	2 時間	原稿用紙の書き方の例題をする	1 時間

	10	新聞コラムや先輩の作品による「随想」の実際と創作上のヒント	３つの例の感想を書いておく	2 時間	「ネタとテーマ」観点で整理する	1 時間
	11	書き出しの効用と実作 ―「書き出しは読者への誘惑である」―	資料に沿って考えをメモする	1 時間	自分の書き出し例を数点書く	2 時間
	12	実作へのアプローチ ①「テーマとネタ」（主題・取材）を考える。	「テーマとネタ」を考える	1 時間	自分の作品について準備する	2 時間
	13	実作へのアプローチ ②「文章の構成」（構想）を考える。	例を参考に「構成」について考える	1 時間	自分の作品の下書きを考える	2 時間
	14	実作へのアプローチ ③「説明と描写の効果」（叙述・推敲）を考える。	例文を比較し考えをメモする	2 時間	自分の作品の下書きを考える	2 時間
	15	「随想」への挑戦 ―「今の自分」を「外部視点」をもって書く。―	例示された「随想」の感想を書く	1 時間	自分の随想を清書する。	2 時間

成　績　評　価	作品（25%）、授業への取り組み（50%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（25%）
課題(試験･ﾚﾎﾟｰﾄ等)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	① 授業のねらいに沿った活動（音読・朗読、話し合い等）からの意見や感想について、それぞれコメントし、次時に返却する。 ② 授業中の書く活動や感想の提出に対してコメントする。提出された随想を評価し、後日返却する。
テキストおよび参　考　文　献	上條 晴夫　編著「音読・朗読・群読の授業づくり」学事出版 家本 芳郎　編・脚色「群読・ふたり読み」高文研 「美しい日本語のしらべ」東京出版 和田 征文　監修・山口県中学校国語教育研究会「中学校国語表現ノート」新学社 その他授業の内容に合わせて紹介したもの
メ　ッ　セ　ー　ジ　な　　ど	国語教室づくりへのヒント、「随想」を書き上げる経験を得る授業 小学校教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 教材文の特性と学習のねらいに沿って、それぞれの音読･朗読･群読をすることができる。	教材文の特性を理解した音声言語による確かな読みができる。	仲間の意識や場面に合わせた声を出した読みができる。	教材や場面の特性に関係なく指示に従った音読･朗読ができる。	意識的に声を出す活動が不十分である。	授業への取り組み（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	25%
	教材文の特性を理解した音声言語による確かな読みができる。	仲間の意識や場面に合わせた声を出した読みができる。	教材や場面の特性に関係なく指示に従った音読･朗読ができる。	意識的に声を出す活動が不十分である。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	25%
(2) 題材の設定・情報の収集・内容の検討・構成の検討･考えの形成･記述･推敲･共有の各段階における留意点を実作に生かすことができる。	作文の各過程の主旨が例文と共に理解でき、創作に生かせる。	授業で個別に取り上げる各過程の要点が理解でき、創作に生かそうとする。	授業で個別に取り上げる例示の主旨は理解できる。	作文についての苦手意識から脱皮できない。	授業への取り組み（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	25%
	作文の各過程の主旨が例文と共に理解でき、創作に生かせる。	授業で個別に取り上げる各過程の要点が理解でき、創作に生かそうとする。	授業で個別に取り上げる例示の主旨は理解できる。	作文についての苦手意識から脱皮できない。	作品（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	25%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年 次	期 別
社会 Social Studies	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPTS1003	1年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家 教員
演習	2	選択	加藤 浩久	○

実務家教員の詳細	中学校社会科教員としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	社会科全般についての基礎的な知識を身につけるとともに、社会的な見方や考え方ができるようになり、よりよき市民・国民としての自覚をもつことができるようになる。 併せて、社会科教師として使命感・責任感をもって教壇に立つ心構えを醸成する。	
到達目標	(1) 小学校社会科の目標を構造的にとらえ、「社会生活」「国土」「歴史」等について具体的な資料活用しながら、その内容をわかりやすく説明できる。	
	(2) 社会的事象の意味について、多面的・多角的に考察することができる。	
	(3) 社会的事象に関心をもち、積極的に調査し、資料を整え、説得力ある発表ができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	社会科の目標と構造	解説の社会科の目標を確認する	2時間	授業内容の振り返り	2時間
2	指導案から考える社会科の構造	自分が受けてきた授業を思い出す	2時間	作成方法の確認	2時間
3	地理的な見方・考え方から考える社会科の構造	解説で見方・考え方を確認する	2時間	見方・考え方の振り返り	2時間
4	歴史的な見方・考え方から考える社会科の構造	解説で見方・考え方を確認する	2時間	見方・考え方の振り返り	2時間
5	現代社会に対する見方・考え方から考える社会科の構造	解説で見方・考え方を確認する	2時間	見方・考え方の振り返り	2時間
6	第6学年の社会科 現代の日本と世界	日本の現代史の俯瞰。	2時間	第二次世界大戦の処理の振り返り	2時間
7	第6学年の社会科 近代の日本と世界	日本の近代史の俯瞰。	2時間	帝国主義の振り返り	2時間
8	第6学年の社会科 近世の日本と世界	日本の近世史の俯瞰	2時間	町人の活躍の振り返り	2時間
9	第6学年の社会科 中世の日本と世界	日本の中世史の俯瞰	2時間	産業の発達の振り返り	2時間

	10	第６学年の社会科 古代の日本と世界	日本の古代史の俯瞰	2時間	律令制度の振り返り	2時間
	11	第６学年の社会科 古代以前の日本と世界	日本の原始時代の俯瞰	2時間	国家成立までの振り返り	2時間
	12	第６学年の社会科 日本国憲法	日本国憲法の俯瞰	2時間	日本国憲法の三大原則の振り返り	2時間
	13	第５学年の社会科 日本の国土	日本地図の俯瞰	2時間	地理的な見方・考え方の振り返り	2時間
	14	第５学年の社会科 日本の食糧生産	日本の農業の俯瞰	2時間	日本の農業の特色の振り返り	2時間
	15	第５学年の社会科 日本の工業生産	日本の工業を俯瞰する	2時間	日本の工業の特色の振り返り	2時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	第５学年の社会科 日本の第３次産業	日本の第３次産業の俯瞰	2時間	情報化を中心とした振り返り	2時間
	17	第５学年の社会科　環境問題	日本社会が直面している環境問題の俯瞰	2時間	生活との関連に注目した振り返り	2時間
	18	第４学年の社会科 自分が住む県の大観	自分の出身県の大観	2時間	地理的な見方・考え方の振り返り	2時間
	19	第４学年の社会科 住みよさに注目した考察	住みよさに注目した出身県の考察	2時間	地理的な見方・考え方の振り返り	2時間
	20	第４学年の社会科　防災に注目した考察	防災に注目した出身県の考察	2時間	地理的な見方・考え方の振り返り	2時間
	21	第４学年の社会科　郷土の伝統、文化、先人	伝統・文化に注目した出身県の考察	2時間	地理的な見方・考え方の振り返り	2時間
	22	第４学年の社会科 地域の特色	特色に注目した出身県の考察	2時間	地理的な見方・考え方の振り返り	2時間
	23	第３学年の社会科　市町村規模の地域	自分の出身市町村の大観	2時間	地理的な見方・考え方の振り返り	2時間
	24	第３学年の社会科 市町村における生活	産業に注目した出身県考察	2時間	地理的な見方・考え方の振り返り	2時間
	25	社会科における指導と評価	これまで作成した指導案の確認	2時間	評価の観点の振り返り	2時間
	26	総合的な学習の時間と社会科	学習指導要領で総合学習の概要を確認する。	2時間	共通点の振り返り	2時間
	27	特別の教科道徳と社会科	学習指導要領で道徳科の概要を確認する。	2時間	共通点の振り返り	2時間
	28	特別活動と社会科	学習指導要領で特別活動を確認する。	2時間	共通点の振り返り	2時間
	29	主体的、対話的で深い学びと社会科Ⅰ	これまで作成した指導案を深い学びという視点から考察する。	2時間	深い学びに必要な要件の振り返り	2時間

	30	主体的、対話的で深い学びと社会科Ⅰ	これまで作成した指導案を深い学びという視点から振り返る。	2時間	深い学びに必要な要件の振り返り	2時間

成　績　評　価	定期試験（40%）、課題・レポート（10%）、授業への取り組み（50%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：小学校社会科用教科書「新しい社会（３～６年）」東京書籍 参考文献：文部科学省「小学校学習指導要領解説　社会編」東洋館出版社
メッセージなど	社会科好きの子どもを一人でも多く育てるために、社会科の授業づくりを創意工夫する科目 小学校教諭二種免許状：選択必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 小学校社会科の目標を構造的にとらえ、社会的事象の考察を中心とした授業構想を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度・知識・理解）	50%
(2) 社会的事象の意味について、多面的・多角的に考察することができる。	様々な角度から考察できる。	いくつかの角度から考察できる。	１つ以上考察できる。	考察できない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	40%
(3) 社会的事象に関心をもち、積極的に調査し、資料を整え、説得力ある発表ができる。	ほぼ完璧に発表できる。	大きな間違いがなく、基本を踏まえて発表できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を発表できる。	発表できない。	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
算数 Arithmetic	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPTS1004	１年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	2	選択	西　田　　稔	○

実務家教員の詳細	小学校教諭としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	算数科の各領域６学年にわたるそれぞれの指導内容、系統、関係等について学び、算数を指導するための基礎的な知識を習得する。また、学習内容に合わせた課題に取り組むことを通して、数学的な見方･考え方の重要性や指導者として把握が必要な数学的な背景について理解を深め、今後の実践的な学習や算数科指導の在り方等の学習に生きて働く力を養う。	
到達目標	(1) 算数科で扱う内容について、教師として必要な基礎知識を獲得し説明することができる。	
	(2) 学習内容に付随した算数の問題解決や問題作成、教材作成に主体的に取組むことができる。	
	(3) 演習や宿題で提示した課題を的確に解くことができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション･数と四則演算			数の分類、演算の可能性のまとめ。	2 時間
2	数(整数)概念の形成	整数概念について調べ考えをまとめる。	2 時間	数概念に関する提示課題への回答。	2 時間
3	命数法と記数法	命数法、記数法について調べ分かったことをまとめる。	2 時間	各国の命数法、記数法の特徴について整理する。	2 時間
4	十進数、非十進数	十進数以外の記数法の仕組みについて調べる。	2 時間	練習課題を通してｎ進数への理解を深める。	2 時間
5	加法の意味と計算	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	加法の定義及び用いられる場、演算法を整理する。	2 時間
6	減法の意味と計算	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	減法の定義及び用いられる場、演算法を整理する。	2 時間
7	乗法の意味と計算	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	乗法の定義及び用いられる場、演算法を整理する。	2 時間
8	除法の意味と計算	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	除法の定義及び用いられる場、演算法を整理する。	2 時間

	9	整数の性質	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	整数の諸性質をもとにした定義、定理を整理する。	2 時間
	10	概数、概算	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	概数、概算についてまとめ、演習課題を解く。	2 時間
	11	小数の意味と計算	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	小数の意味、標記の仕組み、演算法を整理する。	2 時間
	12	分数の意味と加法、減法	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	分数の意味、標記の仕組み、加減算について整理する。	2 時間
	13	分数の乗法、除法	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	分数の乗法、除法の意味、演算法を整理する。	2 時間
	14	量概念の形成と測定	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	量の類型、比較方法、度量衡の歴史について整理する。	2 時間
	15	長さ、重さ、時間、容積、角度	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	量の種類や測定や単位との関連等を整理する。	2 時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	平面図形、平面図形の性質	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	定義・性質一覧表を作成し、整理する。課題プリント。	2 時間
	17	立体図形、立体図形の性質及び展開図	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	定義・性質一覧表を作成し、整理する。課題プリント。	2 時間
	18	図形の合同	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	合同の証明に関する課題プリントをやる。	2 時間
	19	図形の対称、拡大、縮小	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	拡大、縮小に関する課題プリントをやる。	2 時間
	20	円と正多角形	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	円と正多角形に関する課題プリントをやる。	2 時間
	21	平面図形の面積	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	平面図形の面積に関する課題プリントをやる。	2 時間
	22	円周と円の面積	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	演習と縁の面積に関する課題プリントをやる。	2 時間
	23	立体の体積	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	立体の体積や容積に関する課題プリントをやる。	2 時間
	24	平均、単位量、速さ	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	円と正多角形に関する課題プリントをやる。	2 時間
	25	割合とグラフ、比	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	割合、グラフ、比に関する課題プリントをやる。	2 時間
	26	比例、反比例	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	一次関数、二次関数に関する課題プリントをやる。	2 時間
	27	量の単位とメートル法	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	単位の換算に関する課題プリントをやる。	2 時間
	28	計算法則と演算の工夫	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	計算法則や法則利用に関する課題プリントをやる。	2 時間
	29	資料の整理とグラフ	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	柱状グラフ等に関する課題プリントをやる。	2 時間
	30	場合の数	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	場合の数や確率に関する課題プリントをやる。	2 時間

成　績　評　価	定期試験（40%）、課題・レポート（30%）、授業への取り組み（15%）、発表・プレゼンテーション（15%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	授業内容の整理メモや課題プリントへのコメント記入や採点を行い、必要に応じて再提出を求めたり発展的な課題を課したりすることにより、理解定着と達成感、成就感の醸成を図る。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：講義資料はその都度、プリント類は必要に応じて配付する。 文部科学省「小学校指導要領解説　算数編」　　小学校算数教科書　各学年　啓林舘
メッセージなど	小学校 6 年間の算数科学習内容の重要事項を領域・系統に沿って体系的に学習し、算数の有用性や数学的な考え方のよさを見出しましょう。 小学校教諭二種免許:選択必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 算数科で扱う内容について、教師として必要な基礎知識を獲得し説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる	大きな間違いがなく内容に関する基礎知識の説明ができる。	間違いはあるが、最低限の基礎知識の説明ができる。	基礎知識が身についておらず、説明ができない。	定期試験 （知識・理解・技能・思考力・判断力）	40%
(2) 学習内容に付随した算数の問題解決や問題作成、教材作成に主体的に取組むことができる。	主体的に取り組み、ほぼ完璧に成し遂げることができる。	主体的に取り組み、大きな間違いをせずに成し遂げることができる。	主体性に課題はあるがほぼ成し遂げることができる。	主体的に取り組めず、ほとんど成し遂げることができない。	授業への取り組み （関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	15%
	主体的に取り組み、ほぼ完璧に成し遂げることができる。	主体的に取り組み、大きな間違いをせずに成し遂げることができる。	主体性に課題はあるがほぼ成し遂げることができる。	主体的に取り組めず、ほとんど成し遂げることができない。	発表･プレゼンテーション （関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	15%
(3) 演習や宿題で提示した課題を的確に解くことができる。	ほぼ完璧な解決ができる。	単純ミスはあるが、大きな間違いをせずに解決できる。	いくつかの間違いはあるが、ほぼ的確に解決できる。	間違いが多く、ほとんど的確な解決ができていない。	課題・レポート （技能･思考力･判断力･表現力･問題解決力）	30%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
理科 Science	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPTS1005	１年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	2	選択	西田 稔	○

実務家教員の詳細	小学校教諭としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことを通して、自然の事物や現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を育成する小学校理科教育について学び、学校現場で役立つ教育実践力を身につける。	
到達目標	(1) 小学校理科教育の各学年の目標や学習内容を理解し、説明することができる。	
	(2) こどもの発達・自然認識の仕方を理解し、具体的に説明することができる。	
	(3) 自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度の育成技術を身につけ、説明することができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	教科「理科」について理科の目標と内容	学習指導要領理科編を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
2	「理科」でつけるべき学力について	学習指導要領理科編を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
3	第 3 学年の理科の目標及び「風とゴムの力の働き」	３年理科教科書の「風とゴムの力のはたらき」を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
4	第 3 学年の理科「光と音の性質」	３年理科教科書の「光と音の性質」を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
5	第 3 学年の理科「磁石の性質」	３年理科教科書の「磁石の性質」を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
6	第 3 学年の理科「電気の通り道」	３年理科教科書の「電気の通り道」を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
7	第 3 学年の理科「身の回りの生物植物」	３年理科教科書の「身の回りの生物植物」を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間

	8	第４学年の理科の目標及び「空気と水の性質」	４年理科教科書の「空気と水の性質」を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	9	第４学年の理科「月と星」	４年理科教科書の「月と星」を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	10	第 4 学年の理科「月と星　観察の仕方」	４年理科教科書の「観察の仕方」を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	11	第 4 学年の理科「電流のはたらき」	４年理科教科書の「電流のはたらき」を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	12	第 4 学年の理科「ものづくり」	４年理科教科書の「ものづくり」を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	13	第 4 学年の理科「もののあたたまりかた」	３年理科教科書の「もののあたたまりかた」を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	14	第 4 学年の理科「人の体のつくりとはたらき」	４年理科教科書の「人の体のつくりとはたらき」を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	15	第 4 学年の理科「季節と生物」	４年理科教科書の「季節と生物」を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	第５学年の理科の目標及び「物の溶け方」	５年理科教科書の「物の溶け方」を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	17	第 5 学年の理科「振り子の運動」	５年理科教科書の「振り子の運動」を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	18	第 5 学年の理科「電流がつくる磁力」	５年理科教科書の「電流がつくる磁力」を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	19	第 5 学年の理科「植物の発芽、成長、結実」	５年理科教科書の「植物の発芽、成長、結実」を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	20	第 5 学年の理科「動物の誕生　魚」	５年理科教科書の「魚の誕生」を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	21	第 5 学年の理科「動物の誕生　人」	５年理科教科書の「人の誕生」を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	22	第 5 学年の理科「流れる水の働き」	５年理科教科書の「流れる水の働き」を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	23	第 5 学年の理科「天気の変化」	５年理科教科書の「天気の変化」を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	24	第 6 学年の理科の目標及び「燃焼の仕組み」	６年理科教科書の「燃焼の仕組み」を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間

	25	第 6 学年の理科「水溶液の性質」	６年理科教科書の「水溶液の性質」を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	26	第 6 学年の理科「人の体のつくりとはたらき」	６年理科教科書の「人の体のつくりとはたらき」を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	27	第 6 学年の理科「生物と環境」	６年理科教科書の「生物と環境」を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	28	第 6 学年の理科「てこの規則性」	６年理科教科書の「てこの規則性」を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	29	第 6 学年の理科「土地のつくりと変化」	６年理科教科書の「土地のつくりと変化」を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	30	第 6 学年の理科「月と太陽」	６年理科教科書の「月と太陽」を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間

成　績　評　価	定期試験（30%）、課題・レポート（50%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（20%）
課題（試験・レポート等）に対する フィードバックの方法	授業後実施する振り返りを確認するとともに、毎回講義用学習シートをチェックして次の授業時に返却する。レポートや定期試験はルーブリック評価の結果を渡す。
テキストおよび参　考　文　献	講義資料はその都度配布する 小学校理科教科書 3 年、4 年、5 年、6 年 文部科学省「小学校学習指導要解説　　理科編」
メッセージなど	理科好きな子どもを育てる楽しい理科教育の実践と理科授業におけるアクティブラーニングについて学習します。 小学校教諭二種免許状：選択必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 小学校理科教育の各学年の目標や学習内容を理解し、説明することができる。	目標や内容を理解しており、ほぼ完璧な説明ができる。	目標や内容は理解しているが、完璧な説明はできない。	目標や内容の理解に問題点があるが、説明が何とかできる。	目標や内容を理解しておらず、説明もできない。	課題・レポート（知識・理解）	15%
	目標や内容を理解しており、ほぼ完璧な説明ができる。	目標や内容は理解しているが、完璧な説明はできない。	目標や内容の理解に問題点があるが、説明が何とかできる。	目標や内容を理解しておらず、説明もできない。	定期試験（知識・理解）	15%
(2) こどもの発達・自然認識の仕方を理解し、具体的に説明することができる。	こどもの発達・自然認識の仕方を理解しており、ほぼ完璧な説明ができる。	こどもの発達・自然認識の仕方を理解しているが、完璧な説明はできない。	理解は十分とはいえないが、説明が何とかできる。	理解しておらず、説明もできない。	課題・レポート（知識・理解）	15%
	こどもの発達・自然認識の仕方を理解しており、ほぼ完璧な説明ができる。	こどもの発達・自然認識の仕方を理解しているが、完璧な説明はできない。	理解は十分とはいえないが、説明が何とかできる。	理解しておらず、説明もできない。	定期試験（知識・理解）	15%
(3) 自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度の育成技術を身につけ、説明することができる。	心情や態度の育成技術を身につけ、ほぼ完璧に説明できる。	身にはつけているが、完璧な説明ができない。	十分とは、言えないが、何とか説明はできる。	身についてないため、説明もできない。	課題・レポート（思考力・判断力・技能）	20%
	心情や態度の育成技術を身につけ、ほぼ完璧に説明できる。	身にはつけているが、完璧な説明ができない。	十分とは、言えないが、何とか説明はできる。	身についてないため、説明もできない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・態度）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
生活 Life Environments	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPTS2006	２年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	2	選択	川上 認	○

実務家教員の詳細	小学校教諭としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	小学校１、２年生対象の総合的な教科である生活科の特設的な意義を知り、その目標や内容の理解を深める。 「直接的な活動や体験重視」の教科であり、３学年以上の「理科や社会科の基礎」を培うという特質的性格を究明していく。	
到達目標	(1) 小学校低学年に新設された趣旨や意義を理解し説明できる	
	(2) 生活科の 4 つの目標と 9 つの内容とその扱い方が分かり、指導できるようになる	
	(3) 指導計画作成上の留意点を把握し、模擬年間・単元計画や指導案が作成できるようになる	
	(4) 生活科の特質を理解し、望ましい学習指導・評価の在り方を説明できる	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	生活科設置の背景と趣旨	テキスト 1～7P を読む	1 時間	理由をまとめる	1 時間
2	生活科の目標	要領解説 8～22P を読む	2 時間	改訂点をまとめる	1 時間
3	生活科の内容１～３	テキスト 11～16P を読む	1 時間	内容をまとめる	2 時間
4	生活科の内容４～６	テキスト 17～19P を読む	1 時間	内容をまとめる	2 時間
5	生活科の内容７～９	テキスト 20～22P を読む	1 時間	内容構成図を書く	2 時間
6	自然との触れ合い計画立案	自然の教材をさがす	2 時間	計画案を検討する	1 時間
7	春の遠足実習	実施上の配慮を書く	1 時間	報告書を書く	1 時間
8	栽培活動（1）畑づくり	春野菜の種類を調べる	1 時間	植栽方法を書く	1 時間
9	栽培活動（2）野菜の植栽	植付の仕方を調べる	1 時間	自己評価表を書く	1 時間
10	飼育活動（1）メダカの飼育方法	メダカの特徴を調べる	1 時間	注意点をメモする	1 時間
11	飼育活動（2）飼育の実際	メダカ新聞をつくる	2 時間	感想文を書く	1 時間

	12	交流授業の計画（対）～小学校参観	訪問時の挨拶を書く	1 時間	日程表を作る	1 時間
	13	交流授業の実践	指導案を読んでおく	2 時間	令状を書く	1 時間
	14	遊び教材づくり（例）空気鉄砲	子供の遊びを調べる	2 時間	関連教材を調べる	1 時間
	15	遊びの実際	指導上の留意点を調べる	2 時間	相互評価する	1 時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	生活科の全体計画・年間計画	要領解説 73P～86 を読む	1 時間	模擬計画を作る	2 時間
	17	生活科の単元計画の作成	要領解説 87～93 を読む	1 時間	計画を修正する	1 時間
	18	指導案の作成（1）作成上の留意点	指導案事例を読む	2 時間	案を作成する	2 時間
	19	指導案の作成 （2）指導案の作成	指導案の作成	3 時間	案を修正する	1 時間
	20	生活科の評価の基本	配布プリントを読む	1 時間	自己評価してみる	1 時間
	21	評価基準と評価規準	テキスト 3P を読む	1 時間	違いをまとめる	1 時間
	22	自然との触れ合い体験計画	注意点を調べる	2 時間	準備物を整える	1 時間
	23	秋の野山の散策 例）右田ケ岳	持ち物等を整える	1 時間	感想文を書く	1 時間
	24	栽培活動の実際（1）秋植えの野菜	秋野菜の種類を調べる	1 時間	野菜の絵を描く	1 時間
	25	栽培活動の実際（2）秋の収穫体験	収穫物の活用を書く	1 時間	自己評価する	1 時間
	26	交流活動の計画 （対）小学校	計画書を作製する	2 時間	形式を調べる	1 時間
	27	交流活動の実際	訪問マナーをメモする	1 時間	相互評価する	1 時間
	28	自然物を使った遊び （例）糸電話等	糸電話につて調べる	1 時間	遊びを絵にする	1 時間
	29	季節的行事の計画	伝統行事を調べる	2 時間	発表材料を作る	2 時間
	30	季節的行事の実際 （例）もちつき	餅つきについて調べる	1 時間	正月行事を調べる 1 時間	1 時間

成　績　評　価	定期試験（25%）、課題・レポート（25%）、指導案（10%）、教材作成（15%）、授業への取り組み（15%）、発表・プレゼンテーション（10%）
課題(試験･レポート等)に対する フィードバックの方法	・過去の活動体験時に作成した累積成果物等によりフィードバックする
テキストおよび 参　考　文　献	文部科学省「小学校学習指導要領解説　生活編」　東洋館出版 山口短期大学授業用テキスト「生活」　山口短期大学
メッセージ な　　ど	体験活動を重視した教科なので、大学キャンパスより外に学習の場を設けることもあり、広く実践的に社会や自然に働きかける活動をします。 小学校教諭二種免許状：選択必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 小学校低学年に新設された趣旨や意義を理解し説明できる	ほぼ確実に新設された趣旨や意義を理解し説明できる	十分に新設された趣旨や意義を理解し説明できる	おおむね新設された趣旨や意義を理解し説明できる	まったく新設された趣旨や意義を理解し説明できない	定期試験（理解）	10%
	ほぼ確実に新設された趣旨や意義を理解し説明できる	十分に新設された趣旨や意義を理解し説明できる	おおむね新設された趣旨や意義を理解し説明できる	まったく新設された趣旨や意義を理解し説明できない	課題・レポート（知識）	10%
(2) 生活科の 4 つの目標と 9 つの内容とその扱い方が分かり、解できるようになる	ほぼ確実に生活科の目標と内容を記述できる	十分に生活科の目標と内容を記述できる	おおむね生活科の目標と内容を記述できる	まったく生活科の目標と内容を記述できない	定期試験（理解）	15%
	ほぼ確実に生活科の目標と内容を記述できる	十分に生活科の目標と内容を記述できる	おおむね生活科の目標と内容を記述できる	まったく生活科の目標と内容を記述できない	課題・レポート（知識）	15%
(3) 指導計画作成上の留意点を把握し、模擬年間・単元計画や指導案が作成できるようになる	ほぼ確実に指導計画や指導案が作成できる	十分に指導計画や指導案が作成できる	おおむね指導計画や指導案が作成できる	まったく指導計画や指導案が作成できない	指導案（技能）	10%
	ほぼ確実に指導計画や指導案が作成できる	十分に指導計画や指導案が作成できる	おおむね指導計画や指導案が作成できる	まったく指導計画や指導案が作成できない	発表・プレゼンテーション（表現力）	10%
(4) 生活科の特質を理解し、望ましい学習指導・評価の在り方を説明できる	ほぼ確実に学習指導・評価の在り方を説明できる	十分に学習指導・評価の在り方を説明できる	おおむね学習指導・評価の在り方を説明できる	まったく学習指導・評価の在り方を説明できない	教材作成（意欲）	15%
	ほぼ確実に学習指導・評価の在り方を説明できる	十分に学習指導・評価の在り方を説明できる	おおむね学習指導・評価の在り方を説明できる	まったく学習指導・評価の在り方を説明できない	授業への取り組み（関心）	15%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
音楽 Music	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPTS1007	1 年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	2	必修	松田 和寛	○

実務家教員の詳細	中学校音楽科教員としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	
概　　要	小学校の教員として児童の音楽的感性と表現力を育てていくためには、教員自身の音楽的な知識と基礎能力が必要である。そのために、ここでは音楽理論と歌唱の基礎、リズム奏の基礎・基本を習得し、音楽的感性と音楽的技能を養う。 グループ演習をとおしてアンサンブルをする技能を習得する。	
到達目標	(1) 基本的な音楽理論（楽典）の習得ができる。	
	(2) 器楽演奏や歌唱の基本を学び、その基礎力の体得ができる。	
	(3) 音楽における基礎能力の感性を助長し、技能を向上させることができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	講義の全体目標及び概要説明	テキスト 1 ページ を読んでおく	1 時間	理解して自分の考えをまとめる。	1 時間
2	音の長さ・音符と休符について	テキスト 27 ページを読んでおく	1 時間	プリントパート 1 でまとめる	1 時間
3	音の高さ・音名と階名	テキスト 28 ページを読んでおく	1 時間	プリントパート 2 でまとめる	1 時間
4	音の強さ・音の色・味わいの考察	テキスト 30 ページを読んでおく	1 時間	プリントパート 3 でまとめる	1 時間
5	音楽用語と各種記号の意味するところ	教科書 242,243 ページを読んでおく	2 時間	用語を暗記する	1 時間
6	リズムと速度、リズムと拍子について	教科書 244,245 ページを読んでおく	2 時間	プリントパート 2 でまとめる	1 時間
7	ソルフェージュ・聴音	テキスト 7 ページを読んでおく	1 時間	添削指導の復習練習	1 時間
8	リズムの変化、反復、終止感	テキスト 31,32 ページを読んでおく	1 時間	プリントパート 6 でまとめる	1 時間
9	曲想、アンサンブル ―グループ演習―	教科書 82 ページを読んでおく グループで練習する	2 時間	プリントパート 7 でまとめる	2 時間
10	指揮の仕方、指揮者の役割	テキスト 34 ページ、教科書 141 ページを読んでおく	1 時間	プリントパート 5 でまとめ、会得する	2 時間

	11	ハ長調の音階とイ短調の音階	テキスト 33 ページを読んでおく	1 時間	プリントパート 3,4 でまとめる	1 時間
	12	アンサンブルと指揮者の務め	教科書 143 ページを読んでおく 自分の割り当てを練習しておく	1 時間	実習、演習し会得する	2 時間
	13	音楽の歴史の概要をつかむ	テキスト 4,5 ページを読んでおく	1 時間	記憶、暗記し、まとめる	1 時間
	14	形式美・鑑賞教材のとらまえ方	テキスト 34,35,36 ページを熟読しておく	2 時間	内容をまとめる	2 時間
	15	移調・転調、楽典総論	テキスト 37,38 ページを読んでおく	1 時間	プリントパートまとめ 1 から 3 でまとめる	2 時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	ハ長調の主要三和音Ⅰ・Ⅳ・Ⅴの和音	テキスト 14 ページを読んでおく	1 時間	実際に演習する	2 時間
	17	コードネームについて	テキスト 14 ページを読んでおく	1 時間	振り返りシートによりまとめる	1 時間
	18	ヘ長調の主要三和音Ⅰ・Ⅳ・Ⅴの和音	テキスト 16 ページを読んでおく	1 時間	鍵盤で会得する	1 時間
	19	ト長調の主要三和音Ⅰ・Ⅳ・Ⅴの和音	テキスト 17 ページを読んでおく	1 時間	鍵盤で会得する	1 時間
	20	メジャーコード・マイナーコード	テキスト 16 ページを読んでおく	1 時間	検眼で実習する	1 時間
	21	イ短調の主要三和音Ⅰ・Ⅳ・Ⅴの和音	テキスト 14 ページを読んでおく	1 時間	実際に演習する	2 時間
	22	セブンのコード C7.F7.G7.D7.E7	テキスト 14 ページを読んでおく	1 時間	鍵盤で会得する	2 時間
	23	コードによる平易な伴奏	テキスト 18 ページを読み鍵盤奏をしておく	1 時間	練習し会得する	2 時間
	24	ハ長調→ト長調、ハ長調→ヘ長調への移調奏	教科書 139 ページの鍵盤奏をしておく	1 時間	練習し会得する	2 時間
	25	旋律を歌い、コードによる伴奏をつける	テキスト 25,26 ページを読んでおく	1 時間	練習し会得する	2 時間
	26	コードのみの伴奏で旋律を歌う	テキスト 29 ページを読んでおく	1 時間	練習し会得する	2 時間
	27	弾き歌いを人前で発表する	テキスト 30 ページの鍵盤奏をしておく	1 時間	他人のを聞いて自分へ取り込む	2 時間
	28	和音の教え方 アクティブラーニング	テキスト 19 ページを読み、考える	1 時間	自分の考えをまとめる	2 時間
	29	グループによるＡＬの成果発表	前時のまとめをしておく	1 時間	発表シートをまとめる	2 時間
	30	コードを使って即興演奏に挑戦	自由課題に取り組む	2 時間	演習・実践あるのみ	2 時間

成　績　評　価	定期試験（60%）、その他（40%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	プリント 10 パートの習得及び繰り返しの実技検定やレッスンをとおし、課題を段階的にクリアさせる。やる気を引き出し技能の習得を目指させる。
テキストおよび参　考　文　献	初等科音楽教育法・小学校教員養成課程用（音楽之友社） 小学校学習指導要領　第６節　音楽
メッセージなど	義務教育で学んだ音楽知識を体系化し、さらに楽典を総括的に学びましょう。 演習の楽しさを体験し、将来の活動に生かせる素地をつくりましょう。 能力にあった器楽伴奏法を習得し、楽しく児童をリードする力を養いましょう。 小学校教諭二種免許状：必修

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 基本的な音楽理論（楽典）の習得ができる。	音楽の三要素（旋律・リズム･和音）を記号化した楽典を全体的にほぼ完璧に理解し活用できる。	理論として理解でき、活用の段階で実用できる程度に習得できる。	ほぼ理解でき、実用実践の段階で混乱せずに活用できる理論が習得できる。	合理性に富む楽典理論が理解習得できていない。	定期試験 (知識・理解)	50%
(2) 器楽演奏や歌唱の基本を学び､その基礎力の体得ができる。	鍵盤楽器を中心として、弾き歌いの技量など、ほぼ完璧に出来る	器楽と歌唱の別々でなら、ほぼ完璧に表現できる。	基本的、基礎的な演奏力がほぼ身に着いている。	基礎的、基本的技量が全く身に着かない。	その他 (技能・表現力)	30%
(3) 音楽における基礎能力の感性を助長し、技能を向上させることができる。	自らの力で自らの感性を磨く練習ができ、技能の向上に努めることができる。	楽譜等の指示に従ってほぼ完璧に表現でき、感性を助長させることができる。	楽譜等の指示に従ってほぼ正確に表現できるが、感性を助長させるまでには至らない。	楽譜等の指示に従って正確に表現できない。技能の向上がみられない	定期試験 (知識・理解)	10%
	自らの力で自らの感性を磨く練習ができ、技能の向上に努めることができる。	楽譜等の指示に従ってほぼ完璧に表現でき、感性を助長させることができる。	楽譜等の指示に従ってほぼ正確に表現できるが、感性を助長させるまでには至らない。	楽譜等の指示に従って正確に表現できない。技能の向上がみられない	その他 (技能・表現力)	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
声楽 Vocal Music	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPTS1008	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	1	必修	宮本 千穂	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	初等科音楽教育における歌唱共通教材の音楽的歌唱方法の基本を習得し、現場で必要な伴奏法を学ぶとともにピアノでの弾き歌いができる。	
到達目標	(1) 歌唱共通教材 24 曲の内容を理解し、歌うことができる。	
	(2) コードや和音を修得し、伴奏に活用できる。	
	(3) 歌唱共通教材の曲をピアノで弾き歌いが演奏できる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	歌唱演習 １学年共通教材より	テキスト 136～142 を譜読みしておく	1 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	1 時間
2	歌唱演習 ２学年共通教材より	テキスト 144～150 を譜読みしておく	1 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	1 時間
3	歌唱演習 ３学年共通教材より	テキスト 152～158 を譜読みしておく	1 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	1 時間
4	歌唱演習 ４学年共通教材より	テキスト 160～168 を譜読みしておく	1 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	1 時間
5	歌唱演習 ５学年共通教材より	テキスト 170～180 を譜読みしておく	1 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	1 時間
6	歌唱演習 ６学年共通教材より	テキスト 182～188 を譜読みしておく	1 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	1 時間
7	簡単な声楽アンサンブル	指定された楽譜を譜読みする。	1 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	1 時間
8	ピアノによる伴奏法 ①	授業の中で決めた合唱曲を譜読みしておく	1 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	1 時間

	9	ピアノによる伴奏法 ②	授業の中で決めた合唱曲を譜読みしておく	1 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	1 時間
	10	ピアノによる伴奏法 ③	授業の中で決めた合唱曲を譜読みしておく	1 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	1 時間
	11	ピアノによる弾き歌い ①	指定した曲の譜読みし弾き歌いの練習をする	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	12	ピアノによる弾き歌い ②	指定した曲を譜読みし弾き歌いの練習をする	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	13	ピアノによる弾き歌い ③	指定した曲を譜読みし弾き歌いの練習をする	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	14	ピアノによる弾き歌い ④	指定した曲を譜読みし弾き歌いの練習をする	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	15	ピアノによる弾き歌い ⑤	指定した曲を譜読みし弾き歌いの練習をする	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間

成　績　評　価	定期試験（50%）授業への取り組み(50%)
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	毎回の授業の曲を復習する。
テキストおよび参　考　文　献	初等科音楽研究会　編「最新　初等科音楽教育法」音楽之友社
メッセージなど	小学校教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 歌唱共通教材 24 曲の内容を理解し、歌うことができる。	ほぼ完璧に、歌うことができる。	大きな間違いがなく、歌うことができる。	最低限で、歌うことができる。	習得していない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	15%
(2) コードや和音を修得し伴奏に活用できる。	ほぼ完璧に、活用できる。	大きな間違いがなく、基本を活用できる。	間違いはあるが、最低限の基本を活用できる。	活用できていない。	授業での取り組み（技能・意欲・態度）	15%
(3) 歌唱共通教材の曲をピアノで弾き歌いが演奏できる。	ほぼ完璧に、弾き歌いが演奏できる。	大きな間違いがなく、弾き歌いが演奏できる。	最低限で、弾き歌いが演奏できる。	弾き歌いができていない。	定期試験（技能･表現力･作品の完成度）	50%
	ほぼ完璧に、弾き歌いが演奏できる。	大きな間違いがなく、弾き歌いが演奏できる。	最低限で、弾き歌いが演奏できる。	弾き歌いができていない。	授業での取り組み（関心・意欲）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
器楽Ⅰ Instrumental Music I	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPTS1009	1年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	1	必修	上田 奈奈・宮本 千穂	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	初等科音楽教育に必要なピアノ演奏技術の修得を目指す。 それぞれのピアノ演奏技術の向上を目指す。 個人レッスンの形態で演習する。	
到達目標	(1) ピアノ演奏技術の基礎を習得できる。	
	(2) 正しい楽譜の読み方を学べる。	
	(3) 学んだことを応用し、表情豊かに演奏できる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ピアノの扱い方 演奏の方法 演奏楽曲の説明	テキストを読んでおく	2時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2時間
2	ピアノ演奏① バイエル15番	バイエル 15 番を譜読みしておく	2時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2時間
3	ピアノ演奏② バイエル15番	バイエル 15 番を譜読みしておく	2時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2時間
4	ピアノ演奏③ バイエル28番	バイエル 28 番を譜読みしておく	2時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2時間
5	ピアノ演奏④ バイエル28番	バイエル 28 番を譜読みしておく	2時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2時間
6	ピアノ演奏⑤ バイエル48番	バイエル 48 番を譜読みしておく	2時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2時間
7	ピアノ演奏⑥ バイエル48番	バイエル 48 番を譜読みしておく	2時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2時間
8	ピアノ演奏⑦ バイエル51番	バイエル 51 番を譜読みしておく	2時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2時間
9	ピアノ演奏⑧ バイエル51番	バイエル 51 番を譜読みしておく	2時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2時間
10	音階について① ハ長調、ニ長調、ヘ長調	譜読みしておく	2時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2時間
11	音階について② ト長調、イ短調	譜読みしておく	2時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2時間
12	「ﾌﾞﾙｸﾞﾐｭｰﾗｰ25の練習曲」以上の教材より選択 －1週目－	課題曲の練習をしておく	2時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2時間
13	「ﾌﾞﾙｸﾞﾐｭｰﾗｰ25の練習曲」以上の教材より選択 －2週目－	課題曲の練習をしておく	2時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2時間

	14	「ﾌﾞﾙｸﾞﾐｭｰﾗｰ 25 の練習曲」以上の教材より選択 −3 週目−	課題曲の練習をしておく	2 時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2 時間
	15	「ﾌﾞﾙｸﾞﾐｭｰﾗｰ 25 の練習曲」以上の教材より選択 −4 週目−	課題曲の練習をしておく	2 時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2 時間
成　績　評　価	定期試験（66%）、授業への取り組み（34%）					
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	日々の練習の成果を復習練習でフィードバックし、実技試験の場で発表する。					
テキストおよび参　考　文　献	「バイエル教則本」全音出版社 「ブルグミューラー25 の練習曲」全音出版					
メッセージなど	小学校教諭二種免許状：必修科目					

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) ピアノ演奏技術の基礎を習得できる。	ほぼ完璧に習得している。	大きな間違いがなく、基礎を習得している。	間違いはあるが、最低限の基礎を習得している。	習得できていない。	定期試験（関心・意欲・態度）	18%
	ほぼ完璧に習得している。	大きな間違いがなく、基礎を習得している。	間違いはあるが、最低限の基礎を習得している。	習得できていない。	授業への取り組み（知識・技能）	17%
(2) 正しい楽譜の読み方を学べる。	ほぼ完璧に学んでいる。	大きな間違いがなく、基礎を学んでいる。	間違いはあるが、最低限の基礎を学んでいる。	学べていない。	定期試験（関心・意欲・態度）	30%
(3) 学んだことを応用し、表情豊かに演奏できる。	ほぼ完璧に演奏できる。	大きな間違いがなく、基礎を演奏できる。	間違いはあるが、最低限の基礎を演奏できる。	演奏できていない。	定期試験（関心・意欲・態度）	18%
	ほぼ完璧に演奏できる。	大きな間違いがなく、基礎を演奏できる。	間違いはあるが、最低限の基礎を演奏できる。	演奏できていない。	授業への取り組み（知識・技能）	17%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
器楽Ⅱ Instrumental Music Ⅱ	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPTS2010	２年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	1	選択	安部 浩信	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	器楽合奏法は初等音楽教育に必要な様々な楽器の知識を習得し、合奏方法とその指導法を学ぶ。 また、歌唱教材のピアノ伴奏法を習得する。	
到達目標	(1) リコーダーの基礎奏法を習得し、各学年の対象曲が演奏できる。	
	(2) 様々な合奏楽器の特徴を知り、適切な奏法を習得する。	
	(3) 様々な合奏楽器を使って合奏ができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	リコーダー演習法 ―１週目―	リコーダーの運指を教科書を見ながら練習しておく	2 時間	授業で練習した音階と曲を練習する	2 時間
2	リコーダー演習法 ―２週目―	♯、♭の指使いを予習しておく	2 時間	授業で練習した音階と曲を練習する	2 時間
3	リコーダー演習法 ―３週目―	指定された曲を練習しておく	2 時間	授業で練習した音階と曲を練習する	2 時間
4	合奏楽器の特徴と扱い方 ―１週目―	合奏曲で使用する打楽器、鍵盤楽器の練習をしておく	2 時間	授業で練習した楽器の練習をする	2 時間
5	合奏楽器の特徴と扱い方 ―２週目―	合奏曲で使用する打楽器、鍵盤楽器の練習をしておく	2 時間	授業で練習した楽器の練習をする	2 時間
6	合奏① ―１、２、３年生対象曲１週目―	合奏曲で使用する打楽器、鍵盤楽器の練習をしておく	2 時間	授業で練習した楽器の練習をする	2 時間
7	合奏② ―１、２、３年生対象曲２週目―	合奏曲で使用する打楽器、鍵盤楽器の練習をしておく	2 時間	授業で練習した楽器の練習をする	2 時間
8	合奏③ ―１、２、３年生対象曲３週目―	合奏曲で使用する打楽器、鍵盤楽器の練習をしておく	2 時間	授業で練習した楽器の練習をする	2 時間
9	合奏（創作）① ―４、５、６年生対象曲１週目―	合奏曲のリズムを工夫しておく	2 時間	授業で創作したリズムを練習する	2 時間
10	合奏（創作）② ―４、５、６年生対象曲２週目―	創作したリズムを発展させておく	2 時間	授業で創作したリズムを練習する	2 時間

	11	合奏（創作）③ ―４、５、６年生対象曲３週目― （発表会）	創作リズムの練習をしておく	2 時間	合奏曲の仕上げ練習をする	2 時間
	12	ピアノ伴奏法① ―歌唱教材伴奏法１、２年	指定された曲を練習しておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	13	ピアノ伴奏法② ―歌唱教材伴奏法３、４年	指定された曲を練習しておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	14	ピアノ伴奏法③ ―歌唱教材伴奏法５、６年	指定された曲を練習しておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	15	ピアノ伴奏法④　まとめ	指定された曲を練習しておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間

成　績　評　価	定期試験（51%）、授業への取り組み（49%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	毎回授業の終わりに出来ているか個別に確認をする。
テキストおよび参　考　文　献	泉 靖彦　他「初等科　音楽教育法」音楽之友社 小学校学習指導要領　第６節　音楽
メッセージなど	初等科音楽教育の実践的指導法を学びます。

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) リコーダーの基礎奏法を習得し、各学年の対象曲が演奏できる。	ほぼ完璧に演奏できる。	大きな間違いがなく、基礎を演奏できる。	間違いはあるが、最低限の基礎を演奏できる。	演奏できていない。	定期試験（知識・理解）	18%
	ほぼ完璧に演奏できる。	大きな間違いがなく、基礎を演奏できる。	間違いはあるが、最低限の基礎を演奏できる。	演奏できていない。	授業への取り組み（技能）	17%
(2) 様々な合奏楽器の特徴を知り、適切な奏法を習得する。	ほぼ完璧に習得している。	大きな間違いがなく、基礎を習得している。	間違いはあるが、最低限の基礎を習得している。	習得できていない。	定期試験（技能）	18%
	ほぼ完璧に習得している。	大きな間違いがなく、基礎を習得している。	間違いはあるが、最低限の基礎を習得している。	習得できていない。	授業への取り組み（関心・理解）	17%
(3) 様々な合奏楽器を使って合奏ができる。	ほぼ完璧に合奏できる。	大きな間違いがなく、基礎を合奏できる。	間違いはあるが、最低限の基礎を合奏できる。	合奏ができていない。	授業への取り組み（知識・技能）	15%
	ほぼ完璧に合奏できる。	大きな間違いがなく、基礎を合奏できる。	間違いはあるが、最低限の基礎を合奏できる。	合奏ができていない。	定期試験（作品の完成度）	15%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
図画工作 Arts and Handicrafts	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPTS1011	１年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	2	必修	佐古 淳子	○

実務家教員の詳細	中学校美術科教員としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	図画工作における領域の中で、絵画・デザインを主におこなう。工作は教材研究に、鑑賞は美術史に託しながら相互に行っていく。絵画ではデッサン・水彩画を、デザインはポスターを作製する。採用試験対策のため、持ち込み不可の試験を行う。色彩関係について知識を得られるような内容にする。	
到達目標	(1) 水彩画、ポスター の制作の手順や画材、用具、色彩について説明する事ができる。	
	(2) 水彩画、ポスターの特質を知り、意欲的に取材し、画面構成力を高める事ができる。	
	(3) 透明水彩、ポスターカラーの扱いに熟達し、表現したい内容を描く事ができる。	
	(4) お互いの作品を鑑賞して考えを説明し合い、高め合うことができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション・人物クロッキー	テキスト P.3～P.7 を読んでおく。	0.5 時間	授業を振り返り、人物クロッキーの自己評価をする。	0.5 時間
2	鉛筆デッサン・ものの見方 －手・器と視点－	テキストP.8、P.9 の演習 1),2)を予習する。	0.5 時間	授業を振り返り、２つのデッサンの自己評価をする。	0.5 時間
3	鉛筆デッサン －人物の顔－	テキスト P.10 を読んで実践してみる。	1 時間	授業を振り返り、デッサンの途中段階の自己評価をする。	0.5 時間
4	鉛筆デッサン －人物の顔の仕上げ－			デッサンの完成度を高め、自己評価をして次時提出する。	2 時間
5	水彩画の制作 －モチーフの選択・レイアウト－	テキスト P.11～P.18 を読んでおく。	1 時間	授業を振り返り、制作の自己評価をする。	0.5 時間
6	下描き① －構図決定（鉛筆）－			授業を振り返り、制作の自己評価をする。	0.5 時間

	7	下描き② －細部描画（鉛筆）－			授業を振り返り、制作の自己評価をする。	0.5 時間
	8	着彩① －薄塗り－	テキスト P.19～P.21 を読んでおく。	1 時間	授業を振り返り、制作の自己評価をする。	0.5 時間
	9	着彩② －画面全体を見ながら色を重ねていく－			授業を振り返り、制作の自己評価をする。	0.5 時間
	10	着彩③ －色を重ねて深みを出す－			授業を振り返り、制作の自己評価をする。	0.5 時間
	11	着彩④ 同上			授業を振り返り、制作の自己評価をする。	0.5 時間
	12	着彩⑤ 同上			授業を振り返り、制作の自己評価をする。	0.5 時間
	13	評価・講評			授業を振り返り、鑑賞内容や言葉の表現が適切だったか自己評価をする。	0.5 時間
	14	演習グラデーション① －色について－	テキスト P.24～P.27 を読んでおく。	1 時間	授業を振り返り、疑問点などをまとめる。	0.5 時間
	15	演習グラデーション② －ポスターカラーの使い方－			授業を振り返り、課題の制作状況の自己評価をする。	0.5 時間
					修正箇所を見直し、課題の完成度を高め、提出する。	2 時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	ポスターについて	テキスト P.22,P.23, P.30 を読んでおく。	1 時間	授業を振り返り、自分の主題、構想、資料収集に取り掛かる。	2 時間
	17	レタリング －ゴシック体と明朝体①－	テキスト P.28、P.29 を読んで演習１）、2）を予習する。	2 時間	授業を振り返り、予習した内容を見直す。	1 時間
	18	レタリング －ゴシック体と明朝体②－			授業を振り返り、演習シートを完成させ、次時提出する。	2 時間
	19	資料収集・構想・アイデアスケッチ	構想シートに数種類、構想を描く。	2 時間	授業を振り返り、構想を何度も見直す。	2 時間
	20	コピー・レタリングの考案	構想シートに数種類、構想を描く。	2 時間	授業を振り返り、構想を何度も見直す。	2 時間
	21	下描き① －構図決定－	構想シートに数種類、構想を描く。	2 時間	授業を振り返り、構想を何度も見直す。	2 時間
	22	下描き② －レタリングのトレースや細部－			授業を振り返り、自己評価をする。	0.5 時間
	23	着彩① －モダンテクニックについて－	テキスト P.31 を読んでおく。	0.5 時間	授業を振り返り、自己評価をする。	0.5 時間

	24	着彩②			授業を振り返り、自己評価をする。	0.5 時間
	25	着彩③			授業を振り返り、自己評価をする。	0.5 時間
	26	着彩④			授業を振り返り、自己評価をする。	0.5 時間
	27	着彩⑤			授業を振り返り、自己評価をする。	0.5 時間
	28	着彩⑥			お互いに鑑賞しあいながら意見交換をして作品の完成度を高め、次時提出する。	2 時間
	29	評価・講評			授業を振り返り、鑑賞内容や言葉の表現が適切だったか自己評価をする。	0.5 時間
	30	まとめ			授業を振り返り、自己評価をする。	0.5 時間

成　績　評　価	定期試験（5%）、課題・レポート（10%）、作品（40%）、授業への取り組み（40%）、発表・プレゼンテーション（5%）
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	学生は授業の振り返りシートに課題に対する疑問や感想、自己評価を記入し連絡ボックスに入れる。それに対して次時までにコメントを記入し返却する。 課題の評価は作品完成時に口頭で、試験の評価は点数（100 点中～80 点：優、79～70 点：良、69～60 点：可、60 点未満：不可）で知らせる。正解とともに返却する。場合によっては個人的に呼び出して指導することもある。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト『図画工作』　山口短期大学　佐古淳子 小学校学習指導要領　第７節　図画工作 中学校学習指導要領　第６節　美術
メッセージなど	制作が主となる活動です。この実習を通じて、水彩絵の具とポスターカラーの扱い、色彩、画面構成、レタリングを学んでいきます。概ね中学校課程に準ずる内容になっているのは、小学校の学習が次に何に繋がっていくのかを理解しておくことはとても大切だからです。とはいえ、一つのパターンに導くのではなく、児童に個人差や個性があるように、皆さんの個性を重視しながら、創意・工夫や完成させる意欲が高まるような関わり方を模索していきます。 小学校教諭二種免許状：必修

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 水彩画、ポスター の制作の手順や画材、用具、色彩について説明する事ができる。	ほぼ完璧に基本を説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 （知識・理解・思考力・判断力・問題解決力）	5%
	ほぼ完璧に基本を説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート （関心・意欲・理解・思考力）	5%
(2) 水彩画、ポスターの特質を知り、意欲的に取材し、画面構成力を高める事ができる。	ほぼ完璧に正しく理解して、自分の考えで制作・助言ができる。	大きな手違いがなく理解して、自分の考えで制作・助言ができる。	理解不足のため手違いはあるが自分なりに制作・助言ができる。	理解を怠り、自分の考えで制作できていない。また制作しない。	作品 （意欲・思考力・表現力・創造性・問題解決力）	20%
	ほぼ完璧に正しく理解して、自分の考えで制作・助言ができる。	大きな手違いがなく理解して、自分の考えで制作・助言ができる。	理解不足のため手違いはあるが自分なりに制作・助言ができる。	理解を怠り、自分の考えで制作できていない。また制作しない。	授業への取り組み （意欲・理解・思考力・判断力・創造性）	20%
(3) 透明水彩、ポスターカラーの扱いに熟達し、表現したい内容を描く事ができる。	ほぼ完璧に技法の特性を理解して表現でき完成することができる。	大きな手違いがなく技法の特性を理解して表現でき、完成することができる。	技法の特性の理解不足のため手違いはあるが、自分なりの表現ができる。	技法の特性の理解を怠り、自分なりの表現もできていない。また制作しない。	作品 （意欲・技能・表現力・問題解決力・作品の完成度）	20%
	ほぼ完璧に技法の特性を理解して表現でき完成することができる。	大きな手違いがなく技法の特性を理解して表現でき、完成することができる。	技法の特性の理解不足のため手違いはあるが、自分なりの表現ができる。	技法の特性の理解を怠り、自分なりの表現もできていない。また制作しない。	授業への取り組み （意欲・判断力・表現力・創造性・問題解決力）	20%
(4) お互いの作品を鑑賞して考えを説明し合い、高め合うことができる。	ほぼ適切に作品のよさや作者の心情、自分の考えを説明できる。	大きな間違いがなく、作品のよさや自分の考えを説明できる。	不適切な表現はいくつかあるが、自分の考えを説明できる。	説明できていない。	課題・レポート （関心・知識・思考力・創造性）	5%
	ほぼ適切に作品のよさや作者の心情、自分の考えを説明できる。	大きな間違いがなく、作品のよさや自分の考えを説明できる。	不適切な表現はいくつかあるが、自分の考えを説明できる。	説明できていない。	発表・プレゼンテーション （思考力・判断力・表現力・協働性・問題解決力）	5%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
工芸 Craft	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPTS1012	1年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	2	必修	西村 直記	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○

概　　要	粘土と木を主材料として制作過程を理解しながらその技法を身につける。前期では、付け加えながら造形する粘土を使用し、粘土の性質を理解しながらデザイン感覚を養う。土地柄、大道は萩焼きの粘土が産出する場所でもあるので、その特性を活かして萩焼きの制作をおこなう。後期では、削って造形する木を使用し、木の特性を理解しながら前期で扱った粘土との違いを学ぶ。実際に木材を使って鍋敷きやペーパーナイフを制作し、電動糸のこ盤の使用方法や木材の加工方法を学習する。
到達目標	(1) 粘土と木の素材の違いを認識し、技法及び道具の基本的な知識を身につけることができる。
	(2) 課題の内容を理解し、使いやすいデザインを考案することができる。
	(3) 素材の違いを考慮しながら、各自の制作意図を反映した作品を創造することができる

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	授業の概要についての説明と心構え			授業の概要と心構えをまとめる。	2時間
2	概要及び焼物用粘土の取扱いについて	本時の内容に該当する教科書の項目を読む。	2時間	焼物用粘土の取り扱いについて振り返り、まとめる。	2時間
3	粗練りと菊練りの練り方	前時に指定した教科書の項目を読む。	2時間	粗練りと菊練りの注意事項をまとめる。	2時間
4	土鈴の制作	土鈴のデザインを考える。	2時間	土鈴を作る時の注意事項をまとめる。	2時間
5	玉づくりの制作方法と制作	玉づくりの器のデザインを考える。	2時間	玉づくりで器を作る時の注意事項をまとめる。	2時間
6	玉づくりの底削り方法	底削りに該当する教科書の項目を読む。	2時間	底削りの注意事項をまとめる。	2時間
7	板づくりの制作方法と制作	板づくりの器のデザインを考える。	2時間	たたら板を使用する板づくりの注意事項をまとめる。	2時間
8	板づくりの制作	板づくりに該当する教科書の項目を読む。	2時間	板づくりのパーツの組み立ての注意事項をまとめる。	2時間

	9	板づくりの底削り方法	板づくりの底削りに該当する教科書の項目を読む。	2 時間	板づくりならではの底削りの注意事項をまとめる。	2 時間
	10	ひもづくりの制作方法と制作	ひもづくりの器のデザインを考える。	2 時間	ひもづくりで器を作る時の注意事項をまとめる。	2 時間
	11	ひもづくりの制作（1）成形	ひもづくりに該当する教科書の項目を読む。	2 時間	自らのデザインに近づけるための注意事項をまとめる。	2 時間
	12	ひもづくりの制作（2）仕上げ	自らのデザインを形にするための制作方法を考える。	2 時間	大きな器を作る時の注意事項をまとめる。	2 時間
	13	ひもづくりの底削りの方法	ひもづくりの底削りに該当する教科書の項目を読む。	2 時間	ひもづくりならではの底削りの注意事項をまとめる。	2 時間
	14	施釉	釉薬を掛けて仕上げた状態の器のデザインを考える。	2 時間	釉薬を掛ける時の注意事項をまとめる。	2 時間
	15	鑑賞・評価	焼成の方法に該当する教科書の項目を読む。	2 時間	陶芸の作業を振り返り、注意事項をまとめる。	2 時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	概要及び木工について	教科書の木工編を読む。	2 時間	概要と木工についての説明を振り返り、まとめる。	2 時間
	17	鍋敷き作品のデザインを決定	鍋敷きのデザインを考える。	2 時間	木材の製材方法とそれぞれの適性と長所・短所をまとめる。	2 時間
	18	ペーパーナイフのデザインを決定	ペーパーナイフのデザインを考える。	2 時間	木の種類とそれぞれの適性と長所・短所をまとめる。	2 時間
	19	糸のこ盤の使用方法	糸のこ盤の使用方法に該当する教科書の項目を読む。	2 時間	糸のこ盤の使用にあたっての注意事項をまとめる。	2 時間
	20	切削手順と方法	自らのデザインを形にするための切削方法を考える。	2 時間	切削の方法と手順についての注意事項をまとめる。	2 時間
	21	彫刻刀による切削方法	彫刻刀の使用に該当する教科書の項目を読む。	2 時間	彫刻刀の種類と使用に関する注意事項をまとめる。	2 時間
	22	鍋敷きの切削（1）荒彫り	浮き彫り（レリーフ）をイメージしてデザインを考える。	2 時間	本時の作業を振り返り、作業の問題点をまとめる。	2 時間
	23	鍋敷きの切削（2）中彫り	荒彫りから仕上げ彫りに該当する教科書の項目を読む。	2 時間	本時の作業を振り返り、作業の問題点をまとめる。	2 時間
	24	鍋敷きの切削（3）仕上げ彫り	立体的なデザインを考え、本時の作業の進行方法を考える。	2 時間	本時の作業を振り返り、作業の問題点をまとめる。	2 時間
	25	ペーパーナイフの切削（荒・中彫り）	ペーパーナイフを立体的にイメージして本時の作業を考える。	2 時間	本時の作業を振り返り、作業の問題点をまとめる。	2 時間
	26	ペーパーナイフの切削（仕上げ彫り）	作品の完成状態をイメージして、本時の作業を考える。	2 時間	彫刻刀の切削作業全般を振り返り、注意事項をまとめる。	2 時間
	27	サンドペーパーによる研き作業	作品の完成状態をイメージして、本時の作業を考える。	2 時間	サンドペーパーの使用に関する注意事項をまとめる。	2 時間

	28	アクリル絵の具による着色	色付けのデザインを考える。	2 時間	アクリル絵の具の適性と長所・短所をまとめる。	2 時間
	29	仕上げ（水性ウレタン･ワックス）	水性ウレタン・ワックスに該当する教科書の項目を読む。	2 時間	水性ウレタン・ワックスの注意事項をまとめる。	2 時間
	30	鑑賞・評価	工芸の授業全般を振り返り、疑問点･質問事項をまとめる。	2 時間	工芸の授業全般の注意事項をまとめて、定期試験に備える。	2 時間

成　績　評　価	レポート（知識・理解・判断力）（10%） 作品（関心・意欲・態度・技能・発想・表現力）（90%）
課題(試験・レポート等)に対する フィードバックの方法	作品の評価・改善方法及びレポートについては授業の中で随時指導する。
テキストおよび 参　考　文　献	「工芸」山口短期大学 小学校学習指導要領　第７節　図画工作
メ ッ セ ー ジ な　　ど	毎回の授業への取り組みとやる気が作品の良し悪しに関わってきます。 小学校教諭二種免許状：必修

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 粘土と木の素材の違いを認識し、技法及び道具の基本的な知識を身につけることができる。	粘土と木の素材の特性を理解し、技法及び道具の基本的な知識が十分に身についている。	粘土と木の素材の特性を理解し、技法及び道具の基本的な知識が概ね身についている。	粘土と木の素材の特性を概ね理解し、技法及び道具の使用方法は理解している。	粘土と木の素材の特性を理解できず、技法及び道具の使用方法も理解していない。	レポート（知識･理解･判断力）	10%
(2) 課題の内容を理解し、使いやすいデザインを考案することができる。	課題の内容を理解し、使いやすいデザインを考案することができている。	課題の内容を概ね理解し、自分なりのデザインを考案することができている。	課題の内容を概ね理解し、一般的なデザインであれば考案することができる。	課題の内容を理解できず、一般的なデザインを考案することができてない。	作品（関心･意欲･態度･技能･表現力）	45%
(3) 素材の違いを考慮しながら、各自の製作意図を反映した作品を創造することができる	素材の違いを理解し、自らの制作意図のとおりの作品を創造することができている。	素材の違いを理解し、自らの制作意図のとおりの作品を概ね制作することができている。	素材の違いを概ね理解し、自らの制作意図に近い作品を制作することができている。	素材の違いを理解できず、作品を制作することができていない。	作品（関心･意欲･態度･技能･表現力）	45%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
体育Ⅰ Physical Education　Ⅰ	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPTS2013	1 年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	2	必修	田中 邦明	○

実務家教員の詳細	中学校保健・体育科教員としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	
概　　要	小学校免許修得にふさわしい力を身に付けることを主眼に授業を行う。主に、小学校の体育科教育において学習指導要領に示されている学習内容の指導ができるということが中心である。子どもの教育に責任をもつためにふさわしい資質能力を身に付けることができるように授業を進めていく。そのために、「体育の見方・考え方」、「運動の系統的指導」、「豊かなスポーツライフの実現」という言葉をキーワードにして行う。	
到達目標	(1) 全学年に渡ってできるだけ多くの運動領域の内容を経験し、基本的な知識及び技能を習得する。	
	(2) 運動種目に応じた系統的指導のあり方を理解し、段階的な指導方法を習得する。	
	(3) 指導案の作成に慣れ、指導案に基づいて実際に模擬授業を行うことができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション　－前期授業の概要と見通しについて－学習指導要領をどう捉えるか			授業の振り返り	2 時間
2	低学年：体つくりの運動遊び 1	事前配布資料を読んでおく	2 時間	授業の振り返り	2 時間
3	低学年：体つくりの運動遊び 2	縄跳びの練習	2 時間	授業の振り返り	2 時間
4	中学年：体つくり運動と折り返しリレー	事前配布資料を読んでおく	2 時間	授業の振り返り	2 時間
5	中学年：マット・跳び箱運動Ⅰ	事前配布資料を読んでおく	2 時間	授業の振り返り	2 時間
6	中学年：マット・跳び箱運動Ⅱ	事前配付資料を読んでおく	2 時間	授業の振り返り	2 時間
7	全学年：水遊びと水泳学習 (資料研究)	事前配布資料を読んでおく	2 時間	授業の振り返り	2 時間
8	中学年：マット・跳び箱運動Ⅲ	事前配布資料を読んでおく	2 時間	授業の振り返り	2 時間
9	中学年：マット・跳び箱運動 まとめ	事前配布資料を読んでおく	2 時間	授業の振り返り	2 時間
10	低学年：パスパスゲーム　作戦の立て方	事前配布資料を読んでおく	2 時間	授業の振り返り	2 時間
11	ワークショップ：体育科指導案の作り方	事前配付資料を読んでおく	2 時間	指導案作成	2 時間

	12	演習：指導案の推敲と準備	指導案作成	2 時間	授業の振り返り	2 時間
	13	演習：模擬授業①・②と振り返り	指導案作成	2 時間	授業の振り返り	2 時間
	14	演習：模擬授業③・④と振り返り	指導案作成	2 時間	授業の振り返り	2 時間
	15	前期授業のまとめ レポート作成	事前配付資料を読んでおく	2 時間	課題レポート	2 時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	オリエンテーション－後期授業の概要と見通しについて－ 中学年：表現運動「忍者」イメージつくり		2 時間	授業の振り返り	2 時間
	17	中学年：表現運動「忍者」動きつくり、動きの構成	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返り	2 時間
	18	中学年：鉄棒運動Ⅰ	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返り	2 時間
	19	中学年：体つくり運動	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返り	2 時間
	20	高学年：スポーツ鬼ごっこと折り返しリレー	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返り	2 時間
	21	中学年：宝集め鬼ごっこと鉄棒運動Ⅱ	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返り	2 時間
	22	低学年：ドッジボール (工夫したゲームを考える)	事前配付資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返り	2 時間
	23	高学年：ソフトバレーボール	事前配付資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返り	2 時間
	24	高学年：バスケットボール	事前配付資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返り	2 時間
	25	低学年：ならびっ子ゲーム	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返り	2 時間
	26	高学年：サッカー	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返り	2 時間
	27	中学年：持久走とキックベースボール	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返り	2 時間
	28	中学年：ポートボール	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返り	2 時間
	29	高学年：陸上運動「リレー」と「走り高跳び」	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返り	2 時間
	30	各種運動のまとめ 採用試験への対応	後期授業資料のまとめ	2 時間	課題レポート	2 時間

成　績　評　価	課題レポート（20%）、授業への取組・態度（30%）、演習：模擬授業（30%）、ペーパーテスト（10%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	レポートはコメントをつけてお返しします。
テキストおよび参　考　文　献	小学校学習指導要領　第９節　体育 授業時に随時資料を配布
メッセージなど	小学校教諭二種免許状：必修

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 全学年に渡ってできるだけ多くの運動領域の内容を経験し、基本的な動作を習得する。	ほぼ完璧に習得できている。	大きな間違いがなく習得できている。	最低限のことは習得できている。	ほとんど習得できていない。	授業への取組（関心・意欲・理解・技能・表現力）	20%
	ほぼ完璧に習得できている。	大きな間違いがなく習得できている。	最低限のことは習得できている。	ほとんど習得できていない。	発表（関心・意欲・理解・技能・表現力）	10%
(2) 運動種目に応じた系統的指導のあり方を理解し、段階的な指導方法を習得する。	ほぼ完璧に習得できている。	大きな間違いがなく習得できている。	最低限のことは習得できている。	ほとんど習得できていない。	授業への取組（関心・意欲・理解・技能・思考力）	20%
	ほぼ完璧に習得できている。	大きな間違いがなく習得できている。	最低限のことは習得できている。	ほとんど習得できていない。	課題レポート（知識・理解・判断力・創造性・協働性）	30%
	ほぼ完璧に表現できる。	大きな間違いがなく表現できる。	最低限のことは表現できる。	ほとんど表現できない。	グループワーク（理解・知識・思考力・表現力・協働性）	10%
(3) 指導案の作成に慣れ、指導案に基づいて実際に模擬授業を行うことができる。	ほぼ完璧に行うことができる。	大きな間違いがなく行うことができる。	最低限のことは行うことができる。	ほとんど行うことができない。	授業への取組（知識・理解・判断力・創造性・協働性）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
体育Ⅱ Physical Education Ⅱ	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPTS2014	２年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	1	選択	大本 学司	○

実務家教員の詳細	中学校保健･体育科教員としての実務経験を生し､到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ･ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	「体育科」において、目標や内容とともに子どもの実態に合わせた教材選択が大切である。本授業では、様々な教材を選択することや運動やスポーツの文化的視野を広げることを目標にする。主な内容は、フライングディスクを教材とした運動やスポーツの体験、体づくり運動や陸上運動などにおける教具づくりとする。また、保健の授業や障害児体育についても実践報告を通して授業づくりをする上での着眼点を学ぶ。	
到達目標	(1) フライングディスクを使用した運動・スポーツの教材価値を理解し、実践できる。	
	(2) 体育科の運動理解や意欲につながる教具づくりができ、改善点や工夫点を述べることができる。	
	(3) 保健の授業の１つの指導案が作成でき、提案・検討できる。	
	(4) 障害児体育の実践報告から、教具の意味を理解し工夫点が説明できる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション －授業の概要について－			授業の振り返り	2 時間
2	フライングディスクを使った運動・スポーツの歴史と実践（ディスタンス・TRC）	事前配布資料を読んでおく	2 時間	課題レポート	2 時間
3	アルティメットのルールと実践	事前配布資料を読んでおく	2 時間	課題レポート	2 時間
4	アルティメットの実践（攻めと守り）と教材価値	事前配布資料を読んでおく	2 時間	課題レポート	2 時間
5	教材の選択と教具づくりの計画	事前配布資料を読んでおく	2 時間	課題レポート	2 時間
6	材料あつめと教具製作	材料を収集し、事前資料を読んでおく	2 時間	教具の完成をさせる	2 時間

	7	教具を使用した活動の計画	事前の資料を読んでおく	2 時間	計画の完成と実践の練習	2 時間
	8	教具を使った実践①②	計画の資料を読んでおく	2 時間	授業の振り返り	2 時間
	9	教具を使った実践③④	計画の資料を読んでおく	2 時間	授業の振り返り	2 時間
	10	障害児体育について（ポンポンホッケーの実践報告から学ぶ）	事前配布資料を読んでおく	2 時間	課題レポート	2 時間
	11	保健の授業づくりー「子どもが動き出す授業づくり」からー	事前配布資料を読んでおく	2 時間	授業づくりの構想をする	2 時間
	12	保健の授業づくりー「子どもが動き出す授業づくり」から授業案の作成①	事前配布資料を読んでおく	2 時間	授業づくりの計画を見直す	2 時間
	13	保健の授業づくりー「子どもが動き出す授業づくり」から授業案を作成②	事前配布資料を読んでおく	2 時間	授業づくりの計画を見直す	2 時間
	14	保健の授業づくりー「子どもが動き出す授業づくり」から発表①	事前配布資料を読んでおく	2 時間	課題レポート	2 時間
	15	保健の授業づくりー「子どもが動き出す授業づくり」から発表②	事前配布資料を読んでおく	2 時間	課題レポート	2 時間

成　績　評　価	授業への取り組み（30%）、教材作成（15%）、指導案（15%）グループワーク・グループ討議（30%）、 課題・レポート（10%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	レポートはファイルにとじて提出してもらい、次の時間に返却し復習に使用します。
テキストおよび参　考　文　献	小学校学習指導要領　第９節　体育 資料は随時配布
メッセージなど	学びたいことを出し合って、教具づくりや提案、検討会が協力しながらできるように取り組みましょう

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)フライングディスクを使用した運動・スポーツの教材価値を理解し、実践できる。	教材価値を理解し、数多く実践できる	大きな間違いがなく理解でき、実践できる	最低限のことは説明でき、実践できる	教材価値を理解できず、実践できない	授業への取り組み（関心・意欲、技能、・協同性）	30%
(2)体育科の運動理解や意欲につながる教具づくりができ、改善点や工夫点を述べることができる。	教具をづくりができ、数多く改善や工夫点を述べることができる	教具をづくりがある程度でき、改善や工夫点を述べることができる	最低限度の教具づくりができる	教具づくりができない	教材作成（理解・思考力・創造力）	15%
	教具をづくりができ、数多く改善や工夫点を述べることができる	教具をづくりがある程度でき、改善や工夫点を述べることができる	最低限度の教具づくりができる	教具づくりができない	グループワーク・グループ討議（思考力・判断力・表現力）	15%
(3) 保健の授業の１つの指導案が作成でき、提案・検討できる。	指導案の作成と提案・検討ができる	大きな間違いがなく指導案の作成と提案・検討ができる	最低限の指導案の作成と提案・検討ができる	指導案の作成ができず、検討できない	指導案（知識・理解・思考力、創造性）	15%
	指導案の作成と提案・検討ができる	大きな間違いがなく指導案の作成と提案・検討ができる	最低限の指導案の作成と提案・検討ができる	指導案の作成ができず、検討できない	グループワーク・グループ討議（思考力・判断力・表現力）	15%
(4) 障害児体育の実践報告から学び、教具の意味を理解し工夫点が説明できる。	教具の意味を理解し、多くの工夫点が説明できる	大きな間違いがなく、教具の意味を理解し、工夫点が説明できる	最低限度の教具の意味を理解し、工夫点が説明できる	説明できない	課題・レポート（知識・理解・思考力）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
リズム運動 Rhythmical Movement	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPTS1015	1年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	1	必修	田村 千代子	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	
概　　要	新学習指導要領の内容を踏まえ、各学年の運動発達段階に応じた表現運動の指導について理解する。なかでも日本の民族舞踊を中心に、歴史的な背景や特有の身体づかいを学びながら日本の踊りの独自性について理解する。また、表現の楽しさを追求するとともに、ペア学習、グループ学習などの学習方法やその有効性を学びながら、基本的な指導法を修得する。	
到達目標	(1) 民族舞踊である「荒馬」「ソーラン節」の踊りの歴史を学び、基本動作を修得する。	
	(2) 個人練習からグループ練習、そして発表までの授業づくりの流れを理解し、構成できる。	
	(3) 模擬授業を行い、通して、表現運動の基本的な指導法について学習者、指導者の立場から意見を述べることができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション　ー今日のダンス・踊りを取り巻く背景と教育の中の表現運動ー			学習指導要領をダンスの領域を読む。	2時間
2	日本の伝統文化「荒馬」について学ぶ　ー「今別荒馬」の歴史ー	学習指導要領のダンスの領域を読む。	2時間	学習指導要領の領域を読む。	2時間
3	「荒馬」の基本の動き①ー踏み、探り足、踏み遊びー	荒馬についての資料を読む。	2時間	基本の動きの復習。	2時間
4	「荒馬」の基本の動き②　ー一つ踏み、三つ踏み、足踏みー	基本の動きの確認。	2時間	基本の動きの復習。	2時間
5	馬をつけて、前半の動きのまとめと発表	基本の動きの確認。	2時間	前半部分の練習。	2時間
6	荒馬（後半）の動きの学習とペア学習	前半の通りの復習。	2時間	後半の踊りの練習。	2時間
7	身体の使い方の違いを知る動き（ペア）	後半の動きの復習。	2時間	踊りの練習。	2時間

	8	全体の構成づくりと踊りの練習	踊りの復習。	2 時間	全体の構成の確認と練習。	2 時間
	9	「正調ソーラン節」の学習①歴史と実践例	ソーラン節について調べる。	2 時間	ソーラン節の練習。	2 時間
	10	「正調ソーラン節」の学習②踊りを学ぶ	ソーラン節の復習。	2 時間	ソーラン節の練習。	2 時間
	11	模擬授業の指導案づくり	指導案の作成方法について参考資料を読む。	2 時間	授業指導案の作成。	2 時間
	12	模擬授業　その１（導入から動きの指導）	指導案の作成または練習。	2 時間	指導方法の要点をまとめる。	2 時間
	13	模擬授業　その２（導入から動きの指導）	指導案の作成または練習。	2 時間	指導方法の要点をまとめる。	2 時間
	14	荒馬の発表に向けての構成づくりと練習	発表に向けて練習。	2 時間	発表に向けて練習。	2 時間
	15	荒馬の発表（まとめと振り返り含む）	発表に向けて練習。	2 時間	授業のまとめをレポートに書く。	2 時間

成績評価	授業での取り組み 40%、模擬授業 30%、グループワーク・グループ討議 20%、課題・レポート 10%
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	授業中に踊りについての良い点、改善点を伝えていく。踊りの発表と模擬授業では、学生同士が互いに評価しフィードバックする。また教員からも同様に行う。課題レポートは授業外で返却する。
テキストおよび参考文献	小学校学習指導要領　第９節　体育 授業時に随時配布資料
メッセージなど	踊りが苦手な人も得意な人も”ともに踊る”楽しさや意味を感じ取れるよう、一生懸命に取り組んでください。 小学校教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 民族舞踊である「荒馬」「ソーラン節」の踊りの歴史を学び、基本動作を修得する。	歴史について理解し、基本動作を修得し、自分なりに表現し踊ることができる。	ほぼ基本動作を修得し、前に出て踊ることができる。	多少の間違いはあるが、基本動作を覚え、踊ることができる。	部分的には踊れるが、全体を通して踊ることができない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	40%
(2) 個人練習からグループ練習、そして発表までの授業づくりの流れを理解し、構成できる。	クラス全体での発表会の構成がイメージでき、提案できる。	ペア学習、グループ学習の取り組み方がわかり、良い視点で踊りを評価できる。	ペア学習の取り組み方がわかり、自分や他者の良い点を評価することができる。	個人練習はできるが、ペア以上の取り組みができない。自分や他者の良い点をみつけることができない。	グループワーク・グループ討議（意欲・思考力・創造性）	20%
(3) 模擬授業を行い、通して、表現運動の基本的な指導法について学習者、指導者の立場から意見を述べることができる。	動きや表現が「わかる」ための適切な言葉や指導方法を考え、指導することができる。	指導者の適切な向きがわかり、指導案を見ないで、指導内容を進めることができる。	部分的な踊りの指導案を計画することができ、大まかに指導することができる。	指導案の書き方がわからず、大まかな動きの指導ができない。	模擬授業（知識・理解・思考力・判断力・表現力・協同性・創造性）	30%
	動きや表現が「わかる」ための適切な言葉や指導方法を考え、指導することができる。	指導者の適切な向きがわかり、指導案を見ないで、指導内容を進めることができる。	部分的な踊りの指導案を計画することができ、大まかに指導することができる。	指導案の書き方がわからず、大まかな動きの指導ができない。	課題・レポート（知識・理解・問題解決力）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
家庭 Home Economics	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPTS1016	1 年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	2	選択	三時 貴久子	○

実務家教員の詳細	小学校教諭としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	
概　　要	小学校学習指導要領の「家庭」の目標および内容を理解する。教育実践に必要な知識と技術を習得する。全領域の教材を扱い、指導案の作成を練習し、模擬授業を体験する。模擬授業への検討・反省を通して教育実践への力を培いたい。	
到達目標	(1) 小学校家庭科の内容・指導上の留意点を分かりやすく説明できる。	
	(2) 実技指導に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。	
	(3) 模擬授業を行い、改善点を協議することができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	「家庭」の目標	指導要領解説（以下解説）5～10P を読んでおく	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
2	学習指導要領（目標・内容）	解説 12～19P を読んでおく	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
3	指導計画の作成・内容の取扱い	解説 71～81P を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
4	「家庭・家庭生活」の内容	解説 20～31P を読んでおく	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
5	「家族・家庭生活」の指導	児童用教科書の該当ページを読んでおく	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
6	食事の役割と調理の基礎	解説 34～43P を読んでおく	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間

	7	「食領域」の教材を使った調理実習① ・調理器具の取扱いとゆで方	児童用教科書の該当ページを読み、安全上の留意点をまとめておく	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	8	「食領域」の教材を使った実践研究	児童用教科書の該当ページを読んでおく	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	9	「食領域」の教材を使った調理実習② ・ごはんとみそ汁	児童用教科書の該当ページを読んで指導上の留意点をまとめておく	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	10	「消・費生活と環境」の構成	解説 64～70P を読んでおく	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	11	「消費生活」の基礎	児童用教科書の該当ページを読んでおく	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	12	「物や金銭の使い方と買い物」の指導	児童用教科書の該当ページを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	13	「環境に配慮した生活」の指導	児童用教科書の該当ページを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	14	家族・家庭生活についての課題の設定	解説 29～31P を読み、課題の設定例を考えておく	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	15	「家庭」と他教科との関連	解説 76～77P と児童用教科書の関連ページを読んでおく	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	「衣料域」の展開	解説 49～57P を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	17	「衣料域」の実技演習①	児童用教科書の該当ページを読んで安全上の留意点をまとめておく。	2 時間	授業で学んだ実技内容を再度実践する。	2 時間
	18	「衣領域」の実技演習② 手縫いの基礎	児童用教科書の該当ページを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	19	「布を用いた製作」材料と手順	児童用教科書の該当ページを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	20	「布を用いた製作」ミシンの基礎	児童用教科書の該当ページを読み、ミシン操作の手順を予習しておく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	21	「布を用いた製作」袋の製作①	児童用教科書の該当ページを読み、製作上の留意点をまとめておく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間

	22	「布を用いた製作」袋の製作②	児童用教科書の該当ページを読み、作品完成までの手順をまとめておく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	23	「住領域」の内容	解説 58～63P を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	24	「快適な住まい方」の指導	児童用教科書の該当ページを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	25	「食領域」の教材を使った調理実習③ いためる調理	児童用教科書の該当ページを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	26	「食領域」の教材を使った調理実習④ じゃがいも料理	児童用教科書の該当ページを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	27	指導案の作成の手順と演習	配付資料を読んでおく。	2 時間	模擬授業の準備をする。	2 時間
	28	模擬授業の実践と改善点の討議	共通課題の指導案を作成する。	2 時間	模擬授業で学んだことと改善点をまとめる。	2 時間
	29	模擬授業の実践と改善点の討議	共通課題の指導案を作成する。	2 時間	模擬授業で学んだことと改善点をまとめる。	2 時間
	30	「食領域」と家族のだんらん	児童用教科書の該当ページを読んでおく。	2 時間	家庭科授業の意義と重要性をまとめる。	2 時間

成　績　評　価	定期試験（35%）、課題・レポート（15%）、作品（35%）、指導案（8%）、授業への取り組み（7%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	評価できる点や改善点を、口頭又は文書で指導する。
テキストおよび参　考　文　献	小学校家庭科教科書・「小学校学習指導要領解説　家庭編」文部科学省 適宜、プリントを配布する。
メ　ッ　セ　ー　ジ　な　　ど	小学校家庭科は、誰の実生活にも役立つ基本を学びます。 小学校教諭二種免許：選択必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 小学校家庭科の内容・指導上の留意点を分かりやすく説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	不足している部分はあるが、説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	20%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	不足している部分はあるが、説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解）	10%
(2) 実技指導に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。	実習に積極的に参加し、基礎的な知識・技能を十分に身に付けている。	実習に参加し、基礎的な知識・技能を身に付けている。	基礎的な知識・技能は身に付けているが、作品製作には個別指導が必要である。	基礎的な知識・技能を十分身に付けていない。	定期試験（知識・理解）	20%
	実習に積極的に参加し、基礎的な知識・技能を十分に身に付けている。	実習に参加し、基礎的な知識・技能を身に付けている。	基礎的な知識・技能は身に付けているが、作品製作には個別指導が必要である。	基礎的な知識・技能を十分身に付けていない。	作品（関心・意欲・態度・技能・作品の完成度）	35%
(3) 模擬授業を行い、改善点を協議することができる。	模擬授業の指導案を書くことができ、授業後の協議で改善点を提案できる。	模擬授業の指導案を書くことができ、授業後の協議に参加できる。	模擬授業の指導案を書くことはできるが、改善点への意欲が不足している。	模擬授業の指導案を書くことができない。	指導案（思考力・表現力・問題解決力）	10%
	模擬授業の指導案を書くことができ、授業後の協議で改善点を提案できる。	模擬授業の指導案を書くことができ、授業後の協議に参加できる。	模擬授業の指導案を書くことはできるが、改善点への意欲が不足している。	模擬授業の指導案を書くことができない。	授業への取り組み（思考力・表現力・問題解決力）	5%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
外国語 Foreign Language（English）	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPTS1017	1年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	2	選択	熊　谷　　仁	○

実務家教員の詳細	中学校英語科教員としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	小学校における外国語活動・外国語科の授業実践に必要な実践的な英語運用力と英語に関する背景的な知識を身に付ける。	
到達目標	(1)-1) 授業実践に必要な聞く力を身に付けている。	
	(1)-2) 授業実践に必要な話す力［やり取り・発表］を身に付けている。	
	(1)-3) 授業実践に必要な読む力を身に付けている。	
	(1)-4) 授業実践に必要な書く力を身に付けている。	
	(2)-1) 英語に関する基本的な事柄（音声、語彙、文構造、文法、正書法等）について理解している。	
	(2)-2) 第二言語習得に関する基本的な事柄について理解している。	
	(2)-3) 児童文学（絵本、子供向けの歌や詩等）について理解している。	
	(2)-4) 異文化理解に関する事柄について理解している。	

	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
授業内容と進め方	1	オリエンテーション、シラバスを参照し、評価方法などを確認する。小学校における外国語活動・外国語科とはどのような内容か。外国語教育教科化の経緯と目的・理念など、これまでの歴史的背景も含めて学ぶ。	“Let’s Try! 1” Unit1を読んでくる。	1時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1時間
	2	授業実践に必要な、聞く、話す、読む、書く力とはどのようなものなのか。またどのように身につけるのか、今後の授業展開と見比べながら知る。	“Let’s Try! 1” Unit 2を読んでくる。	1時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1時間
	3	英語に関する基本的な事柄（音声、語彙、文構造、文法、正書法）の基本を知る。また、今後の授業内容と照らし合わせながら、どの内容がどの学習内容に対応するのかの説明を聞き本講義を通じて基本的な事柄をどのように身につけるかイメージできるようになる。	“Let’s Try! 1” Unit3を読んでくる。	1時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1時間

	4	第二言語習得理論に触れながら、第二言語の発達を学び、コミュニケーション（やりとりによる学習）の大切さを知る。	“Let’s Try! 1” Unit4 を読んでくる。	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1 時間
	5	教材研究① Let’s Try! 1 大文字の指導、文字の名称を正しく発音できるようになる。文字には音があることを知る（フォニックス）。	“Let’s Try! 1” Unit6 を読んでくる。	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1 時間
	6	小学校における外国語指導助手とのティーム・ティーチングについて理解する。クラスルームイングリッシュを知る。	“Let’s Try! 2” Unit1 を読んでくる	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1 時間
	7	外国語の授業で活用できる指導方法と指導技術について学ぶ。児童の発達段階と学習段階に合った望ましい指導について考える。	“Let’s Try! 2” Unit3 を読んでくる。	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1 時間
	8	英語の歌・チャンツの必要性とその指導について学ぶ。授業でどのような活動ができるか考える。	“Let’s Try! 2” Unit4 を読んでくる。	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1 時間
	9	教材や教具の選定・活用法を学ぶ。小学校のクラスサイズ、また児童の発達段階を踏まえた教材や教具を考える。 教材研究② Let’s Try! 2 既習事項や学習時期を考慮してどのような指導ができるか考える。	“Let’s Try! 2” Unit5 を読んでくる。	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1 時間
	10	英語の絵本を使った指導とその目的を学ぶ。異文化の指導と理解について知る。	絵本を探して内容を研究、授業に持参する。	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1 時間
	11	学習指導案の構成と作成について学び、模擬授業の準備をする。	Let’s Try! 1 のうち授業で取り上げていない Unit に目を通してくる。	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。模擬授業準備。	1 時間
	12	外国語活動模擬授業①とふり返り 模擬授業を行い、ピア評価し協議する。	模擬授業準備	1 時間	模擬授業準備とふり返り。文法や表現を復習する。	1 時間
	13	外国語活動模擬授業①とふり返り 模擬授業を行い、ピア評価し協議する。	模擬授業準備	1 時間	模擬授業準備とふり返り。文法や表現を復習する。	1 時間
	14	外国語活動模擬授業②とふり返り 模擬授業を行い、ピア評価し協議する。	模擬授業準備	1 時間	模擬授業準備とふり返り。文法や表現を復習する。	1 時間
	15	外国語活動模擬授業②とふり返り 模擬授業を行い、ピア評価し協議する。 学期の総復習。	模擬授業準備	1 時間	文法や表現を復習する。模擬授業と学期で学んだことのふり返り。	1 時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	既習事項のふり返りとシラバス・評価方法・授業の進め方などを再確認する。小・中・高の外国語教育における小学校英語の役割について考える。	Here We Go! 6 Let’s Start 1 を読んでくる。	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1 時間
	17	発達心理学と学習者要因について学ぶ。	Here We Go! 6 Unit 1 を読んでくる。	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1 時間
	18	シラバスとテキストの構成と内容について学ぶ。他国のテキストを知る。	Here We Go! 6 Unit 2 を読んでくる。	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1 時間

	19	指導目標、年間指導計画の立て方を具体例を参照するなどして学ぶ。	Here We Go! 6 Unit 3 を読んでくる。	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1 時間
	20	４技能習得の指導について学ぶ。文字指導について知る。	Here We Go! 6 Unit 4 を読んでくる。	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1 時間
	21	児童の学齢に合った望ましい活動について知る。条件や改善点、コミュニケーション・自己表現活動について学ぶ。	Here We Go! 6 Unit 5 を読んでくる。	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1 時間
	22	アクティブ・ラーニングと協働学習、学級担任による単独授業やティーム・ティーチングにおける留意点について学ぶ。	Here We Go! 6 Unit 6 を読んでくる。	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1 時間
	23	評価のあり方、進め方について学ぶ。様々な評価方法について知る。	Here We Go! 6 Unit 7 を読んでくる。	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1 時間
	24	授業づくりを学ぶ。事前準備、授業中、ふり返りに必要なこと、また教材研究、ALT や特別非常勤講師等の外部講師との打ち合わせの留意点を知る。	Here We Go! 6 Unit 8 を読んでくる。	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1 時間
	25	外国語の授業に適した歌・チャンツ・ゲーム、絵本指導を考える。	Here We Go! 6 Unit 9 を読んでくる。	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1 時間
	26	外国語の模擬授業で使用する Unit を決め、各自で準備する	Here We Go 6 全体の内容を確認してくる	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。模擬授業の準備。	1 時間
	27	外国語模擬授業①とふり返り 模擬授業を行い、ピア評価し協議する。	模擬授業の準備。	1 時間	模擬授業の準備。文法や表現を復習する。	1 時間
	28	外国語模擬授業①とふり返り 模擬授業を行い、ピア評価し協議する。	模擬授業の準備。	1 時間	模擬授業の準備。文法や表現を復習する。	1 時間
	29	外国語模擬授業②とふり返り 模擬授業を行い、ピア評価し協議する。	模擬授業の準備。	1 時間	模擬授業の準備。文法や表現を復習する。	1 時間
	30	外国語模擬授業②とふり返り 模擬授業を行い、ピア評価し協議する。 学期・１年間の学習事項の総復習	模擬授業の準備。	1 時間	文法や表現を復習する。既習事項のふり返り。	1 時間

成績評価	小テスト(40%), 模擬授業 (30%), 指導案 (20%), 授業への取り組み (10%)
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	一人一人確認する。
テキストおよび参考文献	『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　外国語活動・外国語編（平成 29 年 7 月　文部科学省）』開隆堂出版、Let's Try! 1, Let's Try! 2 （児童用）、Here We Go! 6（児童用）、『新編 小学校英語教育法入門（樋口忠彦他）』研究社 ISBN 978-4-327-41098-8
メッセージなど	外国語活動・外国語は、児童が学校で始めて英語に触れる大変重要な時間・時期です。みなさんが、言語の指導に留まらず、文化や積極性、価値観、など多くのことを伝える授業ができるようになるお手伝いをしたいと思っています。 小学校教諭二種免許状：必修

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 授業実践に必要な聞く力を身に付けている。	ほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違いがなく、聞く力を身に付けている。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を身に付けている。	身に付けていない。	テスト（知識・理解・技能）	10%
	ほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違いがなく、聞く力を身に付けている。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を身に付けている。	身に付けていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	5%
(1)-2) 授業実践に必要な話す力［やり取り・発表］を身に付けている。	ほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違いがなく、話す力を身に付けている。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を身に付けている。	身に付けていない。	模擬授業（技能・表現力）	10%
	ほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違いがなく、話す力を身に付けている。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を身に付けている。	身に付けていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	5%
(1)-3) 授業実践に必要な読む力を身に付けている。	ほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違いがなく、読む力を身に付けている。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を身に付けている。	身に付けていない。	模擬授業（技能）	10%
(1)-4) 授業実践に必要な書く力を身に付けている。	ほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違いがなく、書く力を身に付けている。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を身に付けている。	身に付けていない。	模擬授業（技能）	10%
(2)-1) 英語に関する基本的な事柄（音声、語彙、文構造、文法、正書法等）について理解している。	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解していない。	テスト（知識・理解・技能）	10%
	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解していない。	指導案（知識・理解）	10%
(2)-2) 第二言語習得に関する基本的な事柄について理解している。	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解していない。	テスト（知識・理解・技能）	10%
	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解していない。	指導案（知識・理解）	10%
(2)-3) 児童文学（絵本、子供向けの歌や詩等）について理解している。	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解していない。	テスト（知識・理解・技能）	5%
(2)-4) 異文化理解に関する事柄について理解している。	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解していない。	テスト（知識・理解・技能）	5%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
特別講義 Special Lecture	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPSL1001	1年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
講義	2	選択	中村 浩・加藤 浩久	○

実務家教員の詳細	中学校教員としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	本講義では、今の自分に何ができるかを問い、自分自身を多角的に分析し自己理解を深めることを目的とする。また、集団討論や小論文、面接を通して、将来の教育者としての基礎的な態度を養う。さらに、他者と対話することを通して、自己を表現する技術を身につけていく。	
到達目標	(1) 現在の教育課題について基礎的な知識を説明することができる	
	(2) 課題や他者との対話を通して、自分の意見を述べることができる	
	(3) 課題や他者との対話に対して、主体的に取り組むことができる	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション（中村）	—		本時の内容を振り返る。	2時間
2	情報収集、情報整理について（中村）	資料を読む。	2時間	時事問題を調べる。	2時間
3	教育に関する時事問題を紹介する（加藤）	発表資料を用意する。	2時間	本時の内容を振り返る。	2時間
4	集団討論(1)　教育課題全般について①（加藤）	テーマについて調べる。	2時間	本時の内容を振り返る。	2時間
5	集団討論(2)　教育課題全般について②（加藤）	テーマについて調べる。	2時間	本時の内容を振り返る。	2時間
6	小論文(1)　書き方を知る（中村）	テーマについて調べる。	2時間	もう一度書く。	2時間
7	小論文(2)　試作する①（中村）	テーマについて調べる。	2時間	もう一度書く。	2時間
8	小論文(3)　試作する②（中村）	テーマについて調べる。	2時間	もう一度書く。	2時間
9	小論文(4)　試作する③（中村）	テーマについて調べる。	2時間	もう一度書く。	2時間
10	集団討論(3)　道徳・学級活動について（加藤）	テーマについて調べる。	2時間	本時の内容を振り返る。	2時間
11	集団討論(4)　教採で出題されたテーマ（加藤）	テーマについて調べる。	2時間	本時の内容を振り返る。	2時間
12	自己推薦書を書く(1)（加藤）	自分について考える。	2時間	もう一度書く。	2時間

	13	自己推薦書を書く(2)（加藤）	自分について考える。	2 時間	本時の内容を振り返る。	2 時間
	14	講義・講師＝防府市教育委員会（中村）	資料を読む。	2 時間	本時の内容を振り返る。	2 時間
	15	本授業を振り返って（加藤）	自分について考える。	2 時間	本時の内容を振り返る。	2 時間

成　績　評　価	課題・レポート（20%）、グループワーク・グループ討議（20%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（60%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	計画書や振り返りレポートは、コメントを書いて返却する。提出物には、コメントを書いて返却する。
テキストおよび参　考　文　献	プリントを配布する。
メッセージなど	主体的に学ぶ学生を求めています。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 現在の教育課題について基礎的な知識を説明することができる	テーマについて、具体例を挙げながら説明することができる。	テーマについて、基礎的な意味を間違いなく説明することができる。	テーマについて、基礎的な意味を何とか説明することができる。	テーマについて、説明することができない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（知識・理解）	30%
(2) 課題や他者との対話を通して、自分の意見を述べることができる	自分の意見を十分に述べることができる。	自分の意見を概ね述べることができる。	自分の意見を何とか述べることができる。	自分の意見を述べることができない。	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	20%
	相手の意見を受け止め、自分の意見を十分に述べることができる。	相手の意見を受け止め、自分の意見を概ね述べることができる。	相手の意見を受け止め、自分の意見を何とか述べることができる。	自分の意見を述べることができない。	グループワーク・グループ討議（思考力・判断力・表現力・協働性）	20%
(3) 課題や他者との対話に対して、主体的に取り組むことができる	主体的に取り組むことができる。	概ね主体的に取り組むことができる。	最低限、課題に主体的に取り組むことができる。	主体的に取り組むことができない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・態度）	30%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
卒業研究 Graduation Research	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPGR2001	２年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	2	必修	中村 浩・加藤 浩久	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○

概　　要	子どもの教育に関する研究課題を自ら見つけ、その課題を解決するための方法を決定する。調査した結果をまとめ、検討する。さらに、今後の課題を見つけ出す。その成果を卒業研究発表会で、展示もしくは舞台で発表する。最後に、報告集にまとめる。
到達目標	(1) 適切なテーマを決め、研究計画が作成できる。
	(2) 各自のテーマに沿った内容で、研究活動を深めていくことができる。
	(3) 研究の内容を、他者にわかるように発表することができる。
	(4) 各自が発表した内容を原稿として文章にまとめることができる。
授業内容と進め方	授業内容
	令和５年度は、下記のようなテーマで研究が行われた ①　貴船祭で舞う僕　　―伝統文化の継承と課題― ②　スマホが及ぼす影響 ③　小学校における郷土学習の在り方について　　―地域の歴史を知り、子どもたちの郷土愛を育てる― ④　釣りと不法投棄が及ぼす影響 ⑤　小学校における ESD（持続可能な開発のための教育）の在り方について ⑥　個別最適な学びを目指して―インクルーシブ教育の視点から― ⑦　野村望東尼に学ぶひとすじの道 ⑧　やまぐちの教育　「過去・現在」

成　績　評　価	課題・レポート（20%）、授業への取り組み（50%）、発表・プレゼンテーション（10%）、その他（20%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	研究活動の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。レポートや発表は、ルーブリック評価の結果を渡す。
テキストおよび参考文献	必要に応じて自分自身で選択、購入すること
メッセージなど	２年間で学んだことの集大成となるよう取り組んで欲しいと思います。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 適切なテーマを決め、研究計画が作成できる。	何を明らかにしたいか、何を表現したいかという研究の目的を明確にし、研究方法を適切に選択できる。研究計画書に必要な内容を記載できる。	テーマを設定し、研究計画書に必要な内容をほぼ記載することができる。	テーマは設定したが、研究計画書の記載には不足している点が認められる。	テーマが設定できず、研究計画書の提出の提出がない。	課題・レポート（知識・理解）	20%
(2) 各自のテーマに沿った内容で、研究活動を深めていくことができる。	意欲を持ち、自ら考え、工夫し、指導教員からの助言・指導を受け入れて、研究を深めることができる。	ほぼ主体的に研究活動に取り組み、指導や助言を受け入れて研究を進めることができる。	研究活動に取り組む意欲はみられるが、自分で進めていこうとする力に欠けるところがある。	研究活動に取り組む姿勢がみられない。	授業への取り組み（意欲・思考力・表現力・創造性・協働性）	50%
(3) 研究の内容を、他者にわかるように発表することができる。	研究の成果を他者にわかりやすい方法で完璧に表現することができる。	ほぼ、わかりやすい方法で表現することができる。	わかりやすく表現するための工夫がやや不足している。	研究の成果を発表会で発表していない。	発表・プレゼンテーション（表現力）	10%
(4) 各自が発表した内容を原稿として文章にまとめることができる。	研究の成果を適切に文章にまとめることができる。	書式に従い、ほぼ必要な内容を文章に記述することができる。	誤字、脱字があり、記述内容が不明瞭であり、指導教員からの助言・指導を受ければ、報告集を提出できる。	報告集原稿提出なし。	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
現代教師論 Teaching Modern Teachers	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPBE1001	1年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	必修	中村 浩	○

実務家教員の詳細	教育委員会指導主事としての実務経験を生かした到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	国民の大きな負託の中で営まれる学校教育の社会的意義を認識するとともに、その担い手としての教職の意義・役割・職務内容、教育をとりまく現況や今日的課題などを明確に理解することを通して、教員に求められる基礎的な資質能力を身に付け、教職をめざす者としての確固たる覚悟を培う。	
到達目標	(1)-1) 学校教育の目的とその担い手である教職の存在意義を説明できる。	
	(1)-2) 教職の制度上の身分、専門職としての教員免許制度を自分の問題として説明できる。	
	(2)-1) 教職の勤務実態を調べ、他の職業と比較した職業的特殊性を説明できる。	
	(2)-2) 学校の担う役割が複雑化・多様化する中で、いわゆる「チーム学校」という組織の一員としての在り方を具体的にイメージできる。	
	(3)-1) 専門職としての身分保障、職務遂行の義務を踏まえて、生涯にわたって「学び続ける教師」であるための研修の全体像、権利と義務を具体的に説明できる。	
	(3)-2) 求められる教師像について考察し、めざす教師像を述べることができる。	
	(3)-3) 教育をとりまく今日的な諸課題を把握し、対応の仕方について具体的に述べることができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション ―現代教師論でなにを学ぶか―	シラバスを通して、現代教師論での学びのイメージを持つ。	1時間	授業を受けて自分なりの教師論について考える	
2	教員の身分① ―法的な身分、資格、免許状・免許更新制―	テキスト3ページから13ページまで読む。	1時間	法令問題等のプリントで復習する。	1時間
3	目指す教師像① ―子どもたちにどう向き合うか―	テキスト26ページから34ページまで読む。	1時間	子どもに向き合うために自分に足りないものは何かまとめる。	1時間
4	目指す教師像② ―演習「わたしの出会った先生」―	テキスト18ページ「好きだった先生嫌いだった先生」について考えをまとめてくる。	1時間	仲間の意見を振り返り自分の経験と比べる。	1時間

	5	目指す教師像③ ―求められる教師像・教師力―	採用試験を受ける県の「求める教師像」を調べる。	1 時間	「求める教師像」に近づくための戦略を整理する。	1 時間
	6	目指す教師像④ ―教師観の確立のために―	テキスト 165 ページから 180 ページまで読む。	1 時間	どのような教師を目指すか、考えを整理する。	2 時間
	7	教師の職務① ―勤務実態と教職の特殊性、教員の多忙―	「１日の教師の仕事」について想像し、メモしてくる。	1 時間	教師の多忙感について考えをまとめる。	1 時間
	8	教師の職務② ―「チーム学校」の一員・組織における役割―	テキスト 141 ページから 159 ページまで読む。	1 時間	「チーム学校」について考えをまとめる。	1 時間
	9	教育をとりまく現状と課題① ―不易の課題と流行の課題―	教育をとりまく問題について考え、メモしてくる。	1 時間	教育をとりまく多くの問題について分類し整理する。	2 時間
	10	教育をとりまく現状と課題② ―演習「課題に対応する力」１―	テキスト 185 ページから 218 ページまで読む。	2 時間	自分が関心のある課題について、発表に向けた戦略を考える。	2 時間
	11	教育をとりまく現状と課題③ ―演習「課題に対応する力」２―	自分が関心のある課題について、発表に向けた戦略を考える。	2 時間	課題への対応について、書物やインターネット等で調べる。	2 時間
	12	教育をとりまく現状と課題④ ―演習「課題に対応する力」３―	よりよい発表ができるように準備する。	2 時間	発表会を通して不足の部分や良さを整理する。	2 時間
	13	教員の身分② ―教員の任免―	テキスト 91 ページから 105 ページまで読む。	1 時間	法令問題等のプリントで復習する。	1 時間
	14	教員の身分③ ―研修・服務―	テキスト 91 ページから 105 ページまで読む。	1 時間	法令問題等のプリントで復習する。	1 時間
	15	まとめ ―教師をめざして―	現代教師論を終えるにあたって、今思うことを書いてくる。	1 時間	自己評価をもとに、今後の在り方について、考えをまとめる。	2 時間

成　績　評　価	定期試験（50%）、課題・レポート（50%）
課題（試験・レポート等）に対する フィードバックの方法	授業の振り返りシートにコメントを書き、次の授業時に返却する。
テキストおよび 参　考　文　献	テキスト：『現代の教師論　　ミネルバ書房　佐久間亜紀・佐伯胖（編書）　』 資料プリントはその都度配布
メッセージ な　　ど	「教師とはなにか」という原点に立ち、教職を目指す上での皆さん自身の課題の解明を中心に、「主体的で、対話的な、深い学び」を通して、自分の中にめざす教師像を創りあげていってほしいと願っています。 小学校教諭二種免許状：必修

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 学校教育の目的とその担い手である教職の存在意義を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(1)-2) 教職の制度上の身分、専門職としての教員免許制度を自分の問題として説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	15%
(2)-1) 教職の勤務実態を調べ、他の職業と比較した職業的特殊性を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(2)-2) 学校の担う役割が複雑化・多様化する中で、いわゆる「チーム学校」という組織の一員としての在り方を具体的にイメージできる。	ほぼ完璧にイメージできる。	認識に大きな間違いがなく、具体的にイメージできる。	認識の間違いはいくつかあるが、イメージできる。	イメージができていない。	課題・レポート（関心・意欲・態度・思考力・表現力）	10%
(3)-1) 専門職としての身分保障、職務遂行の義務を踏まえて、生涯にわたって「学び続ける教師」であるための研修の全体像、権利と義務を具体的に説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	15%
(3)-2) 求められる教師像について考察し、めざす教師像を述べることができる。	ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	大きな論理的な問題もなく、自分の考えを述べている。	認識にいくつか誤りがあり、誤字・脱字もあるが、最低限の自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	課題・レポート（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	20%
(3)-3) 教育をとりまく今日的な諸課題を把握し、対応の仕方について具体的に述べることができる。	ほぼ完璧に述べることができる。	大きな間違いがなく、具体的に述べることができる。	間違いはいくつかあるが、具体的に述べることができる。	具体的に述べることができていない。	課題・レポート（関心・意欲・思考力・表現力）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
学校教育の制度と経営 School Education System and School Management	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPBE2002	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	正長 清志	

実務家教員の詳細		
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	・教育制度論は教育実践と密接に関連しており、これを深めていくにはさまざまな学問への広い知識も求められる。それは日本国憲法や教育基本法、学校教育法など多数の法規や教育制度を通じて具体化されていくため、法規や制度はいわば教育の現場を下支えする役割を負っている。そこで、現代の教育制度に関するさまざまな状況を取り上げ、日々の学校教育の営みと教育に関する法規などがどのように関わっているのかを理解することで、教員として基礎知識を習得するとともに、教育実習をとおして実践に取り組んできたことをふり返りながら考察していく。また同時に、地域にとって学校がどういう役割を果たすべきかを、学校と地域との連携および学校安全への対応などに関わる時事的な教育問題を視野に入れながら講義を進める。	
到達目標	(1) 教育行政や教育法規の動向から、教育制度に関する基本的な用語を中心に知識を深める。	
	(2) 日々の学校教育の営みから教育に関する法規などと、どのように関わっているのかプレゼンテーションをする。	
	(3) 現在の教育制度に関する具体的な改善案を自らの学習からふり返り、適切な改善が考察できる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	社会の状況が学校に及ぼす影響		2 時間	課題レポート	2 時間
2	子どもを取り巻く生活環境の変化とこれに応じた教育政策の動向	第 1 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
3	日本の学校制度・教育制度をめぐる課題、海外の教育政策	第 2 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
4	教育行政と教育関連法規	第 3 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
5	学校組織のマネジメントー学校評価ガイドラインを基にー	第 4 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
6	学級経営の基本・学級経営のあり方と課題	第 5 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
7	教職員や学校外の関係者との協働と今日的課題 ーよりよい学校経営を目指してー	第 6 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
8	地域学校協働活動の推進に関する社会教育法の改正	第 7 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
9	地域学校協働活動とコミュニティ・スクール	第 8 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間

	10	コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の理念・役割	第 9 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
	11	学校の管理下で発生する事故や自然災害の実情、学校安全のめざすべき姿・学校安全の目標	第 10 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
	12	地域ぐるみの学校安全体制整備の実践事例	第 11 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
	13	学校保健安全法に基づく学校安全の推進に関する計画、学校安全計画及び危機管理マニュアルの策定	第 12 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
	14	危機管理と安全教育の取り組み事例、教育委員会とスクールカウンセラーが協働した緊急支援の事例をもとに	第 13 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
	15	「地域連携教育と学校安全」に関する現代的課題への対応	第 14 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間

成　績　評　価	課題・レポート（80%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（20%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	履修上の注意事項として、テキストを持参し、配付した資料を各自のファイルに整理し課題をふり返り、提出に備えてください。課題のフィードバックについては課題レポート提出後に解説を行います。質問は授業内で対応します。
テキストおよび参　考　文　献	【テキスト】 参考文献を提示するとともに、適宜資料を配付します。オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。 【持参物】　記録ファイル
メッセージなど	学校は、知識や技術の習得のみならず、友達や教員など同世代・異世代の多様な人々との出会いを通じて、子どもたちに豊かな成長を保障する場でもあるのです。ですから、教育実践としての教育実習をとおして実践に取り組んできたことをふり返りながら、積極的に自分の意見を発表しながら考察していきましょう。 小学校教諭二種免許状：必修

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 現在の教育制度に関する具体的な改善案を自らの学習からふり返り、適切な改善案がプレゼンテーションできる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 （関心・意欲・知識・理解）	20%
(2)教育行政や教育法規の動向から、教育制度に関する基本的な用語を中心に知識を深める。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート （知識・理解）	40%
(3) 日々の学校教育の営みから教育に関する法規などと、どのように関わっているのかを考察する。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート （思考力・判断力・表現力）	40%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
教育原論 Principles of Education	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPBE1003	1年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
講義	2	必修	中村 浩	○

実務家教員の詳細	教育委員会指導主事としての実務経験を生かした到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	教育の基本的概念や教育の理念について学び、教育を成り立たせている諸要因とそれら相互の関係を理解する。また、教育の歴史、思想や制度等を学び、これまでの教育及び学校の営みがどのように変遷してきたのかを理解し、学校を取り巻く今日的な教育課題について自分の考えや意見を述べることができる教師としての資質・能力を養う。	
到達目標	(1)-1) 教育原論とは何かが説明できる。	
	(1)-2) パスカルの言葉をもとに、教育とは何かについて説明できる。	
	(1)-3) 現代の学校・園制度ができた理由を、歴史的背景を踏まえて説明できる。	
	(1)-4) 教育方法の先人たちについて、その特色の概要を説明できる。	
	(2)-1) 古代から現代にいたる日本の教育の歴史を、時代ごとの特色を踏まえて説明できる。	
	(2)-2) 日本の教育の基本的なスタンスについて、学校教育法や教育基本法から説明できる。	
	(2)-3) 学校・園経営や学級経営の重要性を、具体的な事例をもとに説明できる。	
	(2)-4) 生徒指導や学習指導や保育活動について、その概要や考え方の基本を説明できる。	
	(2)-5) 教育評価について、それぞれの考え方の違いや評価方法について説明できる。	
	(2)-6) 社会教育や家庭教育について、その概要や考え方の基本を説明できる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーションで、これから学んでいく方向性を理解する。「教育原論とは何か」が明確になる。	「教育は、何のためにあるのか」の資料を読む。	2時間	教育原論の概要について、内容をまとめる。	2時間
2	パスカルや孔子の言葉をもとに「教育とは何か」を考える。	「教育とは何か」の資料を読む。	2時間	カントや孔子の教育に関する考えについて、内容をまとめる。	2時間
3	古代から現代までの教育の歴史を「学校・園はどのようにしてできたのか」の視点で探ることで理解する。	教育の歴史(欧米)の資料を読む。	2時間	欧米の教育の歴史の概要について、内容をまとめる。	2時間
4	ソクラテスからデューイまで「教育の先人たち」の概要を学ぶことで、教育方法の歴史を理解する。	教育方法の歴史(欧米)の資料を読む。	2時間	教育方法の歴史(欧米)の概要について、内容をまとめる。	2時間

	5	古代から現代の教育基本法に至る「日本の教育」の歴史の概要を学ぶことで、日本の教育の目的を理解する。	日本の教育の歴史の資料を読む。	2 時間	日本の教育の歴史の概要をまとめる。	2 時間
	6	日本の学校教育・幼児教育の法的根拠を、演習問題を解くことで理解する。	学校教育と法規の資料を読む。	2 時間	学校教育に関する諸法規についてまとめる。	2 時間
	7	学校・園制度のあり方について、日本とドイツの違いから考察する。文部科学省と教育委員会、学校・園の関係を理解する。	学校制度と教育行政の資料を読む。	2 時間	学校制度のあり方について、内容をまとめる。	2 時間
	8	学校・園の責任者としての校長・園長の視点を通して、学校・園経営の仕組みや運営のあり方について理解する。	学校経営の資料を読む。	2 時間	学校経営のしくみや学校運営について、内容をまとめる。	2 時間
	9	学級担任になったつもりで「安心安全でいじめのない学級づくり」について、グループ学習で考えをまとめる。	学級経営の資料を読む。	2 時間	いじめのない学級づくりについて考え、内容をまとめる。	2 時間
	10	グループ学習での成果を発表し合うことで､担任としてもつべき｢学級経営の基本的な構えと手だて」について理解する。	子どもの学級力の育成の資料を読む。	2 時間	学級経営の基本についてまとめる。	2 時間
	11	生徒指導の原理と方法について生徒指導提要をもとに学び、「生徒指導とは何か｣について理解する。	生徒指導提要を読む。	2 時間	生徒指導とは何かについてまとめる。	2 時間
	12	学習指導や保育指導の原理と方法について具体的な授業例から学び、「授業とは何か」について理解する。	授業研究の資料を読む。	2 時間	授業づくりの基本について、内容をまとめる。	2 時間
	13	教育評価にまつわる基礎知識を学び、絶対評価と相対評価の考え方の違いやＰＤＣＡの意味について理解する。	教育評価の資料を読む。	2 時間	教育評価の基本についてまとめる。	2 時間
	14	教育の原点としての家庭教育のあり方について、具体的な事例をもとに考える。	家庭教育のあり方の資料を読む。	2 時間	家庭教育のあり方について、自分のことにあてはめて考え、内容をまとめる。	2 時間
	15	社会教育についての考え方の変遷について学び、生涯学習時代を生き抜く知恵について考える。	社会教育の資料を読む。	2 時間	社会教育についての基本をまとめる。	2 時間

成績評価	定期試験（50%）、授業への取り組み（50%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。
テキストおよび参考文献	テキスト：『やさしい教育原理』有斐閣アルマ 参考文献：『小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月　文部科学省）』東洋館出版、『幼稚園教育要領解説　（平成 30 年 3 月　文部科学省）』フレーベル館 『問いからはじめる教育学』有斐閣ストゥディア
メッセージなど	教育の根本的な理論について、その概要を学ぶ。授業 教育の未来について、考える楽しみを味わいながら、理解を深める授業 小学校教諭二種免許状：必修

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 教育原論とは何かが説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	2%
(1)-2) パスカルの言葉をもとに、教育とは何かについて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	5%
(1)-3) 現代の学校制度や幼児教育制度ができた理由を、歴史的背景を踏まえて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	5%
(1)-4) 教育方法の先人たちについて、その特色の概要を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	5%
(2)-1) 古代から現代にいたる日本の教育の歴史を、時代ごとの特色を踏まえて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	5%

(2)-2) 日本の教育の基本的なスタンスについて、学校教育法や教育基本法の条文から説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	5%
(2)-3) 学校・園の経営や学級経営の重要性を、具体的な事例をもとに説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	7%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	8%
(2)-4) 生徒指導・学習指導・保育活動について、その概要や考え方の基本を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	5%
(2)-5) 教育評価について、それぞれの考え方の違いや評価方法について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	5%
(2)-6) 社会教育や家庭教育について、その概要や連携について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	5%
	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	5%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
教育心理学 Educational　Psychology	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPBE1004	１年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	必修	馬場 弓歌	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	心理学の中でも教育分野に関連する内容を学ぶ。 学習・記憶・発達など教育に関連する基本的な内容を学習する。 学校内の様々事象・問題を心理学的視点から考える。	
到達目標	(1)教育心理学の理論および基礎知識について説明できる。	
	(2)教育場面での応用、実践的な対応方法、評価方法について、説明できる。	
	(3)現代社会における教育上の問題について心理学的観点から理解し説明できる。	

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	教育心理学とは何か概要を知る	—		配布資料の内容をまとめる。	2 時間
2	教育心理学の歴史を理解する	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
3	学習理論について理解する	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
4	動機づけの種類と重要性を理解する	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
5	教育と発達（レディスネス）について理解する	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
6	学習方法について学ぶ	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
7	記憶のメカニズムについて学ぶ	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
8	教師・児童関係の重要性を理解する	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
9	学童期の発達特徴と課題を学ぶ	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
10	児童の評価方法を学ぶ	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
11	基本的な統計法を学び評価を実践する	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
12	教育現場でのカウンセリング的かかわりについて学ぶ	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
13	学校で起こる様々な問題（不登校・いじめ）について学ぶ	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
14	学校で起こる様々な問題（非行・その他）について学ぶ	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間

	15	特別な支援が必要な児童への対応を学ぶ	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間

成　績　評　価	定期試験（50%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（50%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	毎時の課題はコメントを書いて返却する。 試験はルーブリック評価に基づき結果を示す。
テキストおよび参　考　文　献	参考図書 『小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省』東洋館出版 杉本明子・西本絹子・布施光代（2019）理論と実践をつなぐ教育心理学　みらい
メッセージなど	教育や子どもたちの抱える問題を心理学的視点から眺め、把握する力を身につけ理解を深めていきましょう。 小学校教諭二種免許状：必修，ピアヘルパー受験資格：必修

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)教育心理学の理論および基礎知識について説明できる。	教育心理学の理論や基礎知識について十分に説明することができる。	教育心理学の理論や基礎知識について概ね説明することができる。	教育心理学の理論や基礎知識について最低限の説明ができる。	教育心理学の理論や基礎知識について説明することができない。	定期試験（知識・理解・思考力）	20%
	内容について、自分の意見をもち、それを十分に表現することができる。	内容について、自分の意見をもち、それを概ね表現することができる。	内容について、自分の意見をもっているが、表現が不十分である。	内容について、自分の意見をもてず、表現できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	20%
(2)教育場面での応用、実践的な対応方法、評価方法について、説明できる。	教育場面での応用、実践的な対応方法、評価方法について十分に説明することができる。	教育場面での応用、実践的な対応方法、評価方法について概ね説明することができる。	教育場面での応用、実践的な対応方法、評価方法について最低限の説明ができる。	教育場面での応用、実践的な対応方法、評価方法について説明することができない。	定期試験（知識・理解・思考力）	15%
	内容について、自分の意見をもち、それを十分に表現することができる。	内容について、自分の意見をもち、それを概ね表現することができる。	内容について、自分の意見をもっているが、表現が不十分である。	内容について、自分の意見をもてず、表現できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	15%
(3)現代社会における教育上の問題について心理学的観点から理解し説明できる。	現代社会における教育上の問題について心理学的観点から十分に説明することができる。	現代社会における教育上の問題について心理学的観点から概ね説明することができる。	現代社会における教育上の問題について心理学的観点から最低限の説明ができる。	現代社会における教育上の問題について心理学的観点から説明することができない。	定期試験（知識・理解・思考力）	15%
	内容について、自分の意見をもち、それを十分に表現することができる。	内容について、自分の意見をもち、それを概ね表現することができる。	内容について、自分の意見をもっているが、表現が不十分である。	内容について、自分の意見をもてず、表現できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	15%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
児童心理学 Child Psychology	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPBE1005	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	馬場 弓歌	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○

概　　要	児童期における児童の心身の発達、発達課題について学ぶ。発達の連続性、幼児期からの継続、青年期への移り変わりについて理解する。児童の子どもの心の、問題、関わりの基礎について学ぶ。
到達目標	(1)児童の心身の発達の課程および特徴を理解する。
	(2)児童の学習の基本的知識を身につけ，発達を踏まえた上での関わりについて学ぶ。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	児童心理学とは何かその特徴を理解する			本時の内容をまとめる。	2 時間
2	乳幼児期の発達を理解する	キーワードから印象を書く。	2 時間	テキストの該当箇所を読む。	2 時間
3	児童の身体的発達について理解する	キーワードから印象を書く。	2 時間	テキストの該当箇所を読む。	2 時間
4	現代の児童の生活特徴を理解する	キーワードから印象を書く。	2 時間	テキストの該当箇所を読む。	2 時間
5	児童期の運動機能の発達を理解する	キーワードから印象を書く。	2 時間	テキストの該当箇所を読む。	2 時間
6	代表的な発達段階と児童期の位置づけを学ぶ	キーワードから印象を書く。	2 時間	テキストの該当箇所を読む。	2 時間
7	言語・思考の発達について学ぶ	キーワードから印象を書く。	2 時間	テキストの該当箇所を読む。	2 時間
8	認知の特徴を理解する	キーワードから印象を書く。	2 時間	テキストの該当箇所を読む。	2 時間
9	自己・自我の発達を理解する	キーワードから印象を書く。	2 時間	テキストの該当箇所を読む。	2 時間
10	仲間関係と集団行動（遊びの発達）を学ぶ	キーワードから印象を書く。	2 時間	テキストの該当箇所を読む。	2 時間
11	学校生活と児童の発達の関連を知る	キーワードから印象を書く。	2 時間	テキストの該当箇所を読む。	2 時間
12	学年ごとの発達の違いを知る（低学年を中心に）	キーワードから印象を書く。	2 時間	テキストの該当箇所を読む。	2 時間
13	学年ごとの発達の違いを知る（高学年を中心に）	キーワードから印象を書く。	2 時間	テキストの該当箇所を読む。	2 時間

	14	青年期への接続について学ぶ	キーワードから印象を書く。	2時間	テキストの該当箇所を読む。	2時間
	15	児童を取り巻く環境の変化と子どもの変化について考える	キーワードから印象を書く。	2時間	テキストの該当箇所を読む。	2時間

成績評価	定期試験（50%）、授業への取り組み（50%）
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	課題はコメントを書いて返却する。 定期試験はルーブリック評価に基づいて結果を示す。
テキストおよび参考文献	プリントを配布する。 購入図書は第１回オリエンテーションにてお伝えします。 ピアヘルパーの受験希望者は，日本教育カウンセラー協会が出版しているハンドブックとワークブックの購入が必要です。
メッセージなど	児童期の子どもの心身面の発達特徴を知るとともに、生涯における児童期の重要性を眺めていきましょう。 小学校教諭二種免許状：選択科目、ピアヘルパー受験資格：必修

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 児童の心身の発達の課程および特徴を理解する。	児童の心身の発達の課程および特徴について十分に説明することができる。	児童の心身の発達の課程および特徴について概ね説明することができる。	児童の心身の発達の課程および特徴について最低限の説明はできる。	児童の心身の発達の課程および特徴について説明することができない。	定期試験 （知識・理解・思考力）	25%
	これまでの経験や知識と関連づけて、自分の考えを十分に述べることができる。	これまでの経験や知識と関連づけて、自分の考えを概ね述べることができる。	これまでの経験や知識と関連づけているが、自分の考えを述べることが不十分である。	これまでの経験や知識と関連づけることができず、自分の考えを十分に述べることができない。	授業への取り組み （関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	25%
(2) 児童の学習の基本的知識を身につけ，発達を踏まえた上での関わりについて学ぶ。	児童の学習の基本的知識を身につけ，発達を踏まえた上での関わりについて十分に説明することができる。	児童の学習の基本的知識を身につけ，発達を踏まえた上での関わりについて概ね説明することができる。	児童の学習の基本的知識を身につけ，発達を踏まえた上での関わりについて最低限の説明をすることができる。	児童の学習の基本的知識を身につけ，発達を踏まえた上での関わりについて説明することができない。	定期試験 （知識・理解・思考力）	25%
	これまでの経験や知識と関連づけて、自分の考えを十分に述べることができる。	これまでの経験や知識と関連づけて、自分の考えを概ね述べることができる。	これまでの経験や知識と関連づけているが、自分の考えを述べることが不十分である。	これまでの経験や知識と関連づけることができず、自分の考えを十分に述べることができない。	授業への取り組み （関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	25%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年 次	期 別
初等教育課程論 Lecture on Curriculum Theory	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPBE1006	１年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	加藤 浩久	○

実務家教員の詳細	教育委員会指導主事としての実務経験を生かした到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	教育課程の原理及び教育課程の編成と管理について学び、学校における教育指導計画の価値がわかり、その作成方法について理解する。 小学校教育を法的根拠や学習指導要領からとらえるとともに、教育課程編成をめぐる今日的な教育課題についての認識を深める。	
到達目標	(1)戦後の学習指導要領の変遷について説明できる。	
	(2) 現行の学習指導要領を「育成したい資質・能力」の面から説明できる。	
	(3)現行の学習指導要領を「習得させたい見方・考え方」の面から説明できる。	
	(4)現行の学習指導要領を「主体的・対話的で深い学び」の面から説明できる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	教育課程をめぐる様々な問題の中でも学力との関係について理解する。	学習指導要領の総則編を読む。	2 時間	改訂の主旨について振り返る。	2 時間
2	教育課程の基準、編成及び実施の概要について理解する。	学習指導要領の総則編を読む。	2 時間	教育課程編成の法的根拠について確認する。	2 時間
3	教育課程を通して育成すべき資質・能力について理解する。	学習指導要領の総則編を読む。	2 時間	知識及び技能、思考力、判断力、表現力等、学びに向かう人間性等	2 時間
4	教育課程における道徳教育の位置づけについて理解する。	学習指導要領の総則編を読む。	2 時間	道徳科の内容項目教科における道徳教育の在り方を振り返る。	2 時間
5	経験主義からの影響を受けた戦後最初の教育課程について理解する。	「第２章の１」を読む。	2 時間	社会科、家庭科、自由研究について振り返る。	2 時間
6	経験主義から系統性重視への転換について理解する。	「第２章の２」を読む。	2 時間	特設道徳や学力論争について振り返る。	2 時間

	7	系統性重視から教育の現代化への転換について理解する。	「第２章の３」を読む。	2 時間	学力テストと能力論争、教育内容の精選について振り返る。	2 時間
	8	教育の現代化から人間性重視への転換について理解する。	「第２章の４」を読む。	2 時間	基準の大綱化とゆとり、知・徳・体の調和について振り返る。	2 時間
	9	人間性重視から新しい学力観の追求への転換について理解する。	「第２章の５」を読む。	2 時間	新しい学力観、選択教科について振り返る。	2 時間
	10	新しい学力観から確かな学力への転換について理解する。	「第２章の６」を読む。	2 時間	総合的な学習の時間や選択幅の拡大について振り返る。	2 時間
	11	確かな学力から活用能力への転換について理解する。	「第２章の７」を読む。	2 時間	活用能力重視、国際水準のリテラシーについて振り返る。	2 時間
	12	活用能力から主体的・対話的で深い学びへの転換について理解する。	「第２章の８」を読む。	2 時間	キーコンピテンシーと資質・能力の三つの柱について振り返る。	2 時間
	13	主体的・対話的で深い学びとカリキュラム・マネジメントとの関係について理解する。	総則編を読む。	2 時間	授業の重要性について振り返る。	2 時間
	14	諸外国の教育課程改革の動きから日本の教育課程について理解する。	「第９章」を読む。	2 時間	「優秀性」を求める改革、資格試験等を振り返る。	2 時間
	15	具体例を基に、教育課程の今日的課題について理解する。	「第８章」を読む。	2 時間	市民性、環境教育について振り返る。	2 時間

成　績　評　価	定期試験（28%）、授業への取り組み（32%）、グループワーク・グループ討議（40%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：『新しい時代の教育課程』有斐閣アルマ 参考文献：『小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）』東洋館出版
メッセージなど	小学校教育について、教育課程の編成（指導計画の作成）の観点から、基本的なことを学ぶ授業 小学校教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)戦後の学習指導要領の変遷について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	5%
(2) 現行の学習指導要領を「育成したい資質・能力」の面から説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	15%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	15%
(3)現行の学習指導要領を「習得させたい見方・考え方」の面から説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	15%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	15%
(4)現行の学習指導要領を「主体的・対話的で深い学び」の面から説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	15%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	15%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
国語科指導法 Teaching Methods of Japanese Language	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPTS2018	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	必修	中村 浩	○

実務家教員の詳細	中学校国語科教員としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	授業を実践に際しての指導事項との関連を踏まえた教材分析上の観点を学ぶ。 典型的な教材を例に、教材の構造と内容の把握、精査と解釈について実践的に学ぶ。 〔知識及び技能〕と〔思考力、判断力、表現力等〕の二つの柱を意識して授業を設計する。 「言語による見方・考え方」を念頭に置いた授業実践のあり方を、ＩＣＴを適宜活用しながら、具体的な方法として身に付ける。	
到達目標	(1)-1) 教材に対する学習者の初発の捉え方を分類・考察することができる。	
	(1)-2) 学習者の初発の感想を基に、教材の中核に迫る「問い」を予測することができる。	
	(1)-3) 学習者相互の対話を成立させる教材のキーワードを捉えることができる。	
	(1)-4) 授業の流れを「板書計画」という形で構想することができる。	
	(2)-1) 対象をどういう言葉で表現しているかで教材の特質を説明できる。	
	(2)-2) 話し手や作者・筆者がなぜそのような表現をしているのかその意図が説明できる。	
	(2)-3) 伏線やオノマトペ等の表現技法で登場人物のどういう状況を表しているか説明できる。	
	(2)-4) 文章の論展開のためにどういう工夫をしているか表現の仕方を基に説明できる。	
	(3)-1) 「導入部」における「問い」を学習者に意味づけできる。	
	(3)-2) 「展開部」における「対話」が成立するための条件を整えることができる。	
	(3)-3) 授業全体の学習の流れが学習者に理解できる「板書」を作成することができる。	
	(3)-4) 学習過程での「形成的評価」で様々な手立てを工夫することができる。	
	(3)-5) 「終末部」における「授業評価（自己評価）」を具体的に講じることができる。	
	(4)-1) どの言葉（表現）で話や文章が理解できたとしているかを掴むことができる。	
	(4)-2) 話や文章の中で言葉の価値に気付いた発言をしているかを掴むことができる。	
	(4)-3) 既習の言葉に新たな意味を見出した発言をしているかを見定めることができる。	
	(4)-4) 「振り返り」の中でだれの言葉で考えが深まったとしているかを見取ることができる。	

	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
授業内容と進め方	1	教材研究って何？①―新見南吉「あめだま」の構造を考える。	教材文を読み、授業内容を概観する。	1 時間	「あめだま」の結末の予測ができた訳を表現に求める。	2 時間
	2	教材研究って何？②―新見南吉「あめだま」における「問いづくり」を中心にして「アクティブ・ラーニング」を体験する。	前時に書いた考えを基に予測の理由が説明できるよう準備する。	1 時間	「教材を教材として捉える」ことを整理する。	2 時間
	3	「国語」を教える意味？―国語科の目標、三つの構造を復習する。	学力の三層との関係で「目標」について考えておく。	1 時間	「学力観の変遷」と関わらせ整理する。	2 時間
	4	低学年教材「お手紙」―登場人物の背負っている表現を掴む。	学習指導要領を基に「説明」について考えておく。	1 時間	教材構造図に沿って「お手紙」の特徴を整理する。	2 時間
	5	低学年教材「どうぶつの赤ちゃん」―「説明」とは何かを掴む。	学習指導要領の「指導事項のウ」を読んでおく。	1 時間	教材文中から「説明」に気付かせる発問を考える。	1 時間
	6	中学年教材「ありの行列」―キーワードで段落相互の関係を掴む。	段落相互の関係を掴むキーワードを探しておく。	2 時間	ワークシートを軸に「学習の流れ」を考える。	2 時間
	7	中学年教材「つり橋わたれ」―心情・情景の「変化」を掴む。	「変化」をキーワードに音読し、概観しておく。	2 時間	教材構造図に沿って発問を考える。	2 時間
	8	高学年教材「イースター島にはなぜ森林がないのか」―「問題提起」の答え―文章全体の論理の展開の仕方を掴む。（電子黒板の活用）	「問題提示の解答はどこに」の答えとその理由を考えておく。	2 時間	内容読解に際してのキーワードを、教材構造図を基に説明できるように復習する。	2 時間
	9	高学年教材「海のいのち」―「クライマックス」の場面を見つけその根拠を語り合うことで「精査と解釈」の仕方を学ぶ。（電子黒板の活用）	「クライマックスはどこか」を考えながら音読しておく。	2 時間	電子黒板の利用法や利用場面について考えを整理する。	2 時間
	10	教材研究から学習指導案の作成へ①学習指導案のしくみを知る。	例示された学習指導案」を読み特徴を掴んでおく。	1 時間	授業の三要素を踏まえ「指導案のしくみ」を整理する。	2 時間
	11	教材研究から学習指導案の作成へ②低学年教材「ニャーゴ」で教材構造図を作成する。	学習指導案づくりの対象となる「ニャーゴ」の教材研究をしておく。	2 時間	授業中に示された構造図作成の手順を基に作成する。	2 時間
	12	教材研究から学習指導案の作成へ③低学年教材「ニャーゴ」で学習指導案を作成する。	先例をヒントにして自分の学習指導案の素案を考えておく。	2 時間	授業中の班別の話し合いを参考に指導案を作成する。	3 時間
	13	学習指導案の作成から授業実践へ①各自の作成した学習指導案を基にプロジェクターでプレゼンテーションを行う。	一人 10～15 分で要点発表の準備をする。	2 時間	仲間の発表や指導者の評を参考にして完成させる。	2 時間
	14	学習指導案の作成から授業実践へ②各自の作成した学習指導案をもとにプロジェクターでプレゼンテーションを行なう。	一人 10～15 分で要点発表の準備をする。	2 時間	仲間の発表や指導者の評を参考にして完成させる。	2 時間
	15	授業の総括―望ましい反応の取り上げ方の映像と各プレゼンテーションを比較し、教師による「反応喚起・反応解釈・反応組織」についてレポートする。	教師と児童との遣り取りの例を軸に、「教師の出番」について考えておく。	2 時間	最後の指導者の解説を基に「教師の出番」についてレポートを書く。	2 時間

成　績　評　価	毎回の授業の感想・振り返り（48%）、毎回の授業課題（52%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	①授業後の感想を提出させ、それへのコメントを書き、次時に返却する。 ②各自の提出した「教材構造図」「学習指導案」「授業全般の感想レポート」等を提出させ、それへのコメント・評定を示して、後日返却する。
テキストおよび参　考　文　献	『小学校指導要領（平成 29 年告示）解説　国語編（平成 29 年 7 月文部科学）』 和田征文・渡邉亮太編著『教育実習の研究』山口短期大学 『平成 29 年度小学校学習指導要領ポイント総整理・国語』吉田裕久･水戸部修治東洋館出版社
メッセージなど	今日的な教育課題の「アクティブ・ラーニング」を意識した授業展開。後期の教育実習に繋がる授業技術を実践的な形で学ぶ授業。 小学校教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)「言葉による見方・考え方」を軸に授業を構想する要件を理解することができる。	授業を構想する要件を十分に理解することができる。	授業を構想する要件を凡そ理解することができる。	授業を構想できるが、要件を理解することが不十分である。	授業を構想する要件を理解することができない。	毎回の授業の感想・振り返り（関心・意欲・思考力･判断力･表現力）	12%
	授業を構想する要件を十分に理解することができる。	授業を構想する要件を凡そ理解することができる。	授業を構想できるが、要件の理解が不十分である。	授業を構想する要件を理解することができない。	毎回の授業課題（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	13%
(2)「思考力･判断力・表現力等」を育成することに繋がる教材の捉えができる。	諸能力を育成することに繋がる教材の捉えが十分できる。	諸能力を育成することを意識した教材の捉えができる。	諸能力を育成することに繋がる教材の捉え方に努めている。	諸能力を育成することに繋がる教材の捉えが十分でない。	毎回の授業の感想・振り返り（関心・意欲・思考力･判断力･表現力）	12%
	諸能力の育成に繋がる教材の捉えが十分できる。	諸能力の育成を意識した教材の捉えができる。	諸能力の育成に繋がる教材の捉え方に努めている。	諸能力の育成に繋がる教材の捉えが十分でない。	毎回の授業課題（関心・意欲・思考力･判断力･表現力）	13%
(3)「主体的･対話的で深い学び」実現のための学習過程を設計することができる。	「主体的・対話的で深い学び」実現のための学習過程を十分設計できる。	「主体的・対話的で深い学び」を意識した学習過程を設計できる。	「主体的・対話的で深い学び」に触れた学習過程を設計できる。	「主体的・対話的で深い学び」実現のための学習過程を設計できない。	毎回の授業の感想・振り返り（関心・意欲・思考力･判断力･表現力）	12%
	「主体的・対話的で深い学び」実現のための学習過程を十分設計できる。	「主体的・対話的で深い学び」を意識した学習過程を設計できる。	「主体的・対話的で深い学び」に触れた学習過程を設計できる。	「主体的・対話的で深い学び」実現のための学習過程を設計できない。	毎回の授業課題（関心・意欲・思考力･判断力･表現力）	13%
(4)「言葉による見方・考え方」が働いている学習状況を学習者の姿で捉えることができる。	「言葉による見方･考え方」が働く学習状況を学習者の姿で捉えられる。	「言葉による見方･考え方」が働く学習状況を意識して学習者の姿で捉えられる。	「言葉による見方･考え方」が働く学習状況を学習者の姿で捉えようとしている。	「言葉による見方･考え方」が働く学習状況を学習者の姿で捉えることができない。	毎回の授業の感想・振り返り（関心・意欲・思考力･判断力･表現力）	12%
	「言葉による見方･考え方」が働く学習状況を学習者の姿で捉えられる。	「言葉による見方･考え方」が働く学習状況を意識して学習者の姿で捉えられる。	「言葉による見方･考え方」が働く学習状況を学習者の姿で捉えようとしている。	「言葉による見方･考え方」が働く学習状況を学習者の姿で捉えることができない。	毎回の授業課題（関心・意欲・思考力・判断力・表現）	13%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年 次	期 別
社会科指導法 Teaching Methods of Social Studies	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPTS2019	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	加藤 浩久	○

実務家教員の詳細	中学校社会科教員としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	社会科の教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実践と授業検討等を通して、公民的資質の基礎と養う社会科のＩＣＴを活用した「授業のつくり方」と「授業のしかた」についての基礎・基本を学ぶ。 社会科の学習指導者としての使命感と実践力を身につけて、教壇に立つ準備ができる。	
到達目標	(1) 現行の学習指導要領の趣旨を理解し社会科の学習過程を構想できる。	
	(2) 作成した指導案に基づいて、模擬授業を行うことができる。	
	(3) 現行の学習指導要領の趣旨を踏まえて、実施した模擬授業を相互評価し改善できる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	社会科の目標を構造的にとらえるとともに、構想する学習過程への生かし方を構想する。	学習指導要領解説社会編の目標を読む。	2 時間	社会科の目標の構造と意味を振り返る。	2 時間
2	社会科の基本的な学習過程の構造について考察する。	学習指導要領や教科書を読む。	2 時間	社会科の授業の基本構造を振り返る。	2 時間
3	「主体的・対話的で深い学び」における「深い学び」が可能となる学習過程について構想する。	学習指導要領の総則編や教科編を読む。	2 時間	「深い学び」の実現方法について考察する。	2 時間
4	「育成したい資質・能力」を意識した学習過程について考察する。	学習指導要領の総則編や教科編を読む。	2 時間	配布された指導案の中に育成したい「資質・能力」を見付ける。	2 時間
5	「習得させたい見方・考え方」を意識した学習過程につ	学習指導要領の総則編	2 時間	配布された指導案の中	2 時間

		いて考察する。	や教科編を読む。		に「習得させたい見方・考え方」を見付ける	
	6	社会科への接続を意識した生活科のカリキュラムについて考察する。	学習指導要領の総則編や教科編を読む。	2 時間	社会科と生活科の望ましい関係について考察する。	2 時間
	7	小学校第３学年の題材を一つ選択し、学習指導要領の趣旨を踏まえた学習過程について考察する。	学習指導要領の総則編や教科編を読む。	2 時間	学習指導案を作成する。	2 時間
	8	小学校第４学年の題材を一つ選択し、学習指導要領の趣旨を踏まえた学習過程について考察する。。	学習指導要領の総則編や教科編を読む。	2 時間	学習指導案を作成する。	2 時間
	9	小学校第５学年の題材を一つ選択し、学習指導要領の趣旨を踏まえた学習過程について考察する。	学習指導要領の総則編や教科編を読む。	2 時間	学習指導案を作成する。	2 時間
	10	小学校第６学年の題材を一つ選択し、学習指導要領の趣旨を踏まえた学習過程について考察する。	学習指導要領の総則編や教科編を読む。	2 時間	学習指導案を作成する。	2 時間
	11	作成した指導案を基に、模擬授業を実施する。	学習指導案を作成し、授業のイメージトレーニングをする。	2 時間	模擬授業を振り返り、指導案を修正する。	2 時間
	12	作成した指導案を基に、模擬授業を実施する。	学習指導案を作成し、授業のイメージトレーニングをする。	2 時間	模擬授業を振り返り、指導案を修正する。	2 時間
	13	実施した模擬授業を基に、学習過程を改善する。	自分の模擬授業を振り返る。	2 時間	相互評価を基に更に指導案を修正する。	2 時間
	14	実施した模擬授業を基に、学習過程を改善する。	自分の授業を振り返る。	2 時間	相互評価を基に更に指導案を修正する。	2 時間
	15	これまでの学習を基に、社会科のあるべき学習過程の姿について考察する。	これまでの授業を振り返る。	2 時間	相互評価を基に更に指導案を修正する。	2 時間
成　績　評　価		定期試験（10%）、指導案（60%）、模擬授業（30%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。レポートは、ルーブリック評価の結果を渡す。				

テキストおよび参考文献	テキスト：授業時に資料を配布する。 参考文献：『小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）』、『小学校社会科教科書』東京書籍　『小学校社会科教科書』日文
メッセージなど	後期１０月から始まる教育実習に向けて、社会科の授業づくりの基本を学ぶ。学習指導案を書いて、模擬授業に挑戦する実践的な講座。 小学校教諭二種免許状：選択必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 現行の学習指導要領の趣旨を理解し社会科の学習過程を構想できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	25%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	25%
(2) 作成した指導案に基づいて、模擬授業を行うことができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	20%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	10%
(3) 現行の学習指導要領の趣旨を踏まえて、実施した模擬授業を相互評価し改善できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	10%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
算数科指導法 Teaching Methods of Arithmetic	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPTS2020	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	西　田　　稔	○

実務家教員の詳細	小学校教諭としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	小学校算数科の目標、内容及び学習内容を支える数理等への理解を深めるとともに、問題解決の過程を通して、児童自らが数学的な見方・考え方を働かせながら主体的に学ぶ算数科学習指導のあり方について学ぶ。これらを踏まえて教材研究を行い、授業案を作成したり、模擬授業を実施したりして主体的・対話的で深い学びの実現に向けた算数科の実践的な指導力を身につける。	
到達目標	(1)-1) 算数科の目標、各学年の指導目標及び指導内容、指導上留意すべきことを理解し説明することができる。	
	(1)-2) 算数科における各領域の構成やねらい、発展系列を理解し説明することができる。	
	(1)-3) 観点別学習状況評価の評価規準及び評価計画作成の手順を理解し作成することができる。	
	(1)-4) 各領域の主たる内容に係る数理的背景や数学的概念について的確に説明することができる。	
	(2)-1) 学習指導理論を背景においた授業設計に必要な諸要素について理解し、説明することができる。	
	(2)-2) 児童が問題意識を持って意欲的に学習し、わかる喜びを味わう算数科の学習指導を計画することができる。	
	(2)-3) 児童が主体的に学ぶ算数科の学習指導の実現に向け、意欲を持って創意ある指導案の作成に取組み、作成することができる。	
	(2)-4) 応答、反応に適切に対応しながら、算数科模擬授業を適切に進めることができる。	

授業内容と進め方	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	算数教育の目標と各学年における目標・内容①1～3 年	学習指導要領の該当箇所を読んでおく。	2 時間	目標構造と内容の概要をまとめる。	2 時間
	2	算数教育の目標と各学年における目標・内容② 4～6 年	学習指導要領の該当箇所を読んでおく。	2 時間	目標構造と内容の概要をまとめる。	2 時間
	3	各領域と内容の発展系列① 「A数と計算」「B図形」［C測定］	学習指導要領の該当箇所を読んでおく。	2 時間	領域別内容の発展系列をまとめる。	2 時間
	4	各領域と内容の発展系列② 「C変化と関係」「Dデータの活用」	学習指導要領の該当箇所を読んでおく。	2 時間	領域別内容の発展系列をまとめる。	2 時間
	5	算数科における基本的な学習過程	学習指導要領の該当箇所を読んでおく。	2 時間	問題解決的な学習の要点をまとめる。	2 時間
	6	主体的な学びを促す 教材・教具の工夫開発と教材との対話や児童相互の対話を深め確かな学びを促す ICT 機器の活用	算数科での ICT 機器の活用事例や意義について調べる。	2 時間	主体的な学びと確かな理解につながる課題設定や ICT 機器活用の在り方をまとめる。	2 時間

	7	主体的な学びと確かな理解を図る学習形態及び評価の在り方	学習形態や観点別学習状況評価について調べておく。	2 時間	ＴＴや観点別評価についてまとめる。	2 時間
	8	教材研究と ICT 機器を活用した算数科学習指導案の作成の仕方 －3 年　重さ－の事例を通して	ICT 機器を活用した算数科の事例について調べておく。	2 時間	作成要領、作成ポイントと指導案例との対比による指導案の読み。	2 時間
	9	教材研究及び ICT 機器を活用した学習指導案の作成 －2 年　100 をこえる数－ 協同研究	ICT 機器を活用した２年生「１０００までの数」の授業構想を練っておく。	2 時間	協議をもとに「１０００までの数」の学習指導案を銘々で完成させる。	3 時間
	10	学習指導案及び ICT 機器を活用した教材教具の作成 －3 年　三角形－	ICT 機器を活用した「三角形」の授業の原案を作成する。	2 時間	３年「三角形」の学習指導案を作成する。	2 時間
	11	学習指導案及び ICT 機器を活用した教材教具の作成 －5 年　面　積－	ICT 機器を活用した「面積」の授業の原案を作成する。	2 時間	５年「面積」の学習指導案を作成する。	2 時間
	12	学習指導案及び ICT 機器を活用した教材教具の作成 －3 年　三角形－ －5 年　面　積－	模擬授業で使用する教材、教具作成に必要な材料等の計画や準備にあたる。	2 時間	それぞれの指導案を完成させる。（模擬授業実施分、模擬授業省略分）	2 時間
	13	模擬授業の実施	模擬授業の準備をする。	2 時間	模擬授業の反省事項をまとめる。	2 時間
	14	模擬授業の実施	模擬授業の準備をする。	2 時間	模擬授業の反省事項をまとめる。	2 時間
	15	模擬授業の実施	模擬授業の準備をする	2 時間	模擬授業の反省事項をまとめる。	2 時間

成　績　評　価	定期試験（20%）、指導案（16%）、授業への取り組み（20%）、グループワーク・グループ討議（14%）、模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（30%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	授業内容の整理メモや課題プリントへコメントしたり、気づきを記入したりして返却する。 模擬授業に関しては、指導案作成中のアドバイスや指導案へのコメントの記入、授業講評等を通じて行う。試験については、ルーブリック評価の結果を伝える。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：講義資料はその都度、プリント類は必要に応じて配付する。 『小学校指導要領（平成 29 年告示）解説　算数編（平成 29 年 7 月　文部科学省）』 小学校算数教科書　　各学年　　啓林舘
メッセージなど	国語に次いで、授業時数の多い教科です。教員は教えやすいと思いがちですが、児童にとっては意外と学びにくい教科です。児童の学びに視点をあて、主体的にかつ深く学ぶことの喜びを喚起する教材研究の在り方について究明しましょう。 小学校教諭二種免許状：選択必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 算数科の目標、各学年の指導目標及び指導内容、指導上留意すべきことを理解し説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りがなく説明することができる。	誤りはいくつかあるが、最低限の基本は説明できる。	説明することができない。	定期試験（知識・理解）	4%
	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りがなく説明することができる。	誤りはいくつかあるが、最低限の基本は説明できる。	説明することができない。	授業への取り組み（知識・理解）	4%
(1)-2) 算数科における各領域の構成やねらい、発展系列を理解し説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りがなく説明することができる。	誤りはいくつかあるが、最低限の基本は説明できる。	説明することができない。	定期試験（知識・理解）	4%
	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りがなく説明することができる。	誤りはいくつかあるが、最低限の基本は説明できる。	説明することができない。	授業への取り組み（知識・理解）	4%
(1)-3) 観点別学習状況評価の評価規準及び評価計画作成の手順を理解し作成することができる。	ほぼ完璧に作成することができる。	大きな誤りがなく作成することができる。	誤りはいくつかあるが、最低限の基本を踏まえて作成できる。	作成することができない。	定期試験（知識・理解）	4%
	ほぼ完璧に作成することができる。	大きな誤りがなく作成することができる。	誤りはいくつかあるが、最低限の基本を踏まえて作成できる。	作成することができない。	授業への取り組み（知識・理解）	4%
(1)-4) 各領域の主たる内容に係る数理的背景や数学的概念について的確に説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りがなく説明することができる。	誤りはいくつかあるが、最低限の基本は説明できる。	説明することができない。	定期試験（知識・理解）	4%
	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りがなく説明することができる。	誤りはいくつかあるが、最低限の基本は説明できる。	説明することができない。	授業への取り組み（知識・理解）	4%
(2)-1) 学習指導理論を背景においた授業設計に必要な諸要素について理解し、説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りがなく説明することができる。	誤りはいくつかあるが、最低限の基本は説明できる。	説明することができない。	定期試験（知識・理解）	4%
	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りがなく説明することができる。	誤りはいくつかあるが、最低限の基本は説明できる。	説明することができない。	授業への取り組み（知識・理解）	4%
(2)-2) 児童が問題意識を持って意欲的に学習し、わかる喜びを味わう算数科の学習指導を計画することができる。	ほぼ完璧に計画することができる。	若干の検討課題はあるが、基本を踏まえて計画できる。	問題点はいくつかあるが、最低限の基本を踏まえて計画できる。	計画することができない。	指導案（意欲・思考力・表現力・創造性・協働性）	8%
	ほぼ完璧に計画することができる。	若干の検討課題はあるが、基本を踏まえて計画できる。	問題点はいくつかあるが、最低限の基本を踏まえて計画できる。	計画することができない。	グループワーク・グループ討議（意欲・思考力・表現力・創造性・協働性）	7%

(2)-3) 児童が主体的に学ぶ算数科の学習指導の実現に向け、意欲を持って創意ある指導案の作成に取組み、作成することができる。	ほぼ完璧に作成することができる。	若干の検討課題はあるが、基本を踏まえて作成できる。	問題点はいくつかあるが、最低限の基本は踏まえて作成できる。	作成することができない。	指導案 （意欲・思考力・表現力・創造性・協働性）	8%
	ほぼ完璧に作成することができる。	若干の検討課題はあるが、基本を踏まえて作成できる。	問題点はいくつかあるが、最低限の基本は踏まえて作成できる。	作成することができない。	グループワーク・グループ討議 （意欲・思考力・表現力・創造性・協働性）	7%
(2)-4) 応答、反応に適切に対応しながら、算数科模擬授業を適切に進めることができる。	ほぼ完璧に進めることができる。	若干の検討課題はあるが、基本を踏まえて進めることができる。	問題点はいくつかあるが、最低限の基本は踏まえて進めることができる。	適切に進めることができない。	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ （意欲・思考力・判断力・表現力・創造性）	30%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
理科指導法 Teaching Methods of Science Studies	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPTS2021	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	西田 稔	○

実務家教員の詳細	小学校教諭としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	理科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容の背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。	
到達目標	(1)-1) 学習指導要領における教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解できる。	
	(1)-2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解できる。	
	(1)-3) 教科の学習評価の考え方を理解できる。	
	(1)-4) 教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。	
	(2)-1) 教科の特性を理解し、単元全体の見通しを持つことができる。	
	(2)-2) 教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用方法を理解し、授業設計に活用することができる。	
	(2)-3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。	
	(2)-4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けることができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	小学校理科教育の目標と内容	小学校理科の指導要領を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
2	第 3 学年の理科教育における単元指導計画の作成と ICT 活用授業の位置付け	３年生理科の単元指導計画の中で ICT 活用を行う授業を考える。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
3	第 4 学年の理科教育における単元指導計画の作成と ICT 活用授業の位置付け	４年生理科の単元指導計画の中で ICT 活用を行う授業を考える。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間

	4	第５学年の理科教育における単元指導計画の作成と ICT 活用授業の位置付け	５年生理科の単元指導計画の中で ICT 活用を行う授業を考える	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	5	第６学年の理科教育における単元指導計画の作成と ICT 活用授業の位置付け	６年生理科の単元指導計画の中で ICT 活用を行う授業を考える。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	6	理科評価計画の位置づけと ICT 活用授業の位置付け	前時で作った単元指導計画に評価計画を位置付けてみる。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	7	第３年生理科の学習指導案の作成と ICT 活用授業の位置付け	３年生理科の一単位授業計画を自分で作ってみる。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	8	第３学年理科授業の実際と振り返りと ICT 活用授業の位置付け	前時に作成した学習指導案に基づき授業準備をする。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	9	第４年生理科の学習指導案の作成と ICT 活用授業の位置付け	４年生理科の一単位授業計画を自分で作ってみる。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	10	第４学年理科授業の実際と振り返りと ICT 活用授業の位置付け	前時に作成した学習指導案に基づき授業準備をする。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	11	第５年生理科の学習指導案の作成と ICT 活用授業の位置付け	５年生理科の一単位授業計画を自分で作ってみる。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	12	第５学年理科授業の実際と振り返りと ICT 活用授業の位置付け	前時に作成した学習指導案に基づき授業準備をする。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	13	第６年生理科の学習指導案の作成と ICT 活用授業の位置付け	６年生理科の一単位授業計画を自分で作ってみる。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	14	第６学年理科授業の実際と振り返りと ICT 活用授業の位置付け	前時に作成した学習指導案に基づき授業準備をする。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	15	授業における指導と評価	これまでの学習のまとめをしておく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間

成　績　評　価	定期試験（5%）、課題・レポート（15%）、指導案（20%）、教材作成（20%）、授業への取り組み（5%）、グループワーク・グループ討議（5%）、模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（20%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（10%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	授業後実施する振り返りを確認するとともに､毎回講義用学習シートをチェックして次の授業時に返却する。レポートや定期試験はルーブリック評価の結果を渡す。
テキストおよび参　考　文　献	講義資料はその都度配布する 『小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）』『各学年理科教科書』 『小学校指導要領（平成 29 年告示）解説　理科編（平成 29 年 7 月　文部科学省）』
メッセージなど	理科離れを防ぎ､理科好きな子どもを育てる楽しい理科教育の実践に取り組みましょう。 小学校教諭二種免許状：選択必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 学習指導要領における教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解）	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（思考力･判断力･表現力）	5%
(1)-2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解）	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想･振り返り、毎回の授業課題（思考力･判断力･表現力）	5%
(1)-3) 教科の学習評価の考え方を理解できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解）	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想･振り返り、毎回の授業課題（思考力･判断力･表現力）	5%
(1)-4) 教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。	ほぼ完璧に説明でき、その活用もできる。	大きな間違いがなく、基本を説明し、活用ができる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	指導案（関心・意欲・態度）	5%
	ほぼ完璧に説明でき、その活用もできる。	大きな間違いがなく、基本を説明し、活用ができる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	教材作成（技能・表現力）	5%
(2)-1) 教科の特性を理解し、単元全体の見通しを持つことができる。	ほぼ完璧に説明でき、活用もできる。	大きな間違いがなく、基本を説明し、活用ができる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	教材作成（技能･表現力･創造性）	5%
	ほぼ完璧に説明でき、活用もできる。	大きな間違いがなく、基本を説明し、活用ができる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	グループワーク・グループ討議（表現力・協働性）	5%
(2)-2) 教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用方法を理解し、授業設計に活用することができる。	ほぼ完璧に、活用することができる。	大きな間違いがなく、基本を説明し、活用ができる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	指導案（技能･思考力･判断力･表現力）	5%
	ほぼ完璧に、活用することができる。	大きな間違いがなく、基本を説明し、活用ができる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（意欲・態度・知識･理解）	5%

(2)-3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。	ほぼ完璧に説明でき、作成することができる。	大きな間違いがなく、基本を説明し、作成できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を作成できる。	作成できない。	教材作成 （関心・意欲・態度・技能）	10%
	ほぼ完璧に説明でき、作成することができる。	大きな間違いがなく、基本を説明し、作成できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を作成できる。	作成できない。	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ （技能・表現力・創造性）	10%
(2)-4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けることができる。	ほぼ完璧に実施することができる。	大きな間違いがなく、実施ができる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を実施できる。	実施できない	指導案 （知識・理解）	10%
	ほぼ完璧に実施することができる。	大きな間違いがなく、実施ができる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を実施できる。	実施できない	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ （技能・表現力・創造性）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
生活科指導法 Teaching Methods of Life Environments	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPTS2022	２年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	川上 認	○

実務家教員の詳細	小学校教諭としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	「教材」が「学習体験や活動を左右する」ことの認識を深め、生活科における「教材研究の視点」や「教材開発の必要性や留意点」を理解し、身近な社会や自然の中にある素材の教材化と効果的活用方法を身に付ける。 生活科における年間指導計画や単元計画並びに指導案作成について理解する。 生活科における体験的な活動の実践を通しながら指導の在り方を探求する。 生活科における評価の在り方を理解する。	
到達目標	(1)-1) 生活科授業における教材の大切さを説明できる	
	(1)-2) 素材と教材の意味の違いを比較できる	
	(1)-3) 効果的な教材選択や教材の授業への位置づけができる	
	(2)-1) 直接的な体験や活動の教材化ができる	
	(2)-2) ICT 等の活用や多様な表現活動を展開する指導の在り方を説明できる	
	(3)-1) 年間指導計画・単元計画の作成ができる	
	(3)-2) 単位時間の指導案の作成ができる	
	(3)-3) 評価規準を作成することができる	
	(3)-4) 多様な評価方法を列記できる	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	生活科の授業における教材の特質性を説明できる	テキスト 8～11P を読む	1 時間	授業の特質を箇条書きにする	1 時間
2	教材化の意味・意義を理解し、指導計画への生かし方を学ぶ	テキスト第 1 章を読む	1 時間	教材化の意味をまとめる	2 時間
3	①人と関わる活動の教材化について学ぶ	テキスト 12～13P を読む	1 時間	どんな人と関わるかまとめる	1 時間

	4	②飼育栽培活動の教材化について学び、体験活動する	テキスト 14～15P を読む	1 時間	実際に世話をしてみる	3 時間
	5	③探険活動の教材化について説明できる	テキスト 16～17P を読む	1 時間	探検場所と方法をまとめる	2 時間
	6	④遊びの教材化について学び、体験活動する	テキスト 18～19P を読む	1 時間	教育実習等で児童と遊ぶ	3 時間
	7	⑤ものづくりの教材化について学び、教材を作成する	テキスト 20～21P を読む	1 時間	制作作品を実際に使ってみる	2 時間
	8	⑥表現・イベント活動の教材化について学ぶ	テキスト 22～23P を読む	1 時間	多様な表現方法をまとめる	1 時間
	9	⑦交流活動を実践し、動画や静止画として記録する	テキスト 24～25P を読む	1 時間	画像を整理する	2 時間
	10	町探検の振り返り学習時にタブレットを活用して発表活動をする	プレゼン内容をまとめる	2 時間	プレゼン方法を修正する	1 時間
	11	映像や音声機器等、多様な表現活動を図った指導事例を検討する	指導事例を調べる	2 時間	指導事例をまとめる	1 時間
	12	地域実態に即した生活科の年間・単元計画の作成事例を検討する	テキスト 12～13P を読む	1 時間	他の事例を調べる	1 時間
	13	生活科の指導案を作成し、模擬授業を行なう	生活科指導案を作成する	3 時間	授業の反省文を書く	1 時間
	14	評価基準と評価規準の違いについて学ぶ	文科省「指導要録」を調べる	1 時間	単位時間の評価基準を書く	1 時間
	15	多様な評価方法を理解する	指導要領解説 92～93Ｐを読む	1 時間	多様な評価方法をまとめる	1 時間

成　績　評　価	定期試験（10%）、課題・レポート（50%）、指導案（20%）、授業への取り組み（10%）、発表・プレゼンテーション（10%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	活動体験の記録（レポート等）を学習成果物として累積し、フィードバックに生かす
テキストおよび参　考　文　献	『小学校指導要領（平成 29 年告示）解説　生活編（平成 29 年 7 月　文部科学省）』東洋館出版 『生活科教材研究』山口短期大学
メッセージなど	小学校低学年児童が喜ぶ直接的な体験活動の実践と指導方法の体得が主な授業内容である。具体的な教材との触れ合いを大切にする。 小学校教諭二種状：選択必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 生活科授業における教材の大切さを説明できる	ほぼ完璧に教材の大切さを説明できる	十分教材の大切さを説明できる	おおむね教材の大切さを説明できる	まったく説明できない	定期試験（理解）	10%
(1)-2) 素材と教材の意味の違いを比較できる	ほぼ完璧に意味の違いを比較できる	十分意味の違いを比較できる	おおむね意味の違いを比較できる	まったく意味の違いを比較できない	課題・レポート（知識）	20%
(1)-3) 効果的な教材選択や教材の授業への位置づけができる	ほぼ完璧に教材の授業への位置づけができる	十分に教材の授業への位置づけができる	おおむね教材の授業への位置づけができる	まったく教材の授業への位置づけができない	指導案（判断力）	10%
(2)-1) 直接的な体験や活動の教材化ができる	ほぼ完璧に体験活動の教材化ができる	十分に体験活動の教材化ができる	おおむね体験活動の教材化ができる	まったく体験活動の教材化ができない	授業への取り組み（関心）	10%
(2)-2) ICT 等の活用や多様な表現活動を展開する指導の在り方を説明できる	ほぼ完璧に ICT 等の活用の在り方を説明できる	十分に ICT 等の活用の在り方を説明できる	おおむね ICT 等の活用の在り方を説明できる	まったく ICT 等の活用の在り方を説明できない	発表・プレゼンテーション（技能）	10%
(3)-1) 年間指導計画・単元計画の作成ができる	ほぼ完璧に年間・単元計画の作成ができる	十分に年間・単元計画の作成ができる	おおむね年間・単元計画の作成ができる	まったく年間・単元計画の作成ができない	課題・レポート（問題解決力）	10%
(3)-2) 単位時間の指導案の作成ができる	ほぼ完璧に単位時間の指導案が作成できる	十分に単位時間の指導案が作成できる	おおむね単位時間の指導案が作成できる	まったく単位時間の指導案が作成でない	指導案（理解）	10%
(3)-3) 評価規準を作成することができる	ほぼ完璧に評価規準を作成することができる	十分に評価規準を作成することができる	おおむね評価規準を作成することができる	まったく評価規準を作成することができない	課題・レポート（理解）	10%
(3)-4) 多様な評価方法を列記できる	ほぼ完璧に評価方法を列記できる	十分に評価方法を列記できる	おおむね評価方法を列記できる	まったく評価方法を列記できない	課題・レポート（理解）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
音楽科指導法 Teaching Methods of Music	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPTS2023	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	必修	松田 和寛	○

実務家教員の詳細	中学校音楽科教員としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	
概　　要	学習指導要領における小学校教科音楽の目標を概説し、音楽教育の現状と問題について考察する。 指導案の作成方法を学ぶことにより授業展開の方法を学ぶ。 模擬授業を演習実習し、実践的な技能の伸長を図る。	
到達目標	(1)-1) 題材など内容や時間のまとまりを見通して、児童の主体的・対話的で深い学びの実現が図れるような計画を立てることができる。	
	(1)-2) 学校内・校外の諸行事を見通して、長期的指導計画を立てることができる。	
	(1)-3) 他者との協働を尊重し合いながら、表現する音楽を模索し合う過程を大切にする指導計画を考えることができる。	
	(2)-1) 他教科等との関連を積極的に図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置づけ、豊かで幅広い授業展開ができるよう工夫した計画を立てることができる。	
	(2)-2) 指導のねらいに即して身体を動かし表現させたり、情報機器や教育機器の活用方法を模索したりし、深く多様で幅広い体験をさせる授業展開を考え計画を立てることができる。	
	(2)-3) 自分たちが作った曲を大切にさせることにより、著作者の創造性を尊重し、音楽文化の継承、発展、創造を支える素地になることに気がつく展開を考え計画を立てることができる。	
	(3)-1) 題材、題材研究、題材設定の理由を、多岐にわたり精査することができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	学習指導要領「音楽」の概説・音楽科教育の目標	テキストまえがきを読んでおく	1 時間	自分の考えをまとめる	2 時間
2	年間指導計画の立案の考え方	テキスト 21 ページ、教科書の 26～31 ページを読んでおく	2 時間	考えをまとめる	2 時間
3	歌唱共通教材の授業展開の考え方	教科書の 50 ページ～55 ページを読んでおく	2 時間	再度 50～55 ページを読み、考えをまとめる	2 時間
4	指導案の作成①　目標、概念	教科書の 32～35 ページを読んでおく	1 時間	レポート課題を参考にして試作してみる	2 時間

	5	歌唱共通教材模擬授業① 1年「うみ」「かたつむり」「日のまる」－ICT機器の活用（CD デッキ、画像の提示、授業の録画）	教科書の 136～141 ページを演習練習しておく	2 時間	反省をもとに演習する	2 時間
	6	指導案の作成② 題材，題材研究、題材感	テキスト 22,23 ページを完成させておく	1 時間	暗記できるようにする	2 時間
	7	歌唱共通教材模擬授業② 1年「ひらいたひらいた」、2年「かくれんぼ」「春がきた」 －ICT 機器の活用（CD デッキ、画像の提示、授業の録画）－	教科書の 142～147 ページを演習練習しておく	2 時間	反省をもとに演習する	2 時間
	8	指導案の作成③ 題材の指導計画	テキスト25ページを試作しておく	1 時間	学習成果を生かして再度試作してみる	2 時間
	9	歌唱共通教材模擬授業③ 2年「虫のこえ」「夕やけこやけ」 3年「うさぎ」 －ICT 機器の活用（CD デッキ、画像の提示、授業の録画）－ ビデオ録画自己批評	教科書の 148～153 ページを演習練習しておく	2 時間	他人の評価表 A を参考にして演習する	2 時間
	10	指導案の作成④ 本時の目標、ねらいの設定	テキスト26、27ページを読んでおく	1 時間	モデルを試作してみる	2 時間
	11	歌唱共通教材模擬授業④ 3年「茶つみ」「春の小川」「ふじ山」 －ICT 機器の活用（CD デッキ、画像の提示、授業の録画）－	教科書の 154～159 ページを演習練習しておく	2 時間	評価表をもとに演習する	2 時間
	12	指導案の作成⑤ 授業展開の方法	テキスト28ページを読んでおく	1 時間	テキスト30ページを完成させる	1 時間
	13	歌唱共通教材模擬授業⑤ 4年「さくらさくら」「とんび」「まきばの朝」「もみじ」－ICT機器の活用（CDデッキ、画像の提示、授業の録画）－ ビデオ録画相互批評	教科書の 160～169 ページを演習練習しておく	2 時間	評価表 B をもとに演習する	2 時間
	14	指導案の作成⑥ 模擬授業の録画映像を見て、工夫・改善点をまとめる	教科書の 227～241 ページを読んでおく	2 時間	工夫改善をもとに指導案を作成してみる	1 時間
	15	歌唱共通教材模擬授業⑥ 5年「こいのぼり」「子守歌」 「スキーの歌」「冬げしき」－ICT 機器の活用（CD デッキ、画像の提示、授業の録画）－評価、振り返りの方法	教科書の 170～181 ページを演習練習しておく	2 時間	録画の反省をもとに演習する	2 時間

成績評価	課題・レポート（40%）、指導案（30%）、模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（30%）
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	模擬授業の評価表 A,B を提出させ評価する。模擬授業の録画を利用し評価する。全体的にはルーブリックを用いて評価する。
テキストおよび参考文献	『初等科音楽教育法・小学校教員養成課程用』音楽之友社 『小学校指導要領（平成 29 年告示）解説　音楽編（平成 29 年 7 月　文部科学省）』東洋館出版
メッセージなど	教育現場に通じる指導法を会得するために指導案の作成をし、実際の授業を模擬体験してみる。音楽の実力が必要であることはもちろんであるが、他者の模擬授業を評価することなどを通し、さらなる資質のレベルアップを図りましょう。 小学校教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 題材など内容や時間のまとまりを見通して、児童の主体的・対話的で深い学びの実現が図れるような計画を立てることができる。	全般にわたって完璧に近い計画が立てられる。	大きな考え違いがなく計画が立てられる。	自分の考えのみではあるが最低限の授業計画を立てることができる。	計画を立てられない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	10%
(1)-2) 学校内・校外の諸行事を見通して、長期的指導計画を立てることができる。	年間を通しての計画がほぼ完璧に立てられる。	大きな考え違いがなく計画が立てられる。	最低限の長期的指導計画が立てられる。	計画が立てられない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	10%
(1)-3) 他者との協働を尊重し合いながら、表現する音楽を模索し合う過程を大切にする指導計画を考えることができる。	過程を大切にした指導計画が考えられる。	大きな考え違いがなく計画が立てられる。	計画だけは考え、立てることができる。	考えることができない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	10%
(2)-1) 他教科等との関連を積極的に図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置づけ、豊かで幅広い授業展開ができるよう工夫した計画を立てることができる。	工夫した計画に基づく指導案を作成することができる。	大きな考え違いがなく計画が立てられる。	豊かで工夫した計画には至らないが、最低限の計画はできる。	計画ができない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	10%
(2)-2) 指導のねらいに即して身体を動かし表現させたり、情報機器や教育機器の活用方法を模索したりし、深く多様で幅広い体験をさせる授業展開を考え計画を立てることができる。	深く多様な体験をさせる授業展開を充分考えることができる。	ほぼ間違いない授業展開が考え計画を立てられる。	勘違いがあるが最低限の授業展開ができる。	深く多様で幅広い体験をさせる授業展開ができない。	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	15%
(2)-3) 自分たちが作った曲を大切にさせることにより、著作者の創造性を尊重し、音楽文化の継承、発展、創造を支える素地になることに気がつく展開を考え計画を立てることができる。	幅広く豊かな展開を考え計画を立てることができる。	大きな間違いのない考えにより展開を考え計画を立てることができる。	勘違いがあるが最低限の授業展開ができる。	授業展開がつくれない。	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	15%
(3)-1) 題材、題材研究、題材設定の理由を、多岐にわたり精査することができる。	多岐にわたり精査できる。	充分とは言えないが精査しようとしている。	基本を踏まえることはできる。	基本が理解できていない。	指導案（知識・理解・思考力・判断力・問題解決力）	30%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
図画工作科指導法 Teaching Methods of Art and　Handicrafts	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPTS2024	２年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	2	必修	吉本 宏之	○

実務家教員の詳細	小学校教諭としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	図画工作科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された図画工作科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を身に付ける。	
到達目標	(1)-1) 学習指導要領のおける図画工作科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。	
	(1)-2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。	
	(1)-3) 図画工作科の学習評価の考え方を理解している。	
	(1)-4) 図画工作科の背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。	
	(2)-1) 子どもの認識・思考・学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。	
	(2)-2) 図画工作科の特性に応じた教材の効果的な活用法を理解し授業設計に活用することができる。	
	(2)-3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。	
	(2)-4) 模擬授業の実施との振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	図画工作の目標・内容と学びの意義を読み取ることでその全体構造を理解する。	事前に配った指導要領図画工作編を読む。	2 時間	目標・内容や学びの意義について考察し感想を書く。	2 時間
2	「図画工作科の内容」を子どもの姿、指導のポイント、題材例から把握する。①造形遊びをする活動	教科書に目を通す。P.32～37	2 時間	「造形遊びをする活動」の内容について考察し感想を書く。	2 時間
3	「図画工作科の内容」を子どもの姿、指導のポイント、題材例から把握する。②絵に表す活動	教科書に目を通す。P.38～43	2 時間	「絵に表す活動」の内容について考察し感想を書く。	2 時間
4	「図画工作科の内容」を子どもの姿、指導のポイント、題材例から把握する。③立体に表す活動	教科書に目を通す。P.44～49	2 時間	「立体に表す活動」の内容について考察し感想を書く。	2 時間

	5	「図画工作科の内容」を子どもの姿、指導のポイント、題材例から把握する。④工作に表す活動	教科書に目を通す。P.50～55	2時間	「工作に表す活動」の内容について考察し感想を書く。	2時間
	6	「図画工作科の内容」を子どもの姿、指導のポイント、題材例から把握する。⑤鑑賞の活動 （小テストの１）	教科書に目を通す。P.56～61	2時間	「鑑賞の活動」の内容理解について考察し感想を書く。	2時間
	7	図画工作で使用する材料の特質や用具の使い方を学ぶ。①絵の具で描く（ぼかし、にじみ、点描、ドライブラシ、ローラーを用いる）	教科書に目を通す。P.232 材料準備	2時間	材料の特質や用具の使い方を考察し感想を書く。	2時間
	8	図画工作で使用する材料の特質や用具の使い方を学ぶ。②墨で表す（布、墨流し、ゆび、段ボール、割りばしペン）	教科書に目を通す。P.233～234 材料準備	2時間	材料の特質や用具の使い方を考察し感想を書く。	2時間
	9	図画工作で使用する材料の特質や用具の使い方を学ぶ。③粘土で表す（土粘土、紙粘土、油粘土）	教科書に目を通す。P.235 材料準備	2時間	材料の特質や用具の使い方を考察し感想を書く。	2時間
	10	図画工作で使用する材料の特質や用具の使い方を学ぶ。④（木で表す）切る・つなげる・穴をあける・彫る・研磨する　**（小テストの2）**	教科書に目を通す。P.236～237 材料準備	2時間	材料の特質や用具の使い方を考察し感想を書く。	2時間
	11	図画工作で使用する材料の特質や用具の使い方を学ぶ。⑤（自然物で表す）葉・石・小枝・どんぐり	教科書に目を通す。P.238 材料準備	2時間	材料の特質や用具の使い方を考察し感想を書く。	2時間
	12	図画工作で使用する材料の特質や用具の使い方を学ぶ。⑥（針金で表す）ペンチ・ニッパー・鉄・アルミ・モール	教科書に目を通す。P.239 材料準備	2時間	材料の特質や用具の使い方を考察し感想を書く。	2時間
	13	図画工作で使用する材料の特質や用具の使い方を学ぶ。⑦（プラスチック容器で表す）ペットボトル・フードパック・プラ製品	教科書に目を通す。P.240 材料準備	2時間	材料の特質や用具の使い方を考察し感想を書く。	2時間
	14	図画工作で使用する材料の特質や用具の使い方を学ぶ。⑧（モダンテクニックの技法）デカルコマニー・フロッタージュ・マーブリング	教科書に目を通す。P.241 材料準備	2時間	材料の特質や用具の使い方を考察し感想を書く。	2時間
	15	図画工作で使用する材料の特質や用具の使い方を学ぶ。⑨（ペーパークラフトで表す）はさみ・カッターナイフ　**（小テストの3）**	教科書に目を通す。P.248 材料準備	2時間	材料の特質や用具の使い方を考察し感想を書く。	2時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	図画工作科の指導方法について、よりよい授業づくりのポイントをつかむ。①指導計画の作成と学習指導案の作成	教科書に目を通す。P.64～67	2時間	**よりよい授業づくりのポイント**を考察し感想を書く。	2時間
	17	図画工作科の指導方法について、よりよい授業づくりのポイントをつかむ。②授業づくりのプロセス	教科書に目を通す。P.68～77	2時間	**よりよい授業づくりのポイント**を考察し感想を書く。	2時間
	18	図画工作科の指導方法について、よりよい授業づくりのポイントをつかむ。③準備導入展開まとめ	教科書に目を通す。P.78～85	2時間	**よりよい授業づくりのポイント**を考察し感想を書く。	2時間
	19	図画工作科の指導方法について、よりよい授業づくりのポイントをつかむ。④材料・用具の工夫、安全指導　　（小テストの４）	教科書に目を通す。P.88～91	2時間	**よりよい授業づくりのポイント**を考察し感想を書く。	2時間

	20	図画工作科の指導方法について、よりよい授業づくりのポイントをつかむ。⑤活動場所や学習形態の工夫と板書計画の意義	教科書に目を通す。P.92～97	2時間	**よりよい授業づくりのポイント**を考察し感想を書く。	2時間
	21	図画工作科の指導方法について、よりよい授業づくりのポイントをつかむ。⑥学びの記録・評価の工夫と作品展示と地域との連携	教科書に目を通す。P.98～101	2時間	**よりよい授業づくりのポイント**を考察し感想を書く。	2時間
	22	版画の研究①　作品の画像をもとにスチレン版画、紙版画の制作手順を知る（第１学年から第３学年）	資料プリントに目を通す。作品イメージを持つ。	2時間	版画の特質を理解し作品制作ができたか感想を書く。	2時間
	23	版画の研究②　作品の画像をもとに木版画の制作手順を知る。 （第４学年から第６学年） **（小テストの5）**	資料プリントに目を通す。作品イメージを持つ。	2時間	版画の特質を理解し作品制作ができたか感想を書く。	2時間
	24	立体造形「周防国分寺の諸仏」鑑賞題材を通して日本美術を理解する。山口県の仏教芸術。	資料プリントに目を通す。作品イメージを持つ。	2時間	「周防国分寺の諸仏」の鑑賞題材に触れて感想を書く。	2時間
	25	「雪舟」や「松崎天神縁起絵巻」の鑑賞題材を通して日本美術を理解する。**（小テストの6）**	「雪舟」や「松崎天神縁起絵巻」の資料プリントに目を通す。	2時間	水墨画や絵巻物の鑑賞題材に触れて感想を書く。	2時間
	26	今までの授業で制作した題材を選んで指導案を書いてみる。(27～30回の模擬授業のための指導案作成)	指導案作成についてのプリントに目を通す。	2時間	学年を想定して今までの教材を使った指導案が書けたか考察し感想を書く。	2時間
	27	模擬授業の実践。①各自の作成した低学年の指導案を元にして実践する。（教育実習時の関連題材）	「指導と評価の一体化」通読。低学年用の指導案に目を通す。教材準備。	2時間	指導案を元に実践を考察・評価し、感想を書く。	2時間
	28	模擬授業の実践。②各自の作成した中学年の指導案を元にして実践する。（教育実習時の関連題材）	「指導と評価の一体化」通読。中学年用の指導案に目を通す。教材準備。	2時間	指導案を元に実践を考察・評価し、感想を書く。	
	29	模擬授業の実践。③各自の作成した高学年の指導案を元にして実践する。（教育実習時の関連題材）	「指導と評価の一体化」通読。高学年用の指導案に目を通す。教材準備。	2時間	指導案を元に実践を考察・評価し、感想を書く。	2時間
	30	模擬授業を振り返り、お互いに授業の良さや改善点などを話し合い評価する。一年の授業の振り返り。	実施模擬授業の実践について振り返っておく。	2時間	制作した作品を整理する。	2時間

成績評価	小テストや課題レポート（30%）、作品（意欲・態度・作品の完成度）（30%）、題材作成（表現力・判断力・創造性）20%、模擬授業、ロールプレイ（10%）、毎回の授業の感想と振り返り・毎回の授業課題（10%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の考察・感想文の提出 前半、後半の作品ファイルを作成する。毎回振り返りを行う。後に返却する。
テキストおよび参考文献	テキスト：新野貴則 福岡知子『明日の小学校教諭を目指して 子どもの資質・能力を育む 図画工作科教育法』萌文書林 参考文献：『小学校指導要領（平成29年告示）解説　図画工作編（平成29年7月文部科学省）』日本文教出版、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 図画工作（令和2年3月文部科学省）』東洋館出版社
メッセージなど	図画工作は、子どもの「心」を育てる大切な科目であり、アクティブラーニングそのもといえます。子どもの素直な表現を認め、評価できる教師を育成します。 小学校教諭二種状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 学習指導要領のおける図画工作科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。	ほぼ完璧に理解、説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解、説明できる。	全く理解できていない。説明できない。	小テスト 課題レポート (理解・思考力)	4%
(1)-2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。	ほぼ完璧に理解、説明できる。	大きな間違いがなく理解、説明できる。	間違いはいくつかあるが理解説明できる。	全く理解できていない。	小テスト 課題レポート (理解・思考力)	4%
(1)-3) 図画工作科の学習評価の考え方を理解している。	ほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく理解し、説明できる。	間違いはいくつかあるが理解し、説明できる。	全く理解できていない。説明できない。	小テスト 課題レポート (理解・思考力)	4%
(1)-4)図画工作科の背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。	ほぼ完璧に理解し、教材研究を活用した作品制作ができる。	大きな間違いがなく理解し、教材研究を活用し作品制作できる。	間違いはいくつかあるが、理解し、教材研究を活用した作品制作ができる。	全く理解できない。教材研究を活用した作品制作ができない。	作品作成 （作品の完成度・技能・発想力）	15%
	ほぼ完璧に意欲・関心を持って取り組んでいる。	大きな間違いもなく意欲・関心を持って取り組んでいる。	間違いはいくつかあるが意欲・関心を持って取り組んでいる。	全く意欲・関心がなく、取り組めていない。	授業への取り組み (意欲・関心・態度・表現力)	10%
(2)-1) 子どもの認識・思考・学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解して模擬授業に取り組める。	ほぼ完璧に理解し、学年や発達を視野に入れた教材選択ができる。	大きな間違いがなく、基本を理解し学年や発達を視野に入れた教材選択ができる。	間違いはいくつかあるが基本を理解し学年や発達を視野に入れた教材選択ができる。	全く理解できていない。学年や発達を視野に入れた教材選択ができない。	作品作成 （作品の完成度・技能・発想力）	15%
	ほぼ完璧に意欲・関心を持って取り組んでいる。	大きな間違いもなく意欲・関心を持って取り組んでいる。	間違いはいくつかあるが意欲・関心を持って取り組んでいる	全く意欲・関心がなく、取り組めていない。	授業への取り組み(意欲・関心・態度・表現力)	10%
(2)-2) 図画工作科の特性に応じた教材の効果的な活用法を理解し授業設計や模擬授業に活用することができる。	ほぼ完璧に教材、用具を効果的に活用した作品制作ができている。	大きな間違いがなく教材、用具を活用した作品制作ができている。	間違いは少しあるが教材、用具を活用した作品制作ができている。	全く教材、用具を活用した作品制作ができていない。	作品作成 （作品の完成度・技能・発想力）	10%
	ほぼ完璧に意欲・関心を持って取り組んでいる。	大きな間違いもなく意欲・関心を持って取り組んでいる。	間違いはいくつかある意欲・関心を持って取り組んでいる	全く集中力がなく、取り組めていない。	授業への取り組み(意欲・関心・態度・表現力)	10%

(2)-3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。	ほぼ完璧に指導案を書くことができる。	大きな間違いがなく指導案を書くことができる。	間違いはいくつかあるが、指導案を書くことができる。	全く指導案を書けない。	小テスト 課題レポート (理解・思考力)	4%
	ほぼ完璧に指導案に合った教材作品制作ができる。	大きな間違いがなく指導案に合った教材作品ができる。	間違いはいくつかあるが指導案に合った教材作品ができる。	全く指導案に合った教材作品ができない。	作品作成 (作品の完成度・技能・発想力	10%
(2)-4)模擬授業の振り返り、授業改善の視点を身に付けている。	ほぼ完璧に振り返りができている。	大きな間違いがなく、振り返りができている。	間違いはいくつかあるが、振り返りができている。	全く振り返りができない。	課題レポート (理解・思考力)	4%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
体育科指導法 Teaching Methods of Physical Education	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPTS2025	２年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	2	必修	大本　学司	○

実務家教員の詳細	中学校保健･体育科教員としての実務経験を生し､到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ･ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	今日の社会及び将来の社会において求められている『スポーツの主人公』として、「生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する」ために必要な資質・能力を、学習指導要領に示された体育教科の学習内容を中心に理解する。また、それを子どもたちが身につけるための学習指導理論を実践的に学修し、実践できる基礎的な資質・能力を理解する。	
到達目標	(1)-1) 今日及び将来の社会とスポーツの価値について述べることができる。	
	(1)-2) 学習指導要領の目標について説明できる。	
	(1)-3) 学習指導要領の内容について説明できる。	
	(2)-1) 各学習内容の指導上の留意点を挙げることができる。	
	(2)-2) 体育教科の評価の在り方について述べることができる。	
	(3)-1) スポーツそれ自体の面白さに基づいた取り組みの必要性を理解できる	
	(3)-2) スポーツを行うための必要条件について理解し説明できる。	
	(3)-3) 器械運動及び陸上競技（短・リレー走・ハードル走）特有の面白さを理解し、授業計画作成ができる。	
	(3)-4) 器械運動及び陸上競技（短・リレー走・ハードル走）の基礎技術を理解し、授業計画作成ができる。	
	(4)-1) 「目的・目標―内容―教材―方法―評価の統一」の意味を理解し、授業計画案を作成できる。	
	(4)-2) 自分で作成した授業計画を 1)に基づき検討することができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	スポーツの価値について（討論） 学習指導要領「体育教科」の読み方			配布資料を読み返す。	2 時間
2	学習指導要領「体育教科」の目標と現代社会について	学習指導要領を体育科の目標について読んでおく。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
3	学習指導要領「体育教科」の学年別にみる内容について	学習指導要領を体育科の内容について読んでおく。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間

	4	学習指導要領「体育教科」の内容と指導上の留意点	学習指導要領を体育科の内容の取り扱いについて読んでおく。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	5	自分達が受けてきた「体育教科」を振り返る（意見交換及び報告）	前回の資料を読んで復習しておく。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	6	体育教科の授業計画をつくるときの基礎知識	前回の資料を読んで復習しておく。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	7	器械運動（マット運動）の特質と基礎技術とは何かついて	前回の資料を読んで復習しておく。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	8	器械運動（マット運動）の基礎技術と運動学習法について①	前回の資料を読んで復習しておく。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	9	器械運動（マット運動）の基礎技術と運動学習法について②	前回の資料を読んで復習しておく。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	10	表現としてのマット運動（連続技の特質）	前回の資料を読んで復習しておく。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	11	マット運動の連続技の構成の違いによる感覚の違い（意見交換及び報告）	前回の資料を読んで復習しておく。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	12	連続技づくりの技術習得のための指導法の検討①（グループでの活動）（ICT の活用）	前回の資料を読んで復習しておく。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	13	連続技づくりの技術習得のための指導法の検討②（グループでの活動）（ICT の活用）	指導案の作成をする。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	14	連続技の発表および指導法への気づきの共有（報告）①（ICT の活用）	指導案の作成をする。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	15	器械運動のマット運動の評価方法についての検討	指導案の作成をする。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	「豊かなスポーツライフの実現」を視点とした小学校での体育教科の授業の検討（意見交換）	学習指導要領を体育科の目標について読んでおく。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	17	学習指導要領体育教科における陸上競技（短・長距離走）目標及び内容について	前回の資料を読んで復習する。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	18	短距離走の基礎技術と指導法の検討	前回の資料を読んで復習する。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	19	短距離走を科学的に考察するーデータの収集とその意味ー（私の 50m 走）	前回の資料を読んで復習する。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	20	短距離走の技術習得のためのグループ学習（情報機器の使用の検討）	前回の資料を読んで復習する。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	21	スピードにのったバトンパスを創りだす指導法の検討①	前回の資料を読んで復習する。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間

	22	スピードにのったバトンパスを創りだす指導法の検討②	前回の資料を読んで復習する。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	23	スピードにのったバトンパスを創りだす指導法の検討③	前回の資料を読んで復習する。	2 時間	指導案の作成をする。	2 時間
	24	リズミカルに走り抜けるハードル走の指導法①	仮説の作成と実践。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	25	リズミカルに走り抜けるハードル走の指導法②	前回の改善の作成と実践。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	26	リズミカルに走り抜けるハードル走の指導法③	指導案の作成と実践。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	27	保健の授業づくりと実践①	指導案の作成をする。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	28	保健の授業づくりと実践②	指導案の作成をする。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	29	保健の授業づくりと実践③	自身の指導案を見直す。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	30	授業計画作成における「目的・目標－内容－教材－方法－評価の統一」という視点と評価の観点	前回の資料を読んで復習する。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間

成績評価	授業への取り組み（30%）、グループワーク・グループ討議（30%）、指導案（30%）課題・レポート（10%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	各授業でレポートをした場合は、翌週にコメントを付けて返却する。また授業の検討会や意見交換会では授業内でフィードバックをする。（形成的評価）
テキストおよび参考文献	『小学校指導要領（平成 29 年告示）解説　体育編（平成 29 年 7 月　文部科学省）』 授業中に適時資料を配付する。
メッセージなど	実践と理論（身体を動かして実践しながら、考えるということ）を大切に、みんなで学び合える環境をつくりましょう。 小学校教諭二種状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1)今日及び将来の社会とスポーツの価値について述べることができる。	スポーツの価値について今日的状況を踏まえて考えを述べられる。	スポーツの価値について資料などを参考に考えを述べられる。	自分なりの経験的な考えを述べることができる。	スポーツの価値について述べることができない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	10%
(1)-2)学習指導要領の目標について説明できる。	自分の言葉で説明できるほど理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	10%
(1)-3)学習指導要領の内容について説明できる。	自分の言葉で説明できるほど理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	10%
(2)-1)各学習内容の指導上の留意点を挙げることができる。	自分の言葉で説明できるほど理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	説明できていない。	指導案（思考力・判断力・創造性）	10%
(2)-2)体育教科の評価の在り方について述べることができる。	自分の言葉で説明できるほど理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、述べられる。	述べられていない。	グループワーク・グループ討議（知識・理解・思考力・判断力）	15%
(3)-1)運動・スポーツそれ自体の面白さに基づいた取り組みの必要性を理解できる	自分の言葉で説明できるほど理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できていない。	グループワーク・グループ討議（知識・理解・思考力・判断力）	15%
(3)-2)運動・スポーツを行うための必要条件について理解し説明できる。	自分の言葉で説明できるほど理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（思考力・判断力・創造性）	10%
(3)-3)器械運動特有の面白さを理解し、授業計画作成ができる。	マット運動それ自体の面白さを押さえた授業計画ができる。	マット運動の面白さを自分の言葉で説明できるほど理解している。	マット運動の面白さの知識を知る程度で理解している。	理解できていない。	指導案（知識・理解・思考力・判断力・創造性）	5%
(3)-4)陸上競技（短・長距離走・リレー・ハードル走）の基礎技術を理解し、授業計画作成ができる。	短距離走・リレー・ハードル走、それ自体の面白さを押さえた授業計画ができる。	短距離走・リレー・ハードル走の面白さを自分の言葉で説明できるほど理解している。	短距離走・リレー・ハードル走の面白さの知識を知る程度で理解している。	理解できていない。	指導案（知識・理解・思考力・判断力・創造性）	5%
(4)-1)「目的・目標―内容―教材―方法―評価の統一」の意味を理解し、授業計画案を作成できる。	ほぼ完ぺきに理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し作成できる。	理解できていない。	指導案（知識・理解・思考力・判断力・創造性）	5%
(4)-2)自分で作成した授業計画を 1)に基づき検討することができる。	十分に検討できる。	ある程度検討できる。	間違いはあるが、検討できる。	検討できていない。	指導案（表現力・創造性・協働性・問題解決力）	5%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
家庭科指導法 Teaching Methods of Home Economics	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPTS2026	２年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	三時 貴久子	○

実務家教員の詳細	小学校教諭としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	小学校学習指導要領家庭における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習内容について他教科との関連や歴史的背景について理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。	
到達目標	(1)-1) 学習指導要領における家庭の目標及び内容並びに全体構造を理解している。	
	(1)-2) 個別の学習内容について指導上の留意点を説明できる。	
	(1)-3) 家庭の学習内容の理解や実技に関する評価の考え方について説明できる。	
	(1)-4) 他教科との関連や歴史的背景について理解し、教材研究に活用することができる。	
	(2)-1) 子供の認識・思考・学力、家庭の状況等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。	
	(2)-2) 情報機器及び教材の効果的な活用方法を理解し、授業設計に活用することができる。	
	(2)-3) 様々な指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。	
	(2)-4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して授業改善の視点を身に付けている。	

	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
授業内容と進め方	1	家庭科教育の意義と歴史について理解する。	テキスト p13 から 15 を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	2	指導要領に示された家庭の目標及び内容構成を理解する。	指導要領解説 p12 から 16 までを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	3	指導計画の作成・内容の取り扱いについて理解する。	指導要領解説 p71 から 79 までを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	4	小学校家庭科における子供の家庭理解及び家庭との連携の重要性について理解する。	指導要領解説 p80 から 83 までを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	5	ICT を活用した「A家族・家庭生活」について実践上の留意点を学ぶ。乳幼児の育児や高齢者の介護に関する映像を用いた授業の展開を学ぶ。	指導要領解説 p20 から 31 までを読んでおく。	2 時間	実践上の留意点と映像を用いた授業の展開についてまとめる。	2 時間

	6	ICT を活用した「Ｂ衣食住の生活」について、実践上の留意点（１）を学ぶ。－包丁、アイロン、ミシン等の用具の安全な使い方を指導するために、ICT を使用し映像資料を作成する方法を学ぶ。	児童用教科書の該当ページを読み、指導上のポイントをまとめておく。	2 時間	資料作成上の留意点をまとめる。	2 時間
	7	ICT を活用した「Ｂ衣食住の生活」について、実践上の留意点（２）を学ぶ。－道具の扱い方をタブレットで撮影しあい、映像を見て技能を高めようとするための指導を学ぶ。	児童用教科書の該当ページを読み、実践上の留意点をまとめておく。	2 時間	映像撮影上の留意点をまとめる。	2 時間
	8	ICT を活用した「Ｃ消費生活・環境」について、実践上の留意点を学ぶ。－情報通信機器を用いて生活・環境の問題を調べ、情報を収集・整理し、発表するまでを指導する方法を学ぶ。	児童用教科書の該当ページを読み、実践上の留意点をまとめておく。	2 時間	指導の手順をまとめる。	2 時間
	9	指導案作成の手順及び評価の意義や方法を理解する。	指導案作成について、配付資料を読んでおく。	2 時間	指導案作成の手順評価の意義、方法をまとめる。	2 時間
	10	「Ａ家族・家庭生活」について模擬授業の教材を選び、学習指導案の作成、パソコンを用いて資料の準備を行う。	指導要領解説と児童用教科書の該当ページを読んでおく。	2 時間	学習指導案の再考を行い完成させる。	2 時間
	11	模擬授業の実践と振り返り・評価を行う。	模擬授業の発問板書計画を準備する。	2 時間	模擬授業後の検討会で学んだことをまとめる。	2 時間
	12	「Ｂ衣食住の生活」について模擬授業の教材を選び、学習指導案の作成、パソコンを用いて資料の準備を行う。	指導要領解説と児童用教科書の該当ページを読んでおく。	2 時間	学習指導案の再考を行い完成させる。	2 時間
	13	模擬授業を実践し、振り返りと評価を行う。	模擬授業の発問板書計画を準備しておく。	2 時間	模擬授業後の検討会で学んだことをまとめる。	2 時間
	14	「Ｃ消費生活・環境」について模擬授業の教材を選び、学習指導案の作成、パソコンを用いて資料準備を行う。	指導要領解説と児童用教科書の該当ページを読んでおく。	2 時間	学習指導案の再考を行い完成させる。	2 時間
	15	模擬授業の実践を録画した映像をもとに、振り返りと評価を行う。	模擬授業の発問板書計画を準備しておく。	2 時間	検討会で学んだことをまとめる。	2 時間

成績評価	定期試験（35%）、指導案（18%）、教材作成（17%）、授業への取り組み（15%）、グループワーク・グループ討議（15%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	提出物について、評価できる点や改善点を示す。
テキストおよび参考文献	テキスト：なし（適宜プリント配布） 参考文献：『小学校指導要領（平成 29 年告示）解説　家庭編（平成 29 年 7 月　文部科学省）』東洋館出版
メッセージなど	子供が自分の家庭生活を見つめ直し、改善し、よりよい生活者としての歩みができるようにするための家庭科の授業はどうあるべきかを一緒に学びましょう。 小学校教諭二種免許状：選択必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 学習指導要領における家庭の目標及び内容並びに全体構造を理解している。	ほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく理解し、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本は理解し説明できる。	理解できていない。	定期試験（知識・理解）	20%
(1)-2) 個別の学習内容について指導上の留意点を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本は説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(1)-3) 家庭の学習内容の理解や実技に関する評価の考え方について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本は説明できる。	説明できていない。	定期試験（理解）	5%
(1)-4) 他教科との関連や歴史的背景について理解し、教材研究に活用することができる。	ほぼ完璧に理解し、活用できる。	大きな間違いなく理解し、活用できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本は理解し活用できる。	理解が不足し、活用できていない。	指導案（理解）	3%
(2)-1) 子供の認識・思考・学力、家庭の状況等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。	実態把握の重要性を十分理解し、授業設計できている。	実態把握の重要性を理解し、授業設計できる。	実態把握の重要性は理解できているが授業設計に十分生かせていない。	実態把握の重要性を視野に入れた授業設計ができない。	指導案（理解・判断力）	5%
(2)-2) 情報機器及び教材の効果的な活用方法を理解し、授業設計に活用することができる。	ICT 等の効果的な活用方法を理解し授業設計に活用できる。	ICT 等の活用方法を理解し授業設計に活用できる。	ICT 等の活用方法は理解しているが、授業設計に十分活用できていない。	ICT 等を活用した授業設計ができない。	指導案（理解・創造性）	5%
	ICT 等の効果的な活用方法を理解し授業設計に活用できる。	ICT 等の活用方法を理解し授業設計に活用できる。	ICT 等の活用方法は理解しているが、授業設計に十分活用できていない。	ICT 等を活用した授業設計ができない。	教材作成（理解・創造性）	10%
(2)-3) 様々な指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。	ほぼ完璧に理解し、授業設計と学習指導案を作成できる。	大きな間違いなく理解し、授業設計と学習指導案を作成できる。	理解が不十分な部分はあるが、授業設計と学習指導案を作成できる。	作成できていない。	指導案（理解・思考力・表現力）	10%
	ほぼ完璧に理解し、授業設計と学習指導案を作成できる。	大きな間違いなく理解し、授業設計と学習指導案を作成できる。	理解が不十分な部分はあるが、授業設計と学習指導案を作成できる。	作成できていない。	教材作成（理解・思考力・表現力）	7%
(2)-4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して授業改善の視点を身に付けている。	模擬授業の実践を行い、改善の視点を身に付けている。	模擬授業の実践を行い、授業改善の視点をほぼ身に付けている。	模擬授業の実践はできるが、改善点への意欲は不十分である。	模擬授業の実践も振り返りもできていない。	授業への取り組み（態度・思考力・表現力・技能）	15%
	模擬授業の実践を行い、改善の視点を身に付けている。	模擬授業の実践を行い、授業改善の視点をほぼ身に付けている。	模擬授業の実践はできるが、改善点への意欲は不十分である。	模擬授業の実践も振り返りもできていない。	グループワーク・グループ討議（態度・思考力・表現力・技能）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
道徳の理論と指導法 Moral Theory and Teachin Method	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPTS1027	１年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	1	必修	西田　稔	○

実務家教員の詳細	小学校教諭としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	学校における道徳教育の重要性の認識のもと、道徳の根本理念に基づいて確かな識見と展望をもった教育の推進ができる技量を養うため、学校の全教育活動を通じて行う道徳教育とその要としての役割を持つ道徳科の目標や内容、指導計画、基本的な指導過程や指導法等について学ぶ。これらを踏まえて教材研究、道徳科学習指導案の作成、模擬授業を行い、道徳科の実践的指導力を身に付ける。	
到達目標	(1)-1) 道徳とはどのような学問であるかを説明することができる。	
	(1)-2) 道徳と哲学及び儒教思想との関わり、学制発布以降の道徳教育の変遷、今日の社会における道徳的な課題等について概要を説明することができる。	
	(1)-3) 道徳性の発達について理解を深め、児童の道徳性の発達特性について説明することができる。	
	(1)-4) 道徳教育の目標と道徳科の目標や内容構成について理解を深め、目標相互の関連や達成方法について説明することができる。	
	(2)-1) 道徳教育全体計画に基づく全教育活動を通じた道徳教育の意義を説明することができる。	
	(2)-2) 指導の効果を高める道徳科における多様な指導方法とその意義を説明することができる。	
	(2)-3) 教材の特性について理解を深め、道徳科の授業設計に生かすことができる。	
	(2)-4) 基本形式に則って、自己の生き方についての考えを深める道徳科学習指導案を作成することができる。	
	(2)-5) 道徳科における評価の意義や目的及び方法を理解し確たる理念に基づいて評価ができる。	
	(2)-6) 互いに協力して道徳的実践力を培う模擬授業を展開することができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	人間としての生き方を学ぶ道徳教育			自分の道徳教育観をまとめる。	2 時間
2	道徳教育の変遷	講義資料 1 を読んでおく。	2 時間	道徳教育の歴史的経緯をまとめる。	2 時間
3	道徳性の発達と道徳教育	講義資料 2 を読んでおく。	2 時間	道徳性の発達特性を整理する。	2 時間

	4	道徳教育の目標及び内容	講義資料 3 を読んでおく。	2 時間	目標の相互関連、内容の整理をする。	2 時間
	5	全教育活動における道徳教育	講義資料 4 を読んでおく。	2 時間	全教育活動で行う方法をまとめる。	2 時間
	6	道徳教育計画の策定	講義資料 5 を読んでおく。	2 時間	作成の意義と要点をまとめる。	2 時間
	7	道徳科の指導過程と教材・発問	講義資料 6 を読んでおく。	2 時間	基本過程に沿った指導の要点や発問についてまとめる。	2 時間
	8	道徳科における評価	講義資料 7 を読んでおく。	2 時間	評価の意義、対象、方法をまとめる。	2 時間
	9	道徳科学習指導案の作成の仕方	講義資料 8 及び道徳科指導書の関連部分を読んでおく。	2 時間	基本形式、項目、項目ごとの記載の要点をまとめる。	2 時間
	10	道徳科学習指導案の作成（グループ研究）―低学年教材―「はしの上のおおかみ」	講義資料 9 を読んで、銘々が所定様式に授業シナリオを作成しておく。	3 時間	協議をもとに、銘々が道徳科学習指導案「はしの上のおおかみ」を作成する。	4 時間
	11	授業説明（グループ代表）及び研究協議	役割分担に従い、発表内容やその意図について考えをまとめておく。	2 時間	協議をもとに、指導案を見直し、完成させる。	2 時間
	12	道徳科学習指導案の作成 －中学年教材－「学級文庫」 －高学年教材－「転校生がやってきた」	それぞれの教材について学習指導案の原案を作成する。	3 時間	指導案を作成する。（模擬授業実施分、模擬授業省略分）	4 時間
	13	模擬授業の実施	指導案作成と模擬授業の準備をする。	2 時間	模擬授業の反省事項をまとめる。	2 時間
	14	模擬授業の実施	指導案作成と模擬授業の準備をする。	2 時間	模擬授業の反省事項をまとめる。	2 時間
	15	模擬授業の実施	指導案作成と模擬授業の準備をする。	2 時間	模擬授業の反省事項をまとめる。	2 時間

成績評価	定期試験（14%）、指導案（26%）、授業への取り組み（6%）、グループワーク・グループ討議（24%）、模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（30%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	授業内容の整理メモや課題プリントへコメントしたり、気づきを記入したりして返却する。 模擬授業に関しては、指導案作成中のアドバイスや指導案へのコメントの記入、授業講評等を通じて行う。試験については、ルーブリック評価の結果を伝える。
テキストおよび参考文献	テキスト：講義資料はその都度、学習プリントも必要に応じて配布 『小学校指導要領（平成 29 年告示）解説　総則編（平成 29 年 7 月　文部科学省）』 『小学校指導要領（平成 29 年告示）解説　小学校特別の教科　道徳編（平成 29 年 7 月　文部科学省）』
メッセージなど	特別な教科として位置づけられ、教科書の導入も確定するなど、道徳教育に対する国民の関心も一層高まっています。人格形成という教育の根幹に直接関わるだけに指導者の資質や技量の向上がより一層強く求められています。 小学校教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 道徳とはどのような学問であるかを説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。	定期試験（知識・理解）	2%
	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。	授業への取り組み（知識・理解）	1%
(1)-2) 道徳と哲学及び儒教思想との関わり、学制発布以降の道徳教育の変遷、今日の社会における道徳的な課題等について概要を説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。	定期試験（知識・理解）	1%
	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。	授業への取り組み（知識・理解）	1%
(1)-3) 道徳性の発達について理解を深め、児童の道徳性の発達特性について説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。	定期試験（知識・理解）	2%
	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。	授業への取り組み（知識・理解）	1%
(1)-4) 道徳教育の目標と道徳科の目標や内容構成について理解を深め、目標相互の関連や達成方法について説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。	定期試験（知識・理解）	1%
	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。	授業への取り組み（知識・理解）	1%
(2)-1) 道徳教育全体計画に基づく全教育活動を通じた道徳教育の意義を説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。	定期試験（知識・理解）	2%
	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。	授業への取り組み（知識・理解）	1%
(2)-2) 指導の効果を高める道徳科における多様な指導方法とその意義を説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。	定期試験（知識・理解）	1%
	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。	授業への取り組み（知識・理解）	1%

(2)-3) 教材の特性について理解を深め、道徳科の授業設計に生かすことができる。	ほぼ完璧に教材の特性を生かした授業設計ができる。	大きな誤りなく教材の特性を生かした授業設計ができる。	特性を生かしきれていないが授業設計の基本はできる。	教材の特性を生かした授業設計ができない。	指導案 （意欲・思考力・表現力・創造性・協働性）	13%
	ほぼ完璧に教材の特性を生かした授業設計ができる。	大きな誤りなく教材の特性を生かした授業設計ができる。	特性を生かしきれていないが授業設計の基本はできる。	教材の特性を生かした授業設計ができない。	グループワーク・グループ討議 （意欲・思考力・表現力・創造性・協働性）	12%
(2)-4) 基本形式に則って、自己の生き方についての考えを深める道徳科学習指導案を作成することができる。	ほぼ完璧に作成できる。	大きな誤りなく作成できる。	いくつかの課題はあるが、基本を踏まえて作成できる。	作成できない。	指導案 （意欲・思考力・表現力・創造性・協働性）	13%
	ほぼ完璧に作成できる。	大きな誤りなく作成できる。	いくつかの課題はあるが、基本を踏まえて作成できる。	作成できない。	グループワーク・グループ討議 （意欲・思考力・表現力・創造性・協働性）	12%
(2)-5) 道徳科における評価の意義や目的及び方法を理解し確たる理念に基づいて評価ができる。	ほぼ完璧に道徳科における評価の仕方が説明できる。	大きな誤りなく道徳科における評価の仕方が説明できる。	道徳科における評価の仕方の大筋が説明できる。	道徳科における評価の仕方が説明できない。	定期試験 （知識・理解）	5%
(2)-6) 互いに協力して道徳的実践力を培う模擬授業を展開することができる。	ほぼ完璧に模擬授業が展開できる。	若干の検討課題はあるが、基本を踏まえた模擬授業が展開できる。	問題点はあるが、最低限の基本を踏まえた模擬授業が展開できる。	模擬授業を展開することができない。	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ （意欲・思考力・判断力・表現力・創造性）	30%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
総合的な学習の時間の指導法 Teaching Methods of Period for Integrated Studies	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPTS2028	２年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	1	選択	川上 認	○

実務家教員の詳細	小学校教諭としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	総合的な学習の時間は、探求的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく問題を解決し、自己の生き方を考えていく資質・能力の育成を目指す。 各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から見て捉え、実社会・実生活の課題を探求する総合的な学びを実現するための指導の在り方を身に付ける。	
到達目標	(1)-1) 総合的な学習の時間の教育課程における役割を説明できる。	
	(1)-2) 総合的な学習の時間の目標や内容を説明できる。	
	(2)-1) 総合的な学習の時間の年間計画作成上の留意点が説明できる。	
	(2)-2) 総合的な学習の時間の単元計画作成上の留意点が説明できる。	
	(2)-3) 総合的な学習の時間の指導事例を具体的に述べることができる。	
	(3)-1) 総合的な学習の時間の評価上の留意点を述べることができる。	
	(3)-2) 総合的な学習の時間の評価の多様性を述べることができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	総合的な学習の時間の意義と役割を学ぶ	要領解説第 1 章を読む	1 時間	意義と役割をまとめる	1 時間
2	総合的な学習の時間の目標を理解する	要領解説第 2 章 1 節読む	1 時間	目標を箇条書きする	1 時間
3	総合的な学習の時間で育成を目指す資質・能力を理解する	要領解説第 2 章 2 節を読む	1 時間	育てたい資質能力を表にする	1 時間
4	各学校で定める総合的な学習の時間の目標と内容を理解する	要領解説第 3 章 1, 2 節を読む	1 時間	各学校に適する配慮点をまとめる	1 時間
5	児童や地域の実態、学校の特色に応じた探求課題を理解する	要領解説第 3 章 3 節を読む	1 時間	課題達成のための資質能力を列記する	2 時間

	6	年間指導計画、単元計画作成上の配意点を学ぶ	要領解説第 4 章を読む	1 時間	作成上の配慮事項をまとめる	1 時間
	7	模擬的な指導計画を作成する	指導計画の要素を調べる	1 時間	配慮事項と照合してみる	1 時間
	8	総合的な学習の時間の特質を生かした指導事例を学ぶ	テキスト第 1 章を読む	1 時間	本地域に適した教材、課題を考える	1 時間
	9	学習指導事例①考えるための技法を活用した学習活動	テキスト第 2 章を読む	1 時間	技法の一覧表を作る	1 時間
	10	学習指導事例②情報活用能力を生かした学習活動	テキスト第 3 章を読む	1 時間	タブレットを利用してみる	2 時間
	11	学習指導事例③体験活動を重視した学習活動	テキスト第 4 章を読む	1 時間	体験活動の意義をまとめる	1 時間
	12	学習指導事例④地域教材や環境を生かした学習活動	テキスト第 5 章を読む	1 時間	人材バンクを作成する	2 時間
	13	学習指導事例⑤調査活動を重視した学習活動	テキスト第 6 章を読む	1 時間	調査方法の一覧表を作る	1 時間
	14	総合的な学習の時間の評価活動上の留意点を理解する	要領解説第 8 章を読む	1 時間	留意点をまとめる	1 時間
	15	児童の学習状況評価、教師や学校の評価の在り方を学ぶ	要領解説第 9 章を読む	1 時間	評価方法を列記する	1 時間

成　績　評　価	定期試験（20%）、課題・レポート（40%）、指導案（20%）、発表・プレゼンテーション（10%）、グループワーク・グループ討議（10%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	個人評価や相互評価、活動の成果物等でフィードバックし、学習を深める。
テキストおよび参　考　文　献	『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　総合的な学習の時間編（平成 29 年 7 月　文部科学省）』東洋館出版
メッセージなど	教科の学習の枠を超えた多様で創造的で、共に学ぶ楽しい授業展開の計画・実践力を身に付けよう。 小学校教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1)総合的な学習の時間の教育課程における役割を説明できる。	ほぼ確実に役割を説明できる。	十分に役割を説明できる。	おおむね役割を説明できる。	ほとんど役割を説明できない。	定期試験（知識）	10%
(1)-2)総合的な学習の時間の目標を説明できる。	ほぼ確実に目標を説明できる。	十分に目標を説明できる。	おおむね目標を説明できる。	ほとんど目標を説明できない。	定期試験（知識）	10%
	ほぼ確実に目標を説明できる。	十分に目標を説明できる。	おおむね目標を説明できる。	ほとんど目標を説明できない。	課題・レポート（理解）	10%
(2)-1)総合的な学習の時間の年間計画作成上の留意点が説明できる。	ほぼ確実に作成上の留意点が説明できる。	十分に作成上の留意点が説明できる。	おおむね作成上の留意点が説明できる。	ほとんど作成上の留意点が説明できない。	課題・レポート（理解）	10%
(2)-2)総合的な学習の時間の単元計画作成上の留意点が説明できる。	ほぼ確実に作成上の留意点が列記できる。	十分に作成上の留意点が列記できる。	おおむね作成上の留意点が列記できる。	ほとんど作成上の留意点が列記できない。	課題・レポート（理解）	20%
(2)-3)総合的な学習の時間の指導事例を具体的に述べることができる。	ほぼ確実に指導法を具体的に述べることができる。	十分に指導事例を具体的に述べることができる。	おおむね指導事例を具体的に述べることができる。	ほとんど指導事例を具体的に述べることができない。	指導案（表現力）	20%
(3)-1)総合的な学習の時間の評価上の留意点を述べることができる。	ほぼ確実に評価上の留意点を述べることができる。	十分に評価上の留意点を述べることができる。	おおむね評価上の留意点を述べることができる。	ほとんど評価上の留意点を述べることができない。	発表・プレゼンテーション（表現力）	10%
(3)-2)総合的な学習の時間の評価の多様性を述べることができる。	ほぼ確実に評価の多様性を述べることができる。	十分に評価の多様性を述べることができる。	おおむね評価の多様性を述べることができる。	ほとんど評価の多様性を述べることができない。	グループワーク・グループ討議（表現力）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
特別活動の指導法 Teaching Methods of Extra-Curricular Activities	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPTS2029	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	1	選択	川上 認	○

実務家教員の詳細	小学校教諭としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	学校教育全体の中で行われる特別活動の意義や目標を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の３つの視点を持ち、学年の違いによる所属集団や活動の変化や各教科や道徳のとの関連及び他の教職員・家庭や地域との連携等、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。	
到達目標	(1)-1) 改定の基本方針や改善された内容を改定前と対比できる	
	(1)-2) 新学習指導要領による特別活動の目標や内容を説明できる	
	(1)-3) 特別活動の特質を列記できる	
	(1)-4) 学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の目標や内容を説明できる	
	(2)-1) 児童の発達段階や取り巻く環境に配慮した指導の在り方を説明できる	
	(2)-2) 特別活動の全体・年間指導計画、指導案が模擬作成できる	
	(2)-3) 話し合い活動や異集団との交流活動が計画・実践できる	
	(2)-4) 特別活動における取組の評価・改善活動の方法を説明できる	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	特別活動の改訂の基本方針や改善点を理解する	要領解説第 1 章を読む	1 時間	改善点をシートにまとめる	1 時間
2	特別活動の目標や内容を理解する	要領解説第 2 章 1 節を読む	1 時間	振り返りシートにまとめる	1 時間
3	特別活動の指導における他教科と異なる特質を調べる	要領解説第 2 章 2 節を読む	1 時間	テキスト 8～9P を読む	1 時間
4	学級活動の目標と内容(1)を理解する	要領解説第 3 章を読む	1 時間	内容(1)表にまとめる	1 時間
5	学級活動の目標と内容(2)を理解する	内容(1)(2)の分類表をつくる	2 時間	内容(2)表にまとめる	1 時間

	6	児童会活動、クラブ活動目標と内容を理解する	要領解説第 3 章 2 節 3 節を読む	1 時間	テキスト 19～22P を読む	1 時間
	7	学校行事の目標と内容を理解する	要領解説第 3 章 4 節を読む	1 時間	テキスト 23～28P を読む	1 時間
	8	児童や家庭、学校、地域の実態に即した指導の在り方を理解する	要領解説第 4 章 1 節を読む	1 時間	要領解説付録 3 を読む	1 時間
	9	特別活動の全体・年間指導計画・指導案の作成の仕方を学ぶ	全体計画の項目を列記する	1 時間	振り返りシートに記入する	1 時間
	10	話合い活動の指導計画を作成する	活動形態を調べる	1 時間	テキスト 14～18P を読む	1 時間
	11	話合い活動の指導実践する	指導案を作成する	3 時間	指導案を修正する	1 時間
	12	交流活動の実践計画を立てる	挨拶状を書く	2 時間	持参物を作る	2 時間
	13	交流活動を実践する	活動の事前準備をする	1 時間	お礼状を書く	1 時間
	14	特別活動の評価の在り方を理解する	要領解説第 4 章 5 節を読む	1 時間	評価表を作る	1 時間
	15	ガイダンスやカウンセリング（教育相談）の必要性を理解する	要領解説第 4 章 2 節を読む	1 時間	ガイダンスについて調べる	1 時間

成　績　評　価	定期試験（20%）、課題・レポート（30%）、指導案（30%）、発表・プレゼンテーション（20%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	過去の学習による累積した活動成果物の振り返りを通してフィードバックする
テキストおよび参　考　文　献	『小学校指導要領（平成 29 年告示）解説　特別活動編（平成 29 年 7 月　文部科学省）』東洋館出版社、『特別活動の研究』山口短期大学
メッセージなど	教科の学習活動とは異なる特別活動の趣旨に鑑み、よりよい仲間づくりと楽しい学級・学校づくりを目指す姿勢で受講してほしい。 小学校教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1)改定の基本方針や改善された内容を改定前と対比できる	ほぼ確実に方針や内容を対比できる	十分に方針や内容を対比できる	おおむね方針や内容を対比できる	まったく方針や内容を対比できない	課題・レポート（知識）	10%
(1)-2)新学習指導要領による特別活動の目標や内容を説明できる	ほぼ確実に目標や内容を説明できる	十分に目標や内容を説明できる	おおむね目標や内容を説明できる	まったく目標や内容を説明できない	発表･プレゼンテーション（理解）	10%
(1)-3)特別活動の特質を列記できる	ほぼ確実に特質を列記できる	十分に特質を列記できる	おおむね列記できる	まったく列記できない	定期試験（理解）	10%
(1)-4)学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の目標や内容を説明できる	ほぼ確実に目標や内容を説明できる	十分に目標や内容を説明できる	おおむね目標や内容を説明できる	まったく目標や内容を説明できない	定期試験（理解）	10%
	ほぼ確実に目標や内容を説明できる	十分に目標や内容を説明できる	おおむね目標や内容を説明できる	まったく目標や内容を説明できない	課題・レポート（理解）	10%
(2)-1)児童の発達段階や取り巻く環境に配慮した指導の在り方を説明できる	ほぼ確実に実態に配慮した指導の在り方を説明できる	十分に実態に配慮した指導の在り方を説明できる	おおむね実態に配慮した指導の在り方を説明できる	まったく実態に配慮した指導の在り方を説明できない	発表･プレゼンテーション（意欲）	10%
(2)-2)特別活動の全体・年間指導計画、指導案が模擬作成できる	ほぼ確実に指導計画が作成できる	十分に指導計画が作成できる	おおむね指導計画が作成できる	まったく指導計画が作成できない	指導案（技能）	20%
(2)-3)話し合い活動や異集団との交流活動が計画・実践できる	ほぼ確実に交流活動が計画・実践できる	十分に交流活動が計画・実践できる	おおむね交流活動が計画・実践できる	まったく交流活動が計画・実践できる	指導案（技能）	10%
(2)-4)特別活動における取組の評価・改善活動の方法を説明できる	ほぼ確実に評価・改善活動の方法を説明できる	十分に評価・改善活動の方法を説明でき	おおむね評価・改善活動の方法を説明できる	まったく評価・改善活動の方法を説明できない	課題・レポート（創造性）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
外国語指導法 Teaching Methods of Foreign Language（English）	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPTS2030	２年次	前　期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	熊　谷　　仁	○

実務家教員の詳細	中学校英語科教員としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	小学校における外国語活動（中学年）・外国語（高学年）の学習、指導、評価に関する基本的な知識や指導技術を身に付ける。	
到達目標	(1) 小学校外国語教育に係る背景知識や主教材、小・中・高等学区の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について理解している。	
	(2) 児童期の第二言語習得の特徴について理解している。英語の基本的事項（音声・語彙・文構造・文法・正書法）について理解している。	
	(3) 実践に必要な基本的な指導技術を身に付けている。	
	(4) 実際の授業づくりに必要な知識・技術を身に付けている。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	・小学校外国語教育の変遷を理解する。 ・学習指導要領外国語活動、外国語解説の研究。目標、内容を詳しく見て理解する。 ・英語で自己紹介をする。	学習指導要領外国語解説を読んでおく 英語で自己紹介を考える	2 時間	学習指導要領解説を再度読んでおく 英語の自己紹介を覚える	2 時間
2	・小学校・中学校・高等学校の外国語教育の目標や学習内容を理解する。 ・小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割を理解する。 ・”Let’s Try 1”Unit 1 「あいさつをして友だちになろう」の教材研究	小・中・高等学校の学習目標を比較して調べておく ”Let’s Try 1”Unit 1 の英語、表現などを調べておく	2 時間	英単語、表現などを復習する。	2 時間
3	・第二言語習得の特徴を理解し、外国語指導上の留意点について話し合う。 ・国語教育との連携による言葉の面白さや豊かさへの気づきについて理解し、指導に生かす。 ・”Let’s Try 1”Unit2「ごきげんいかが」の教材研究	第二言語習得論について事前に調べてまとめておく。（レポート 1 枚） ”Let’s Try 1”Unit2 の予習。	2 時間	第二言語について考えをまとめる。 ”Let’s Try 1”Unit2 の復習する。	2 時間

	4	・英語の基本的事項（音声・語彙・文構造・文法・正書法）について再確認する。 ・コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて意味のあるやり取りを行う重要性を理解し指導に生かす。児童の実態を動画鑑賞する。	英語の基本的事項（音声・語彙・文構造・文法・正書法）について調べてまとめる。(レポート1枚)	2時間	英語（音声・語彙・文構造・文法・正書法）について復習する。	2時間
	5	・小学校における外国語指導助手とのティーム・ティーチングによる授業場面の映像を通してティーム・ティーチングのやり方を理解する。 ・”Let’s Try 1”Unit3「数えて遊ぼう」の教材研究	小学校英語授業の映像を事前に検索して見ておく。感想(レポート1枚)	2時間	”Let’s Try 1”Unit3の単語、表現など復習する。	2時間
	6	・模擬授業①のための指導案作成について知る。 ・主教材の趣旨、構成、特徴を考える。 ・今回は、ペアで授業実践する。 ・様々な指導環境に柔軟に対応するため、児童や学校の多様性への対応について理解している。	”Let’s Try 1”Unit4の予習をする。	2時間	単語、表現などを覚える。	2時間
	7	・模擬授業の指導案作成完了と授業の準備、板書計画、教材教具の準備、ペアで実践の練習等々。 ・模擬授業の実践①をする。指導者以外の学生は、児童役をして授業に参加する。 ・各授業の評価をする。	”Let’s Try 1”Unit4模擬授業実践の準備のための構想を練っておく。	2時間	授業で使う英語、表現を練習して覚えておく。	2時間
	8	・模擬授業の実践①をする。各授業の評価をする。 ・模擬授業の記録映像を見て、協議会をする。 　自分達の自評、他のペアの評価を協議し合う。 ・良い授業について考える。	模擬授業のための準備をする。	2時間	他のペアの授業も参考にしてよい授業について考えておく。	2時間
	9	・模擬授業②　教科書”Here We Go”を使って模擬授業を計画する。今回は、各自一人で授業計画、指導案作成、授業実践をする。 ・” Here We Go !”の教材研究をする。	” Here We Go! ”の教材研究を、資料を基にしておく。	2時間	選択した Lesson の資料の読み込み、授業に必要な英単語、表現を覚える。	2時間
	10	・” Here We Go ! ”の教材研究をする。 ・選択した Lesson の資料を読み込み、単語や表現の聞き取り、発話練習等をした上で、学習指導案の作成の構想を練る。音声から文字へと進むプロセスの理解と授業への活用を図る。	模擬授業の指導案作成のために配布資料を読み込んでおく。	2時間	指導法、英語表現などをふりかえる。	2時間
	11	・模擬授業②のための指導案作成について考える。 ・教材の趣旨、構成、特徴を考える。 ・模擬授業の指導案作成完了と授業の準備、板書計画、教材教具の準備、	模擬授業の指導案に基づき授業の準備、発話練習、板書計画や教材の準備をする。	2時間	指導法、英語表現などをふりかえる。	2時間

	12	・模擬授業②の実践を、個人で発表する。(1) ・評価表に自他の評価を記入しおく。 ・児童の英語発話を促し、児童同士でやり取りができるように指導方法を工夫する。	模擬授業の指導案に基づき授業の準備、発話練習、板書計画や教材の準備をする。	2 時間	自他の模擬授業についてふりかえり、良い授業について考える。	2 時間
	13	・模擬授業②の実践を、個人で発表する。(2) ・授業を見て忌憚のない意見を出し合って協議する。評価表の完成。学習状況の評価を理解する。 ・ICT 等の効果的な活用法を理解し授業に生かす。	模擬授業の指導案に基づき自他の授業の評価をする。	2 時間	授業中の自他の良いところを見つけ、今後の指導に生かす。	2 時間
	14	・児童の英語活動について、教師との活動だけでなく、子ども同士の活動を多く経験させることも留意する。 ・文字指導について、高学年指導資料に基づき、読む活動・各活動への導き方を理解し、指導に生かすことを考える。	文字指導について資料を調べておく	2 時間	授業の工夫の仕方 文字指導について理解おく	2 時間
	15	・学習状況の評価について理解する。 ・本講義全体をふりかえる。成果と課題について考え、児童の実態を見ながら今後の学習指導で工夫を継続することを望む。	評価について調べて自分考えをまとめておく。	2 時間	外国語活動・外国語の指導についてひと通りのやり方を身に付ける。	2 時間

成績評価	小テスト（20%）、指導案（20%）、各指導法の実習（20%）、模擬授業（30%）、授業への取り組み（10%）
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	それぞれに対してコメントをする。
テキストおよび参考文献	"Let's Try 1" Let’s Try! 2（児童用）、"Here We Go 5　6" 児童用教科書（光村図書）、『新編 小学校英語教育法入門（樋口忠彦他）』研究社 ISBN 978-4-327-41098-8、『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　外国語活動・外国語編（平成 29 年 7 月　文部科学省』
メッセージなど	「外国語」の授業で学んだ理論に基づき、児童の学齢に適した指導ができるようになってほしいと願っています。活発な授業参加を期待します。 小学校教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 小学校外国語教育に係る背景知識や主教材、小・中・高等学区の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について理解している。	ほぼ完璧に伝わっている	大きな間違いがなく、伝わっている	最低限は伝わっている	伝わっていない	テスト（知識・理解・技能）	10%
	ほぼ完璧に伝わっている	大きな間違いがなく、伝わっている	最低限は伝わっている	伝わっていない	指導案（思考力・判断力・表現力）	5%
(2) 児童期の第二言語習得の特徴について理解している。英語の基本的事項（音声・語彙・文構造・文法・正書法）について理解している。	ほぼ完璧に教えている	大きな間違えがなく教えている	最低限は教えている	教えていない。	テスト（知識・理解・技能）	10%
	ほぼ完璧に教えている	大きな間違えがなく教えている	最低限は教えている	教えていない。	指導案（知識・理解・技能）	5%
	ほぼ完璧に教えている	大きな間違えがなく教えている	最低限は教えている	教えていない。	指導法の実習（知識・理解・技能）	10%
(3) 実践に必要な基本的な指導技術を身に付けている。	ほぼ完璧に指導している	大きな間違えがなく指導している	最低限は指導している	指導できな	指導法の実習（知識・理解・技能）	5%
	ほぼ完璧に指導している	大きな間違えがなく指導している	最低限は指導している	指導できな	模擬授業（技能・表現力・問題解決力）	15%
(4) 実際の授業づくりに必要な知識・技術を身に付けている。	ほぼ完璧に教えている	大きな間違えがなく教えている	最低限は教えている	教えることができない	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	10%
	ほぼ完璧に教えている	大きな間違えがなく教えている	最低限は教えている	教えることができない	模擬授業（技能・表現力・問題解決力）	15%
	ほぼ完璧に教えている	大きな間違えがなく教えている	最低限は教えている	教えることができない	指導法の実習（知識・理解・技能）	5%
	ほぼ完璧に教えている	大きな間違えがなく教えている	最低限は教えている	教えることができない	指導案（知識・理解・技能）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
教育方法学 Educational Method	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPBE1007	1年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	1	選択	加藤 浩久・平田 睦美	○

実務家教員の詳細	教育委員会指導主事、公立幼稚園園長としての実務経験を生かした到達目標達成のための実践的な授業を行う。

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	
(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○

概　　要	「学習指導」を念頭に、授業を成立させるための要件を「目標→方法→評価」の観点から学習し、教育方法にかかる理論と実践について学習する。併せて、学校教育の今日的な課題を意識した実践者としての素養と指導力を醸成する。 また、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、教育の技術に関する基礎的な知識・技能を身につける。子どもの発達や興味・関心に応じて授業・保育の内容を考え、教育者に必要とされる教材の工夫、授業・保育の展開、教師の働きかけと援助について学ぶ。

到達目標	(1)-1) 教育方法の基礎的理論と実践を理解している。
	(1)-2) これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するための教育の在り方を理解している。
	(1)-3) 学級・幼児及び児童、教員、教室・保育室、教材など授業、保育環境を構成するための基礎的な要件を理解している。
	(1)-4) 育みたい資質・能力と幼児・児童理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解している。
	(2)-1) 子どもへの働きかけや援助など、授業・保育を行なう上での基礎的な技術を身に付けている。
	(2)-2) 子どもの発達に応じて授業・保育のねらいと内容を考え、教材・教具を準備し、授業・保育の展開を考えて指導計画案を作成することができる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーションで、これから学んでいく方向性を理解する。「教育方法学とは何か」が明確になる。(加藤・平田)	「今、なぜ教育方法学なのか」を読む。	2時間	教育方法学の概要についてまとめる。	2時間
2	これまで多くの実践者が依拠してきた授業の基本原理と、教育方法学に流れるエスプリについて理解する。(加藤)	自分が受けてきた授業の長所や短所を想起する。	2時間	三つの精神を確認する。	2時間
3	現行の学習指導要領によって構築される教育課程の構造について理解する。(加藤)	総則編を読む。	2時間	教科と領域の関係を振り返る。	2時間
4	指導案作成の実際をもとに「授業をデザインすること」の意義について理解する。(加藤)	「第7章」を読む。	2時間	授業の一般的な構造について振り返る。	2時間

	5	教材という視点から「授業のデザイン」について理解する。(加藤)	「第８章」を読む。	2 時間	教材という概念の多様性を振り返る。	2 時間
	6	学習評価という視点から「授業のデザイン」について考える。（加藤）	「第９章」を読む。	2 時間	目標に準拠した評価の理念と方法について振り返る。	2 時間
	7	教科外活動という視点から「授業のデザイン」について考える。(加藤)	「第１０章」を読む。	2 時間	集団を育てることの効果の大きさを振り返る。	2 時間
	8	教師（授業者）の特性という視点から「授業のデザイン」について考える。(加藤)	「第１１章」を読む。	2 時間	教師のスタンスによる効果と弊害についてまとめる。	2 時間
	9	子どもの資質・能力を育むために、幼児教育で何が必要とされているかについて理解する。（平田）	幼稚園教育要領総則を読む。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	10	遊びの重要性を理解し、遊びを充実させるための教師の援助や環境構成について理解する。（平田）	配布資料を読む。	2 時間	ペープサート・パネルシアターを作成する	2 時間
	11	授業・保育を展開するための教材について検討する。(平田)	配布資料を読む。	2 時間	ペープサート・パネルシアターを作成する	2 時間
	12	教材を作成し、その使い方や演じ方について学ぶ。(平田)	配布資料を読む。	2 時間	ペープサート・パネルシアターの練習をする。	2 時間
	13	子どもの実態に応じたねらいや内容を考え、指導案を立案し、模擬保育を行う。(平田)	配布資料を読む。	2 時間	模擬保育の振り返りをまとめる。	2 時間
	14	実践を通し、反省・評価・改善を反映させた指導計画の立案について理解する。(平田)	配布資料を読む。	2 時間	指導計画についての考え方をまとめる。	2 時間
	15	子どもに育みたい資質・能力に基づいた評価について学ぶ。また、全１５回の学習内容を振り返り、教育方法についての理解を深める。(加藤・平田)	これまでの授業資料を読み直す。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
成　績　評　価		定期試験（40%）、模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（30%）、指導案（30%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。				
テキストおよび参　考　文　献		テキスト：『新しい時代の教育方法』有斐閣アルマ、幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省）、保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示厚生労働省） 参考文献：『小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）』東洋館出版、『小学校学習指導要領　解説　総則編（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）』東洋館出版、文部科学省『幼稚園教育指導資料第５集』チャイルド本社				

メッセージなど	教壇に立って役に立つ理論や方法を模擬授業的に学習する授業 グループ討議やグループでの教材作成、模擬保育などの保育実践を行い、学生の主体的な学びを重視します。 小学校教諭二種免許状：必修科目 幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 教育方法の基礎的理論と実践を理解している。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(1)-2) これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するための教育の在り方を理解している。	ほぼ完璧に理解できる。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(1)-3) 学級・幼児及び児童、教員、教室・保育室、教材など授業、保育環境を構成するための基礎的な要件を理解している。	ほぼ完璧に理解できる。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(1)-4) 育みたい資質・能力と幼児・児童理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解している。	ほぼ完璧に理解できる。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(2)-1) 子どもへの働きかけや援助など、授業・保育を行なう上での基礎的な技術を身に付けている。	ほぼ完璧に身につけている。	大きな間違いがなく、基本を身につけている。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	身についていない。	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（技能・判断力・表現力）	30%
(2)-2) 子どもの発達に応じて授業・保育のねらいと内容を考え、教材・教具を準備し、授業・保育の展開を考えて指導計画案を作成することができる。	ほぼ完璧に作成できる。	子どもの発達にほぼ即した内容の指導案が作成できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本をおさえて作成できる。	作成できていない。	指導案（思考力・表現力）	30%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 Theory and method of education utilizing information and communication technology	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPBE1009	１年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	1	選択	寺本　公思	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○

概　　要	日々進化するICT機器を活用した授業実践は児童の情報活用能力の育成には不可欠である。そのため、教師を目指す学生はICT機器について十分理解する必要がある。この授業では情報通信機器を効果的に活用した学習指導や校務の推進と児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。
到達目標	(1)様々なICT機器について理解する。 (2)授業の目標実現に最適なICTを活用した授業計画を立てることができる。 (3)授業においてICT機器を活用できる実践力を養う。

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和3年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoomによる遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた、情報通信技術の活用について学ぶ	ICT 機器の活用について調べる	2時間	ICT 機器の活用についてまとめる	2時間
2	情報通信技術を効果的に活用した指導の実践例について学ぶ	ICT 機器を活用した指導例について調べる	2時間	ICT 機器を活用した指導例についてまとめる	2時間
3	情報通信技術を効果的に活用した教材の作成について学ぶ	ICT 機器を活用した教材について調べる	2時間	ICT 機器を活用した教材についてまとめる	2時間
4	ICT機器を使った授業での情報モラルについて理解する	ICT 機器を使った情報モラルについて調べる	2時間	ICT 機器を使った情報モラルについてまとめる	2時間
5	教育情報セキュリティの重要性について学ぶ	教育での情報セキュリティについて調べる	2時間	情報セキュリティについてまとめる	2時間
6	各教科の特性に応じた情報通信技術の活用における指導実践（国語・社会）	ICT 活用の指導実践について調べる(国語・社会)	2時間	ICT 機器活用の指導実践についてまとめる	2時間

	7	各教科の特性に応じた情報通信技術の活用における指導実践（算数・理科）	ICT 活用の指導実践について調べる(算数・理科)	2 時間	ICT 機器活用の指導実践についてまとめる	2 時間
	8	各教科の特性に応じた情報通信技術の活用における指導実践（外国語・総合的な学習の時間)	ICT 活用の指導実践について調べる(外国語・総合学習)	2 時間	ICT 機器活用の指導実践についてまとめる	2 時間
	9	児童に情報通信機器の基本的な操作を身に付けさせるための指導法について学ぶ	ICT 機器の基本操作の指導法について調べる	2 時間	ICT 機器の基本操作の指導法についてまとめる	2 時間
	10	特別の支援を必要とする児童及び生徒に対する情報通信技術の活用について学ぶ	特別の支援を必要とする児童に対する ICT 機器の活用について調べる	2 時間	特別の支援を必要とする児童に対する ICT 機器の活用についてまとめる	2 時間
	11	遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムの使用法を学ぶ	遠隔授業やオンライン教育について調べる	2 時間	遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムについてまとめる	2 時間
	12	学習履歴（スタディ・ログ）など教育データの活用法について学ぶ	教育データの活用について調べる	2 時間	教育データの活用についてまとめる	2 時間
	13	情報通信技術を活用した統合型校務支援システムについて学ぶ	ICT を活用した校務支援システムについて調べる	2 時間	ICT を活用した校務支援システムについてまとめる	2 時間
	14	学校における情報通信技術環境の整備における外部人材や外部機関との連携について学ぶ	ICT 環境の整備における外部人材等の活用について調べる	2 時間	ICT 環境の整備における外部人材等の活用についてまとめる	2 時間
	15	情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進についてのまとめ	ICT 機器を効果的に活用した事例について調べる	2 時間	ICT 機器を効果的に活用した事例についてまとめる	2 時間

成　績　評　価	授業への取り組み（30%）、プレゼンテーション(40%)、提出物（30%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	調査レポートなどの返却によるフィードバック。レポートなどは、ルーブリック評価の結果を渡す。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：自作プリント、小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）
メッセージなど	ICT 機器の活用はこれからの教育にとって必須であり、様々な機器についての理解を深めてほしい。 小学校教諭に種免許状、幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)様々な ICT 機器について理解する。	十分に理解ができており、それを説明することができる。	概ね理解ができており、それを説明することができる。	概ね理解ができているが、それを十分に説明できない。	理解が不十分であり、それを十分に説明できない。	課題・レポート（知識・理解）	10%
	十分に理解ができており、それを説明することができる。	概ね理解ができており、それを説明することができる。	概ね理解ができているが、それを十分に説明できない。	理解が不十分であり、それを十分に説明できない。	授業への取り組み（知識・理解）	15%
(2)授業の目標実現に最適なICTを活用した授業計画を立てることができる	ICT 機器について十分に理解ができており、授業計画を実践することができる。	ICT 機器についてについて概ね理解ができており、授業計画を実践することができる。	ICT 機器について概ね理解ができているが、事業計画を十分に実践することができない。	ICT 機器について理解が不十分であり、授業計画実践することが出来ない。	課題・レポート（関心・意欲・理解・思考力）	10%
	ICT 機器について十分に理解ができており、授業計画を実践することができる。	ICT 機器についてについて概ね理解ができており、授業計画を実践することができる。	ICT 機器について概ね理解ができているが、事業計画を十分に実践することができない。	ICT 機器について理解が不十分であり、授業計画実践することが出来ない。	授業への取り組み（関心・意欲・理解・思考力）	15%
(3)授業においてICT機器を活用できる実践力を養う。	十分に理解ができており、それを実践することができる。	概ね理解ができており、それを実践することができる。	概ね理解ができているが、それを十分に実践できない。	理解が不十分であり、それを十分に実践できない。	課題・レポート（関心・意欲・理解・思考力）	10%
	十分に理解ができており、それを実践することができる。	概ね理解ができており、それを実践することができる。	概ね理解ができているが、それを十分に実践できない。	理解が不十分であり、それを十分に実践できない。	発表・プレゼンテーション等（関心・意欲・理解・思考力）	40%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
情報処理実習Ⅰ Information Processing Practice　Ⅰ	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPIE1001	１年次	前期

講義･演習･実技･実習･実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
実習	1	選択	中谷　滋	

ディプロマ･ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	日常生活や諸活動における情報活用の基本的な知識について理解するとともに、ワープロソフトウェアを利用した基本的・応用的文書の作成及び表計算ソフトウェアを利用した基本的な表や各種機能を利用した表の作成を学ぶ。	
到達目標	(1) 基本的・応用的文書の作成ができる。	
	(2) 基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができる。	

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和３年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、情報の活用	テキスト 4 ページから 31 ページを読んでおく。	1 時間	文字入力の基本操作を復習する。	1 時間
2	文書の作成①　－基本的文書－	テキスト 32 ページから 52 ページを読んでおく。	1 時間	授業時の文書作成方法を復習する。	1 時間
3	文書の作成②　－文字の修飾－	テキスト 53 ページから 62 ページを読んでおく。	1 時間	授業時の文書作成方法を復習する。	1 時間
4	文書の作成③　－表の活用－	テキスト 63 ページから 76 ページを読んでおく。	1 時間	授業時の文書作成方法を復習する。	1 時間
5	文書の作成④　－図形の活用－	テキスト 77 ページから 84 ページを読んでおく。	1 時間	授業時の文書作成方法を復習する。	1 時間
6	文書の作成⑤　－画像の活用－	テキスト 85 ページから 91 ページを読んでおく。	1 時間	授業時の文書作成方法を復習する。	1 時間
7	文書の作成⑥　－総合問題①－	ビジネス文書の作成①から⑤の復習をしておく。	1 時間	授業時の文書作成方法を復習する。	1 時間
8	文書の作成⑦　－総合問題②－	ビジネス文書の作成①から⑤の復習をしておく。	1 時間	授業時の文書作成方法を復習する。	1 時間
9	表の作成①　－データ入力－	テキスト 96 ページから 111 ページを読んでおく。	1 時間	授業時の表の作成方法を復習する。	1 時間

	10	表の作成② －基本的なワークシート編集－	テキスト112ページから117ページを読んでおく。	1時間	授業時の表の作成方法を復習する。	1時間
	11	表の作成③ －関数・ｾﾙ参照・罫線・行の挿入－	テキスト120ページから137ページを読んでおく。	1時間	授業時の表の作成方法を復習する。	1時間
	12	表の作成④ －グラフ－	テキスト142ページから148ページを読んでおく。	1時間	授業時の表の作成方法を復習する。	1時間
	13	表の作成⑤ －条件判定と順位付け・検索関数－	テキスト152ページから166ページを読んでおく。	1時間	授業時の表の作成方法を復習する。	1時間
	14	表の作成⑥ －総合問題①－	表の作成①から⑤の復習をしておく。	1時間	授業時の表の作成方法を復習する。	1時間
	15	表の作成⑦ －総合問題②－	表の作成①から⑤の復習をしておく。	1時間	授業時の表の作成方法を復習する。	1時間

成　績　評　価	定期試験（40%）、授業への取り組み（60%）
課題(試験･ﾚﾎﾟｰﾄ等)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	演習課題の達成度から学生の知識・理解度を確認し、演習内容を検討し、目標達成を目指す。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：「30時間でマスター　Office2016」　実教出版企画開発部 編　実教出版
メッセージなど	小学校教諭二種免許状：必修科目 「人生100年時代の社会人基礎力」を身に着けていきましょう。

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 基本的･応用的文書の作成ができる。	ほぼ完璧に基本的・応用的文書の作成ができる。	大きな間違いがなく、基本的・応用的文書の作成ができる。	基本的文書の作成はできるが、応用的文書の作成ができていない。	基本的・応用的文書の作成ができていない。	授業への取り組み（関心･意欲･態度･技能･思考力）	30%
	ほぼ完璧に基本的・応用的文書の作成ができる。	大きな間違いがなく、基本的・応用的文書の作成ができる。	基本的文書の作成はできるが、応用的文書の作成ができていない。	基本的・応用的文書の作成ができていない。	定期試験（知識･理解･技能）	20%
(2) 基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができる。	ほぼ完璧に基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができる。	大きな間違いがなく、基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができる。	基本的な表の作成はできるが、各種機能を利用した表の作成ができていない。	基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができていない。	授業への取り組み（関心･意欲･態度･技能･思考力）	30%
	ほぼ完璧に基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができる。	大きな間違いがなく、基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができる。	基本的な表の作成はできるが、各種機能を利用した表の作成ができていない。	基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができていない。	定期試験（知識･理解･技能）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
情報処理実習Ⅱ Information Processing Practice Ⅱ	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPIE1002	１年次	後期

講義･演習･実技･実習･実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
実習	1	選択	中谷　滋	

ディプロマ･ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	プレゼンテーションの重要性や基礎的な知識と技術について理解するとともに、プレゼンテーションソフトウェアを活用した資料作成方法や効果的なプレゼンテーション技法について理解する。 各自がテーマ設定を行い、プレゼンテーションソフトウェアを活用して資料の作成と発表を行う。	
到達目標	(1) プレゼンテーションソフトウェアを活用して分かりやすい資料の作成ができる。	
	(2) 発表に係るレジュメの作成ができる。	
	(3) 作成した資料を用いて正確で分かりやすい発表ができる。	

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和３年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス スライドの作成①　－文字修飾と図形の活用－	テキスト 194 ページから 209 ページを読んでおく。	1 時間	授業時のスライドの作成方法を復習する。	1 時間
2	スライドの作成②　－グラフの活用－ スライドの作成③　－SmartArt の活用とアニメーション効果－	テキスト 210 ページから 217 ページを読んでおく。	1 時間	授業時のスライドの作成方法を復習する。	1 時間
3	スライドの作成④　－表の活用と画像の挿入－ スライドの作成⑤　－ワードアートの挿入－	テキスト 218 ページから 225 ページを読んでおく。	1 時間	授業時のスライドの作成方法を復習する。	1 時間
4	スライドの作成⑥　－その他の機能－ スライドの作成⑦　－総合演習①－	テキスト 226 ページから 231 ページを読んでおく。	1 時間	授業時のスライドの作成方法を復習する。	1 時間
5	スライドの作成⑧　－総合演習②－	スライドの作成①から⑥の復習をしておく。	1 時間	授業時のスライドの作成方法を復習する。	1 時間
6	スライドの作成⑨　－総合演習③－	スライドの作成①から⑥の復習をしておく。	1 時間	授業時のスライドの作成方法を復習する。	1 時間
7	スライドショーと資料作成	テキスト 232 ページから 239 ページを読んでおく。	1 時間	スライドショーと資料作成について復習する。	1 時間
8	発表テーマの検討	発表テーマに関する情報を収集しておく。	1 時間	発表テーマ決定のために収集した情報を整理する。	1 時間

	9	発表テーマの決定	発表テーマに関するストーリーを考えておく。	1 時間	プレゼンテーションストーリーシートを完成させる。	1 時間
	10	発表用スライドの作成①	スライドの作成条件を確認し、構成を考えておく。	1 時間	発表の意図が伝わるスライドになっているか確認する。	1 時間
	11	発表用スライドの作成②	スライドの作成条件を確認し、構成を考えておく。	1 時間	発表の意図が伝わるスライドになっているか確認する。	1 時間
	12	レジュメと発表用原稿の作成	レジュメと発表用原稿の作成について準備しておく。	1 時間	発表のリハーサルを行う。	1 時間
	13	発表①	発表のリハーサルをしておく。	1 時間	発表の評価を整理する。	1 時間
	14	発表②	発表のリハーサルをしておく。	1 時間	発表の評価を整理する。	1 時間
	15	まとめ	発表の成果と課題をまとめておく。	1 時間	発表の成果と課題を整理する。	1 時間

成　績　評　価	課題・レポート（10%）、授業への取り組み（60%）、発表・プレゼンテーション（30%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	演習課題の達成度から学生の知識・理解度を確認し、演習内容を検討し、目標達成を目指す。
テキストおよび参考文献	テキスト：「30 時間でマスター　Office2016」　実教出版企画開発部 編　実教出版
メッセージなど	小学校教諭二種免許状：必修科目 「人生 100 年時代の社会人基礎力」を身に着けていきましょう。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) プレゼンテーションソフトウェアを活用して分かりやすい資料の作成ができる。	とても分かりやすい資料の作成ができる。	分かりやすい資料の作成ができる。	最低限の資料作成ができる。	資料の作成ができていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度・技能・思考力）	60%
(2) 発表に係るレジュメの作成ができる。	とても分かりやすいレジュメの作成ができる。	分かりやすいレジュメの作成ができる。	最低限のレジュメ作成ができる。	レジュメの作成ができていない。	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	10%
(3) 作成した資料を用いて正確で分かりやすい発表ができる。	とても正確で分かりやすい発表ができる。	正確で分かりやすい発表ができる。	最低限の発表ができる。	発表ができていない。	発表・プレゼンテーション（意欲・態度・技能・表現力・創造性）	30%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
プログラミング教育 Programming education	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPIE2003	２年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	寺本 公思	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	2020 年から小学校にもプログラミング教育が導入されました。現在の子供達が将来活躍する時代は AI が飛躍的に進化するといわれています。そのような世界を背景とした、Society5.0 社会の到来に対応できるように「プログラミング的思考」が出来る子供たちを育てなければなりません。そのためのプログラミング教育をどのように行えばよいかについて学習します。	
到達目標	(1) コンピュータとプログラミングについて理解し説明が出来る。	
	(2) 様々なプログラミング手法について理解し実践できる。	
	(3) プログラミング教育について理解し実践できる。	

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	コンピュータとプログラミング	プログラムについて	2 時間	プログラミングについて	2 時間
2	プログラミング教育が目指すもの	プログラミング教育について	2 時間	プログラミング教育が目指すのについて	2 時間
3	アンプラグドによるプログラミング	アンプラグドについて	2 時間	アンプラグドの復習	2 時間
4	Hour of Code の基礎	Hour of Code について	2 時間	Hour of Code の特徴をまとめる	2 時間
5	Hour of Code によるプログラミング①	Hour of Code について	2 時間	Hour of Code でプログラミング	2 時間
6	Hour of Code によるプログラミング②	Hour of Code について	2 時間	Hour of Code でプログラミング	2 時間
7	スクラッチの基礎	スクラッチについて調べる	2 時間	スクラッチの特徴をまとめる	2 時間
8	スクラッチによるプログラミング	スクラッチについて	2 時間	スクラッチでプログラミング	2 時間
9	スクラッチによる応用プログラミング	スクラッチでプログラミング	2 時間	スクラッチでプログラムを作る	2 時間
10	WeDo2.0 によるプログラミング基礎	WeDo2.0 について	2 時間	WeDo2.0 のブロックプログラミング	2 時間
11	WeDo2.0 によるプログラミング応用	WeDo2.0 について	2 時間	WeDo2.0 のブロックプログラミング	2 時間
12	マインドストーム EV3 によるプログラミング基礎	EV3 について	2 時間	WeDo2.0 で応用プログラム作成	2 時間

	13	マインドストーム EV3 によるプログラミング基礎	EV3 の特徴	2 時間	EV3 のブロックプログラミング	2 時間
	14	マインドストーム EV3 によるプログラミング応用	EV3 のブロック	2 時間	EV3 の応用ブロックプログラミング	2 時間
	15	プログラミング課題	全体のまとめ	2 時間	プログラミング課題に取り組む	2 時間

成　績　評　価	課題・レポート（50%）、指導案（15%）、授業への取り組み（35%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	試験やレポート等の結果について、ルーブリック評価にて返却する。
テキストおよび参　考　文　献	適宜プリントを配布する
メッセージなど	2020 年から小学校でも必修化されたプログラミング教育について実践的に学ぶことが出来ます。

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) コンピュータとプログラミングについて理解し説明が出来る。	十分に理解ができており、それを説明することができる。	概ね理解ができており、それを説明することができる。	概ね理解ができているが、それを十分に説明できない。	理解が不十分であり、それを十分に説明できない。	課題・レポート（知識・理解）	15%
	十分に理解ができており、それを説明することができる。	概ね理解ができており、それを説明することができる。	概ね理解ができているが、それを十分に説明できない。	理解が不十分であり、それを十分に説明できない。	授業への取り組み（知識・理解）	15%
(2) 様々なプログラミング手法について理解し実践できる。	プログラミングについて十分に理解ができており、それを実践することができる。	プログラミングについて概ね理解ができており、それを実践することができる。	プログラミングについて概ね理解ができているが、それを十分に実践することができない。	プログラミングについて理解が不十分であり、それを実践することが出来ない。	課題・レポート（関心・意欲・理解・思考力）	20%
	プログラミングについて十分に理解ができており、それを実践することができる。	プログラミングについて概ね理解ができており、それを実践することができる。	プログラミングについて概ね理解ができているが、それを十分に実践することができない。	プログラミングについて理解が不十分であり、それを実践することが出来ない。	授業への取り組み（関心・意欲・理解・思考力）	20%
(3) プログラミング教育について理解し実践できる。	十分に理解ができており、それを実践することができる。	概ね理解ができており、それを実践することができる。	概ね理解ができているが、それを十分に実践できない。	理解が不十分であり、それを十分に実践できない。	課題・レポート（関心・意欲・理解・思考力）	15%
	十分に理解ができており、それを実践することができる。	概ね理解ができており、それを実践することができる。	概ね理解ができているが、それを十分に実践できない。	理解が不十分であり、それを十分に実践できない。	指導案（関心・意欲・理解・思考力）	15%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年 次	期 別
進路指導の理論と指導法 Theory and Method of Career Consulting	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPTS2031	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	加藤 浩久	○

実務家教員の詳細	教育委員会指導主事としての実務経験を生かした到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	小学校・中学校における進路指導の理論や発達段階に応じた具体的な指導方法について、自らの教育体験を素材として活用しながら、体系的・組織的に学ぶ。 近年、キャリア教育への転換が図られていることから、進路指導をキャリア教育の視点から再構築していく。	
到達目標	(1)戦前から現在までの進路指導の変遷について説明できる。	
	(2) キャリア教育の成果と課題について説明できる。	
	(3) キャリア教育の今後の在り方について、PBL を中心に説明することができる。	

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	職業指導から進路指導へ、進路指導からキャリア教育へと変わっていった経緯について考察する。	テキストの該当部分を読む。	2 時間	キャリア教育の現代的な意味についてまとめる。	2 時間
2	キャリア教育が求められるようになった理由を社会的背景との関連から考察する。	ニート、フリーターを中心とした背景を調べる。	2 時間	教育課程意義についてもまとめる。	2 時間
3	これまで実践されてきたキャリア教育の現状を知るとともに、その課題について考察する。	「手引き」から具体的な実践を確認する。	2 時間	「形骸化」という視点からまとめる。	2 時間
4	キャリア教育がその育成をめざす「職業観、勤労観」について理解する。	「職業観」「勤労観」という概念の辞書的な意味を調べる。	2 時間	目標、理念としてまとめる。	2 時間

	5	小学校の教科を通したキャリア教育の在り方について考察する。	「手引き」から具体的な実践を確認する。	2時間	実践事例のイメージを描く。	2時間
	6	中学校の教科を通したキャリア教育の在り方について考察する。	「手引き」から具体的な実践を確認する。	2時間	実践事例のイメージを描く。	2時間
	7	生活科を通したキャリア教育の在り方について考察する。	「手引き」から具体的な実践を確認する。	2時間	実践事例のイメージを描く。	2時間
	8	特別の教科道徳を通したキャリア教育の在り方について考察する。	「手引き」から具体的な実践を確認する。	2時間	実践事例のイメージを描く。	2時間
	9	小学校の総合的な学習の時間を通したキャリア教育の在り方について考察する。	「手引き」から具体的な実践を確認する。	2時間	実践事例のイメージを描く。	2時間
	10	中学校の総合的な学習の時間を通したキャリア教育の在り方について考察する。	「手引き」から具体的な実践を確認する。	2時間	実践事例のイメージを描く。	2時間
	11	小学校の特別活動を通したキャリア教育の在り方について考察する。。	「手引き」から具体的な実践を確認する。	2時間	実践事例のイメージを描く。	2時間
	12	中学校の特別活動を通したキャリア教育の在り方について考察する。	「手引き」から具体的な実践を確認する。	2時間	実践事例のイメージを描く。	2時間
	13	高等学校で行うべきキャリア教育の在り方について考察する。	「手引き」から具体的な実践を確認する。	2時間	実践事例のイメージを描く。	2時間
	14	PBLの形をとって行うキャリア教育の在り方について考察する。	PBLという学習の在り方を調べる。	2時間	実践事例のイメージを描く。	2時間
	15	これまでの学習をふり返り、キャリア教育の今後の在り方について考察する。	これまでの学習をふり返る。	2時間	キャリア教育の課題をまとめる。	2時間

成績評価	定期試験（30%）、課題・レポート（30%）、授業への取り組み（40%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。
テキストおよび参考文献	テキスト：『学校教育とキャリア教育の創造』学文社 参考文献：文部科学省『小学校キャリア教育の手引き（改訂版）』教育出版 文部科学省『キャリア教育のススメ』東京書籍
メッセージなど	急激な社会の変化で、進学や就職に自己を見失いがちな時代の進路選択について、教える立場からの理解だけでなく、自分自身のキャリア発達も見つめながら学ぶ授業。 小学校教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)戦前から現在までの進路指導の変遷について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	5%
(2) キャリア教育の成果と課題について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	30%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	20%
(3) キャリア教育の今後の在り方について、PBLを中心に説明することができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	20%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
生徒指導と教育相談 Student Consulting and Educational Consulting	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPTS2032	２年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	馬場 弓歌	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○

概　　要	生徒指導の本来的な狙いである一人一人の個性の伸長、社会的スキルや行動力を高めるための教育的活動であることを理解する。 児童の発達の状況に即した、カウンセリング的な関わりの意義や基本的な方法を身につける。
到達目標	(1)生徒指導の意義や原理を理解する。
	(2)課題を抱える児童への指導を理解する。
	(3)教育相談の基礎を学び個々の問題への支援方法を学ぶ。

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	生徒指導と教育相談とは何か概要を知る	―		本時の内容についてまとめる。	2 時間
2	生徒指導の意味を理解する	生徒指導提要の該当箇所を読む。	2 時間	配布資料を読む。	2 時間
3	教育現場における生徒指導の実践について学ぶ	生徒指導提要の該当箇所を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
4	生徒指導上の諸問題を学ぶ	生徒指導提要の該当箇所を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
5	生徒指導と教育相談の関連ついて理解する	生徒指導提要の該当箇所を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
6	児童の問題行動の意味を考える（予防的な介入）	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
7	カウンセリングの基本を学ぶ（クライエント中心療法的介入）	配布資料を読む。	2 時間	配布資料を読む。	2 時間
8	カウンセリングの基本を学ぶ（精神分析的介入）	配布資料を読む。	2 時間	配布資料を読む。	2 時間
9	不登校問題について指導と支援を理解する	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
10	いじめ問題について指導と支援を理解する価方法を学ぶ	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
11	非行・問題行動題について指導と支援を理解する	生徒指導提要の該当箇所を読む。	2 時間	配布資料を読む。	2 時間
12	生徒指導の今日的な課題について考える	生徒指導提要の該当箇所を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間

	13	障害のある児童への支援について学ぶ	配布資料を読む。	2時間	本時の内容をまとめる。	2時間
	14	教育相談の実際・学校内での心理臨床的援助について学ぶ	配布資料を読む。	2時間	本時の内容をまとめる。	2時間
	15	ＳＣ・ＳＳＷなど他の専門家との連携について学ぶ	生徒指導提要の該当箇所を読む。	2時間	配布資料を読む。	2時間

成　績　評　価	定期試験（50%）、授業への取り組み（50%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	課題はコメントを書いて返却する。 試験はルーブリック評価に基づいて結果を示す。
テキストおよび参　考　文　献	配布資料あり 『小学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）』、文部科学省『生徒指導提要（改訂版）』
メッセージなど	生徒指導の本来的な意味を知り子どもたちが生きる力を身につけていくための教育や子どもたちの指導、支援の実践について学んでいきましょう。 小学校教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)生徒指導の意義や原理を理解する。	生徒指導の意義や原理を十分に説明することができる。	生徒指導の意義や原理を概ね説明することができる。	生徒指導の意義や原理について最低限の説明はしている。	生徒指導の意義や原理を説明することができない。	定期試験（知識・理解）	15%
	問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。	問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。	問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。	問題意識をもって講義に参加していない。	授業への取り組み（関心・意欲・思考力･判断力･表現力）	15%
(2)課題を抱える児童への指導を理解する。	課題を抱える児童への指導について十分に説明することができる。	課題を抱える児童への指導について概ね説明することができる。	課題を抱える児童への指導について最低限の説明はしている。	課題を抱える児童への指導について説明することができない。	定期試験（知識・理解）	20%
	問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。	問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。	問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。	問題意識をもって講義に参加していない。	授業への取り組み（関心・意欲・思考力･判断力･表現力）	20%
(3)教育相談の基礎を学び個々の問題への支援方法を学ぶ。	教育相談の基礎を学び個々の問題への支援方法について十分に説明することができる。	教育相談の基礎を学び個々の問題への支援方法について概ね説明することができる。	教育相談の基礎を学び個々の問題への支援方法について最低限の説明はしている。	教育相談の基礎を学び個々の問題への支援方法について説明することができない。	定期試験（知識・理解）	15%
	問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。	問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。	問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。	問題意識をもって講義に参加していない。	授業への取り組み（関心・意欲・思考力･判断力･表現力）	15%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
特別支援教育 Special Support Education	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPBE1008	1 年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	竹内 幹雄	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○

概　　要	発達障害を含む様々な障害や、その他の要因により特別な教育的ニーズのある幼児児童生徒の心身の発達、障害の特性を理解するとともに、学習上、生活上の困難とその背景について理解する。その上で、特別の支援を必要とする幼児児童生徒が、達成感をもちながら学び、生きる力を身につけることができるよう、個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用の方法について、事例に基づき実践的に学んでいく。さらに、インクルーシブ教育の理念を含めた特別支援教育に関する制度や法令の内容を理解し、個別の教育的ニーズに対して学校における組織的な支援体制の在り方、関係機関との連携の在り方についても理解を深める。
到達目標	(1)-1) インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを説明できる。
	(1)-2) 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児児童生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を説明できる。
	(1)-3) 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児児童生徒の学習上又は生活上の困難について説明できる。
	(2)-1) 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児児童生徒に対する支援の方法について説明できる。
	(2)-2) 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を説明できる。
	(2)-3) 特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を説明できる。
	(2)-4) 特別支援教育コーディネーター・関係諸機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を説明できる。
	(3)-1) 母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児児童生徒の学習上は生活上の困難や組織的な対応の必要性を説明できる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	特別支援教育の歴史について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
2	特別支援教育における対象となる幼児児童生徒について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
3	障害児の理解（1）　概念と就学基準について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
4	障害児の理解（2）　心理と行動特性について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間

	5	特別支援教育の場について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	6	特別支援教育の教育課程について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	7	障害児の教育支援（1）学習指導要領、指導計画の作成を理解する	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	8	障害児の教育支援（2）自立活動、日常生活の指導を理解する	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	9	障害児の教育支援（3）各教科、遊びの指導を理解する	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	10	個別の教育支援計画をもとにした教育支援について理解する	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	11	特別支援学級における教育の実際について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	12	特別支援学校における教育の実際について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	13	障害児のライフステージと特別支援教育について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	14	障害はないが特別の教育ニーズのある幼児の把握と支援を学ぶとともに、特別支援教育のこれからについて考察する	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	15	特別支援教育にかかわる専門性について考察する	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間

成　績　評　価	定期試験（知識・理解）（70%）、毎回の授業の感想・振り返り（思考力）（30%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	授業の振り返りシートに書かれた感想や質問について、代表的なものをピックアップし次の授業時にコメントする。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：「障害のある幼児と共に育つ生活の理解と指導」 （令和 5 年 3 月文部科学省厚生労働省内閣府）HP 参考文献：『特別支援学校学習指導要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部（平成 30 年 3 月　文部科学省）』
メッセージなど	特別支援教育は、人として生きていくうえで、最も大切な教育の一つです。3 月に出た資料を使って最新の情報を一緒に学んでいきましょう。 小学校教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り	6%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験	11%
(1)-2) 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児児童生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験	8%
(1)-3) 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児児童生徒の学習上又は生活上の困難について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験	8%
(2)-1) 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児児童生徒に対する支援の方法について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り	6%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験	11%
(2)-2) 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験	8%

(2)-3) 特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験	8%
(2)-4) 特別支援教育コーディネーター・関係諸機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験	8%
(3)-1) 母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児児童生徒の学習上は生活上の困難や組織的な対応の必要性を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験	8%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年 次	期 別
ボランティア実習 Volunteer Practice	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPTP1005	１年次 ２年次	後期 前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
実習	2	選択	正長 清志・馬場 弓歌	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○

概　要	「ボランティア実習」は、介護等体験の実習の事前・事後指導として行う学内での授業と、介護等体験実習として、特別支援学校 2 日間、社会福祉施設 5 日間の学外での実習から成る。「教師」という職業の「資質能力」とは何かを講義や実習を通して学ぶ。
到達目標	(1) 「介護等体験実習」の意義と目的を理解し、特別支援学校と様々な社会福祉施設について、事前に調べることができる。
	(2) 「介護等体験実習」に必要な書類の作成や事前打ち合わせを通して、社会人基礎力を養うことができる。
	(3) 「介護等体験実習」を行い、多様な人との交流を通し、一人一人の尊厳を大切にして関わることができる。
	(4) 「介護等体験実習」を終えて、教師としての資質を高めるための自らの課題を明確にすることができる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション（授業の目的、到達目標等の説明）			授業計画と内容の把握	2 時間
2	特別支援学校での学びについて	授業の概要を読み、自分の課題を立てる。	2 時間	特別支援学校についてまとめる。	2 時間
3	社会福祉施設での学びについて	社会福祉施設について調べる。	2 時間	授業内容をまとめる。	2 時間
4	手話のいろはと演習	手話について調べる。	2 時間	手話の練習を行う。	2 時間
5	介護等体験実習に出るまでの実際、実習希望調査・プロフィール作成	実習に出るまでの心構えを明確にしておく。	2 時間	実習希望調査を充実させる。	2 時間
6	実習を経験した先輩からのアドバイス～実習に向けた目標設定と心構え～	先輩からのアドバイスを読んでおく。	2 時間	実習に向けての目標をまとめる。	2 時間

	7	実習希望調査	自身のスケジュールをまとめておく。	2時間	実習希望調査を完成せる。	2時間
	8	オリエンテーション ①１年後期の振り返り ②２年前期の「ボランティア実習」の計画・評価、等について	1 年次の授業資料を読みかえす。	2時間	授業内容のまとめをする。	2時間
	9	特別支援学校への実習申込み 特別支援学校プロフィール記入 社会福祉施設の実習日程確認	自身のスケジュールを整理しておく。	2時間	プロフィールを完成させる。	2時間
	10	車椅子の使い方（実習）１（基本・応用）	車いすについて調べる。	2時間	車いすの操作の注意点についてまとめる。	2時間
	11	特別支援学校・社会福祉施設での実習の在り方と日誌の書き方（実習を充実させるための「い・ろ・は」）	実習先への連絡とそのまとめをする。	2時間	日誌の書き方のまとめをする。	2時間
	12	介護等体験の実習の心構え ～「社会福祉施設のてびき」～	実習先の概要を調べておく。	2時間	実習に向けての心構えをまとめる。	2時間
	13	障害者の自立を考える	障害者施設について復習をしておく。	2時間	授業内容をまとめる。	2時間
	14	社会福祉施設の実習の準備 （事前オリエンテーション、検便、健康診断、プロフィール(目標の設定)）	自分のスケジュールを確認しておく。	2時間	社会福祉施設のプロフィールを完成させる。	2時間
	15	今後の実習に向けての最終確認	実習のスケジュールと持参物の確認をする。	2時間	実習で学んだことを発表する。	2時間
	※介護等体験実習において、特別支援学校に 2 日間、社会福祉施設に 5 日間実習に行く。 なお、実習の直前には学内の事前オリエンテーションを行う。実習先によっては事前オリエンテーションが別日にある。					

成　績　評　価	授業への取り組み（50%）、その他（50%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	授業内で介護等体験実習の振り返りを行う。
テキストおよび参考文献	授業時に指示する。
メッセージなど	教育や教師という言葉の持つ意味を少しでも深めることができるように日頃から抽象的な言葉の持つ意味を自分なりに考えること。 小学校教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 「介護等体験実習」の意義と目的を理解し、特別支援学校と様々な社会福祉施設について、事前に調べることができる。	「介護体験実習」の意義を理解しており、各施設について十分に調べられている。	「介護体験実習」の意義を理解し、各施設について大きな問題なく調べられている。	改善の余地はあるものの実習の意義を理解し、各施設を調べることができている。	「介護体験実習」の意義の理解と各施設についての調べができていない。	授業への取り組み（意欲・態度・知識・思考力・表現力）	15%
(2) 「介護等体験実習」に必要な書類の作成や事前打ち合わせを通して、社会人基礎力を養うことができる。	実習に必要な書類作成ができ、社会人基礎力を養うことができている。	大きな問題なく書類作成ができ、社会人基礎力を養えている。	改善の余地はあるものの書類作成ができ、社会人基礎力を身につけている。	書類作成が完成できず、最低限度の社会人基礎力を身につけられていない。	授業への取り組み（意欲・態度・知識・思考力・表現力）	15%
(3) 「介護等体験実習」を行い、多様な人との交流を通し、一人一人の尊厳を大切にして関わることができる。	明確な目的意識をもって実習に取り組み、一人一人の尊厳を大切に関わることができる。	自分なりに目的意識を持って取り組み、人の尊厳を大切に関わることができている。	目的意識は浅いが意欲的に実習に取り組み、人の尊厳を大切に関わろうとしている。	実習の取り組み方に課題があり、人の尊厳を大切にした関わりができていない。	その他（関心・意欲・態度・理解）	50%
(4) 「介護等体験実習」を終えて、教師としての資質を高めるための自らの課題を明確にすることができる。	教師としての資質を高めるための自らの課題を明確にできている。	教師の資質につながる自らの課題をいくつか見つけることができている。	実習を通して、自分なりの課題を見つけることができている。	自らの課題を見つけることができていない。	授業への取り組み（理解・思考力・判断力・表現力）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
教育実習指導 Study of Practical Teaching at Elementary School	児童教育学科 初等教育学専攻	24 EPTP1001	１年次 ２年次	後期 前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	1	選択	中村 浩・加藤 浩久	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○

概　　要	学習指導の知識を生かし、模擬授業にチャレンジすることで、教壇に立つ準備を進めるとともに、指導主事による「学習指導」「生徒指導」「人権教育」の講義や市内公立小学校における参観実習などを通して、教育現場の実態にも直接ふれ、教師として必要な資質や能力の向上を図り、教師となる心構えを培っていく。
到達目標	(1) 教育実習の意義を理解し、使命感・緊張感をもって教壇に立てるようになる。
	(2) 参観実習への参加、レポートや書類の提出、実習校との打ち合わせ等を通して、社会人としての基礎的な素養やマナー・礼儀を身に付けることができる。また、参観実習への参加を通して、自分自身の課題を鑑みることができる。
	(3) 模擬授業を経験することで、教育実習に臨む自分自身の課題を発見することができる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション 中村	教育実習に向けての心構えを考える	2 時間	教育実習に向けての準備、予定についてまとめる	2 時間
2	教育実習の意義と目的 中村	教育実習の意義と目的について資料を読む	2 時間	教育実習の意義と目的について、まとめる	2 時間
3	教育実習の内容 中村	教育実習の内容について資料を読む	2 時間	教育実習の内容について、まとめる	2 時間
4	授業づくりの基礎を学ぶ(1) 中村	指導案作りについての資料を読む	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
5	授業づくりの基礎を学ぶ(2) 中村	前時の復習より、発問、資料、板書の課題をまとめる	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
6	教育実習について先輩に学ぶ 中村	教育実習の過去の体験談の資料を読む	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
7	小学校参観実習(1) －参観実習の説明－ 中村	小学校参観実習校の学校要覧を読む	2 時間	参観実習校の学校要覧について、まとめる	2 時間
8	小学校参観実習(2) －校長講話－ 中村	参観実習校の概要について、資料を読む	2 時間	校長講話の気づき、感想をまとめる	2 時間

	9	小学校参観実習(3) －授業参観－ 中村・加藤	参観実習の準備	2 時間	授業参観しての気づき、感想をまとめる	2 時間
	10	小学校参観実習(4) －授業参観－ 中村・加藤	参観実習の準備	2 時間	授業参観しての気づき、感想をまとめる	2 時間
	11	市教委講話 －学習指導－ 中村	学習指導について、資料を読む	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
	12	市教委講話 －生徒指導－ 中村	生徒指導について、資料を読む	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
	13	参観実習･学習指導･生徒指導の振り返り　中村	参観実習、学習指導、生徒指導の資料の読み直し。	2 時間	参観実習、学習指導、生徒指導の資料の読み直し	2 時間
	14	実習日誌と実習生プロフィールの作成　中村	実習生プロフィールについて、まとめる。	2 時間	実習生プロフィールについて、まとめる。	2 時間
	15	本授業を振り返って　中村	発表資料をまとめる。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	オリエンテーション 中村	15 回の授業の見通しを立てる。	2 時間	模擬授業の進め方などまとめる。	2 時間
	17	模擬授業の説明と準備　中村	模擬授業に向けての心構えを書く。	2 時間	模擬授業の進め方についてまとめる。	2 時間
	18	模擬授業(1) ―授業実践と協議―　中村・加藤	模擬授業の準備。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	19	模擬授業(2) ―授業実践と協議―　中村・加藤	模擬授業の準備。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	20	模擬授業(3) ―授業実践と協議―　中村・加藤		2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	21	模擬授業(4) ―授業実践と協議―　中村・加藤	模擬授業の準備。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	22	模擬授業(5) ―授業実践と協議―　中村・加藤	模擬授業の準備。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	23	小学校参観実習(1) －参観実習の説明－ 中村	参観実習校の概要について、資料を読む。	2 時間	参観実習校の概要について、まとめる。	2 時間
	24	小学校参観実習(2) －校長講話－ 中村	参観実習の準備。	2 時間	校長講話の気づき、感想をまとめる。	2 時間
	25	小学校参観実習(3) －授業参観－ 中村・加藤	参観実習の準備。	2 時間	授業参観しての気づき、感想をまとめる。	2 時間
	26	小学校参観実習(4) －授業参観－ 中村・加藤	参観実習の準備。	2 時間	授業参観しての気づき、感想をまとめる。	2 時間
	27	市教委講話 －人権教育－ 中村	人権教育について、資料を読む。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間

	28	参観実習･人権教育の振り返り 実習校への事前打合せについて 中村	参観実習、人権教育の資料の読み直し。	2 時間	実習校への事前打ち合わせについて、内容をまとめる。	2 時間
	29	実習日誌の書き方について 実習生プロフィールの作成　中村	実習日誌の書き方について、確認する。	2 時間	実習日誌の書き方について、内容をまとめる。	2 時間
	30	実習中の健康管理について 教育実習の心構え　中村	実習中の健康管理と心構えについて、まとめる。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間

成　績　評　価	課題・レポート（25%）、授業への取り組み（50%）、模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（15%）、その他（10%）
課題(試験･レポート等)に対する フィードバックの方法	授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。課題、レポートは、ルーブリック評価の結果を渡す。
テキストおよび 参　考　文　献	テキスト：「教育実習の研究」山口短期大学「教育実習Ｑ&Ａ」山口短期大学 参考文献：文部科学省「小学校学習指導要領」東洋館出版社
メッセージなど	教育実習のための準備を行います。実習に関する重要書類や手続きに関することも含みます。ひとつひとつ丁寧に積み上げ、教育実習へ行くことの意味を理解し、教育に携わることの使命感と緊張感をもてるようになりましょう。 小学校教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 教育実習の意義を理解し、使命感・緊張感をもって教壇に立てるようになる。	教壇に立つ準備がほぼできている。	基本的な準備はできている。	最低限の準備はできている。	準備ができていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度・知識・理解）	50%
(2) 参観実習への参加、レポートや書類の提出、実習校との打ち合わせ等を通して、社会人としての基礎的な素養やマナー・礼儀を身に付けることができる。また、参観実習への参加を通して、自分自身の課題を鑑みることができる。	社会人としての常識がほぼ確立できている。また、自分の課題を自覚し、解決しようと努力している。	大きな間違いはなく、基本的なことはできている。また、自分の課題を自覚している。	さらに努力を要するが、最低限の基本はできている。また、自分の課題がわかりつつある。	最低限のことができていない。また、自分の課題を自覚していない。	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	20%
	社会人としての常識がほぼ確立できている。また、自分の課題を自覚し、解決しようと努力している。	大きな間違いはなく、基本的なことはできている。また、自分の課題を自覚している。	さらに努力を要するが、最低限の基本はできている。また、自分の課題がわかりつつある。	最低限のことができていない。また、自分の課題を自覚していない。	その他（関心・意欲・態度）	10%
(3) 模擬授業を経験することで、教育実習に臨む自分自身の課題を発見することができる。	様々な角度から、自己の課題を明確に把握している。	いくつかの角度から、自己の課題を把握している。	１つ以上自己の課題を把握している。	課題を把握していない。	模擬授業、ロールプレイ（思考力・判断力・表現力）	15%
	様々な角度から、自己の課題を明確に把握している。	いくつかの角度から、自己の課題を把握している。	１つ以上自己の課題を把握している。	課題を把握していない。	課題・レポート（関心・意欲・態度）	5%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
教育実習 Practical Teaching at Elementary School	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPTP2003	２年次	後期 (集中)

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
実習	4	選択	中村 浩・加藤 浩久	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	
概　　要	子どもの発達や心理、教員の業務や学校組織についての理解を深め、確かな学習指導や生徒指導ができるようになるため、小学校の現場において４週間の実地実習を行う。	
到達目標	(1) 教師としての責務を自覚するとともに、良識ある社会人としての言動ができる。	
	(2) 子どもたちに対する愛情と教育に対する情熱をもって、子どもたちに接することができる。	
	(3) 子どもたちの実態を踏まえ、確かな学力の向上をめざす学習指導案の作成と、授業の基礎技術を駆使した授業を展開することができるようになる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	子どもの発達や心理について理解し、実際に子どもたちとふれあう。	子どもの発達や心理についての資料を読む。	2 時間	実習日誌で子どもたちとのふれあいの振り返りをする。	2 時間
2	教材研究をし、学習指導案を作成し、教科指導を行い、授業技術を磨く。	教材研究をし、学習指導案を作成する。	2 時間	実施した授業について振り返りをする。	2 時間
3	学級経営、生徒指導について理解し、学級経営力を身に付ける。	学級経営、生徒指導についての資料を読む。	2 時間	実習日誌で学級担任としての仕事について振り返りをする。	2 時間
4	道徳、特別活動について理解し、授業実践を行う。	道徳、特別活動の学習指導案を作成する。	2 時間	実施した授業について振り返りをする。	2 時間
5	校務分掌、学校事務、ＰＴＡ、地域社会等について理解を深める。	実習校の状況について資料等で確認する。	2 時間	学校教育活動について全般的に振り返る。	2 時間
6	国民に託された教育者としての自覚をもつ。	教師としての心構えについて、資料を読む。	2 時間	めざす教師像について、考えをまとめる。	2 時間

※実習時期　基本的に、２年次１０月に小学校での実習（４週間）を行う。

成　績　評　価	指導案（10%）、その他（90%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	教育実習中の訪問指導の際に、実習校の校長、指導教官等からの気づき、教育実習日誌等に基づき、本人に指導助言を実施する。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：「教育実習の研究」山口短期大学、「教育実習Q&A」山口短期大学 参考文献：実習校で渡される各種の資料
メッセージなど	小学校の教壇に立って実際に授業をするという得がたい経験のできる科目です。使命感と緊張感をもって取り組む真剣勝負のキャリア教育そのものです。 小学校教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 教師としての責務を自覚するとともに、良識ある社会人としての言動ができる。	教師としての自覚をもった言動ができる。	大きな間違いがなく、基本を踏まえた言動ができる。	さらに自覚が必要だが、最低限の言動ができる。	教師としての適性が見られない。	その他（関心・意欲・態度・知識・理解）	60%
(2) 子どもたちに対する愛情と教育に対する情熱をもって、子どもたちに接することができる。	子どもたちとの信頼関係を築けている。	大きな間違いがなく、子どもたちと基本的な関係は築けている。	さらに努力は要するが、最低限の関係は築けている。	関係を築けない。	その他（関心・意欲・態度）	20%
(3) 子どもたちの実態を踏まえ、確かな学力の向上をめざす学習指導案の作成と、授業の基礎技術を駆使した授業を展開することができるようになる。	ほぼ完璧に授業ができる。	大きな間違いがなく、基本を踏まえて授業ができる。	さらに努力を要するが、最低限の基本を踏まえて授業ができる。	授業ができない。	その他（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	10%
	ほぼ完璧に授業ができる。	大きな間違いがなく、基本を踏まえて授業ができる。	さらに努力を要するが、最低限の基本を踏まえて授業ができる。	授業ができない。	指導案（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
学校体験活動 School Internship	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPTP1002	1年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
実習	1	選択	中村 浩・加藤 浩久	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	

概　　要	小学校教諭を目指す学生が、小学校で生活する児童の姿や学校の環境を観察するとともに、実務に対する補助的な役割を担うことを通して、児童の実態と小学校の教育活動の特色を理解することを目的とする。
到達目標	(1) 小学校の運営方法及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。
	(2) 学級担任の補助的な役割を担うことができる。
	(3) 学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解している。
	(4) 教科指導以外の様々な活動の場面で適切に児童と関わることができる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション　学校体験活動とは（中村）	学校体験活動について先輩の報告書を読む。	2時間	学校体験活動の概要をまとめる。	2時間
2	事前指導①学校体験活動にむけての準備（プロフィール作成）（中村）	学校体験活動の心構えについてまとめる。	2時間	学校体験活動校の学校要覧をまとめる。	2時間
3	事前指導②学校体験活動実施校を知る（中村）	プロフィール作成に向けて必要事項を確認する。	2時間	プロフィールを完成させる。	2時間
4	事前指導③学校体験活動にむけての準備（心構え、出勤簿、記録など）（中村）	学校体験活動の目標についてまとめる。	2時間	学校体験活動に必要な物を準備する。	2時間
5	事後指導　学校体験活動の報告会（中村）	学校体験活動の報告書を作成する。	2時間	学校体験活動の振り返りをする。	2時間

※　授業の日程は提示します
※　実習時期　基本的に1年次の9月に防府市内の小学校での体験活動(5日間)

成　績　評　価	授業への取り組み（25%）、グループワーク・グループ討議（30%）、その他（45%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	学校体験活動の訪問指導の際に、活動校、指導教官からの気づき、体験活動日誌、事後の振り返りに基づき、本人に指導助言を実施する。
テキストおよび参　考　文　献	授業時に指示
メッセージなど	実際に小学校で先生の仕事を体験するために準備をしっかりしましょう。 小学校教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 小学校の運営方法及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。	事前指導の内容について、資料にまとめるなど整理をしており、理解を深め、また自分の言葉で述べることができる。	事前指導で理解の内容を自分なりに整理し、言葉で述べることができる。	事前指導の内容について指導・助言を受けながら、理解している。	事前指導の内容について理解できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度・知識・理解）	25%
(2) 学級担任の補助的な役割を担うことができる。	小学校・学級担任の目標やその場の児童の様子を十分に把握し、場に応じた補助的な役割を積極的に担うことができる。	小学校・学級担任の目標やその場の児童の様子を概ね把握し、場に応じた補助的な役割を担う姿勢がみられる。	小学校・学級担任の目標やその場の児童の様子を把握しようとしている。また最低限指示された役割を担うことができる。	小学校・学級担任の目標やその場の児童の様子を把握できない。また最低限指示された役割を担うことができない。	グループワーク・グループ討議（思考力・判断力・表現力）	10%
	小学校・学級担任の目標やその場の児童の様子を十分に把握し、場に応じた補助的な役割を積極的に担うことができる。	小学校・学級担任の目標やその場の児童の様子を概ね把握し、場に応じた補助的な役割を担う姿勢がみられる。	小学校・学級担任の目標やその場の児童の様子を把握しようとしている。また最低限指示された役割を担うことができる。	小学校・学級担任の目標やその場の児童の様子を把握できない。また最低限指示された役割を担うことができない。	その他（思考力・判断力・表現力）	15%
(3) 学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解している。	学級担任の役割と職務内容を実地に即して十分に理解し、実地の内容を自分の言葉で整理し、発表することができる。	学級担任の役割と職務内容について概ね理解し、実地の内容を自分の言葉で整理し、発表することができる。	学級担任の役割と職務内容をある程度理解し、実地の内容を自分の言葉で整理し、発表することができる。	学級担任の役割と職務内容を理解できていない。また、実地の内容を整理し、具体的に発表することができない。	グループワーク・グループ討議（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	10%
	学級担任の役割と職務内容を実地に即して十分に理解し、実地の内容を自分の言葉で整理し、発表することができる。	学級担任の役割と職務内容について概ね理解し、実地の内容を自分の言葉で整理し、発表することができる。	学級担任の役割と職務内容をある程度理解し、実地の内容を自分の言葉で整理し、発表することができる。	学級担任の役割と職務内容を理解できていない。また、実地の内容を整理し、具体的に発表することができない。	その他（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	15%
(4) 教科指導以外の様々な活動の場面で適切に児童と関わることができる。	教科指導以外の様々な活動の場面での教員の役割を十分に把握し、積極的に児童と関わることができる。	教科指導以外の様々な活動の場面での教員の役割を概ね把握し、積極的に児童と関わる姿勢がみられる。	教科指導以外の様々な活動の場面での教員の役割について指導・助言を受けながら、児童と関わる姿勢がみられる。	教科指導以外の様々な活動の場面での教員の役割を把握できていない。また自ら児童と関わることができない。	グループワーク・グループ討議（思考力・判断力・表現力）	10%
	教科指導以外の様々な活動の場面での教員の役割を十分に把握し、積極的に児童と関わることができる。	教科指導以外の様々な活動の場面での教員の役割を概ね把握し、積極的に児童と関わる姿勢がみられる。	教科指導以外の様々な活動の場面での教員の役割について指導・助言を受けながら、児童と関わる姿勢がみられる。	教科指導以外の様々な活動の場面での教員の役割を把握できていない。また自ら児童と関わることができない。	その他（思考力・判断力・表現力）	15%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
教職実践演習（小学校） Practice of Teaching Profession (Elementary School)	児童教育学科 初等教育学専攻	24EPTP2004	２年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	2	選択	中村 浩・加藤 浩久	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	短大２年間で学んだ学習知と教育実習で得られた教科指導力や生徒指導力の実践知とのさらなる統合を図り、使命感や責任感に裏打ちされた確かな実践的指導力を有する教員としての資質の向上とその確認を行う。	
到達目標	(1) 教師としての使命感・責任感や教育的愛情、社会性やコミュニケーション力が向上している。	
	(2) 児童理解や学級経営の考え方や具体的方法について、説得力ある説明ができる。	
	(3) 学習指導の原理と方法について、模擬授業の実践を通して、具体的に表現することができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション －教育実習の礼状の書き方－（中村）	教育実習の振り返りをする	2 時間	教育実習の礼状を作成する	2 時間
2	教育実習報告会(1)－教育実習で学んだことの発表と意見交換－（中村）	教育実習の振り返りをする	2 時間	教育実習の報告会資料を作成する	2 時間
3	教育実習報告会(2)－教育実習で学んだことの発表と意見交換－（中村）	教育実習の振り返りをする	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
4	教育実習で学んだことを伝える－教育実習で学んだことを後輩へ伝える－（中村）	教育実習で学んだことの発表準備	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
5	模擬授業(1) －査定授業の再現と研究協議－（中村・加藤）	模擬授業の準備	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
6	模擬授業(2)－査定授業の再現と研究協議－（中村・加藤）	模擬授業の準備	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
7	模擬授業(3)－査定授業の再現と研究協議－（中村・加藤）	模擬授業の準備	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
8	模擬授業(4)－査定授業の再現と研究協議－（中村・加藤）	模擬授業の準備	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
9	模擬授業(5)－査定授業の再現と研究協議－（中村・加藤）	模擬授業の準備	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間

	10	模擬授業(6)－査定授業の再現と研究協議－（中村・加藤）	模擬授業の準備	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
	11	模擬授業(7)－査定授業の再現と研究協議－（中村・加藤）	模擬授業の準備	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
	12	模擬授業(8)－査定授業の再現と研究協議－（中村・加藤）	模擬授業の準備	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
	13	模擬授業(9)－査定授業の再現と研究協議－（中村・加藤）	模擬授業の準備	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
	14	模擬授業(10)－査定授業の再現と研究協議－（中村・加藤）	模擬授業の準備	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
	15	本授業を振り返って －到達度の確認と今後の課題の発見－ （中村）	15 回の授業資料を読み直す	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間

成　績　評　価	課題・レポート（20%）、授業への取り組み（20%）、グループワーク・グループ討議（30%）、模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（30%）
課題(試験･レポート等)に対する フィードバックの方法	授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。レポートは、ルーブリック評価の結果を渡す。
テキストおよび 参　考　文　献	テキスト：「教育実習の研究」山口短期大学、「教育実習Ｑ&Ａ」山口短期大学 参考文献：教育実習報告会資料
メ　ッ　セ　ー　ジ な　　ど	本学で教員免許を修得するための最終的な評価の授業です。教育実習を含め本学で学んだことを総合的に判断し、教員免許修得者としてふさわしいか、また、今後、教員としてやっていけるかどうかを判断する実践的な授業です。教育実習で学んだことをもとに授業を構成するので教育実習の経験が物を言います。 小学校教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 教師としての使命感・責任感や教育的愛情、社会性やコミュニケーション力が向上している。	教師としての資質・能力が磨かれている。	教師としての基本的な資質・能力が見られる。	教師としての資質・能力の最低限の基本が見られる。	教師としての適性が見られない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	20%
(2) 児童理解や学級経営の考え方や具体的方法について、説得力ある説明ができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	20%
(3) 学習指導の原理と方法について、模擬授業の実践を通して、具体的に表現することができる。	ほぼ完璧に表現できる。	大きな間違いがなく、基本を踏まえて、表現できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の表現ができる。	その場にいない。	模擬授業、ロールプレイ（思考力・判断力・表現力）	30%
	ほぼ完璧に表現できる。	大きな間違いがなく、基本を踏まえて、表現できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の表現ができる。	その場にいない。	グループワーク・グループ討議（思考力・判断力・表現力）	30%

幼稚園教諭二種免許状に
関わる科目

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
幼児教育課程論 Curriculum Theory for kindergarten	児童教育学科 初等教育学専攻	24ECBE1011	１年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2		中原 久子	○

実務家教員の詳細	幼稚園教諭としての実務経験を生かし実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	乳幼児の保育は、生涯にわたる「生きる力」の基礎となる資質・能力の“３つの柱”を培う大切な時期である。保育の目標を達成するためには、保育の基本となる、「教育課程」「保育課程」を編成するとともに、具体化した「指導計画」を作成しなければならないことへの理解を深める。なお、各年齢別の発達過程を踏まえ、計画、実践、省察、評価、改善を図る重要性を学ぶ。	
到達目標	(1)-1) 幼稚園教育に示された５領域のねらい・内容及び内容の取扱いを理解し、小学校の教科とのつながりを説明できる。	
	(1)-2) 各年齢の発達の特徴がわかり、各年齢に適した活動について討論することができる。	
	(2)-1) 幼稚園における指導計画作成の基本の説明ができる。	
	(2)-2) 長期・短期の指導計画の作成と留意点を説明できる。	
	(2)-3) 各年齢に即した指導計画を作成することができ、指導上の留意点・配慮事項など説明することができる。	
	(2)-4) 教育課程と指導計画・実践・省察・評価・改善を説明できる。	
	(3)-1) 教育課程・保育課程の意義やその成り立ちを理解し説明できる。	
	(3)-2) “保育の連続性”を考え指導計画を作成する力を身に付ける。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	幼稚園教育の基本・目標及び今日の幼児教育の在り方について	指定された単元について概要を収集しておく	0.75 時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75時間
2	幼稚園教育要領に示された「生きる力」の基礎となる資質・能力の“３つの柱”について	指定された単元について概要を収集しておく	0.75 時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75時間
3	幼稚園教育の各領域のねらい・内容・内容の取扱いについて	指定された単元について概要を収集しておく	0.75 時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75時間
4	「教育課程」「保育課程」について理解する	指定された単元について概要を収集しておく	0.75 時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75時間

	5	「教育課程」「保育課程」から「指導計画」作成の基本とその方法を学ぶ	指定された単元について概要を収集しておく	0.75 時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75時間
	6	乳児の特徴と指導計画について学ぶ(０～１・２歳児)	指定された単元について概要を収集しておく	0.75 時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75時間
	7	３歳児の発達の主な特徴を学ぶ	指定された単元について概要を収集しておく	0.75 時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75時間
	8	３歳時の指導計画を作成する	指定された単元について概要を収集しておく	0.75 時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75時間
	9	４歳児の発達の主な特徴を学ぶ	指定された単元について概要を収集しておく	0.75 時間	自分なりのまめノートを作る	0.75時間
	10	４歳児の指導計画を作成する	指定された単元について概要を収集しておく	0.75 時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75時間
	11	５歳児の発達の主な特徴を学ぶ	指定された単元について概要を収集しておく	0.75 時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75時間
	12	５歳児の指導計画を作成する	指定された単元について概要を収集しておく	0.75 時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75時間
	13	幼稚園教育におけるカリキュラム・マネジメントと PDCA サイクルについて理解する	指定された単元について概要を収集しておく	0.75 時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75時間
	14	指導計画と教育課程・保育課程の評価について理解する	指定された単元について概要を収集しておく	0.75 時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75時間
	15	生活と発達の連続性を踏まえた幼稚園・保育所の要録について学ぶ	指定された単元について概要を収集しておく	0.75 時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75時間

成　績　評　価	定期試験（21%）、課題・レポート（17%）、指導案（12%）、教材作成（7%）、授業への取り組み（12%）、グループワーク・グループ討議（12%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（19%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	提出課題にコメントを添えて返却する
テキストおよび参　考　文　献	テキスト: ・幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省）、保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省） 参考文献: 『保育課程論』加藤敏子・岡田耕一　編著　(萌文書林)
メッセージなど	幼稚園・幼保連携型認定こども園・保育所における教育課程、全体的な計画の意義やその成り立ちを理解し、年間の指導計画や、月や週の指導計画、年齢ごとの子どもの発達や様子などに触れながら、“保育の連続性”について学んでいきましょう。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 幼稚園教育に示された５領域のねらい・内容及び内容の取扱いを理解し、小学校の教科とのつながりを説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（関心・意欲・知識・理解・思考力）	7%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（判断力・表現力・問題解決力）	7%
(1)-2) 各年齢の発達の特徴がわかり、各年齢に適した活動について討論することができる。	課題を正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	課題への認識の大きな誤りはなく、自分の考えを述べている。	課題に対する認識の間違いはあるが自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度・思考力・表現力）	5%
	課題を正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	課題への認識の大きな誤りはなく、自分の考えを述べている。	課題に対する認識の間違いはあるが自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	グループワーク・グループ討議（関心・意欲・態度・思考力・表現力）	5%
(2)-1) 幼稚園における指導計画作成の基本の説明ができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（関心・意欲・知識・理解・表現力）	7%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・知識・理解・表現力）	7%
(2)-2) 長期・短期の指導計画の作成と留意点を説明できる。	ほぼ完璧な指導計画を作成できる。	大きな誤りはなく、ねらいに基づいた指導計画を作成できる。	誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。	作成できていない。	課題・レポート（関心・意欲・態度・知識・理解）	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・態度・知識・理解）	5%
(2)-3) 各年齢に即した指導計画を作成することができ、指導上の留意点・配慮事項など説明することができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	指導案（関心・意欲・態度・知識・理解）	7%
	ほぼ完璧な教材を作成できる。	大きな誤りはなく、ねらいに基づいた教材を作成できる。	最低限の基本を踏まえた教材を作成できる。	作成できていない。	教材作成（思考力・判断力・表現力・創造性）	7%

(2)-4) 教育課程と指導計画・実践・省察・評価・改善を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・態度・知識・理解）	7%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 （関心・意欲・態度・知識・理解）	7%
(3)-1) 教育課程・保育課程の意義やその成り立ちを理解し説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	グループワーク・グループ討議 （関心・意欲・理解・表現力・創造性）	7%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 （関心・意欲・理解・表現力・創造性）	7%
(3)-2) “保育の連続性”を考え指導計画を作成する力を身に付ける。	ほぼ完璧に指導計を作成できる。	大きな誤りはなく、ねらいに基づいた指導計画を作成できる。	誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。	作成できていない。	課題・レポート （関心・意欲・理解・思考力・表現力）	5%
	ほぼ完璧に指導計を作成できる。	大きな誤りはなく、ねらいに基づいた指導計画を作成できる。	誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。	作成できていない。	指導案 （関心・意欲・理解・思考力・表現力）	5%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
幼児指導法 Infant Teaching Method	児童教育学科 初等教育学専攻	24ECCC1012	1年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2		中津 愛子	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○

概　　要	保育内容の指導法（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の基本を学び、5領域のねらいが総合的に達成されるために 幼児の自発的な活動としての遊びを通して総合的に指導するという幼稚園教育の基本について学ぶ。 子どもの興味・関心や発達段階に応じて指導するための基礎知識を身に付ける。 子どもの主体的な活動が確保されるための環境構成の基本について学ぶ。
到達目標	(1)-1) 幼児期の教育における見方・考え方について、事例を挙げて説明できる。
	(1)-2) 遊びを通して総合的に指導することの意義と教師の役割を説明できる。
	(1)-3) 幼児理解に基づく評価について説明できる。
	(1)-4) 幼稚園から小学校への接続を円滑に行うために何が重要かを説明できる。
	(2)-1) 幼稚園における指導計画作成の基本を説明できる。
	(2)-2) 長期の指導計画と短期の指導計画について説明できる。
	(2)-3) 子どもの姿をもとに指導計画を作成する手順と、指導上の留意点、配慮事項が説明できる。
	(2)-4) 指導計画を評価するための基本的事項を説明できる。
	(3)-1) 幼児の実態から、人、物、自然などの環境を構成する力や教材を工夫する力を身に付ける。
	(3)-2) 具体的なねらいと内容を考えて指導計画を作成する力を身に付ける。
	(3)-3) 模擬保育を実践し、導入－展開－まとめの過程で、集団と個に対応する力を身に付ける。

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和3年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoomによる遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	幼児期の特性を踏まえ、遊びを通して指導するという幼児教育の基本となる考え方を学ぶ。			復習プリント	2時間
2	子どもが身近な環境に関わり、発達に関わる経験をどのように行っているのか、保育現場の映像を観て理解する。	事前配布資料を読んでおく	2時間	復習プリント	2時間

	3	子どもの主体的な活動が発展するための環境構成の意義について、保育場面の映像を通して理解する。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	4	環境を構成する人、物、自然等の要素と教材の工夫について、グループ討議を行ない、理解を深める。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	5	子どもの育ちと５つの領域の「ねらいと内容」のつながりを学ぶ。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	6	遊びの展開を考慮した援助の基本について、保育場面の映像を通して理解する。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	7	幼稚園の教諭にインタビューを行い、子どもの生活・遊びに関わる教師の役割、クラス運営の実際を理解する。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	8	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と活動のつながりを理解する。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	9	幼稚園と小学校が連携して行っている活動実践を観察し、小学校への接続が円滑に行われるための重要事項について学ぶ。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	10	保育現場の映像を通して幼児教育における教育課程・指導計画の基本を学ぶ。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	11	長期の指導計画と短期の指導計画を理解し、子どもの発達に応じて指導計画を立案し教材を活用するための基本を学ぶ。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	指導計画の課題レポート	2 時間
	12	指導計画の作成における環境の構成と教材の工夫について理解する。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	模擬保育の教材作成	2 時間
	13	模擬保育の実践の準備を行ない、子どもの活動を見通した具体的な援助方法についてグループ討議をし、教材の作成や選択を行なう。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	模擬保育の練習	2 時間
	14	グループで模擬保育を実践する（ビデオ録画の方法を身につける）。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	模擬保育の実践後の感想レポート	2 時間
	15	録画映像を再生して模擬保育の振り返りと評価を行ない、改善点を話し合う。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	模擬保育の指導計画の修正	2 時間

成　績　評　価	定期試験（40%）、課題・レポート（30%）、授業への取り組み（16%）、グループワーク・グループ討議（14%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	復習プリントは添削して返却します。成績はルーブリック評価を行い、配布します。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）、 幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省）、文部科学省『幼稚園教育要領解説』チャイルド本社 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省） 参考文献：文部科学省『幼稚園教育指導資料第５集』チャイルド本社
メッセージなど	グループ討議や模擬保育を取りいれたアクティブラーニング型の授業です。遊びを通して指導するとは何かを考えていきましょう。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 幼児期の教育における見方・考え方について、事例を挙げて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	5%
(1)-2) 遊びを通して総合的に指導することの意義と教師の役割を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	5%
(1)-3) 幼児理解に基づく評価について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	5%
(1)-4) 幼稚園から小学校への接続を円滑に行うために何が重要かを説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	5%
(2)-1) 幼稚園における指導計画作成の基本を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	5%
(2)-2) 長期の指導計画と短期の指導計画について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	5%
(2)-3) 子どもの姿をもとに指導計画を作成する手順と、指導上の留意点、配慮事項が説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	5%
(2)-4) 指導計画を評価するための基本的事項を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	5%
(3)-1) 幼児の実態から、人、物、自然などの環境を構成する力や教材を工夫する力を身に付ける。	環境を構成する力をほぼ完璧に身につけ、工夫もできる。	環境構成の基本は身につけ、教材の工夫もできる。	工夫する力は努力を要すが、環境構成の基本は身につけた。	身につけていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	8%
					グループワーク・グループ討議（関心・意欲・態度）	7%
(3)-2) 具体的なねらいと内容を考えて指導計画を作成する力を身に付ける。	ほぼ完璧な指導計画を作成できる。	大きな誤りはなく、ねらいに基づいた指導計画を作成できる。	誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。	作成できていない。	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	30%
(3)-3) 模擬保育を実践し、導入－展開－まとめの過程で、集団と個に対応する力を身に付ける。	導入からまとめまで、集団と個に対応する力をほぼ完璧に身に付けている。	集団と個に対応する力は、部分的には身に付けている。	模擬保育は実践したが、集団と個への対応は努力を要す。	模擬保育を実践していない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	8%
					グループワーク・グループ討議（関心・意欲・態度）	7%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
保育内容の指導法（健康） Teaching Methods of Contents of Child Care and Education (Health)	児童教育学科 初等教育学専攻	24ECCC2011	２年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	2		佐伯 里英子	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○

概　　要	幼児期の子どもの発達のあり方を、幼稚園教育要領に示されている健康領域のねらい及び内容を基本に深く考察する資質・能力を身に付ける。同時に、今日の幼児教育において求められている対話的保育のあり方、あそびを軸にした保育のあり方を、健康領域の面から実践的に考察する資質・能力を身に付ける。
到達目標	(1)-1) 「健康領域」のねらいと内容を理解し、具体的な保育に結びつけて説明できる。
	(1)-2) 「健康領域」のねらいと内容を理解し、保育者の役割について説明できる。
	(2)-1) 健康領域にかかわる幼児の発達の特徴を理解し、具体的に述べることができる。
	(2)-2) 対話的な保育のあり方の重要性を理解し、実践できる。
	(3)-1) 幼児期における運動あそびの重要性を理解し、幼児教育における評価の考え方を説明できる。
	(3)-2) 幼児期の運動あそびの指導上の留意点を理解し、指導案に反映できる。
	(3)-3) 「おにごっこ」あそびの段階的指導法を理解し、説明できる。
	(3)-4) 映像による保育実践の記録から、発達段階に応じたあそびのあり方について問いを見出し、発表する。また、評価の考え方を述べることができる。
	(3)-5) 運動あそびと「幼児教育のキーワード」１０項目の内容との関連性を述べることができる。
	(4)-1) 幼児期から児童期にかけての発達の違いについて述べることができる。
	(4)-2) 健康に関連する領域で、小学校教育の学習や生活について、子どもの姿や課題を予測し、述べることができる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	幼稚園教育要領「健康領域」の今日的意義			健康領域についてわからない用語を調べる。	2 時間
2	幼稚園教育要領のねらいについて	保育指針幼稚園教育要領「健康領域」ねらいを読む。	2 時間	保育指針幼稚園教育要領のねらいをまとめる。	2 時間
3	幼稚園教育要領の内容等について	指針要領「健康領域」3 歳児未満の内容を読む。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間

	4	健康領域における幼児期の発達的特徴　―保育場面の映像をもとに子どもの発達や状況の分析をする―	前回までの資料を読んで復習しておく。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	5	乳幼児期の安全（リスクとハザードについて）	前回までの資料を読んで復習しておく。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	6	自身の生活習慣と子どもの生活習慣をつなぐ	前回までの資料を読んで復習しておく。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	7	幼児の生活習慣（睡眠を中心に）とそれを支える保育者のあり方について	健康領域の内容(1)～(5)を読んでおく。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	8	保育場面の画像をもとに、生活習慣（食事・排泄を中心に）とそれを支える保育者の役割について	健康領域の内容(6)～(10)を読んでおく。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	9	生活習慣の自立に向かう保育のあり方について	健康領域の内容(7)を読んでおく。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	10	幼児期における運動あそびの重要性　―保育場面の映像をもとに保育方法・環境を分析する①―	前回までの資料を読んで復習しておく。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	11	幼児期における運動あそびの重要性　―保育場面の映像をもとに保育方法・環境を分析する②―	前回までの資料を読んで復習しておく。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	12	保育実践報告から学び、保育の今日的意義を考える①	前回までの資料を読んで復習しておく。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	13	保育実践報告から学び、保育の今日的意義を考える②	前回までの資料を読んで復習しておく。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	14	対話的保育の今日的意義と運動あそびへの応用	前回までの資料を読んで復習しておく。	2 時間	発表資料を作成する。	2 時間
	15	運動場面での指導方法と安全管理について	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	災害時の保育について考える	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	17	運動や運動あそびにおける「楽しさの質」の発達段階	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	18	発達段階に応じた運動あそびを理解する（乳児期前半を中心に）	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	19	発達段階に応じた運動あそびを理解する（乳児期後半を中心に）	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	20	発達段階に応じた運動あそびを理解する（2 歳児から 3 歳児への移行の時期を中心に）	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	21	発達段階に応じた運動あそびを理解する（3 歳児の時期を中心に）	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	22	保育場面の映像をもとに、発達段階に応じた運動あそびを理解する（4 歳児の時期を中心に）	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間

	23	保育場面の映像をもとに、発達段階に応じた運動あそび（5 歳児の時期を中心に）を理解する	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	24	「おにごっこ」あそびの初期段階における模擬保育の教材作成と指導案作成	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	指導案の修正または作成。	2 時間
	25	「おにごっこ」あそびの初期段階における模擬保育の実践の準備	指導案の作成。	2 時間	指導案の修正または作成。	2 時間
	26	「おにごっこ」あそびの初期段階における模擬保育の実践と考察	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	27	保育場面の映像をもとに認知機能の発達に基づく「おにごっこ」あそびの指導のあり方を考える（段階Ⅰの取り組みを中心に）	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	28	保育場面の映像をもとに認知機能の発達に基づく「おにごっこ」あそびの指導のあり方を考える（段階Ⅱ・Ⅲの取り組みを中心に）	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	29	保育場面の映像をもとに認知機能の発達に基づく「おにごっこ」あそびの指導のあり方（段階Ⅳ・Ⅴの取り組みを中心に）を考える	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	30	幼稚園教育から小学校教育への「接続」を考える	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	全範囲の資料を振り返る。	2 時間

成　績　評　価	授業への取り組み（30%）、課題・レポート（20%）、定期試験（50%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	レポートは翌週にコメントを書いて返却する。試験については必要に応じて次回に解説を行う。
テキストおよび参　考　文　献	・幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省）、保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省） ・吉田伊津子・砂上史子・松嵜洋子『乳幼児教育・保育シリーズ 保育内容 健康』光生館
メッセージなど	乳幼児期の健康に関する知識や考え方などを学び、具体的な場面で子どもの主体性や自立を支援することのできる基礎的な力をつけていきましょう。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 「健康領域」のねらいと内容を理解し、具体的な保育に結びつけて説明できる。	ほぼ完ぺきに理解し、具体的な保育に結びつけて説明できる。	大きな間違いなく理解し、説明できる。	最低限の基本は理解し、説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（知識・理解・思考力）	5%
(1)-2) 「健康領域」のねらいと内容を理解し、保育者の役割について説明できる。	ほぼ完ぺきに理解し、説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し、説明できる。	最低限の基本を理解し、説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（知識・理解・思考力）	10%
(2)-1) 健康領域にかかわる幼児の発達の特徴を理解し、具体的に述べることができる。	ほぼ完ぺきに理解し、具体的に述べることができる。	大きな間違いがなく基本を理解し、述べられる。	最低限の基本を理解し、述べることができる。	述べることができていない。	定期試験（知識・理解・思考力）	10%
(2)-2) 対話的な保育のあり方の重要性を理解し、実践できる。	幼児と教師との温かい触れ合いを構築する保育のあり方を理解し実践できる。	基本的な触れ合いの中での保育のあり方を理解し、実践できる。	対話的な保育の意味を自分なりに理解し、実践できる。	実践できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力）	10%
(3)-1) 幼児期における運動あそびの重要性を理解し、幼児教育における評価の考え方を説明できる。	評価の考え方を説明することができる。	大きな間違いがなく、基本を理解し、説明できる。	最低限の基本を理解し、説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力）	10%
(3)-2) 幼児期の運動あそびの指導上の留意点を理解し、指導案に反映できる。	ほぼ完ぺきに留意点が示され、指導案を作成できる。	ある程度の留意点を理解し、指導案が作成できる。	留意点をいくつかあげて、指導案を作成できる。	指導案に留意点が反映できていない。	授業への取り組み（知識・思考力・判断力・創造性）	10%
(3)-3) 「おにごっこ」あそびの段階的指導法を理解し、説明できる。	ほぼ完ぺきに説明できる。	ある程度、説明できる。	段階的な指導があることは説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・判断力）	10%
(3)-4) 映像による保育実践の記録から、発達段階に応じたあそびのあり方について問いを見出し、発表する。また、評価の考え方を述べることができる。	自分の問いを出し、他者と協議し、発表できる。	他者と問いを出し合い、発表できる。	他者の意見を聞き、自分の考えと比較できる。	他者との意見交換・検討ができない。	授業への取り組み（意欲・思考力・表現力・協働性）	5%
(3)-5) 運動あそびと「幼児教育のキーワード」１０項目の内容との関連性を述べることができる。	ほぼ完ぺきに関連性を述べることができる。	ある程度関連性を述べることができる。	「幼児教育のキーワード」の項目について列挙できる。	「幼児教育のキーワード」を列挙できていない。	定期試験（知識・思考力・判断力・表現力）	10%
(4)-1) 幼児期から児童期にかけての発達の違いについて述べることができる。	ほぼ完ぺきに述べることができる。	大きな間違いがなく、述べることができる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本は述べられる。	述べることができていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力）	10%
(4)-2) 健康に関連する領域で、小学校教育の学習や生活について、子どもの姿や課題を予測し、述べることができる。	子どもの姿や課題について、いくつも述べることができる。	大きな間違いなく、述べることができる。	1 点か 2 点は述べることができる。	述べられていない。	課題・レポート（関心・知識・思考力）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
保育内容の指導法（人間関係） Teaching Methods of Contents of Child Care and Education （Human Relations）	児童教育学科 初等教育学専攻	24ECCC2012	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	1	選択	平田 睦美	○

実務家教員の詳細	幼稚園教諭としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	人間関係が人としてこの社会を生きていく上で避けて通る事のできないことであることを理解し、乳幼児からの発達にどのような環境や人とのかかわりが求められるのかを探るとともに、育ちを支える保育・教育の在り方を学ぶ。	
到達目標	(1)-1) 今の子ども、親との関係、家族についての現状について説明できる。	
	(1)-2) 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の中での人間関係の領域について説明できる。	
	(2)-1) 幼稚園教育以前の年齢の子どもの姿と他の子どもたちへのかかわりを学び、乳幼児期からのかかわりの重要性について説明できる。	
	2)-2) 自立心を育み、人との関わる力を養うために必要な、幼児が経験し身につけていく内容や指導上の留意点、配慮事項について説明できる。	
	(2)-3) 子どもの発達にとってどのような環境や人とのかかわりが重要なのか具体的に説明できる。	
	(3)-1) 領域「人間関係」について理解し、指導案の構成を理解した上で、指導案を立案し、保育の構想について説明できる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	乳児期を取り巻く人間関係の現状と課題にについて理解する。	現代の子どものおかれている状況を調べておく。	1 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1 時間
2	保育の基本と領域「人間関係」について学ぶ。	テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	1 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1 時間
3	0歳児の集団生活の中での人間関係の育ちと援助について実践事例を通して学ぶ。	テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。。	2 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	2 時間
4	1，2歳児の集団生活の中での人間関係の育ちと援助について実践事例を通して学ぶ。	テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。。	1 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1 時間

	5	3歳児の集団生活の中での人間関係の育ちと援助について実践事例を通して学ぶ。	テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	1 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1 時間
	6	4歳児の集団生活の中での人間関係の育ちと援助について実践事例を通して学ぶ。	テキスト指定頁テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	1 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1 時間
	7	5歳児の集団生活の中での姿と人間関係の育ちについて実践事例を通して学ぶ。	テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	1 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1 時間
	8	子どもたちの豊かな人間関係を育む学級経営や集団づくりについて実践時事例を通して学ぶ。	テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	1 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1 時間
	9	園生活の中で人とのかかわりの難しい子どもへの支援の仕方について学ぶ。	テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	1 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1 時間
	10	園生活の中での異年齢のかかわりや地域の人々とのかかわりと援助について学ぶ。	テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	2 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	2 時間
	11	人間関係の育ちを支える保護者と保育者の望ましい関係について、事例を通して学ぶ。	テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	1 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1 時間
	12	「人間関係」の育ちを支える保育の構想①　人間関係を育む指導案を作成する。	テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	1 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1 時間
	13	「人間関係」の育ちを支える保育の構想②　作成した保育案をもとに、指導と援助ポイントについて考え合う。	配テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	1 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	2 時間
	14	「人間関係」の育ちを支える保育の構想③　指導案に基づいた保育について発表し、保育者の援助と環境構成についてディスカッションする。	指導案を読んで、自分の考えをまとめておく。	1 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1 時間
	15	「人間関係」の育ちを支える保育の構想④　指導案に基づいた保育について発表し、保育者の援助と環境構成についてディスカッションする。	指導案を読んでで、自分の考えをまとめておく。	1 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1 時間

成　績　評　価	定期試験（50%）、　課題・レポート（20%）、授業への取り組み（30%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	課題はコメントを書き、返却する。 レポートや試験はルーブリック評価の結果を渡す。
テキストおよび参　考　文　献	参考文献：幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省） 幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省）、 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省）
メッセージなど	人として生きていく上で欠かすことのできない人とのかかわりが乳幼児期からどのように育っていくのかを具体的に学ぶ中で、保育・教育にたずさわる者としてどのように子ども、親とのコミュニケーションをとっていくか演習を交えながらすすめていきます。 保育士証：必修科目、幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 今の子ども、親との関係、家族についての現状について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	定期試験（知識・理解）	5%
	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	課題・レポート（思考力・判断力・問題解決力）	10%
(1)-2) 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の中での人間関係の領域について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	定期試験（知識・理解）	20%
(2)-1) 幼稚園教育以前の年齢の子どもの姿と他の子どもたちへのかかわりを学び、乳幼児期からのかかわりの重要性について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	定期試験（知識・理解）	10%
(2)-2) 自立心を育み、人との関わる力を養うために必要な、幼児が経験し身につけていく内容や指導上の留意点、配慮事項について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	定期試験（知識・理解）	20%
(2)-3) 子どもの発達にとってどのような環境や人とのかかわりが重要なのか具体的に説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	授業への取り組み（関心・意欲・態度・表現力）	5%
	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	定期試験（関心・知識・理解）	20%
(3)-1) 領域「人間関係」について理解し、指導案の構成を理解した上で、指導案を立案し、保育の構想について説明きる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
保育内容の指導法（環境） Teaching Methods of Contents of Child Care and Education (Environment)	児童教育学科 初等教育学専攻	24ECCC2013	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	1	選択	玉木 晃子	○

実務家教員の詳細	保育者としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	幼児教育と環境、幼児の発達と環境、幼児と環境とのかかわりについて学ぶ。 自然や社会の事象などの身近な環境に積極的にかかわる力を育てるための基礎知識を身に付ける。 子どもの主体的な活動が確保されるための環境構成の基本について学ぶ。	
到達目標	(1)-1) 幼児の実態を考慮したねらいと、内容を実現するのにふさわしい環境について説明できる。	
	(1)-2) 幼児期の教育・保育は、環境を通して行うことを基本とするが、具体的にはどのようなことを意味するのか説明できる。	
	(1)-3) 保育のなかで変容していく幼児の姿から、幼児理解に基づく評価について説明できる。	
	(1)-4) 幼稚園における生活が家庭や地域社会と連携を円滑に行うために何が重要か説明できる。	
	(2)-1) 保育をよりよいものとしていくために、活動の具体的なねらいと内容を検討して指導計画を作成する力を身に付ける。	
	(2)-2) 子どもの発達を見通した短期と長期の指導計画について説明できる。	
	(2)-3) 子どもの自発的活動を引き出し、長期的に発達を見通した指導計画の作成について説明できる。	
	(3)-1) 幼児の感性、表現力を豊かに育むための指導上の留意点、配慮事項が説明できる。	
	(3)-2) 子どもの生活経験や発達に応じ、人、物、自然などの環境を構成する力や教材を工夫する力を身に付ける。	
	(3)-3) 子どもが環境とかかわって活動を展開するなかで生じる疑問を、適切な援助を行うことにより、探求へと導く力を身に付ける。	
	(3)-4) 子どもの行う活動が、個人、クループ、学級全体など多様に展開される過程で、個と集団に対応する力を身に付ける。	
	(3)-5) 保育はオーダーメイドデザインという発想のもとに、環境構成と環境に込められた保育のデザインを工夫する力を身に付ける。	

授業内容と進め方	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	環境を通して行う保育の基本を理解する。	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間

	2	子どもが生活や遊びのなかで身近な環境とどのようにかかわりながらどんな発達をしていくか、保育映像を通して理解する。	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	3	子どもが身近な環境とかかわるなかで「環境とかかわる力」の発達を支えているものについて理解する。	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	4	環境を構成する人や物など、身近な動植物とのかかわりについて実際の経験を通して具体的に理解する。	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	5	環境を構成する身近な物とのかかわりについて理解する。－身近な素材の収集とおもちゃ製作－	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	6	環境を構成する身近な自然とのかかわりについて理解する。－生物の飼育、植物の栽培－	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	7	幼児期の終わりまで、発達の過程に寄り添いながら、長期的な視点をもって環境を構成していくことを保育映像から理解する。	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	8	地域の施設やさまざまな情報、行事などに興味や関心を持ち、種類やいぎについて理解する。	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	9	環境を通して行う幼児教育の教育課程・指導計画について学ぶ。	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	10	短期の指導計画と長期の指導計画を理解する。	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	11	指導計画の作成における環境の構成と情報機器・教材の活用について理解する。	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	12	幼児の周りにある環境について、その特性や価値を知り、実際の保育のなかで適切に活用できるよう教材研究をする。	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	13	数量や図形、標識や文字などに関心をもつための教材とその活用方法を理解する。	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	14	環境とのかかわりを促すアイディアを保育活動に活かした指導案を作成する。	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	15	身近な自然に関わる模擬保育を行い、保育環境を改善するための反省と評価を行う。	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間

成　績　評　価	定期試験（60%）、課題・レポート（20%）、教材作成（11%）、授業への取り組み（9%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	授業の振り返りシートにコメントを書き、次の授業時に返却する。レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省）、保育所保育指針（平成 29 年 3 月　告示） 参考文献：　酒井幸子・　守　功　『保育内容 環境』　萌文書林
メッセージなど	子どもが環境とかかわって活動を展開するなかで、その活動が充実するように、興味や関心、発達の実情などに応じた適切な指導・援助のあり方について学んでいきましょう。 保育士証：必修科目、幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 幼児の実態を考慮したねらいと、内容を実現するのにふさわしい環境について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(1)-2) 幼児期の教育・保育は、環境を通して行うことを基本とするが、具体的にはどのようなことを意味するのか説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(1)-3) 保育のなかで変容していく幼児の姿から、幼児理解に基づく評価について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(1)-4) 幼稚園における生活が家庭や地域社会と連携を円滑に行うために何が重要か説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(2)-1) 保育をよりよいものとしていくために、活動の具体的なねらいと内容を検討して指導計画を作成する力を身に付ける。	指導計画を作成する力をほぼ完璧に身に付けている。	指導計画作成の基本を身に付けている。	誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。	身に付けていない。	教材作成（関心・意欲・態度）	5%
	指導計画を作成する力をほぼ完璧に身に付けている。	指導計画作成の基本を身に付けている。	誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。	身に付けていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	5%

(2)-2) 子どもの発達を見通した短期と長期の指導計画について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(2)-3) 子どもの自発的活動を引き出し、長期的に発達を見通した指導計画の作成について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	5%
(3)-1) 幼児の感性、表現力を豊かに育むための指導上の留意点、配慮事項が説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	5%
(3)-2) 子どもの生活経験や発達に応じ、人、物、自然などの環境を構成する力や教材を工夫する力を身に付ける。	環境を構成する力をほぼ完璧に身に付け、教材の工夫もでる。	環境構成の基本を身に付け、教材の工夫もできる。	環境構成の基本は身につけたが、工夫する力は努力を要す。	身に付けていない。	教材作成（関心・意欲・態度）	3%
	環境を構成する力をほぼ完璧に身に付け、教材の工夫もでる。	環境構成の基本を身に付け、教材の工夫もできる。	環境構成の基本は身につけたが、工夫する力は努力を要す。	身に付けていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	2%
(3)-3) 子どもが環境とかかわって活動を展開するなかで生じる疑問を、適切な援助を行うことにより、探求へと導く力を身に付ける。	探求へと導く力をほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違いがなく、探求へと導く力を身に付けている。	適切に援助できるが、探求へと導く力は努力を要す。	身に付けていない。	教材作成（関心・意欲・態度）	3%
	探求へと導く力をほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違いがなく、探求へと導く力を身に付けている。	適切に援助できるが、探求へと導く力は努力を要す。	身に付けていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	2%
(3)-4) 子どもの行う活動が、個人、クループ、学級全体など多様に展開される過程で、個と集団に対応する力を身に付ける。	個と集団に対応する力をほぼ完璧に身に付けている。	個と集団に対応する力は部分的に身に付けている。	多様な活動は調整できるが、個と集団への対応は努力を要す。	身に付けていない。	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	10%
(3)-5) 保育はオーダーメイドデザインという発想のもとに、環境構成と環境に込められた保育のデザインを工夫する力を身に付ける。	保育のデザインを工夫する力をほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違がなく、保育のデザインを工夫する力を身に付けている。	環境構成の基本は身につけたが、保育のデザインを工夫する力は努力を要す。	身に付けていない。	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
保育内容の指導法（言葉） Teaching Methods of Child Care and Education （Language）	児童教育学科 初等教育学専攻	24ECCC2014	２年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	2		竹内 幹雄	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○

概　　要	幼稚園教育要領「言葉」のねらい・内容・内容の取扱いについて、発達段階に応じて指導するための基礎知識を学ぶ。 理論と実践を結び付け、遊びを通して総合的に指導する上での適切な言葉かけや対応について学ぶ。 言葉の獲得に関わる環境構成の基本について学ぶ。 言葉の重要性を理解し、保護者や学校・地域社会との連携を深めるための基礎知識を身に着ける。
到達目標	(1)-1) 領域「言葉」の位置づけを理解するとともに、基本的な指導のありかた、評価を説明できる。
	(1)-2) 子どもの心身の発達と言葉獲得の過程を関連付け理解し発達段階に応じた言葉かけができる。
	(1)-3) 領域「言葉」と他領域との関係を理解して適切な言葉かけをすることができる。
	(2)-1) 言葉を獲得することと人間としての成長との関連性を説明できる。
	(2)-2) 言葉獲得に資する発達段階に応じた環境設定のありかたを説明できる。
	(2)-3) 言葉を育てる文化財について理解し、それらを利用できる。
	(3)-1) 実社会における言葉に関する課題について理解できる。
	(3)-2) 領域「言葉」と小学校「国語科」との関連性を説明できる。
	(3)-3) 地域社会が言葉の獲得・発達に関わっていることを、事例をあげて説明できる。
	(4)-1) 領域「言葉」について特別な配慮や支援を理解し、特別な配慮を必要とする子どもの園生活適応のための配慮や保護者への支援が説明できる。
	(4)-2) 海外から帰国した子どもや生活に必要な日本語の習得に困難のある子どもの園生活適応のための配慮や保護者への支援が説明できる。

	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
授業内容と進め方	1	乳幼児期にふさわしい「生活」の保障について理解する。	教科書 P1～5 を読み、考えをテキストにまとめる。	2 時間	授業メモをもとに、テキストにまとめ直す。	1 時間
	2	領域「言葉」の位置づけ、ねらい・内容・内容の取扱いについて、理解するとともに、図表にしてまとめる。	教科書 P6～17 を読み、考えをテキストにまとめる。	2 時間	授業メモをもとに、テキストにまとめ直す。	1 時間

	3	ヒトのコミュニケーションの特徴・非言語から言語への視点から、誕生から 3 歳ころまでの言葉の発達について理解し、グループで表にまとめ、発表し合う。	教科書 P20～29 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1 時間
	4	要領・指針で大切にされていることを基に、乳児期の言葉の発達と保育における配慮について理解し、グループで表にまとめ、発表し合う。	教科書 P30～36 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1 時間
	5	伝え合う言葉、考える言葉の発達、読み・書きの発達の理解を基に、乳幼児期から幼児期への言葉の発達過程をつかみ、グループで表にまとめ、発表し合う。	教科書 P37～41 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1 時間
	6	集団保育への参加、クラスの一員としての役割や意識を理解の基に、個と集団との関係のなかで幼児期の言葉の発達過程をつかみ、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P42～43 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1 時間
	7	仲間関係と言葉、言葉と思考・表現についての理解を基に、幼児期の言葉の発達過程をつかみ、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P43～47 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1 時間
	8	言葉の楽しさや美しさの理解を基に、幼児期の言葉の発達過程をつかみ、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P48～50 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1 時間
	9	幼児期と児童文化財について理解を深め、幼児期の言葉の発達過程についてグループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P51～55 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1 時間
	10	幼児期から児童期の言葉、接続期と言葉についての理解を基に、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P56～58 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1 時間
	11	記号や文字との出会い、絵本ともに環境、文字で伝える、を理解の基に、文字環境についてグループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P59～62 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1 時間
	12	幼児期の読み書き、言葉による伝え合い、を理解の基に、幼児期から児童期の言葉について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P63～66 を読み、テキスにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1 時間
	13	保・小・こ・小の接続で大切にしたいこと、言葉に関する家庭との連携、を理解の基に、幼児期から児童期の言葉や小学校「国語」との関連性についてグループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。また「おてて絵本」で遊ぶ。	教科書 P67～70 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1 時間
	14	子どもの言葉と保育者の役割、子どもの遊びや学びを支える保育者の援助、を理解の基に、保育者の専門性と言葉について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P71～77 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1 時間
	15	子どもの言葉と保育者の役割、子どもの遊びや学びを支える保育者の援助、を理解の基に、保育者の専門性と言葉について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P78～85 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1 時間

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
16	伝え合う言葉を育むための保育環境、文字との出会いと文字環境、を理解の基に、保育環境と言葉について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P86～94 を読み、テキストに記述する。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
17	保育おける絵本との出会い、発達に応じた絵本との出会い、を理解の基に、保育と児童文化財について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。また、読み聞かせのポイントをつかむ。	教科書 P95～96 を読み、テキストにまとめる。	3 時間	グループの発表、読み聞かせのポイント、をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
18	伝え合う言葉を育む環境構成と指導計画、評価と改善、を理解の基に、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。また、紙芝居のポイントをつかむ。	教科書 P97～104 を読み、テキストの図にまとめる。	3 時間	グループの発表、紙芝居のポイント、をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
19	遊びや生活に必要な言葉、自分の思いを伝える言葉、出来事を他者に伝える言葉、を理解の基に、乳幼児期の遊びと生活のなかの言葉について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P105～109 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストをまとめ直す。	2 時間
20	遊びを支える言葉、ごっこ遊びをめぐる言葉のやりとり、ルールのある遊びと言葉、を理解の基に、様々な遊びと言葉について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P62～66 を読み、テキスト P5～7 にまとめる。	2 時間	グループ発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
21	言葉のリズムや響きを感じる・楽しむ、様々な言葉遊びを楽しむ、を理解の基に、言葉のリズムや響き・言葉遊びについて、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P114～116 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
22	自分なりの言葉、言葉に対する感受性、を理解の基に、子どもの発達にふまえた遊びや生活と指導援助の実際について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P117～121 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
23	一人一人の特性に応じるために、発達障害（自閉症スペクトラム障害等）について、を理解の基に、領域「言葉」についての特別な配慮や支援を、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P122～125 を読み、テキストにまとめる	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
24	障害のある子どもの保育で大切な考え方について、行為を言葉でなぞる、生活の見通しを示す工夫―登園してからすること、を理解の基に、特別な配慮を必要とする子どもの園生活適応のための配慮や支援について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P126～130 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
25	はじめに、個別の教育支援計画と個別の指導計画について、個別の指導計画の一例、を理解の基に、個別の教育支援計画と個別の指導計画について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P131～132 を読み、テキストにまとめる。	3 時間	授業メモをもとに、テキストにまとめ直す。	2 時間

	26	海外から帰国した子どもや生活に必要な日本語の習得に困難のある子どもの園生活適応のための配慮や支援、家庭や地域・関係機関（医療や福祉、保健等）との連携、を理解の基に、言葉の問題や援助について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P133～138 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	27	言葉の環境と活動、全体的な計画、カリキュラムマネージメント、主体的・対話的で深い学び、を理解の基に、保育計画と評価について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P139～156 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	授業メモをもとに、テキストにまとめ直す。	2 時間
	28	情報革命と社会の変化、グローバル化と英語教育、育つことが期待される姿「言葉による伝え合い」、を理解の基に、子どもが育つ社会の変化と子どもの「言葉」について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P107～114 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	29	言わずにはいられない言葉、みんなの前で話す体験、形だけ整っている言葉、謝ると言う行為と言葉、を理解の基に、実践のなかで考えるべき課題について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P159～164 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	30	聞き手としての保育者、話し手としての保育者、やりとりする保育者、集団生活と言葉、を理解の基に、保育者の関わりについて、ICT を活用して発表し合う。グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P123～129 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間

成績評価	定期試験（21%）、課題・レポート（20%）、授業への取り組み（14%）、発表・プレゼンテーション（32%）、グループワーク・グループ討議（13%）
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	授業の振り返りシートや試験にコメントを書き、次の授業時に返却する。
テキストおよび参考文献	テキスト：『保育内容　言葉　』　秋田喜代美・野口隆子　編著　光生館 、『幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）』、『保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省）、『幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省）』
メッセージなど	乳幼児の言葉獲得過程と保育者の適切な対応・言葉かけをテキストや実習体験からともに考えていきましょう。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目、保育士証：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 領域「言葉」の位置づけを理解するとともに、基本的な指導のありかた、評価を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	5%
(1)-2) 子どもの心身の発達と言葉獲得の過程を関連付け理解し発達段階に応じた言葉かけができる。	ほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなくできる。	間違いはいくつかあるが、最低限できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	8%
	ほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなくできる。	間違いはいくつかあるが、最低限できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・技能・思考力・判断力・表現力）	7%
(1)-3) 領域「言葉」と他領域との関係を理解して適切な言葉かけをすることができる。	ほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなくできる。	間違いはいくつかあるが、最低限できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	3%
	ほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなくできる。	間違いはいくつかあるが、最低限できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・技能・思考力・判断力・表現力）	2%
(2)-1) 言葉を獲得することと人間としての成長との関連性を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	5%
(2)-2) 言葉獲得に資する発達段階に応じた環境設定のありかたを説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	5%
(2)-3) 言葉を育てる文化財について理解し、それらを利用できる。	ほぼ完璧に理解し、利用できる。	理解に偏りがあるが、利用できる。	理解への偏りが大きいが、何とか利用できる。	理解できず、利用できない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力）	15%
	ほぼ完璧に理解し、利用できる。	理解に偏りがあるが、利用できる。	理解への偏りが大きいが、何とか利用できる。	理解できず、利用できない。	発表・プレゼンテーション（技能・表現力）	15%
(3)-1) 実社会における言葉に関する課題について理解できる。	ほぼ完璧に広く、深く捉えている。	課題の捉え方が、やや限定的である。	課題の捉え方が限定的である。	理解できていない。	発表・プレゼンテーション（思考力・判断力・表現力）	8%
	ほぼ完璧に広く、深く捉えている。	課題の捉え方が、やや限定的である。	課題の捉え方が限定的である。	理解できていない。	グループワーク・グループ討議（関心・態度・思考力・判断力・協働性）	7%
(3)-2) 領域「言葉」と小学校「国語科」との関連性を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	5%

(3)-3) 地域社会が言葉の獲得・発達に関わっていることを事例をあげて説明できる。	多くの事例をあげ、ほぼ完璧に説明できる。	いくつかの事例をあげ、説明できる。	事例が限定的であるが、何とか説明できる。	説明できていない。	発表・プレゼンテーション（思考力・判断力・表現力）	3%
	多くの事例をあげ、ほぼ完璧に説明できる。	いくつかの事例をあげ、説明できる。	事例が限定的であるが、何とか説明できる。	説明できていない。	グループワーク・グループ討議（関心・態度・思考力・判断力・協働性）	2%
(4)-1) 領域「言葉」について特別な配慮や支援を理解し、特別な配慮を必要とする子どもの園生活適応のための配慮や保護者への支援が説明できる。	ほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく理解し、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	理解できず、説明できていない。	発表・プレゼンテーション（思考力・判断力・表現力）	3%
	ほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく理解し、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	理解できず、説明できていない。	グループワーク・グループ討議（関心・態度・思考力・判断力・協働性）	2%
(4)-2) 海外から帰国した子どもや生活に必要な日本語の習得に困難のある子どもの園生活適応のための配慮や保護者への支援が説明できる。	ほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく理解し、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	理解できず、説明できていない。	発表・プレゼンテーション（思考力・判断力・表現力）	3%
	ほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく理解し、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	理解できず、説明できていない。	グループワーク・グループ討議（関心・態度・思考力・判断力・協働性）	2%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
保育内容の指導法 （表現Ⅰ（音楽・造形）） Teaching Methods of Contents of Child Care and Education (Expression I)	児童教育学科 初教育学専攻	24ECCC2015	２年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	2	選択	木橋 奏子・吉本 宏之	

実務家教員の詳細	造形：小学校教諭としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	【音楽】豊かな感性はどのようにして生まれるのか。 授業で様々な表現活動を通し、子どもたちが創造性を深められるような援助の仕方を学ぶ。 またその状況に適した応用などを学ぶ。	
到達目標	(1)-1) 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。	
	(1)-2）表現を生成する過程について理解している。	
	(1)-3）幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。	
	(2)-1）様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。	
	(2)-2）身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。	
	(2)-3）表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。	
	(2)-4）協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。	
	(2)-5）様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	幼児と表現、音楽表現について理解する　（オリエンテーション）	テキスト 3P、4P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
2	音楽を中心とした音楽劇について DVD を視聴して具体的に理解する	テキスト 5P から 7P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
3	「表現あそび」を体験し、幼児の感性と表現について学ぶ。「表現遊び」における ICT の活用法について保育場面の映像から学び、保育構想に活用するアイデアを考える	テキスト 8P、9P、14P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
4	「音あそび」を体験し、イメージ活動の基礎を学ぶ。自分たちで作った音を録音し、音の教材を作成する	テキスト 15P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間

	5	「音楽とイメージ」について考え、感情と音楽の関係について学び、ICT を用いて音楽のイメージを映像化した教材を作成する	テキスト 16P、23P、24P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
	6	「即興演奏」や「表現あそび」を行い、その場面を録画しその映像を観ることで言葉と動きの関連性を学ぶ	テキスト 10P、11P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
	7	「即興演奏」や「音あそび」を行い、その場面を録画しその映像を観ることで音とイメージの関係を学ぶ	テキスト 12P、13P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
	8	グループ練習。絵本からイメージする音づくりを通し想像力を高める。	テキスト 17P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
	9	グループで創作活動について指導計画を立案する。	テキスト 18P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
	10	グループによる創作活動の練習①練習場面を録画し、その映像をもとに改善していく。	テキスト 19P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
	11	中間発表を行い、各グループ評価しあう。発表の様子を録画し、その映像を観て自己評価と反省を行い、指導計画案を練り直す。	テキスト 20P、21P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
	12	グループによる創作活動の練習②録画映像をもとに最終確認	テキスト 22P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
	13	模擬保育①音楽（演奏）を中心とした活動	テキスト 25P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
	14	模擬保育②表現（演劇）を中心とした活動	テキスト 26P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
	15	模擬保育の反省を行なう。保育者として必要な表現力や想像力について、また、保育現場での理想的な表現活動について話し合う。	テキスト 29P、30P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間

成　績　評　価	課題・レポート（41%）、授業への取り組み（50%）、グループワーク・グループ討議（9%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	音楽：振り返りシートに毎回コメントを記入し提出する。
テキストおよび参　考　文　献	参考文献：幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省）、『幼児の音楽教育』神原雅之　鈴木恵津子他 教育芸芸術社、『うたっておどっておもちゃ箱２』鈴木 恵津子　教育芸芸術社
メッセージなど	この授業は、受講者自身が豊かな表現力、コミュニケーション能力、を獲得するための内容です。表現力豊かな子どもを育てるには、接する保育者の想像力や表現力を磨くことが必須です。 保育士証：必修科目、幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはあるが、最低限の基礎を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはあるが、最低限の基礎を説明できる。	説明できていない。	グループワーク・グループ討議（思考力・判断力）	2%
(1)-2） 表現を生成する過程について理解している。	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはあるが、最低限の基礎を理解している。	理解していない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	3%
	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはあるが、最低限の基礎を理解している。	理解していない。	グループワーク・グループ討議（思考力・判断力）	2%
(1)-3） 幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。	表現を受け止め、共感することがほぼ完璧にできる。	表現の基本を受け止め、共感することができる。	表現を受け止め、共感することが最低限できる。	表現を受け止め、共感することができない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	5%
	表現を受け止め、共感することがほぼ完璧にできる。	表現の基本を受け止め、共感することができる。	表現を受け止め、共感することが最低限できる。	表現を受け止め、共感することができない。	グループワーク・グループ討議（思考力・判断力）	5%
(2)-1） 様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。	様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることがほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることができる。	様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることが最低限できる。	様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることができない。	課題・レポート（知識・思考力）	5%
	様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることがほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることができる。	様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることが最低限できる。	様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることができない。	授業への取り組み（表現力・判断力）	5%
(2)-2） 身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。	ほぼ完璧に表現できる。	大きな間違いがなく、基本を表現できる。	基礎を表現できるが努力を要す。	表現できない。	課題・レポート（知識・思考力）	8%
	ほぼ完璧に表現できる。	大きな間違いがなく、基本を表現できる。	基礎を表現できるが努力を要す。	表現できない。	授業への取り組み（表現力・判断力）	7%
(2)-3） 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。	ほぼ完璧に分析することができる。	大きな間違いがなく、基本を分析できる。	分析することは最低限できるが、努力を要す。	分析できない。	課題・レポート（知識・思考力）	8%
	ほぼ完璧に分析することができる。	大きな間違いがなく、基本を分析できる。	分析することは最低限できるが、努力を要す。	分析できない。	授業への取り組み（表現力・判断力）	7%

(2)-4） 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。	他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことがほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。	他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことが最低限できる。	他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができない。	課題・レポート（知識・思考力）	10%
	他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことがほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。	他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことが最低限できる。	他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができない。	授業への取り組み（表現力・判断力）	10%
(2)-5） 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。	知識技能を生かし、表現活動に展開することがほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、知識技能を生かし、表現活動に展開することができる。	知識技能を生かし、表現活動に展開することが最低限できる。	知識技能を生かし、表現活動に展開することができない。	課題・レポート（知識・思考力）	10%
	知識技能を生かし、表現活動に展開することがほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、知識技能を生かし、表現活動に展開することができる。	知識技能を生かし、表現活動に展開することが最低限できる。	知識技能を生かし、表現活動に展開することができない。	授業への取り組み（表現力・判断力）	10%

概　　要	【造形】保育内容の各領域を総合的に捉え表現活動を中心に乳幼児の発達段階に応じた保育内容の展開や指導法を学ぶ。形、色、手触りなど様々な表現方法を使って表現活動の特徴や面白さを確認し応用や発展を考え実践を重ね、総合的な表現活動を構想、計画、指導、実践する力を身につける。
到達目標	(1)-1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい、内容、構造を理解している。 (1)-2）幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。領域「表現」の内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 (1)-3）幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 (1)-4）幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。領域「表現」に関わる幼児が身に付けていく内容の関連性及び小学校教育とのつながりを理解している。 (2)-1）幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを理解している。 (2)-2）幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。領域「表現」の特性を考慮し、幼児の発達に合った教材、材料の活用法を理解し活用できる。 (2)-3）幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。指導案の構造を理解し、設定保育を想定した指導案を作成することができる。 (2)-4）幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。模擬授業の計画を練り、経験した後に、その反省点を踏まえ、改善できる。 (2)-5）幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。領域「表現」の特性に応じた知識、技能、指導法を身に付け、向上に取り組むことができる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
16	表現とは何か、その中の領域「造形表現」の意義を理解する	授業前に配付したプリントを読んでおく	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
17	表出と表現の違いを、実際の幼児作品の観察と映像を通して理解する	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
18	遊びの中の幼児の様々な表現活動を捉え、造形表現の可能性を考える。	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	「授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
19	０歳～６歳までの幼児画を観察観し、各年齢の発達と表現の特徴を理解する	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
20	身近な素材を用いた表現活動と保育者の援助について実践例を通して学ぶ。	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	描画材料を理解したかどうか復習し感想を書く	2 時間
21	教材や用具・材料等の特性や発達に応じた使い方の実際について、実践例を通して学ぶ。	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
22	年齢による発達や幼児の実態、季節を踏まえた教材や指導法を検討する①	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
23	年齢による発達や幼児の実態、季節を踏まえた教材や指導法を検討する②	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	「授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間

	24	映像視聴を通して乳幼児の表出、表現の背景や要因を考察し、表現における情報機器・活用法について検討する	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	25	小学校の「図画工作」や様々な教科と幼児期の表現・造形教育の関連性や学びの連続性について学ぶ。	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	26	授業から題材を選び、豊かな感性と心を育てる「指導案」を立案する。	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	27	指導案をもとに模擬保育を実施し、年齢に応じた造形指導法を身に付けるとともに、ディスカッションにより振り返る①	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	28	指導案をもとに模擬保育を実施し、年齢に応じた造形指導法を身に付けるとともに、ディスカッションにより振り返る②	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	29	指導案をもとに模擬保育を実施し、年齢に応じた造形指導法を身に付けるとともに、ディスカッションにより振り返る③	模擬保育が出来るよう準備する	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	30	指導案をもとに模擬保育を実施し、年齢に応じた造形指導法を身に付けるとともに、ディスカッションにより振り返る④	模擬保育が出来るよう準備する	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間

成績評価	小テスト（8%）、課題・レポート（19%）、作品（18%）、指導案（32%）、教材作成（5%）、模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（10%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（8%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	造形:毎回授業後に振り返りシートに記入。作品ファイルを作成し、授業後に返却し、実習にいかす。
テキストおよび参考文献	テキスト：幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省 参考文献：林建造他『領域「表現」』国文書院
メッセージなど	造形教育は、子どもの豊かな感性と表現を育てるものです。子どもの心を育てる造形指導法を学びましょう。 保育士証：必修科目、幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい、内容、構造を理解している。	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	課題・レポート（理解・思考力・知識）	3%
	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（理解・思考力・知識）	2%
(1)-2）幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」ねらい及び内容を理解する。領域「表現」の内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	課題・レポート（理解・思考力・知識）	3%
	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（理解・思考力・知識）	2%
(1)-3）幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」ねらい及び内容を理解する。幼稚園教育における評価の考え方を理解している。	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	課題・レポート（理解・思考力・知識）	3%
	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（理解・思考力・知識）	2%
(1)-4） 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」ねらい及び内容を理解する：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」ねらい及び内容を理解する。領域「表現」に関わる幼児が身に付けていく内容の関連性及び小学校教育とのつながりを理解している。	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	課題・レポート（理解・思考力・知識）	3%
	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（理解・思考力・知識）	2%
(2)-1） 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける：幼児の表現活動の特性を視野に入れた保育の構想の大切さを理解している。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを良く理解し、完璧に説明できる。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを大きな間違いがなく理解し説明できる。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを間違いが少しあるが理解し、ある程度説明できる	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを説明できない。	小テスト（知識・理解・思考力）	8%
	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを良く理解し、完璧に説明できる。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを大きな間違いがなく理解し説明できる。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを間違いが少しあるが理解し、ある程度説明できる	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを説明できない。	課題・レポート（知識・理解・思考力）	7%

(2)-2） 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける:幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。領域「表現」の特性を考慮し、幼児の発達に合った教材、材料の活用法を理解し活用できる。	ほぼ完璧に幼児画を理解し、発達に合った材料で制作できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し発達に合った材料で制作できる	間違いは少しあるが、基本を理解し発達に合った材料で制作できる。	理解していない。活用できない。	作品（技能・表現力・創造性・作品の完成度）	18%
	ほぼ完璧に幼児画を理解し、発達に合った材料で制作できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し発達に合った材料で制作できる	間違いは少しあるが、基本を理解し発達に合った材料で制作できる。	理解していない。活用できない。	指導案（技能・表現力・創造性・作品の完成度）	17%
(2)-3） 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける:幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。指導案の構造を理解し、設定保育を想定した指導案を作成することができる。	ほぼ完璧に理解し、設定保育を想定した指導案を作成できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し、設定保育を想定した指導案を作成できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し設定保育を想定した指導案を作成できる。	理解していない。指導案を作成できない。	指導案 （知識・理解）	10%
(2)-4） 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける:幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。模擬授業の計画を練り、経験した後に、その反省点を踏まえ、改善できる。	ほぼ完璧に計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる。	大きな間違いがなく、計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる	計画を練ることができない	指導案（技能・判断力・問題解決力）	5%
	ほぼ完璧に計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる。	大きな間違いがなく、計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる	計画を練ることができない	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ （技能・判断力・問題解決力）	5%
(2)-5） 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける:幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。領域「表現」の特性に応じた知識、技能、指導法を身に付け、向上に取り組むことができる。	ほぼ完璧に知識、技能、指導法を身に付けている。	大きな間違いがなく、知識、技能、指導法を身に付けている	間違いは少しあるが、最低限の知識、技能、指導法を身に付けている。	知識、技能、指導法を身に付けていない。	教材作成 （技能・表現力）	5%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
幼児理解と教育相談 Infant Comprehension and Educational Counseling	児童教育学科 初等教育学専攻	24ECUI2011	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2		馬場 弓歌	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	幼児の生活や遊びの実態に即して幼児の発達を理解する。 子どもの臨床的問題について考えつまずきの要因、親子の支援について学ぶ。 発達上の問題の把握、介入方法の仕方などについて学ぶ。	
到達目標	(1)幼児理解についての基本的な知識を身につける。	
	(2)幼児の理解、保護者を含めた関係者について理解する。	
	(3)幼児教育現場での教育相談のありかたについて学ぶ。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	幼児理解とは何か概要を知る			幼児理解の概要をまとめる。	2 時間
2	幼児理解の必要性・意義について学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2 時間	テキストの該当箇所を読む	2 時間
3	幼児の生活状況について学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2 時間	テキストの該当箇所を読む	2 時間
4	幼児を取り巻く環境について知り、その影響について理解する	テキストの該当箇所を読む	2 時間	テキストの該当箇所を読む	2 時間
5	親子関係を中心に重要な他者との関係性が幼児に与える影響を学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2 時間	テキストの該当箇所を読む	2 時間
6	保育者との関係を中心に重要な他者との関係性が幼児に与える影響を学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2 時間	テキストの該当箇所を読む	2 時間
7	教育相談の意義と関連するカウンセリングの基礎を学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2 時間	テキストの該当箇所を読む	2 時間
8	カウンセリング技術（受容・傾聴・共感）に基づく子どもとの関わりについて学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2 時間	テキストの該当箇所を読む	2 時間
9	発達のつまずきとは何か学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2 時間	テキストの該当箇所を読む	2 時間
10	発達障害の基本について知り、気づき、対応について学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2 時間	テキストの該当箇所を読む	2 時間
11	発達の問題への支援方法について学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2 時間	テキストの該当箇所を読む	2 時間

	12	保護者支援の実践を知りその方法を学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2 時間	テキストの該当箇所を読む	2 時間
	13	社会的資源について知り活用方法を学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2 時間	テキストの該当箇所を読む	2 時間
	14	カウンセラーとの協働について実例を元に学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2 時間	テキストの該当箇所を読む	2 時間
	15	幼児を取り巻く環境の今後について考える	テキストの該当箇所を読む	2 時間	テキストの該当箇所を読む	2 時間

成　績　評　価	定期試験（50%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（50%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	授業内での課題は、コメントを記入し返却する。 試験の採点方法と点数をルーブリック評価に基づき示す。
テキストおよび参　考　文　献	幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省）、 小田豊・秋田喜代美（2021）新時代の保育双書　子どもの理解と保育・教育相談[第 2 版] みらい、松本峰雄（監修）　『よくわかる！保育士エクササイズ 8　子どもの理解と援助演習ブック』ミネルヴァ書房
メッセージなど	幼児理解の必要性を知り子どもたちを取り巻く環境が子どもの成長にどのように影響しているのか教育、支援の実践について学んでいきましょう。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)幼児理解についての基本的な知識を身につける。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力）	15%
	問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。	問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。	問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。	問題意識をもって講義に参加していない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	15%
(2)幼児の理解、保護者を含めた関係者について理解する。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力）	15%
	問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。	問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。	問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。	問題意識をもって講義に参加していない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	15%
(3)幼児教育現場での教育相談のありかたについて学ぶ。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力）	20%
	問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。	問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。	問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。	問題意識をもって講義に参加していない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
保育・教職実践演習（幼稚園） Practice of Teaching Profession(Kindergarten)	児童教育学科 初等教育学専攻	24ECTP2004	２年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	2		木橋 奏子 他	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	教育実習と教職に関する既習の科目の知識と技術の統合をはかり、幼稚園教諭として資質能力を高めることを目的に、グループ活動やロールプレイ、地域子育て支援行事への参加などの実践を組み入れ演習形式で授業を行う。	
到達目標	(1) 幼稚園教諭としての使命感・責任感、社会性やコミュニケーション力が向上している。	
	(2) こども理解やクラス運営の考え方や具体的方法について説明ができる。	
	(3) 保育内容の指導の原理と方法について、模擬保育の実践を通して表現することができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション・教育実習の振り返り（自己評価）・教職履修ファイルの記入	教育実習日誌をまとめてくる	2 時間	授業の振返りとファイルのまとめ	2 時間
2	1 年生に対する実習についての話①・模擬保育の準備と練習	事前配布資料を読んでくる	2 時間	模擬保育の準備	2 時間
3	１年生に対する実習についての話①・模擬保育	模擬保育の練習	2 時間	課題レポート	2 時間
4	地域の子育て支援に関する行事参加の準備①・内容確認とグループ編成	事前配布資料を読んでくる	2 時間	グループ課題	2 時間
5	地域の子育て支援に関する行事参加の準備②・企画と立案	グループ企画の立案	2 時間	グループ企画の立案と確認	2 時間
6	地域の子育て支援に関する行事参加の準備③・教材作成	グループ企画の教材作成	2 時間	グループ企画の教材作成と確認	2 時間
7	地域の子育て支援に関する行事参加の準備④・練習及び流れの確認	グループ企画の練習と準備物の確認	2 時間	グループ企画の練習と確認	2 時間
8	地域の子育て支援に関する行事での実践①	グループ企画の練習	2 時間	グループ企画の確認	2 時間
9	地域の子育て支援に関する行事での実践②	グループ企画の練習	2 時間	課題レポート	2 時間
10	地域の子育て支援に関する行事参加の振り返り 実習評価票に基づく今後の課題の明確化 ①	行事の振返り	2 時間	課題レポート	2 時間

	11	実習評価票に基づく今後の課題の明確化②	事前配布レポート	2 時間	課題レポート	2 時間
	12	１年生に対する実習についての話②の準備	実習日誌のまとめ	2 時間	グループでの話の立案と確認	2 時間
	13	１年生に対する実習についての話②	グループでの話のまとめ	2 時間	課題レポート	2 時間
	14	各自の課題への取り組み	事前配布資料を読む	2 時間	各自の課題への取り組み	2 時間
	15	課題についてのまとめ	各自の課題への確認とまとめ	2 時間	課題レポート	2 時間

成　績　評　価	課題・レポート（30%）、指導案（10%）、授業への取り組み（15%）、発表・プレゼンテーション（30%）、毎回の授業の感想・振り返り（15%）
課題(試験･ﾚﾎﾟｰﾄ等)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	レポートや配布資料はファイルにとじ、次の時間の復習や授業の振返りに使用します。
テキストおよび参　考　文　献	参考文献：幼稚園教育要領
メッセージなど	幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 幼稚園教諭としての使命感・責任感、社会性やコミュニケーション力が向上している。	幼稚園教諭としての資質･能力が磨かれている。	幼稚園教諭としての基本的な資質･能力が見られる。	幼稚園教諭としての資質･能力の最低限の基本が見られる。	幼稚園教諭としての適性が見られない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度・協働性・表現力）	15%
	幼稚園教諭としての資質･能力が磨かれている。	幼稚園教諭としての基本的な資質･能力が見られる。	幼稚園教諭としての資質･能力の最低限の基本が見られる。	幼稚園教諭としての適性が見られない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・態度・協働性・表現力）	15%
(2) こども理解やクラス運営の考え方や具体的方法について説明ができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力・問題解決力）	30%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	発表･プレゼンテーション（知識・理解・思考力・判断力・問題解決力）	10%
(3) 保育内容の指導の原理と方法について、模擬保育の実践を通して表現することができる。	ほぼ完璧に表現できる。	大きな間違いがなく、基本を踏まえて、表現できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の表現ができる。	表現することができない。	指導案（知識・理解・技能・判断力・表現力）	10%
	ほぼ完璧に表現できる。	大きな間違いがなく、基本を踏まえて、表現できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の表現ができる。	表現することができない。	発表･プレゼンテーション（知識・理解・思考力・判断力・問題解決力）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
幼児と言葉 Infant and Language	児童教育学科 初等教育学専攻	24ECCC1001	1年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	1		中津 愛子	

実務家教員の詳細		
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	
概　　要	領域「言葉」の指導の基礎となる専門的知識を身に付けるため、次の３つをテーマとした授業を行う。 ①乳幼児期の言葉の発達と言葉の意義や機能を学ぶ。 ②言葉に対する感覚を豊かにするための実践の基礎を学ぶ。 ③言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財の意義を学ぶ。	
到達目標	(1)話し言葉や書き言葉などの言葉の意義や機能を説明できる。	
	(2)乳幼児の言葉の発達過程について、言葉の機能への気づきを含めて説明できる。	
	(3)言葉の楽しさや美しさについて、具体的な例を挙げて説明できる。	
	(4)言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身に付ける。	
	(5)言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉を豊かにする実践を、幼児の発達の姿と合わせて説明できる。	
	(6)児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）について、基礎的な知識を身に付ける	
	(7)幼児の発達における児童文化財の意義について理解する。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	領域「言葉」のねらい・内容・内容の取扱いについて学ぶ。			復習プリント	2時間
2	領域「言葉」のねらい・内容・内容の取扱いについて学ぶ。	事前配布資料を読んでおく	2時間	復習プリント	2時間
3	言葉による伝え合いや言葉遊び、文字への関心について学び、映像資料をもとに具体的な子どもの姿を理解する。	事前配布資料を読んでおく	2時間	復習プリント	2時間
4	前言語期のコミュニケーションの発達について、映像資料を通して具体的な子どもの姿を理解する。	事前配布資料を読んでおく	2時間	復習プリント	2時間
5	幼児期の言葉の発達過程について、映像資料をもとに具体的に子どもの姿を通して学ぶ。	事前配布資料を読んでおく	2時間	復習プリント	2時間

	6	映像資料をもとに、保育者の適切な言葉がけについてグループ討議を行い、グループごとにプレゼンテーションを行って学び合う。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	7	保育場面の映像から、言葉を生み出す環境と豊かな体験についてグループ討議を行い、グループごとにプレゼンテーションを行って学び合う。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	8	子どもの言語障害について学び、映像を通して実際の子どもの姿を理解する。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	9	言葉の遅れがみられる子どもへの援助、保育場面での配慮についてグループ討議を行い、グループごとにプレゼンテーションを行って学び合う。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	10	児童文化財としての絵本・紙芝居の実践を行い、言葉の豊かさや楽しさを子どもたちがどのように経験するかをグループ討議する。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	11	ストーリーテリングの実践と、しりとりやなぞなぞなどの言葉遊びの実践を行い、言葉に関する感覚を高めることについてグループ討議を行う。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	指導計画の課題レポート	2 時間
	12	ペープサートの作成とパネルシアターの実演を学ぶ。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	模擬保育の教材作成	2 時間
	13	言葉に対する感覚を豊かにするための ICT を用いた保育教材の作成を行う。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	模擬保育の練習	2 時間
	14	幼児の児童文化財の意義を学ぶ。領域「言葉」と他領域との関わりについて理解する。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	模擬保育の実践後の感想レポート	2 時間
	15	領域「言葉」と小学校「国語科」との関係を理解したうえで、言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにするための幼児期の教育の重要性について、発表しあう。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	模擬保育の指導計画の修正	2 時間

成　績　評　価	授業への取り組み（15%）、グループワーク・グループ討議（15%）、プレゼンテーション（30%）、定期試験（40%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	復習プリントは添削して返却します。成績はルーブリック評価を行い、配布します。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：事前配布資料、幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内 閣府・厚生労働省）、 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省） 参考文献：文部科学省『幼稚園教育指導資料第５集』チャイルド本社
メッセージなど	グループ討議や模擬保育を取りいれたアクティブラーニング型の授業です。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)話し言葉や書き言葉などの言葉の意義や機能を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(2)乳幼児の言葉の発達過程について、言葉の機能への気づきを含めて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(3)言葉の楽しさや美しさについて、具体的な例を挙げて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(4)言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身に付ける。	ほぼ完璧に身に付けている。	基礎的な知識をおおよそ身に付けている	最低限の知識を身に付けている。	身に付けていない。	授業への取り組み（関心、意欲、態度）	15%
(5)言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉を豊かにする実践を、幼児の発達の姿と合わせて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(6)児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）について、基礎的な知識を身に付ける	ほぼ完璧に身に付けている。	基礎的な知識をおおよそ身に付けている	最低限の知識を身に付けている。	身に付けていない。	プレゼンテーション（思考力・判断力、表現力）	30%
(7)幼児の発達における児童文化財の意義について理解する。	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いはなく、おおよそ理解している。	最低限、理解している。	理解していない。	グループワーク・グループ討議（関心、意欲、態度）	15%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
幼児と音楽表現 Infant and musical expression	児童教育学科 初等教育学専攻	24ECCC1002	1 年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	1		木橋 奏子	

実務家教員の詳細		
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	表現領域とは何か、幼児の音楽的な表現方法を、発達を理解しながら手あそび、わらべうた、リトミック等の知識を習得する。また具体的な例を例をあげながら、状況に適した表現方法を学ぶ。	
到達目標	(1) 幼児の音楽表現に関する知識･技能を習得する。	
	(2) 子どもの能力を引き出す表現の工夫や展開を考えることができる。	
	(3) 豊かな表現力､コミュニケーション能力を高め､自身の創造力や表現力を磨くことができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	表現領域のねらい	領域「表現」について簡単に調べてくる	2 時間	課題レポート	2 時間
2	イメージから表現へのプロセス	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返りとレポート	2 時間
3	幼児期における表現活動の芽生え	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返りとレポート	2 時間
4	手あそびの必要性（1）	手あそびを 2 つ調べてくる	2 時間	発表できるように練習しておく	2 時間
5	手あそびの必要性（2）	手あそびを練習してくる	2 時間	授業の振り返りとレポート	2 時間
6	幼児とわらべうた	わらべうたを 1 つ調べてくる	2 時間	授業の振り返りとレポート	2 時間
7	リズムあそびと表現活動の関わり（1）	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返りとレポート	2 時間
8	リズムあそびと表現活動の関わり（2）	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返りとレポート	2 時間
9	歌うことと聴き合うこと	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返りとレポート	2 時間
10	絵本と音楽	絵本を 1 つ持参する	2 時間	授業の振り返りとレポート	2 時間

	11	音楽の基礎知識	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返りとレポート	2 時間
	12	リズムアンサンブル	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返りとレポート	2 時間
	13	テーマから表現する	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返りとレポート	2 時間
	14	表現活動のグループ発表	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返りとレポート	2 時間
	15	なぜ「表現」をするのか考える	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返りとレポート	2 時間

成　績　評　価	授業への取り組み（関心・意欲・態度）50%、 グループワーク・グループ討議（思考力・表現力・判断力）35% 課題・レポート（知識・理解）15%
課題(試験･レポート等)に対する フィードバックの方法	授業計画表内のフィードバック欄に毎回記入をする。 レポートや配布資料を適切に管理し、予習復習に使用する。
テキストおよび 参　考　文　献	テキスト：表現指導法　上野奈初美　編著　萌文書林 参考文献：幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省） 保育内容　領域「表現」　堂本真実子　編　わかば社 子どものための音楽表現技術　今泉明美他編著 望月たけ美他　萌文書林
メッセージなど	幼稚園教諭二種免許：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 幼児の音楽表現に関する知識・技能を習得する。	ほぼ完璧に知識・技能を習得できる	大きな間違いなく、知識･技能を習得できる	最低限の知識・技能を習得できる	知識・技能を習得できない	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	50%
(2) 子どもの能力を引き出す表現の工夫や展開を考えることが出来る。	ほぼ完璧に工夫や展開を考えることができる	大きな間違いなく、工夫や展開を考えることができる	最低限の工夫や展開を考えることができる	工夫や展開を考えることができない	グループワーク･グループ討議（思考力･表現力･判断力）	30%
(3) 豊かな表現力、コミュニケーション能力を高め、自身の創造力や表現力を磨くことができる。	ほぼ完璧にできる	大きな間違いなくできる	最低限できる	磨くことができない	課題･レポート（知識･理解）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
幼児と造形表現 Young Children and Plastic Arts Expressing	児童教育学科 初等教育学専攻	24ECCC1006	１年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	2	必修	吉本　宏之	○

実務家教員の詳細	小学校教諭としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	幼児の発達段階と造形表現の変化を関連づけながら、幼児期にふさわしい造形表現を援助するための方法を考える。また、幼児の造形表現の基本となる知識・技能、造形活動に関する基本的な素材の扱い方や環境構成等について、自ら作る喜びを味わう中で習得する。	
到達目標	(1) 領域「表現」の位置づけを理解し、幼児の生活や遊びの中にみられる表現の姿とその発達を理解する。	
	(2) 造形表現の基礎知識・技能を学び、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。	
	(3) 身近な素材を用いた表現活動に取り組み、その面白さや可能性、重要性を説明する。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	幼児の造形についての概要。当授業のねらい。	授業前に配付したプリントを読む	2 時間	授業の概要理解について考察し感想を書く	2 時間
2	実際の絵を見ながら、幼児の発達と造形表現の特徴を理解する。	前時に配付した鑑賞資料を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
3	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。貼ること①	教科書（接着剤資料①）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
4	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。貼ること②	教科書（接着剤資料②）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
5	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。貼ること③	教科書（接着剤資料③）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
6	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。貼ること④	教科書（接着剤資料④）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間

	7	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。はさみ①	教科書(はさみ資料①)を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	8	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。はさみ②	教科書(はさみ資料②)を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	9	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。描画材料①	教科書(パス・ペン資料)を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	10	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。描画材料②	教科書(絵の具資料)を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	11	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。描画材料③	教科書(コンテ資料)を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	12	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。描画材料④	教科書(墨汁資料)を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	13	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。紙の技法①	教科書(折り紙資料)を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	14	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。紙の技法②	教科書(紙を揉む資料)を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	15	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。紙の技法③	教科書(紙を破る資料)を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	16	これまで学んだ環境づくりと製作の基本や、幼児の造形活動を支えるものについて考察し、発表する。	前時まで学んだ教科書や振り返りシートを読んでおく。	2 時間	今までの作品の自己評価を振り返りシートに書く。	2 時間
	17	描画材料を用いたモダンテクニックの習得と表現を広げる活動。①スタンピング、バチック	教科書(スタンピング、バチック)を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	18	描画材料を用いたモダンテクニックの習得と表現を広げる活動。②染め紙、にじみ絵	教科書(染め紙、にじみ絵)を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	19	描画材料を用いたモダンテクニックの習得と表現を広げる活動。③デカルコマニー、スクラッチ	教科書(デカルコマニー、スクラッチ)を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	20	描画材料を用いたモダンテクニックの習得と表現を広げる活動。④ステンシル	教科書(ステンシル)を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	21	描画材料を用いたモダンテクニックの習得と表現を広げる活動。⑤紙版画	教科書(紙版画)を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	22	描画材料を用いたモダンテクニックの習得と表現を広げる活動。⑥フロッタージュ	教科書(フロッタージュ)を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間

	23	粘土の特徴を理解し、その特徴を生かし遊びや製作について考え、実施する。	教科書（紙・小麦粉粘土）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	24	粘土の特徴を理解し、その特徴を生かし遊びや製作について考え、実施する。	教科書（土粘土）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	25	自然物を生かした造形遊びや製作について考え、実施する。	教科書（自然物）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	26	自然物を生かした造形遊びや製作について考え、実施する。	教科書（自然物）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	27	園の環境や季節、子どもの年齢などを想定し、2・3歳児にふさわしい壁面装飾を制作する。	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	28	園の環境や季節、子どもの年齢などを想定し、4歳児にふさわしい壁面装飾を制作する。	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	29	園の環境や季節、子どもの年齢などを想定し、5歳児にふさわしい壁面装飾を制作する	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	30	自分たちの制作物を見ながら、子どもの造形活動の評価と援助の方法について考える。	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間

成　績　評　価	課題・レポート（知識・理解・思考力）30%、作品（意欲・態度・作品の完成度）30%、教材作成（表現力・判断力・創造性）20%、毎回の授業の感想・振り返り（関心・意欲・理解）20%
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	・試験は実施しない（ただし、授業内で小テストを行う） ・授業の振り返りシート提出と、作品ファイルの提出
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：「２～５歳児　製作あそび　基本のき」 著者　内本久美　発行人　岡本功　発行所　ひかりのくに株式会社 参考文献：幼稚園教育要領(平成 29 年 3 月告示　文部科学省)　、幼保連携認定こども園教育・保育要領(平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省)、保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省）
メッセージなど	子どもの立場、または保育者としての立場を想定して演習します。実習にも役立つスキルを身につけます。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目　　保育士証：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)領域「表現」の位置づけを理解し、幼児の生活や遊びの中にみられる表現の姿とその発達を理解する。	幼児の造形表現の特徴をほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく、幼児の造形表現の特徴を理解し説明できる。	いくつかの間違いはあるが、幼児の造形表現の特徴を理解し説明できる。	幼児の造形表現の特質を全く理解できず説明もできない。	課題・レポート(知識･理解･思考力)	30%
	ほぼ完璧で意欲的な感想、振り返りができている。	大きな間違いがなく、意欲的な感想、振り返りができている。	いくつかの間違いはあるが、意欲的な感想、振り返りができている。	全く理解できず、意欲的な感想、振り返りができていない。	毎回の授業の感想・振り返り(関心・意欲・理解)	10%
(2)造形表現の基礎知識・技能を学び、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。	ほぼ完璧に描画材料を使いこなせる。	大きな間違いがなく描画材料を使いこなせる。	いくつかの間違いはあるが、描画材料を使いこなせる。	全く描画材料を使いこなせない。	作品(意欲･態度･作品の完成度)	30%
	描画材に関してほぼ完璧で意欲的な感想、振り返りができている。	描画材に関して大きな間違いがなく、意欲的な感想、振り返りができている。	いくつかの描画材に対しての間違いはあるが、感想、振り返りが出来ている。	描画材に対して間違いが多く、感想、振り返りができていない。	毎回の授業の感想・振り返り(関心・意欲・理解)	5%
(3)身近な素材を用いた表現活動に取り組み、その面白さや可能性、重要性を説明する。	身近な素材をほぼ完璧かつ的確に用いて想像性の高い教材作成ができている。	大きな間違いもなく、身近な素材をほぼ的確に用いて想像性の高い教材作成ができている。	いくつかの間違いはあるが、身近な素材を用いて教材作成ができている。	全く身近な素材を用いた教材ができていない。	教材作成(表現力･判断力･想像性)	20%
	ほぼ完璧に、身近な素材の面白さ、可能性、重要性を理解し自他ともに評価できる。	大きな間違いもなく、身近な素材の面白さ、可能性、重要性を理解し自他ともに評価できる。	いくつかの間違いはあるが、身近な素材の面白さ、可能性、重要性を理解し自他ともに評価できる。	全く身近な素材の面白さ、可能性、重要性を理解できず、自他ともに評価できない。	毎回の授業の感想・振り返り(関心・意欲・理解)	5%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
幼児と健康 Young Children and Health	児童教育学科 初等教育学専攻	24ECCC1008	１年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	1	必修	紀村　修一	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	幼児期における健康や幼児の運動発達について学び、仲間と協力して実践方法や健康促進の工夫について話し合うことを通して、健康への理解を深める。また、児童期における健康にも触れ、小学校との接続についても検討する。	
到達目標	(1) 幼児期における健康について理解を深めることができる。	
	(2) 幼児期における健康について実践力を養うことができる。	
	(3) 幼児の健康意識を高める取組を提案することができる。	

授業内容と進め方（前期）

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	前期オリエンテーション	シラバスを読む。	1 時間	学習内容の復習。	2 時間
2	領域「健康」のねらい	資料を読む。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
3	領域「健康」の内容①	資料を読む。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
4	領域「健康」の内容②	資料を読む。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
5	領域「健康」の内容③	資料を読む。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
6	領域「健康」の内容の取扱い①	資料を読む。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
7	領域「健康」の内容の取扱い②	資料を読む。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
8	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と健康①	資料を読む。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間

	9	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と健康②	資料を読む。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	10	幼児期の運動発達の特性①	資料を読む。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	11	幼児期の運動発達の特性②	資料を読む。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	12	幼児期の運動遊び（実技）	資料を読む。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	13	「健康だより」の作成	資料を読む。	2 時間	発表の準備をする。	2 時間
	14	「健康だより」の紹介	発表の準備をする。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	15	前期まとめ（前期の学習の成果をレポートにまとめる）	前期の学習内容を整理する。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
授業内容と進め方（後期）	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	後期オリエンテーション	前期の学習内容を復習する。		学習内容の復習。	2 時間
	17	幼児期の運動遊び①	資料を読む。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	18	幼児期の運動遊び②	資料を読む。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	19	幼児期の運動遊び③	資料を読む。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	20	運動遊びの場づくり①	環境設定について調べる。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	21	運動遊びの場づくり②	環境設定について調べる。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	22	運動遊びの場づくり③	環境設定について調べる。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	23	模擬保育（運動遊び）①	模擬授業の準備をする。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	24	模擬保育（運動遊び）②	模擬授業の準備をする。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	25	模擬保育（運動遊び）③	模擬授業の準備をする。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間

	26	模擬保育（運動遊び）④	模擬授業の準備をする。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	27	模擬保育（運動遊び）⑤	模擬授業の準備をする。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	28	児童期の健康①	資料を読む。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	29	児童期の健康②	資料を読む。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	30	後期まとめ（後期の学習の成果をレポートにまとめる）	後期の学習内容を整理する。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間

成　績　評　価	授業への取り組み（30%）、毎回の授業の振り返り（20%）、期末レポート（50%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	コメント（口頭、記述）によるフィードバックを行う。
テキストおよび参　考　文　献	必要があれば、適宜プリントを配布する。 幼稚園教育要領解説（平成 30 年 3 月）　文部科学省　フレーベル館　2018 保育所保育指針（平成 29 年告示）　厚生労働省　フレーベル館　2017
メッセージなど	保育士証：必修科目、幼稚園教諭二種免許状：必修科目 領域「健康」のねらいや内容等を理解し、具体的な保育の方法を考えたり実践力を養ったりしてほしい。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 幼児期における健康について理解を深めることができる。	ほぼ完璧に修得している	大きな間違いがなく修得している	最低限のことは修得している	修得していない	毎回の授業の振り返り（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	20%
(2) 幼児期における健康について実践力を養うことができる。	ほぼ完璧に修得している	大きな間違いがなく修得している	最低限のことは修得している	修得していない	授業への取り組み（関心・意欲・思考力・創造性）	30%
(3) 幼児の健康意識を高める取組を提案することができる。	ほぼ完璧に修得している	大きな間違いがなく修得している	最低限のことは修得している	修得していない	期末レポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	50%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
幼児と人間関係 Relationships with infants	児童教育学科 初等教育学専攻	24ECCC1010	1 年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	1		平田　睦美	○

実務家教員の詳細	公立幼稚園園長としての実務経験を生かした到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	幼児を取り巻く様々な社会的問題や実際の姿を考察することを通じて、人間関係の発達のために必要な事柄について理解を深める。領域「人間関係」の基本的事項を学習し、人とかかわる筋道を理解し、子どもの姿を捉える視点について学ぶ。	
到達目標	幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。	
	乳幼児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。	
	乳幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について、教師との関係、幼児との関係、集団の中での育ちを観点として説明できる。	
	自立心の育ち、協同性の育ち、道徳性・規範意識の芽生えについて発達の姿と合わせて説明できる。	
	家族や地域との関わりと育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	幼稚園教育要領, 保育所保育指針, 幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」のねらいや内容・内容の取扱いについて学ぶ。	幼稚園教育要領解説第2章「人間関係」を読む。	2 時間	領域「人間関係」のねらいや内容についてまとめる。	2 時間
2	幼児を取り巻く人間関係と現代的特徴とその社会的背景について理解する。	幼児の人間関係について考えをまとめる。	2 時間	授業で学んだことをまとめる。	2 時間
3	自分や周りの人などとの関係性の中から、印象的な場面を取り上げ、グループで紹介し合い、様々な場面の人間関係について考えを深める。	自分の生活の中で印象的な人とのかかわりについて考える。	2 時間	グループで話し合ったことをまとめる。	2 時間
4	０～２歳児における人とのかかわりの姿の映像を通して、人間関係の発達の姿を考察する。	保育所保育指針解説 P101～109、P135～144 を読む。	2 時間	映像記録をまとめる。	2 時間
5	幼児期の遊びや生活の映像を通し、その中にみられる人とかかわる力の育ちについてグループで話し合い、理解する。	幼稚園教育要領解説第 2 章「人間関係」を読む。	2 時間	映像記録をまとめる。	2 時間
6	自我の芽生えから自立へ向かう過程について映像や事例を通して理解し、保育者の援助について学ぶ。	幼稚園教育要領解説第 2 章「人間関係」を読む。	2 時間	映像や事例についてまとめる。	2 時間

	7	子ども同士のトラブルやいざこざの実際の場面を映像や事例から考え、幼児の発達とどのように関係しているかをグループで話し合い探る。	幼稚園教育要領解説第 2 章「人間関係」を読む。	2 時間	グループで話し合ったことをまとめる。	2 時間
	8	幼児の仲間意識の形成と協同する存在へと変容する過程をグループで話し合い理解し、保育者の役割について考える。	幼稚園教育要領解説第 2 章「人間関係」を読む。	2 時間	グループで話し合ったことをまとめる。	2 時間
	9	個の育ちと集団の育ちについての関係性を映像や事例を通して考察し、保育者の役割について考える。	幼稚園教育要領解説第 2 章「人間関係」を読む。	2 時間	映像や事例についてまとめる。	2 時間
	10	人とのかかわりが難しい子どもに対して、様々な事例を通しその要因について理解し対応について考察する。	幼稚園教育要領解説第 2 章「人間関係」を読む。	2 時間	事例から考えたことをまとめる。	2 時間
	11	幼児が葛藤体験を通し、きまりの重要性を理解したり、気持ちを調整し折り合いをつけたりする過程について理解し道徳性・規範意識の芽生えの関係性について考える。	幼稚園教育要領解説第 2 章「人間関係」を読む。	2 時間	授業を振り返り、自分の考えをまとめる。	2 時間
	12	小学校との連携や地域の様々な人々との交流の意義について考え、実際の事例を通してそのあり方や保育者の役割を学ぶ。	地域との交流はどのようなものがあるか調べる。	2 時間	授業を振り返り、要点をまとめる。	2 時間
	13	保護者との連携について事例を通してグループで話し合い子どもの育ちを支える上で大切であることを理解し、保護者との関係づくりについて学ぶ。	保護者との連携について自分の考えをまとめる。	2 時間	グループで話し合ったことをまとめる。	2 時間
	14	保育者同士が連携しながら保育にあたることや情報を共有することが子どもの生活に極めて重要であることを理解する。	保育者同士の連携について自分の考えをまとめる。	2 時間	授業を振り返り、要点をまとめる。	2 時間
	15	授業内容を振り返り学びを整理しながら、人とかかわる力を育てる保育者の役割や現代的課題について自分の考えをまとめる	15 回の資料を読み直す。	2 時間	振り返りシートによりまとめる。	2 時間

成　績　評　価	定期試験(50%)、レポート（30%)、授業への取組 (20%)
課題（試験・レポート等）に対する フィードバックの方法	振り返りシートやレポートはコメントをつけて返却します。ルーブリックによる成績評価を配布します。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト　：『幼稚園教育要領』（平成 29 年 3 月　告示　文部科学省）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省）、『保育所保育指針』（平成 29 年 3 月　告示　厚生労働省）、『幼稚園教育要領解説』（平成 30 年 3 月　文部科学省）フレーベル館、『保育所保育指針解説』（平成 30 年 3 月　厚生労働省）フレーベル館 参考文献　：　『事例で学ぶ保育内容　領域　「人間関係」』無糖隆　監修 岩立京子　編集代表　萌文書林
メッセージなど	人が成長し生きていくためには、人間関係が極めて重要な要因です。人間関係の発達のために必要な事柄を映像や事例の幼児の姿から考え、学んでいきましょう。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解できていない。	定期試験（知識・理解）	20%
(2)乳幼児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	定期試験（知識・理解）	15%
(3) 乳幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について、教師との関係、幼児との関係、集団の中での育ちを観点として説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	定期試験（知識・理解）	15%
(4)自立心の育ち、協同性の育ち、道徳性・規範意識の芽生えについて発達の姿と合わせて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	レポート（思考力・判断力・表現力）	15%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	授業への取組（関心・意欲・態度）	10%
(5)家族や地域との関わりと育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	レポート（思考力・判断力・表現力）	15%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
幼児と環境 Toddlers and the environment	児童教育学科 初等教育学専攻	24ECCC1011	1年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	1		平田　睦美	○

実務家教員の詳細	公立幼稚園園長としての実務経験を生かした到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	幼児を取り巻く様々な環境の教育的意義を理解し、幼児期の環境と関わる力の発達について、事例や映像を通して、幼児の実際の姿から学ぶ。	
到達目標	(1) 幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解する。	
	(2) 乳幼児の物理的、数量・図形との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達を説明できる。	
	(3) 乳幼児の生物・自然との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達を説明できる。	
	(4) 乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方を説明できる。	
	(5) 乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとのかかわり方について説明できる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	日々の生活を基に環境の関係性についてグループで考え、環境の意味を理解する。	幼児を取り巻く環境について自分のイメージしたことをまとめる。	2時間	生活と環境の関係性についてまとめる。	2時間
2	幼稚園教育要領,保育所保育指針,幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「環境」のねらいや内容について具体的に学ぶ。	幼稚園教育要領解説第2章「環境」を読む。	2時間	領域「環境」のねらいや内容を復習する。	2時間
3	現代社会の幼児を取り巻く環境と現代課題についてグループで話し合い理解する。	幼児を取り巻く環境の課題について考えをまとめる。	2時間	グループで話し合ったことをまとめる。	2時間
4	乳幼児期の発達における環境との関わりについて映像を通して理解する。	幼稚園教育要領解説第2章「環境」を読む。	2時間	映像記録をまとめる。	2時間
5	実際の保育現場での保育室の環境構成の映像を見て、グループで話し合い、環境を構成する身近な物とのかかわりについて理解する。	幼稚園教育要領解説第2章「環境」を読む。	2時間	映像記録をまとめる。	2時間

	6	大学の近辺を散策し、見たり、感じたり、触れたりすることを通し、幼児の生活と関係する環境について考えたことをグループでまとめる。	今時期の自然の様子（草花・虫など）について調べておく。	2 時間	グループで話し合ったことをまとめる。	2 時間
	7	季節の自然物を使った遊びを体験する。	身近な自然物を使った遊びについて考えておく。	2 時間	体験した遊びについてまとめる。	2 時間
	8	身近に育つ植物の種類を調べ、これらと幼児の生活や遊びについて考える。	身近に育っている植物について調べておく。	2 時間	授業を振り返り、考えたことをまとめる。	2 時間
	9	実際に花や野菜の栽培をし、どのように成長していくのか、そのためにはどのようなことが必要かについて学ぶ。	自分が育てたい花や野菜の育て方について調べ、まとめておく。	2 時間	授業を振り返り、考えたことをまとめる。	2 時間
	10	身近な生き物の種類、特性について映像を通して学ぶ。また、幼児の生き物への興味・関心について学び、生き物の不思議さや命の大切さを認識する。	自分が育ててみたい生き物の育て方について調べておく。	2 時間	幼児と生き物の関係についてまとめる。	2 時間
	11	幼児の自然（自然現象・土・水など）との関わりについて映像や事例を通して学び、自然体験活動の大切さを理解する。	自然と関わる遊びについて考えておく。	2 時間	幼児と自然との関わりについてまとめる。	2 時間
	12	「数・量・図形」について、幼児が遊びや生活を通して学んでいく方法を理解する。	「数・量・図形」に関わる遊びについて考えておく。	2 時間	幼児の「数・量・図形」について学んでいく方法をまとめる。	2 時間
	13	乳幼児を取り巻く標識・文字と幼児の生活について考え、どのようなものがあるかグループで話し合い、具体的な場面や活動を学ぶ。	乳幼児を取り巻く標識にはどのようなものがあるか調べておく。	2 時間	グループで話し合ったことをまとめる。	2 時間
	14	乳幼児期の生活に関係の深い情報や施設などについて調べ、それらにかかわる具体的な活動について考える。	乳幼児期の生活に関係する施設について調べておく。	2 時間	グループで話し合ったことをまとめる。	2 時間
	15	幼児と環境の関わりについて振り返り、環境の重要性と課題についてまとめる。	１５回の資料を読み直す。	2 時間	振り返りシートによりまとめる。	2 時間

成　績　評　価	定期試験(50%)、レポート(30%)、授業への取組・グループワーク (20%)
課題（試験・レポート等）に対する フィードバックの方法	振り返りシートやレポートはコメントをつけて返却します。ルーブリックによる成績評価を配布します。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト ： 『幼稚園教育要領』（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省）、『保育所保育指針』（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省）、 『幼稚園教育要領解説』（平成 30 年 3 月　文部科学省）フレーベル館 参考文献 ： 『無藤隆　監修　福元真由美　編集代表　事例で学ぶ保育内容　領域「環境」』　萌文書林
メッセージなど	子どもたちは周囲の様々な環境に主体的にかかわる中で、発達に必要な経験をします。周囲の様々な環境とはどのようなものなのでしょうか。環境に関わる幼児の姿や、実際の環境を見たり、触れたり、考えたりすることを通して幼児にとっての環境の重要性について学んでいきましょう。 幼稚園教諭二種免許：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解する。	ほぼ完璧に理解できる。	大きな間違いがなく基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解できていない。	定期試験（知識・理解）	50%
(2)乳幼児の物理的、数量・図形との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	レポート（思考力・判断力・表現力）	15%
(3)乳幼児の生物・自然との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	授業への取組・グループワーク（関心・意欲・態度、思考力・表現力）	10%
(4)乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	レポート（思考力・判断力・表現力）	15%
(5)乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとのかかわり方について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	授業への取組グループワーク（関心・意欲・態度、思考力・表現力）	10%

学校法人 第二麻生学園

YJC 山 口 短 期 大 学

〒747-1232　山口県防府市大字台道字大繁枝 11346 番の２
TEL　0835-32-0138
FAX　0835-32-0149
URL　https://www.yamaguchi-jc.ac.jp/
E-mail　info@yamaguchi-jc.ac.jp

山口短期大学 博多キャンパス

〒812-0013　福岡県福岡市博多区博多駅東１丁目 19 番 18 号
TEL　092-483-1900
FAX　092-483-1905